松本市文化財調査報告No.29

松本市下神・町神遺跡

――緊急発掘調査報告書――

1984. 3

長野県中信土地改良事務所
松本市教育委員会

松本市下神・町神遺跡緊急発掘調査報告書正誤表

頁	訂正箇所	誤	正
2	12	第11図　調査区全体図(中道遺跡)	調査区全体図(中道地籍)
11	左下部	X21862.0153	X21682.0153
12	図中	下神遺跡	町神遺跡
12	同上	CD地点	C地点
12	同上	図中、下半部の2つの平面座標のY座標をいれかえる	
18	8	三沢六太郎	三沢元太郎
25	第1表	住居　No4　180　100(+)	住居　No4　80　100(+)
25	第7図	26　鉄の集石固結	26　鉄の集積固結
25	第8図	鉄集石	鉄集積
29	図見出し	(中道遺跡)	(中道地籍)
29	スケール	0　10　20m	0　4　8m
36	第14図C-C′の土層、IV層		II層
38	第15図a-a′の土層、I層 黄褐色土　II層 黒褐色土(黄褐色塊混入)を記入		
38	同 左下の土層説明、V′ V′ V′ V′		V VI VII VIII(上から)
41	第17図下段土層説明、I　灰褐色粒質土		I　灰褐色粘質土
41	同上	IV　砂層	VI　砂層
42	第18図左下土層説明	IV　暗黄褐色土	VI　暗黄褐色土
48	第22図D-D′の土層	I	III
50	第24図D-D′の土層	II	VI
51	第25図	f－f′とg－g′の土層説明をいれかえる	
61	第32図	9号住平面図の左下隅の＋印脇に「鍋梳」と記入	
61	同上A-A′ B-B′土層説明	・・・・・よりもやわらかい・・・・・	
66	第35図遺物　2	P_9	P_{18}
66	同上C-C′の土層図	引き出し線の先に「土器」と記入	
69	第38図P_{13}の土層図	III	II
73	第41図土層説明	IV　褐色土	IV　黒褐色土
83	第49図土坑5	標高611.2mを記入	
83	同上　土坑14	I　褐色土(焼土塊混入)　II 褐色土(ローム塊混入)を記入	
85	第51図	「溝1」を消し、もう一本の溝に「溝3」をいれる	
92	下から13行	23・27号住	23から27号住
95	見出し中	25　30:SKMT	25　28:SKMT
107	第65図見出し中	(171　174:SKKS・・・・	(176　179:SKKS
107	同上	・・・・175　180:SKKS・・・	180　185:
135	表題	町捉遺跡	町神遺跡
139	SKKS 鉄製品一覧表	15 ・・・・刃子か	刀子か
142	第73図見出し	調査位置図	試掘調査位置図
143	第74図見出し	欠落している　「第74図　試掘調査土層模式図」と記入	
143	同上	16 黒褐色粘質砂層	16 黒褐色粘質土層
図版19	中段右	同上	同左

松本市下神・町神遺跡

――緊急発掘調査報告書――

1984. 3

長野県中信土地改良事務所
松本市教育委員会

ＳＫＫＳ　第10号住居址出土　三彩小壺

同　　底　部

序

この下神、町神遺跡は、昭和57年度に着工しました県営ほ場整備事業、神林地区にあり、当初から埋蔵文化財の存在が、確認されている遺跡であります。

昭和58年度の区画整理工事の着工にあたり、県・市教育委員会の皆様と事前打ち合せにより、調査方法、調査期間、費用負担等について、再三、御検討をいただき、発掘調査による記録保存の方針を決定しました。

調査の実施は、松本市教育委員会に全面的に委託を受けていただくことになりました。炎天下での発掘作業、硬い粘土層、深い遺構という悪条件の中で46,000㎡にもおよぶ大規模な発掘調査となりました。その結果、県下では、非常に珍しい奈良三彩の小壺をはじめ、数多くの土器、石器が出土したほか、約80戸の平安時代の集落跡が、発見されました。神林地区の歴史を探るうえで、貴重な資料となることと思います。

このように発掘調査が計画どおり、完了できますことは、県・市教育委員会の適切な御指導と、お忙しい中、調査団に参画され、発掘調査にあたられた皆様の御尽力のたまものと感謝しております。

なお、遺跡発掘にあたり、神林川土地改良区の役員、地元関係者の御協力と御理解により、支障なく調査が行われましたことに対して、あわせて謝意を申し上げます。

昭和59年３月

長野県中信土地改良事務所長　丸山　仁志

序

神林地区は以前より古い時代の遺物を出土するところとして知られておりましたが本格的な調査がされないままその実体は不明でした。この度この地区の県営ほ場整備が下神遺跡周辺で実施されることとなり埋蔵文化財保護の立場から工事に先立って記録保存のための緊急発掘調査を行なうことになりました。調査は中信土地改良事務所より当教育委員会に委託され地元の考古学研究者、市教委職員を中心に地区のみなさまの協力により実施されました。期間は真夏から初秋にかけて３ヶ月にわたる調査となりこの間県内で３番目、全国的に見ても珍らしいといわれる奈良三彩小壺をはじめ平安時代の住居址79軒他にも多数の出土遺物遺構が発見され、この地区が当時代から現在にいたるまで人の生活の場となっていたことがわかりました。おりから神林地区の村誌編纂の計画がある中で今回の調査成果が良い資料となると思います。

今回のこの調査は記録保存という緊急発掘調査でしたが開発事業が多発している状況の中で文化財は全ての人の共有財産であり地下に眠っている文化財を後世に伝えていくという意味でこの調査の必要性を御理解いただければ幸いです。最後にこの調査にあたり多大な御理解と御協力をいただきました地元のみなさまをはじめ関係各位に衷心より感謝いたしまして序といたします。

昭和59年３月

松本市教育委員会
教育長　中　島　俊　彦

例　　言

1．本書は昭和58年５月17日から９月28日にわたって行われた松本市下神（しもかん）・町神（まちかん）遺跡緊急発掘調査の報告書である。

2．本調査は松本市が長野県中信土地改良事務所より委託をうけ、松本市教育委員会が調査を行ったものである。

3．本書の執筆は熊谷康治が中心となって行い、その分担は下記のとおりである。

第１章		事務局
第２章	第１節	太田守夫
〃	第２節	神沢昌二郎
第３章	第１節	熊谷康治
〃	第２節	伊那史彦　小口妙子　山下泰永　山田真一　三村竜一　熊谷康治
〃	第３節	直井雅尚　高桑俊雄　吉田浩明　森　義直
第４章		神沢昌二郎

4．本書の編集は神沢昌二郎が主体となり、滝沢智恵子の助力を得て事務局が行った。

5．本書の作成にあたり、作業の分担は次のとおりである。

復元・実測	滝沢智恵子　直井雅尚　山田真一　山下泰永　小口妙子　神沢昌二郎 関沢聡　熊谷康治
トレース	伊那史彦　直井雅尚　山下泰永
図・整理	伊那史彦　小口妙子　高桑俊雄　熊谷康治

6．遺物の写真撮影は林宰男氏が行った。

7．本書で使用されている地籍の略語は次のとおりである。

ＳＫＭＴ	下神遺跡	南田尻地籍
ＳＫＫＳ	〃	熊　坂地籍
ＳＫＳ	〃	笹　賀地籍
ＳＫＮＭ	〃	中　道地籍
Ｍ　Ｋ	町神遺跡	

8．調査にあたり、石上周蔵・田中正治郎各氏の協力を得た。

9．本書は、今回の調査結果の一部をまとめたものである。次回に全容を報告しその責をはたしたい。

10．出土遺物及び図類は松本市教育委員会が保管している。

目　　次

第１章　調査経過

第１節　調査に至るまでの経緯と文書記録…… 6

第２節　委託契約の概要…… 5

第３節　調査体制…… 7

第４節　調査地区の位置…… 13

第５節　作業日誌…… 14

第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の立地と地理的環境…… 21

第２節　周辺遺跡…… 31

第３章　調査結果

第１節　調査の概要…… 32

第２節　遺　　構…… 34

1　下神遺跡住居址

ＳＫＭＴ　①１号住居址…… 34　②２号住居址…… 34　③３号住居址…… 36
④４号住居址…… 37　⑤５号住居址…… 37　⑥６号住居址…… 40
⑦７号住居址…… 40　⑧８号住居址…… 44　⑨９号住居址…… 44
⑩10号住居址…… 46　⑪11号住居址…… 46

ＳＫＫＳ　①２号住居址…… 49　②10号住居址…… 51　③12号住居址…… 52
④14号住居址…… 53　⑤17号住居址…… 53　⑥25号住居址…… 56
⑦29号住居址…… 57

ＳＫＳ　①４号住居址…… 58　②５号住居址…… 58　③８号住居址…… 58
④９号住居址…… 60　⑤15号住居址…… 60　⑥16号住居址…… 62
⑦19号住居址…… 62

2　町神遺跡住居址　ＭＫ　①１号住居址…… 64

3　建物址…… 65

4　土　壙…… 82

5　溝 …… 87

第３節　遺　　物

1　土　　器…… 88

2　石器・石製品（ＳＫＭＴ・ＳＫＫＳ）…… 90

3　鉄・青銅製品（ＳＫＭＴ・ＳＫＫＳ・ＳＫＳ）…… 91

第４章　調査のまとめ…… 92

付　試掘・立合調査報告…… 141

挿　図　目　次

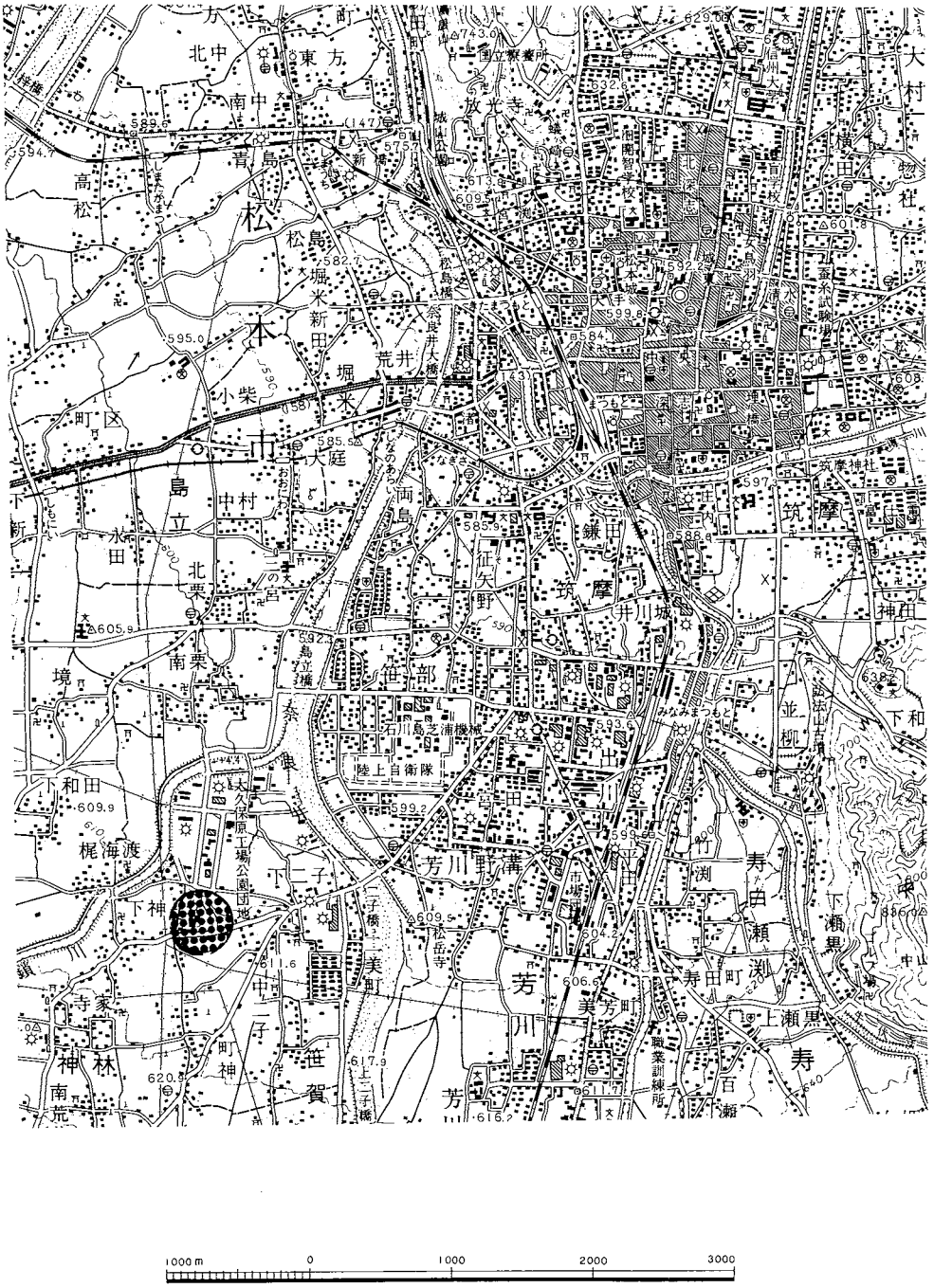
第１図　位置図１…… 4
第２図　位置図２（下神遺跡）…… 9
第３図　位置図３（町神遺跡）…… 10
第４図　位置図４（下神遺跡）…… 11
第５図　位置図５（町神遺跡）…… 12
第６図　ＳＫＭＴ砂れき層…… 25
第７図　ＳＫＫＳ溝１土層…… 25
第８図　ＳＫＫＳ南東部落込み…… 25
第９図　周辺遺跡…… 26
第10図　調査区全体図１（下神遺跡）…… 27
第11図　調査区全体図２（中道遺跡）…… 29
第12図　調査区全体図3(町神遺跡・Ｃ地点)… 33
第13図　ＳＫＭＴ第１・２号住居址…… 35
第14図　ＳＫＭＴ第３号住居址…… 36
第15図　ＳＫＭＴ第４号住居址…… 38
第16図　ＳＫＭＴ第５号住居址…… 39
第17図　ＳＫＭＴ第６号住居址…… 41
第18図　ＳＫＭＴ第７号住居址…… 42
第19図　ＳＫＭＴ第８号住居址…… 43
第20図　ＳＫＭＴ第９号住居址…… 45
第21図　ＳＫＭＴ第10号住居址…… 47
第22図　ＳＫＭＴ第11号住居址…… 48
第23図　ＳＫＫＳ第２号住居址…… 49
第24図　ＳＫＫＳ第10号住居址…… 50
第25図　ＳＫＫＳ第10号住居址ピット…… 51
第26図　ＳＫＫＳ第12号住居址…… 52
第27図　ＳＫＫＳ第14号住居址…… 54
第28図　ＳＫＫＳ第17号住居址…… 55
第29図　ＳＫＫＳ第25号住居址…… 56
第30図　ＳＫＫＳ第29号住居址…… 57
第31図　ＳＫＳ第８号住居址…… 59
第32図　ＳＫＳ第９号住居址…… 61
第33図　ＳＫＳ第16号住居址…… 63
第34図　ＭＫ第１号住居址…… 64
第35図　ＳＫＭＴ建物址1(上)・2(下)…… 66
第36図　ＳＫＭＴ建物址3(上)・4(下)…… 67
第37図　ＳＫＫＳ建物址１…… 68
第38図　ＳＫＫＳ建物址２…… 69
第39図　ＳＫＫＳ建物址３・第６号住居址… 70
第40図　ＳＫＫＳ建物址４・５…… 71
第41図　ＳＫＫＳ建物址６・７…… 73
第42図　ＳＫＫＳ建物址８・９…… 74
第43図　ＳＫＫＳ建物址10…… 75
第44図　ＳＫＫＳ建物址11…… 76
第45図　ＳＫＳ建物址1・第4・5号住居址…… 77
第46図　ＳＫＳ建物址2・第15号住居址…… 78
第47図　ＳＫＳ建物址5・6・7・第19号住居址… 79
第48図　ＳＫＳ建物址４…… 81
第49図　ＳＫＭＴ土壙１～12・14・15…… 83
第50図　ＳＫＭＴ溝１・土壙13…… 84
第51図　ＳＫＭＴ溝２・３…… 85
第52図　出土土器１…… 94
第53図　出土土器２…… 95
第54図　出土土器３…… 96
第55図　出土土器４…… 97
第56図　出土土器５…… 98
第57図　出土土器６…… 99
第58図　出土土器７…… 100

第59図　出土土器８……101
第60図　出土土器９……102
第61図　出土土器10……103
第62図　出土土器11……104
第63図　出土土器12……105
第64図　出土土器13……106
第65図　出土土器14……107
第66図　出土土器15……108
第67図　出土土器16……109
第68図　出土土器17……110
第69図　出土土器18……111
第70図　出土土器19……112
第71図　出土土器20……113
第72図　金属製品・土製品実測図……114
第73図　試掘調査位置図……142
第74図　試掘調査土層模式図……143
第75図　立合調査位置図……144

表　目　次

第１表　南田尻地籍れき層の深度……25
第２表　住居址一覧表……115
第３表　建物址一覧表……117
第４表　土壙一覧表……126
第５表　出土土器観察表……128
第６表　石器・石製品一覧表……136
第７表　石製品計測表……138
第８表　鉄製品一覧表……139
第９表　鉄・青銅製品一覧表……140

図　版……145


北中
東方
南中
放光寺
大村
高松
青島
松島
堀米
新田
荒井
小柴
大庭
両島
中村
島立
水田
北栗
二の宮
征矢野
鎌田
筑摩
井川城
南栗
笹部
境
陸上自衛隊
下和田
梶海渡
芳川野溝
下二子
下神
寺家
中二子
神林
笹賀
南荒
芳川
美町
寿
寿田町
上瀬
百瀬
下瀬
並柳
1000m
0
1000
2000
3000

第１図　位置図１

第1章　調　査　経　過

第1節　調査に至るまでの経緯と文書記録

昭和57年8月3日埋蔵文化財保護協議を実施。出席者県文化課郷道指導主事、中信土地改良事務所清水係長、岩崎、岩渕主事。市耕地課横内主査、市教委神沢。市教育委員会室で説明のあと現地へ行く。島内、島立、寿と共に神林南荒井と下神についても協議する。その結果は南荒井と下神南側については57年度中に地層の確認を行いたいので市教委で調査をしてほしい。その結果遺物の出土および包含層がみつかった場合は58年度に改めて予算にのせたい。

11月25日～12月1日、上記地区内8ヶ所試掘調査。その結果下神神映幼稚園南西水田より住居址の存在がわかったので調査の必要を報告する。（詳細後添報告参照）

昭和58年1月8日、昭和58年度文化財関係補助事業計画書提出。

2月8日～3月16日、県営ほ場整備事業神林第一工区工事に伴う道路開削（配管）工事に立合い調査を行う。（概要後添報告参照）

5月12日　昭和58年度県営ほ場整備事業神林地区下神・町神遺跡埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約を結ぶ。

5月16日　埋蔵文化財発掘調査（下神遺跡）の通知提出。

6月22日　埋蔵文化財発掘調査（町神遺跡）の通知提出。

9月20日　昭和58年度文化財関係国庫補助事業の内定について通知。

9月30日　昭和58年度文化財関係国庫補助事業補助金交付申請書提出。

10月17日　埋蔵文化財取得届及び同保管証提出。

12月1日　昭和58年度文化財補助金（昭和58年度国宝重要文化財等保存整理費）の交付決定通知

12月2日　昭和58年度文化財保護事業補助金（県費）交付申請書提出。

12月3日　昭和58年度文化財保護事業県費補助金の内示について通知。

12月13日　昭和58年度文化財保護事業補助金（県費）の交付決定について通知。

12月14日　埋蔵物の認定について。

12月21日　昭和58年度県営ほ場整備事業に伴う松本市木下前田遺跡他3遺跡の発掘調査費の変更について届。

昭和59年１月７日　昭和58年度県営ほ場整備事業に伴う松本市木下前田遺跡他３遺跡の発掘調査費の変更について通知。

１月26日　昭和58年度文化財関係国庫補助事業状況報告書の提出について。

２月10日　昭和58年度国庫補助事業に係る報告書刊行状況について報告。

第２節　委託契約概要

（契約書抄）

昭和58年度県営ほ場整備事業神林地区における埋蔵文化財包蔵地発掘調査（以下「発掘調査」という）の実施に関する業務（以下「業務」という）について委託者長野県中信土地改良事務所長丸山仁志（以下「甲」という）と受託者松本市長和合正治（以下「乙」という）との間に、次のとおり委託契約を締結する。

（総則）

第１条　乙は別紙の発掘調査実施計画書に従って業務を実施するものとする。

（期間）

第２条　乙は昭和58年９月30日までに、現場における発掘調査を完了するものとする。

（費用）

第３条　甲は業務に要する費用として、乙に支払う金額は、金6,975,000円とする。

（作業日誌）

第５条　乙は発掘の実施中、作業日誌を作成し、甲はその提示を求めることができるものとする。

（出土品の取扱い）

第６条　発掘出土品の処理については、甲乙協議のうえ乙が甲の名において法令の定めるところにより処理するものとする。

（発掘調査報告書）

第９条　乙は業務が完了したときは、発掘調査報告書を添えて、発掘調査完了報告書を甲に提出するものとする。

（協議）

第10条　この契約に定めていない事項、または契約の事項について疑義を生じた場合は、甲乙協議して定めるものとする。

昭和58年５月12日

長野県中信土地改良事務所所長　丸山　仁志

松　　本　　市　　長　　和合　正治

発掘調査計画書（一部のみ記載）

2.遺跡名　　下神遺跡、町神遺跡

4.発掘調査の目的及び概要　　開発事業県営土地改良総合整備（神林）に先立ち1,350㎡以上を発掘調査して記録保存をはかる。なお調査対象には、昭和57年度試掘調査結果に基づき、事業実施により影響を受けると判断された部分も含める。

6.発掘調査の作業工程　　発掘作業36日　整理作業36日　合計72日

7.発掘調査委託費　　発掘調査費全額　9,000,000円　文化財農家負担軽減額(−) 2,025,000円

計 6,975,000円

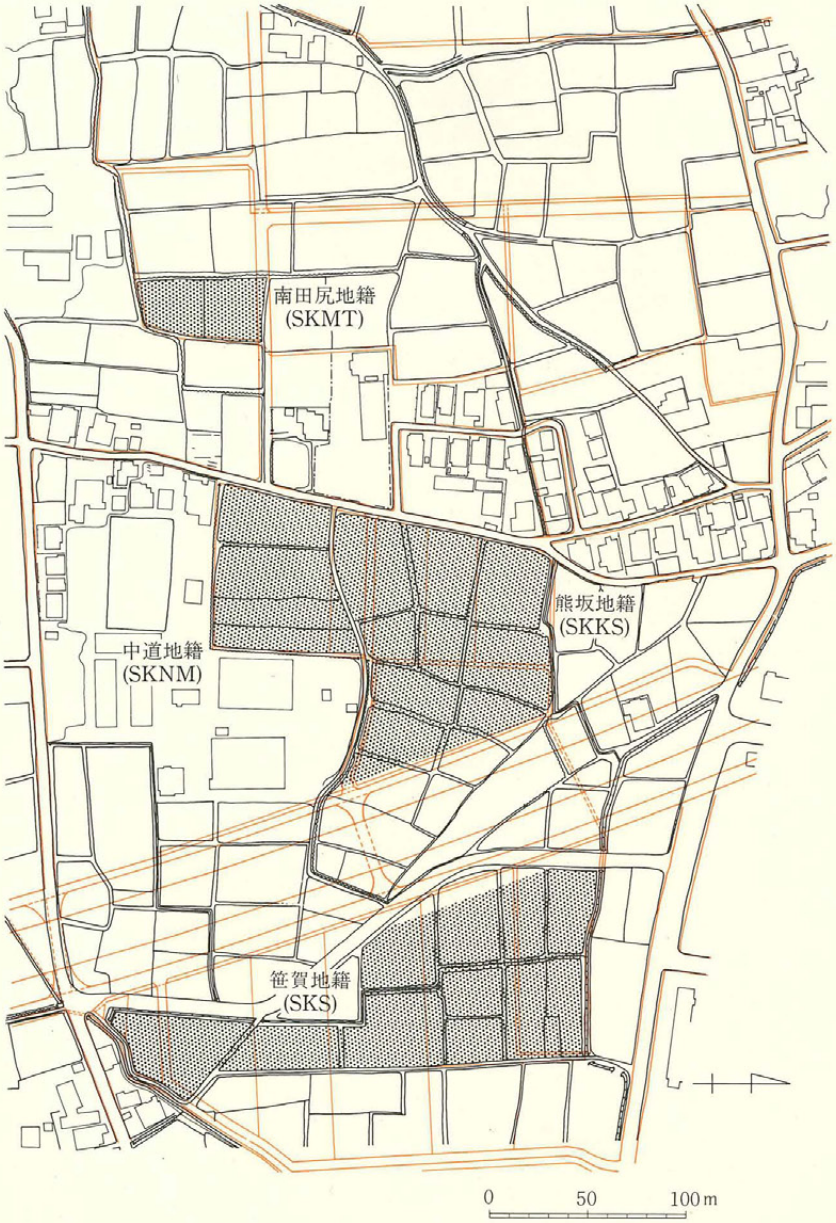
第3節　調　査　体　制

団　　長	中島　俊彦	（松本市教育長）
担 当 者	神澤昌二郎	（日本考古学協会員、市教委）
調 査 員	大久保知巳	（日本考古学協会員、会社員）
〃	西沢　寿晃	（　〃　　信大医学部）
〃	三村　　肇	（長野県考古学会員、会社員）
〃	横田　作重	（　〃　　会社員）
〃	太田　守夫	
〃	森　　義直	（　　大町高校教諭）
〃	百瀬　新治	（長野県考古学会員、三郷小教諭）
〃	降旗　俊行	（　〃　　松本社会保険事務所）
〃	山本　紀之	（　〃　　会社員）
〃	石上　周蔵	（　〃　　片丘小教諭）
〃	平林　　彰	（　〃　　）
〃	関沢　　聡	（　〃　　市教委）
〃	高桑　俊雄	（　〃　　〃　）
調査員補助	瀬川　長広	（あがた考古会）
〃	吉沢　酉己	（　〃　）

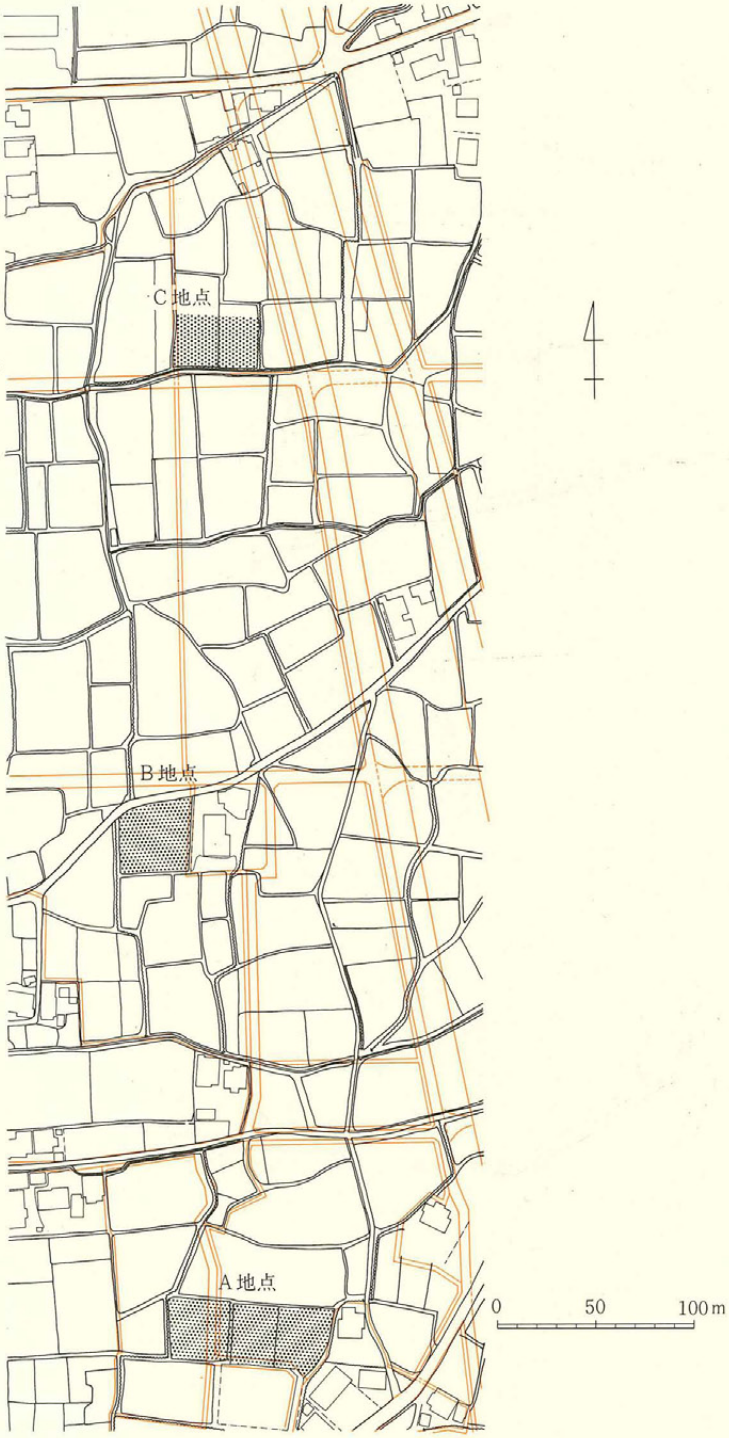
調査員補助　大出　六郎　（あがた考古会）
〃　三沢元太郎　（　〃　）
〃　滝沢智恵子

事務局　田堂　明　（社会教育課課長）
神澤昌二郎　（　〃　文化係長）
百瀬　清　（　〃　〃　主事）
熊谷　康治　（　〃　〃　〃　）
直井　雅尚　（　〃　〃　事務員）
宮嶋　孝　（神林公民館主事）

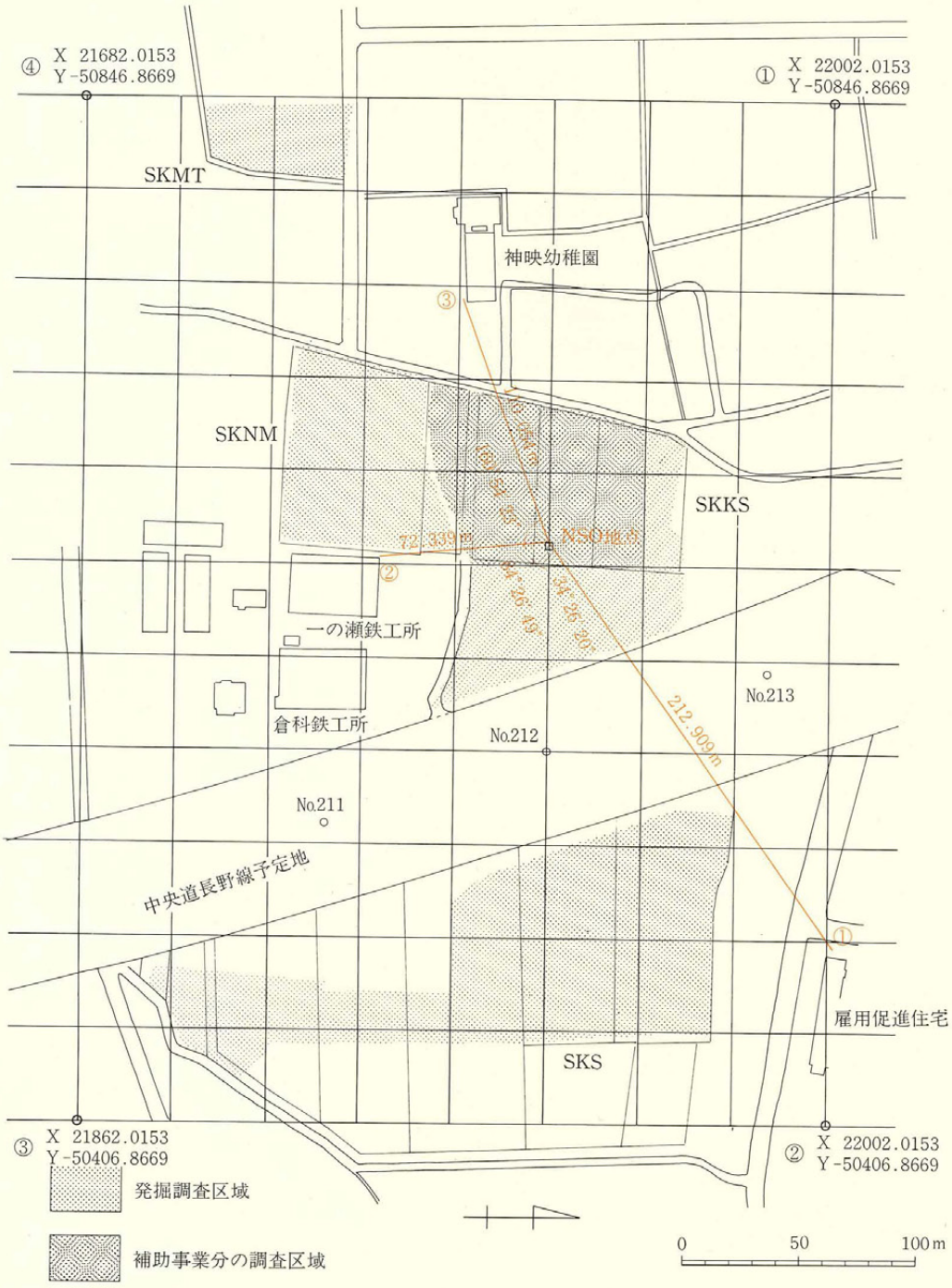
協力者　和田晋也、上原政子、倉科寛子、寺島秀晃、徳永真一、鳥羽浩史、三村竜一、福沢光宏、鶴川登、筒井とりへ、唐沢かほる、勝野敏雄、今井豊美、宇佐美文子、三沢文子、曽根原淳子、清水晴美、森久水江、本合美佳、田中明子、久本佳澄、水谷恵清水幸也、郷津法子、中島英一、石川育代、飯塚厚次、小平徹、加藤和彦、小山祐二、石川康子、百瀬仁、石川雅美、松本とよ子、田中貞子、三村澄登、山口公一、倉科富子、三村勲一、三溝孝一、小林成親、西村宏美、塩原こずえ、塩原秋子、塩原教代、筒井芳子、川島清徳、米山貴昭、伊那史彦、藤牧則男、佐々木謙司、竹内重人、八島光男、赤羽晃、塩原ひろえ、塩原きわ子、北條智弘、藤牧豊子、今福貴篠崎健一、臼山昇治、山田真一、滝上勇、塚原真弓、山崎直美、前田美和、横田由美子、野村貴仁、上條昌子、滝沢充、宮下和也、新谷和孝、直井スガ子、巾下由貴滝沢直美、犬塚美佐、上杉美由紀、大厩朋幸、高野昌英、山下泰永、上原政子、小口妙子、田口吉重、稲越清子、小林コト江、朝倉節子、飯島雅彦、柴田尚子、倉科由加理



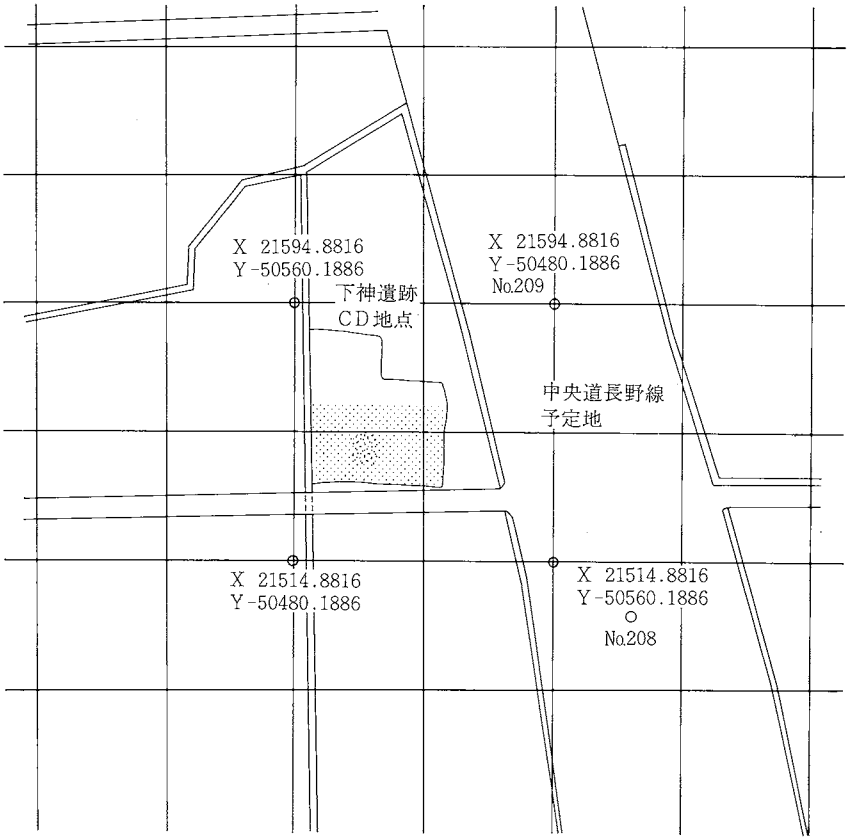
第２図　位置図２（下神遺跡）赤線はほ場整備後の地形



第３図　位置図３（町神遺跡）赤線はほ場整備後の地形



第４図　位置図４（下神遺跡）



発掘調査区域

補助事業分の調査区域

0 50 100m

縦軸(X軸)は真北を示す。

第5図　位置図（町神遺跡）

第４節　調査地区の位置（第１～５図）

今回の調査地区下神・町神遺跡は松本市神林に所在する。神林地区は西山山系から流れ出る鎖川と木曽谷より北流している奈良井川に東西を挾まれており、松本市街地からは南西に位置し国鉄松本駅は直線で約４km離れている。遺跡周辺は古くからの田園地帯で、北側に続く和田、島立地区とともに松本平の主要部分を形成している。標高は645ｍから610ｍの等高線の間にあり、北東方向にゆるやかに傾斜している。下神・町神遺跡は神林地区の一番低い所にあたっていて等高線は615ｍから610ｍの間にある。また最も近い三角点は調査地中心部から直線で南東に600ｍ離れた位置で、県道松本・今井線沿いの笹賀地区内にある。標高は611.6ｍを示している。

次に今回の調査地区の位置を40ｍのメッシュで被い具体的に示してみたい。まず座標軸で調査地区の範囲を表わしてみると下神遺跡は、

①Ｘ　22002.0153
　Ｙ－50846.8669　（北西隅）

②Ｘ　22002.0153
　Ｙ－50406.8669　（北東隅）

③Ｘ　21682.0153
　Ｙ－50406.8669　（南東隅）

④Ｘ　21682.0153
　Ｙ－50846.8669　（南西隅）

①と②のＹ軸は調査地区の北端を示し、③と④のＹ軸は南端、西端は①と④のＸ軸、東端は②と③のＸ軸で示される。各地籍別と町神遺跡調査地区の範囲をみると、

南田尻地籍（ＳＫＭＴ）
　Ｘ　21842.0153と　21722.0153
　Ｙ－50886.8669と－50846.8669

中道地籍（ＳＫＮＭ）
　Ｘ　21842.0153と　21762.0153
　Ｙ－50766.8669と－50646.8669

町神遺跡・Ｃ地点（ＭＫ）
　Ｘ　21594.8816と　21514.8816
　Ｙ－50560.1886と－50480.1886

熊坂地籍（ＳＫＫＳ）
　Ｘ　21962.0153と　21802.0153
　Ｙ－50726.8669と－50566.8669

笹賀地籍（ＳＫＳ）
　Ｘ　21962.0153と　21682.0153
　Ｙ－50566.8669と－50406.8668

となる。各々の面積はＳＫＭＴ1,200㎡、ＳＫＫＳ9,140㎡、ＳＫＳ8,610㎡、ＳＫＮＭ4,200㎡、Ｍ

K 800 m²で合計22,750m²となる。ＳＫＫＳのＮＳ０の地点を下神遺跡調査地区の中心点とし、この地点の座標及び標高はＸ21882.0153、Ｙ－50655.8669、H. 609.259である。ＮＳ０の地点から中央道長野線予定地内のセンター杭№212と調査地区周辺の不動点（建物の角）を見た角度及び距離を測角測距した。周辺の不動点は①地区の北東にある雇用促進住宅の南西角、②ＳＫＮＭ東側の一ノ瀬鉄工所北西角、③ＳＫＫＳ西側の神映幼稚園南東側の３ヶ所とした。

①角度　34°26′20″　　距離　212,909m

②角度　84°26′49″　　距離　72,339m

③角度 160°54′23″　　距離　110,054m

次に真北からの右回りの角度を計測し座標と共に示した。

①角度　55°33′40″　　X　22002.0153　　Y－50480.8669

②角度 174°26′43″　　X　21810.0153　　Y－50648.8669

③角度 250°54′23″　　X　21846.0153　　Y－50759.8669

以上が発掘調査地区の位置についてであるが、これらの計測に使用した基本的なデータは、中央道長野線予定地内のセンター杭№208、209(町神遺跡) №211、212(下神遺跡)の座標を使用した。また標高については国土地理院発行の25,000分の１の地形図を使用した。　（事務局）

第５節　作　業　日　誌

○昭和58年５月17日（火）曇　発掘器材を搬入しテントを設営する。
　調査員・調査補助員：瀬川長広他３名
○５月18日（水）曇　発掘調査開始。重機により調査区域南半分の排土を行うが南側は浅く約５cm程で北へ行くにしたがって深くなり約40～50cmを測る。住居址８軒とピット群を確認する。
　調査員・調査補助員：瀬川長広他３名。
○５月19日（木）晴　北側の残りの排土作業を行う。鉄分の沈澱した暗茶褐色土層が40～50cmありその下の黄褐色土層中に住居址及びピット群を確認する。
　調査員・調査補助員：瀬川長広他３名。作業員：藤牧則夫他３名。
○５月20日（金）晴　北側半分の遺構確認作業を継続した結果北隅に東西走行の溝２本を検出する。
　調査員・調査補助員：瀬川長広他３名。作業員：倉科平他６名。
○５月21日（土）晴　第３号及び４号住居址の掘り下げを開始する。
　調査員・調査補助員：瀬川長広他３名。作業員：藤牧則夫他８名。
○５月22日（日）晴　第３、４号住居址のセクションを実測する。第５、８号住居址の掘り下げ開始。
　調査員・調査補助員：太田守夫、三村肇、横田作重。作業員：藤牧則夫他9名。
○５月23日（月）曇　第３号住居址の東西・南北セクションを写真撮影する。第１号住居址のプランを確認し、第３号住居址のセクションをはずして床面検出をする。第５、８号住居址の掘り下げを継続。８号住居址の覆土上層に遺物多し。
　調査員・調査補助員：太田守夫。作業員：藤牧則夫他９名。
○５月24日（火）曇　第１、６住検出状況及び土壙２、ピット１の写真撮影。第２～８号住居址の掘りさげ、セクション測図、及び床面検出を開始する。
　調査員・調査補助員：瀬川長広他３名。作業員：倉科平他４名。

ＳKMT　調査開始の説明会

ＳKMT　６住掘り下げ

○５月25日（水）晴　第３号住居址にてカマド検出し、第５号住居址の南北ベルトセクションと共に写真撮影を行う。第２、４、６号住居址の掘り下げを継続する。

調査員・調査補助員：瀬川長広他２名　作業員：塩原教代他９名

○５月26日（木）晴　第２、４、６号住居址の掘り下げ及び第５号住居址のベルトを外す。

調査員・調査補助員：太田守夫、瀬川長広他２名　作業員：塩原教代他９名

○５月27日（金）曇　第２、５号住居址の床面検出を行う。第３号住居址のカマドたち切り、第４号住居址カマド付近の遺物とりあげ及び壁面の写真撮影。

調査員・調査補助員：大久保知巳、横田作重、瀬川長広他２名　作業員：藤牧則夫他８名

○５月28日（土）晴　柱列１及び第９号住居址、掘り下げ開始。第３号住居址及び土壙４のセクションを測図する。第４、７号住居址、掘り下げ継続、第１号住居址及び土壙３は掘り下げを完了する。第２、５号住居址の写真撮影。

調査員・調査補助員：横田作重、三沢元太郎他1名　作業員：塩原教代他12名

○５月29日（日）晴　第８号住居址上面及び第６、７号住居址の遺物をとりあげる。第５号住居址及び柱列２の平板測量を行う。第９号住居址は掘り下げを続行する。

調査員・調査補助員：横田作重、瀬川長広他1名　作業員：窪田まつい他10名

○５月30日（月）晴　第５、７号住居址及び柱列１を掘り上げ、写真撮影を行う。第４号住居址のカマド周辺を精査する。第６号住居址上面の遺物を取り上げ、掘り下げを継続する。第10号住居址の掘り下げを開始。土壙５のセクション図作成。

調査員・調査補助員：太田守夫、瀬川長広他３名　作業員：塩原はま他10名

○５月31日（火）晴　第２号住居址のカマドの測図。第３号住居址の煙道のセクション図を作成する。第４号住居址の写真撮影を行う。第５号住居址の柱穴のセクション及び、煙道の測図。第７、８号住居址のセクション図作成後、ベルトを外す。第９、10号住居址の掘り下げを継続して行う。

調査員・調査補助員：太田守夫、瀬川長広他3名　作業員：藤牧則夫他４名

○６月１日（水）晴　第７、８号住居址のカマドの精査を行う。第９、10号住居址の掘り下げを継続する。

調査員・調査補助員：瀬川長広他３名　作業員：塩原教代他７名

○６月２日（木）晴　第６号住居址のセクション図を作成する。第８号住居址のカマドの精査を行う。第９、10号住居址の掘り下げを継続する。第11号住居址を検出しその後掘り下げを行う。柱列３を掘り下げセクション図を作成。

調査員・調査補助員：太田守夫、瀬川長広他４名　作業員：塩原教代他11名

○６月３日（金）晴　第６号住居址の東西ベルトの写真撮影を行う。第９、10号住居址の掘り下げを継続して行う。第11号住居址の遺物を取り上げる。柱列４のセクション図を作成。柱穴の検出を行い掘り下げた後写真撮影を行う。

作業員：塩原ひろえ他９名。

○６月４日（土）晴　第９、10号住居址の壁面の検出にとりかかる。第11号住居址の東側に柱穴を検出する。柱列３、４を掘り上げる。

調査員・調査補助員：太田守夫、瀬川長広他4名　作業員：窪田まつい他11名

○６月５日（日）晴　第９号住居址の床面を検出する。第10号住居址の柱穴48～52までのセクション図を作成した後掘り上げる。

調査員・調査補助員：降旗俊行、瀬川長広他4名　作業員：塩原ひろえ他9名

○６月６日（月）曇　第９号住居址の柱穴を検出する。土壙７～11のセクション図を作成する。柱列３の写真撮影を行う。溝状遺構にトレンチを３本入れ、掘り下げ始める。セクション図を作成する。

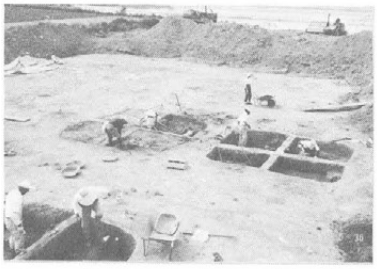
調査員・調査補助員：大久保知巳、滝沢智恵子　作業員：塩原教代他９名

○６月７日（火）晴　第７、11号住居址の床面の検出を行う。

調査員・調査補助員：太田守夫、三沢元太郎他1名　作業員：塩原教代他15名

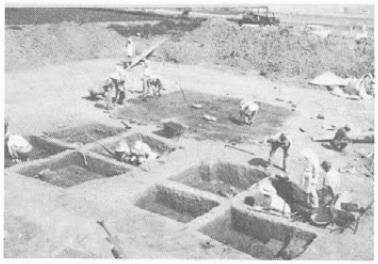
○６月８日（水）薄曇　第６、７、９号住居址の写真撮影を行う。第９号住居址のカマド南にある落ち込みの遺物を取り上げる。

調査員・調査補助員：太田守夫、滝沢智恵子　作業員：塩原ひろえ他８名



ＳＫＭＴ　10住掘り下げ開始

ＳＫＭＴ　10住掘り下げ



ＳＫＭＴ　11住検出
9・10住掘り下げ

○６月９日（木）晴　第９号住居址と土壙８との切り合い関係を精査する。第11号住居址の床面を精査する。土壙の切り合い関係の精査を行う。

調査員・調査補助員：瀬川長広他４名　作業員：塩原教代他10名

○６月10日（金）晴　溝１～３の精査及び測図を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子　作業員：八島光男

○６月11日（土）晴　第11号住居址の追加分のセクション図を作成する。また床面を現在面から20cm程掘り下げる。その後、測図を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子　作業員：八島光男他２名

○６月12日（日）曇　第４、７、８号住居址のカマドを掘り上げる。第９号住居址のカマドを断ち切る。第10号住居址のカマド部の遺物を取り上げ、その後測図を行う。溝周辺の遺構測量を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子　作業員：八島光男

○６月13日（月）雨　第９号住居址のカマドの測図を行う。全体測量を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子

○６月14日（火）晴　テントを撤収し器材の運び出しを行う。

○７月12日（火）晴　町神・下神遺跡発掘調査会議を行う。

調査員・調査補助員：倉科明正、西沢寿晃、森義直、降旗俊行、太田守夫、三村肇、横田作重

○７月14日（木）晴　ブルドーザーによる表土はぎ。町神の試掘を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子　作業員：三村竜一

○７月18日（月）晴　バックホーで表土はぎ。ＳＫＳで遺構の検出作業を開始する。住居址を４軒検出する。

調査員・調査補助員：瀬川長広他４名　作業員：三村竜一

○７月19日（火）晴　バックホーによる表土はぎを継続して行う。遺構検出を継続。住居址１軒と他に幾つかの柱穴等の落ち込みらしきものを検出する。

調査員・調査補助員：三村肇、瀬川長広他４名　作業員：三村竜一他１名

○７月20日（水）雨　重機により排土作業を午前中行う。雨の為、作業を中止し、テント内の整理を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子

○７月21日（木）雨　重機による表土はぎ。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子

○７月22日（金）雨　重機による表土はぎを続行。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子

○７月23日（土）曇　ＳＫＳに於いて遺構の検出作業を行い住居址３軒を検出する。町神地区、中央道沿いに試掘調査を行う。午後よりＳＫＫＳ北側の遺構検出作業を行い柱穴及び建物址を検出する。

調査員・調査補助員：瀬川長広他４名　作業員：上原政子他20名

○７月24日（日）雨　重機による排土作業。

作業員：松本とよ子

○７月25日（月）曇　ＳＫＫＳの南西部に於いて遺構検出作業を行う。ＳＫＳ第２号～７号住居址の掘り下げを始める。第４号住居址の写真撮影を行う。

調査員・調査補助員：大久保知巳、瀬川長広他3名　作業員：倉科寛子他42名

○７月26日（火）晴　ＳＫＫＳの南東部の遺構検出作業を行い第１号住居址を検出、その後掘り下げ始める。ＳＫＳ、第２号～４号住居址のベルトセクション図作成。第２号住居址の遺物出土状態の写真撮影を行う。第２号～７号住居址は、ベルトを残して掘り上げる。第８、９号住居址を掘り下げ始める。円形集石の実測を行う。

調査員・調査補助員：三村肇、横田作重、瀬川長広他３名　作業員：上原政子他49名

○７月27日（水）曇　ＳＫＫＳ・第１号住居址を掘り下げる。地区の南東部の遺構検出を継続する。ＳＫＳ・遺構の検出を続行し住居址を５軒検出する。第８、９号住居址を掘り下げる。

調査員・調査補助員：瀬川長広他３名　作業員：上原政子他48名

○７月28日（木）晴　ＳＫＫＳ・南東部の溝の検出作業を行いトレンチを３本入れて掘り下げる。第１号住居址の掘り下げを続行する。ＳＫＳ・遺構検出の

ＳＫＭＴ　７住かまど掘り下げ

ＳＫＳ　遺構検出

表土はぎ

作業のあいさつ

継続及び第８、９号住居址の掘り下げを行う。

調査員・調査補助員：瀬川長広他４名　作業員：上原政子他55名

○７月29日（金）晴　重機による表土はぎを行う。

作業員：三村竜一他３名

○７月30日（土）晴　ＳＫＫＳ・検出作業を継続して行う。第２～４、６号住居址の掘り下げを行う。ＳＫＳ・第８、９、13～15号住居址及び第17号住居址にかかる土壙の掘り下げを行う。

調査員・調査補助員：太田守夫、三村肇、横田作重、瀬川長広他３名　作業員：和田晋治他49名

○７月31日（日）曇　テント内にて遺物整理作業を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子　作業員：松本とよ子他１名

○８月１日（月）雨　テント内にて遺物整理作業を行う。

作業員：松本とよ子他１名

○８月２日（火）晴　ＳＫＫＳ・第５、７、９～12号住居址を掘り下げ始める。ＳＫＳ・第８、９号住居址の床面を検出する。第11、12号住居址を掘り下げ始める。第15号住居址を掘り下げた後壁面を検出する。第16号住居址の掘り下げを継続する。第17号住居址と切り合っている土壙の平板測量を行う。

調査員・調査補助員：瀬川長広他５名　作業員：宇佐美文子他38名

○８月３日（水）晴　ＳＫＫＳ・第５号住居址掘り下げを継続する。ＳＫＳ・第８、９号住居址のベルトセクション図の測図を行う。第11、12、16、17号住居址の掘り下げを行う。ＳＫＮＭ・検出作業を行う。

調査員・調査補助員：太田守夫、瀬川長広他5名　作業員：宇佐美文子他37名

○８月４日（木）晴　ＳＫＫＳ・第５号住居址を掘り上げる。第２～６号住居址のセクション図を作成する。ＳＫＳ・第３～５号住居址の床面を検出する。第11、12号住居址のベルトセクション図を作成しその後ベルトを外す。第16号住居址のベルトセクション図を作成。第17号住居址の掘り下げを継続する。ＳＫＮＭ・検出作業を行い住居址８軒、柱列４ヶ、溝３本を検出する。

調査員・調査補助員：三村肇、三沢元太郎他1名　作業員：宇佐美文子他37名

○８月５日（金）晴　ＳＫＫＳ・第７、９～12号住居址の掘り下げを継続。第７、８、９号住居址の切り合い関係を確認する。ＳＫＳ・第６、７号住居址の床面を検出する。第13、14号住居址のベルトセクション図の作成を行う。溝1、２の検出作業を行う。ＳＫＮＭ・遺構の検出を完了する。住居址19軒、柱列10ヶを検出する。

調査員・調査補助員：山越正義、百瀬新治、三沢元太郎他１名　作業員：勝野敏雄他28名

○８月６日（土）晴　ＳＫＫＳ・第10～12号住居址の掘り下げを続行する。ＳＫＳ・検出されている住居址のベルトを外し床面精査を行う。第12号住居址より検出された集石を実測する。第17号住居址を掘り上げる。第18号住居址を検出する。土壙３、７を半分に断ち割る。溝１、２のセクション図を作成する。

調査員・調査補助員：三村肇、西沢寿晃、瀬川長広他４名　作業員：福沢光宏他30名

○８月８日（月）晴　ＳＫＫＳ・第７、８、10～12号住居址の掘り下げを継続する。ＳＫＳ・北側部分の検出作業を行う。第８号住居址のベルトを外す。第13、14号住居址の床面を検出する。

調査員・調査補助員：太田守夫、三沢元太郎他1名　作業員：勝野敏雄他30名

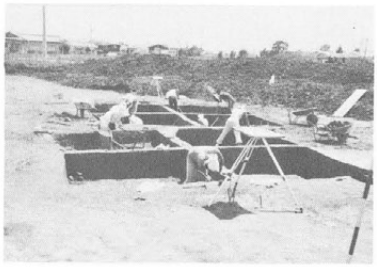
○８月９日（火）晴　ＳＫＫＳ・第３、４号住居址の遺物出土状態の写真撮影をを行う。第13、15号住居址の掘り下げを開始する。第14、15号住居址の切り合い関係を確認する。ＳＫＳ・第９号住居址のベルトを外し床面精査をする。地区北側部の検出作業を続行する。

調査員・調査補助員：三村肇、大出六郎他２名　作業員：勝野敏雄他35名

○８月10日（水）晴　ＳＫＫＳ・第10、13、15号住居址の掘り下げを続行する。第12号住居址の写真撮影を行う。土壙４、５の測図を行う。ＳＫＳ・北側の検出を続行し住居址１軒、建物址４軒を検出する。第18号住居址の掘り下げを行う。ＳＫＫＳ・第10号住居址内より三彩出土。

調査員・調査補助員：大出六郎他２名　作業員：小平徹他31名

博物館実習生



ＳＫＳ　８・９住セクション測図

ＳＫＳ　８住ベルト外し

ＳＫＫＳ　10・15住掘り下げ

○８月11日（木）晴　ＳＫＫＳ・第５号住居址の遺物出土状態図の写真撮影を行う。各住居址の掘り下げを続行する。ＳＫＳ・第２、３号住居址の平板測図を行う。第18号住居址を掘り下げる。

調査員・調査補助員：石上周蔵、大出六郎他２名　作業員：清水幸也他29名

○８月12日（金）晴　ＳＫＫＳ・第９号住居址の床面の精査を行う。第10号住居址の遺物出土状態図を作成する。第18号住居址の床面、壁面の確認を行う。ＳＫＳ・第11、12号住居址の平板測図を行う。第18号住居址を掘り下げる。

調査員・調査補助員：石上周蔵、横田作重、三沢六太郎他１名　作業員：福沢光宏他26名

○８月19日（金）曇　ＳＫＫＳ・第９、10号住居址のベルトを外す。第11、12号住居址の遺物出土状態図を作成する。第19、20号住居址を掘り下げる。ＳＫＳ・第10、18号住居址を掘り下げる。

調査員・調査補助員：瀬川長広他３名　作業員：鳥羽浩史他13名

○８月20日（土）曇　ＳＫＫＳ・第８号住居址の床面を検出する。第12号住居址の遺物出土状態図の作成を引き続き行う。第15、20号住居址のセクション図を作成する。第18号住居址及びＳＫＳ・第10、18号住居址の掘り下げを行う。

調査員・調査補助員：三村肇、降旗俊行、瀬川長広他２名　作業員：鳥羽浩史他15名

○８月22日（月）雨のち曇　ＳＫＫＳ・第10号住居址の遺物を取り上げた後床面精査を行う。第11、12号住居址の落ち込みを掘り上げる。第15、20、22号住居址のベルトを外し掘り下げる。第11、12、15、16、22号住居址の写真撮影を行う。第22号住居址のセクション図を作成する。第14、19、25号住居址の掘り下げを開始する。ＳＫＳ・第10、18号住居址の掘り下げを継続して行う。

調査員・調査補助員：横田作重、瀬川長広他２名　作業員：西村宏美他13名

○８月23日（火）曇　ＳＫＫＳ・第２号住居址の写真撮影を行う。第７、17号住居址の遺物出土状態図を作成した後遺物を取り上げる。第10号住居址の床面を確認する。第14、19号住居址の掘り下げを継続して行う。第21、23、26号住居址の掘り下げを開始する。ＳＫＳ・第１、18号住居址の掘り下げを行う。

調査員・調査補助員：大久保知巳、瀬川長広他3名　作業員：鳥羽浩史他13名

○８月24日（水）曇　ＳＫＫＳ・第10号住居址の床面を精査し柱穴を確認する。第14号住居址の掘り下げをほぼ完了する。第23号住居址のベルトセクション図を作成する。第24、25号住居址の掘り下げを継続する。ＳＫＳ・第１、18号住居址の掘り下げを継続する。

調査員・調査補助員：三村肇、横田作重、瀬川長広他３名　作業員：鳥羽浩史他16名

○８月25日（木）薄曇　ＳＫＫＳ・第８、９号住居址を掘り上げた後写真撮影を行う。第14号住居址のベルトセクション図を作成後ベルトを外す。第23、24、25号住居址の遺物出土状態図及び遺構図を作成する。ＳＫＳ・第１、18号住居址の掘り下げを継続する。

調査員・調査補助員：瀬川長広他３名　作業員：鳥羽浩史他15名

○８月26日（金）晴　ＳＫＫＳ・第14、18号住居址の遺物出土状態図の作成の後遺物を取り上げる。第23号住居址の落ち込みを半截し断面図を作成する。第25号住居址を掘り上げた後写真撮影を行う。第26号住居址のベルトセクション図を作成する。周溝を掘り上げる。第29号住居址が新たに第10号住居址内に検出されたので掘り下げを開始する。第27、28号住居址、建物址１の掘り下げを始める。ＳＫＳ・第１、18号住居址の掘り下げを継続する。第10、17号住居址のセクション図を作成する。第16号住居址のベルトを外す。

調査員・調査補助員：瀬川長広他２名　作業員：鳥羽浩史他17名

○８月27日（土）晴　ＳＫＫＳ・第１号住居址の柱穴及び溝を掘り上げた後写真撮影を行う。第14号住居址の床面を精査する。第26、27号住居址の落ち込みのセクション図を作成した後掘り下げを行う。ピットを半截する。ＳＫＳ・昨夜の降雨の為柱穴群の位置が不明となり再び検出作業を行う。第１号住居址の掘り下げを継続する。第16、17号住居址のベルトを外し床面精査を行う。第18号住居址の床面を検出する。

調査員・調査補助員：瀬川長広他３名　作業員：鳥羽浩史他15名

ＳＫＫＳ　９住床面精査

ＳＫＳ　18住掘り下げ

ＳＫＫＳ　10住写真撮影

ＳＫＳ　17住セクション測図

○８月29日（月）晴　ＳＫＫＳ・建物址２の柱穴を半裁しセクション図を作成する。ＳＫＳ・第16、17、18号住居址の床面を検出する。第11、18号住居址のセクション図を作成する。第17号住居址の写真撮影と柱穴群の平板測量。

調査員・調査補助員：瀬川長広他４名　作業員：石川育代他15名

○８月30日（火）晴　ＳＫＫＳ・建物址１～３の柱穴を半裁する。ＳＫＳ・第１号住居址の掘り下げを継続する。第16、18号住居址の床面を検出する。第16号住居址の写真撮影及び平板測量を行った後床面の遺物を取り上げる。第18号住居址のセクション図を作成する。柱列群の再検出を行い平板測量を継続。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子　作業員：石川育代他13名

○８月31日（水）晴　ＳＫＫＳ・第６号住居址、建物址３の掘り上げ及び測図第28号住居址の測図を完了する。建物址４～６、柱穴群の半截を行う。ＳＫＳ・第１、17号住居址の掘り下げを行う。第18号住居址のベルトを外し遺物出土状態図を作成する。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子　作業員：石川育代他13名

○９月１日（木）雨　雨の為発掘を中止しテント内にて遺物整理を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子

○９月２日（金）晴　ＳＫＫＳ・第23～27号住居址の写真撮影を行う。南東部建物址２軒の柱穴を半裁する。地区全体図の作成を南東部より行う。ＳＫＳ・第15号住居址の周囲を再検出する。第18号住居址のベルトを外し床面の検出を行う。地区南半分の平板測量を行う。

調査員・調査補助員：大久保知巳、瀬川長広他2名　作業員：石川育代他16名

○９月３日（土）晴　ＳＫＫＳ・建物址のセクション図の作成及び柱穴の掘り下げを行う。ＳＫＳ・第１号住居址の掘り下げを継続して行う。第18号住居址の床面を検出する。第19号住居址の掘り下げを開始する。平板測量を行う。

調査員・調査補助員：三村肇、太田守夫、瀬川長広他２名　作業員：石川育代他18名

○９月５日（月）雨　雨の為発掘を中止しテント内にて整理作業を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子

○９月６日（火）晴　第１号住居址を掘り下げた後セクション図を作成する。第13、15号住居址のベルトを外す。第18号住居址の床面を検出する。第19号住居址の掘り下げを続行する。地区南西部の再検出を行った後平板測量を行う。

調査員・調査補助員：三村肇、瀬川長広他３名　作業員：三村竜一他15名

○９月７日（水）曇のち雨　ＳＫＳ・第１、13、14号住居址のベルトを外す。第13号住居址の写真撮影を行う。第18号住居址の床面を検出する。第19号住居址を掘り下げる。ＳＫＮＭ・再検出を行い実測を継続する。

調査員・調査補助員：大久保知巳、瀬川長広他2名　作業員：三村竜一他14名

○９月８日（木）曇時々雨　ＳＫＫＳ・第10号住居址の掘り上げ図を作成した後床面精査を行う。第29号住居址の遺物出土状態図を作成した後遺物を取り上げる。ＳＫＳ・第14号住居址の写真撮影を行う。溝４、８の掘り下げを行う。ＳＫＮＭ・南側地区の再検出を行う。

調査員・調査補助員：瀬川長広他３名　作業員：飯島雅彦他16名

○９月９日（金）晴　ＳＫＫＳ・柱穴の半截を行う。ＳＫＳ・第19号住居址の掘り下げを継続する。土壙11、溝４～８、溝周辺ピットを掘り下げる。町神地区（ＭＫ）重機により排土を行い住居址１軒を検出する。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子　作業員：飯島雅彦他16名

○９月10日（土）晴　ＳＫＫＳ・柱穴の半裁及び掘り上げを行う。ＳＫＳ・第19号住居址、溝４、８の南西部の掘り下げ。柱穴を確認後建物址２の掘り下げを始める。ＭＫ・第１号住居址を掘り下げる。

調査員・調査補助員：大久保知巳　作業員：唐沢かほる他16名

○９月12日（月）雨　ＳＫＫＳ・柱穴の掘り下げ及び測図を行う。ＳＫＳ・第19号住居址のベルトを外し床面の精査を行う。建物址１の上面を検出する。建物址２の柱穴を半截する。ＭＫ・第１号住居址の掘り下げを続行する。

調査員・調査補助員：瀬川長広他３名　作業員：佐々木謙司他２名

○９月13日（火）晴　ＳＫＫＳ・建物址１、２の柱穴を半截する。ＳＫＳ・第１号住居址のカマド周辺を掘り下げる。第19号住居址の床面を検出し写真撮影

18住セクション測図

18住ベルト外し

MKA地点表土はぎ

SKS溝４と建２掘り下げ

を行った後測図を行う。建物址２、溝４のセクション図を作成する。

調査員・調査補助員：大出六郎他２名　作業員：佐々木謙司他２名

○９月14日（水）曇　ＳＫＳ・第１、13、15号住居址、建物址2の測図を行う。建物址４の柱穴を半截する。ＳＫＮＭ・全体の写真を撮影する。ＭＫ・第１号住居址のベルトセクション図を作成した後ベルトを外し床面を検出し遺物出土状態図を作成し写真を撮影する。

調査員・調査補助員：大久保知巳、三村肇、瀬川長広他３名　作業員：佐々木謙司他２名

○９月15日（木）曇　ＳＫＫＳ・建物址１、２のセクション図を作成する。周辺柱穴群の平板測量を行う。ＳＫＳ・第１号住居址のカマド周辺の床面を検出した後測図を行う。建物址２のセクション図作成し、建物址４の柱穴半割。

調査員・調査補助員：瀬川長広他３名　作業員：山田真一

○９月16日（金）晴　ＳＫＳ・建物址の柱穴を半截した後測図を行う。ＳＫＮＭ・遺物の取り上げを行う。

調査員・調査補助員：瀬川長広他２名　作業員：山田真一他１名

○９月17日（土）晴　ＳＫＫＳ・平板による全体測量を行う。ＳＫＳ・建物址の再検出を行い掘り下げる。

調査員・調査補助員：三村肇、瀬川長広他２名　作業員：佐々木謙司他３名

○９月19日（月）曇　ＳＫＫＳ・平板測量を続行する。第15、18、23号住居址のカマドを断ち切る。ＳＫＳ・建物址５～８、柱列を掘り下げる。土壙セクション図を作成する。

調査員・調査補助員：大久保知巳、大出六郎他１名　作業員：佐々木謙司他２名

○９月20日（火）雨　雨の為テント内にて図面整理を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子

○９月21日（水）曇のち雨　ＳＫＫＳ・第９号住居址のカマドを断ち割り測図を行う。ＳＫＳ・柱列を掘り上げる。建物址７のセクション図を作成する。

調査員・調査補助員：瀬川長広他３名

○９月22日（木）雨　第２、３、５、７、16号住居址のカマドを断ち割る。ＳＫＳ・第１、８、９、16号住居址のカマドを断ち割り測図を行う。

調査員・調査補助員：大久保知巳、三村肇

○９月23日（金）晴　ＳＫＫＳ・第21、22号住居址のカマドを断ち割った後測図を行う。ＳＫＳ・第７号住居址のベルトを外す。平板実測を行う。

調査員・調査補助員：滝沢智恵子

○９月24日（土）雨　ＳＫＳ・第６、７、10、11、14号住居址の平板測図。

調査員・調査補助員：三村肇

○９月26日（月）曇　ＳＫＫＳ・第９、11～13、22号住居址のカマドを精査した後測図を行う。ＳＫＳ・第７号住居址のベルトを外し床面を精査する。

調査員・調査補助員：瀬川長広他１名　作業員：佐々木謙司他２名

○９月27日（火）曇　ＳＫＫＳ・第29号住居址のカマドを断ち割る。ＳＫＳ・第17～19号住居址のカマドを断ち割る。

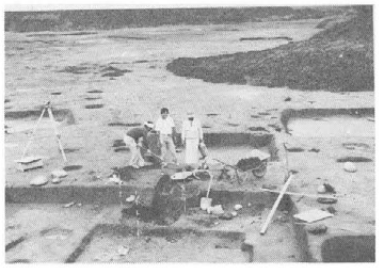
○９月28日（水）晴　テントを撤収し器材を運搬する。

調査員・調査補助員：大久保知巳

（事務局）

ＳＫＮＭ　検出状況

ＳＫＳ遠景



ＳＫＳ　29住かまどたち割

第2章　遺　跡　の　環　境

第1節　遺跡の立地と地理的環境（第6～8図・第1表）

1　遺跡周辺の地形地質

本遺跡は松本市神林、下神集落の北及び東部の水田地域（海抜610～615ｍ、傾斜ＮＥ1000分の10）にあって、発掘地は広い範囲にわたり、地籍は西から南田尻、中道、熊坂と笹賀地籍で、中央自動車道長野線が、熊坂と笹賀地籍の間を走る予定になっている。

地形上からみると、鉢盛山（朝日村）に源を発する鎖川の広大な扇状地の最末端にあたる沖積地であって、過去の流路の移動にともなう堆積地である。北西250ｍを流れる現河床とは直接関係をもっていない。このことは、最初に実施した神林地区内の遺跡確認調査の、各試掘の堆積状況によっても知ることができた。すなわち水田土壌下の土壌深度（砂れき層に達するまで）の著しく深い地域と浅い地域があって、砂れき層の連続でみると、およそＮ40°Ｅの方向を示している。これを上流の今井地域にみると、鎖川左岸（右岸は浸食がい）に数段の小段丘が認められ、これが下流神林地区内のＮ40°Ｅの方向の砂れき、及び土壌の堆積に対応しているのがみられる。この堆積状況は重要であって、後に述べる遺構と堆積層との前後関係に問題をもつ。鎖川は菅野中学校付近から、中二子西に至る地域にみられるように、著しい砂れきを堆積し、以後しだいに西へ移って現河床となっているが、乱流の起点は今井地籍にみられる。明治以後においても南荒井の南の地域まで、はん輝緑ぎが及んだという。そのため南荒井集落の南と北では、砂れきの形の大きさに違いがある。下神長久寺付近の地下の砂れきの堆積方向Ｎ60°Ｅは、川東付近に河流が移動してからの堆積の可能性をもち、後に述べる遺跡内の溝の水源の推定にも関係しよう。

堆積層は一般に１黒灰色の耕土（水田20～25cm）２灰色土の溶脱層（10～20cm）３黄褐色土層（斑鉄をもち20cm）４濃褐色土集積層（20～30cm）以下れきまじり土層、黄褐色～褐色粘土質層（ローム層）が、砂れき層に至るまで続く。４の集積層下の粘土質土層は、40～60cmから深いところは１ｍを越える。鉄分の集積は新村の条里遺跡ほど顕著でない。遺跡の包含層は、黄褐色～褐色粘土質土層である。

れきや砂は上流の古生層起源で、れきは円れきで砂岩（硬砂岩を含む）が多数で径も大きく、チャート、輝緑ぎょう灰岩、珪岩(白)、粘土質岩、粘板岩の順に少なくなる。れきの大きさは中・細れきで、下流ほど細れきが多くなる。

2　各遺跡の堆積層とれき

南田尻(第１次発掘)の堆積層(第６図)の特徴の第一は、発掘面の南東隅、耕土30cmの下にみるN40°Eの方向、最大幅４ｍのれき層があり、さらに耕土下の暗褐色土層に覆われた部分を加えると、７ｍの幅となる。この部分のれき層は黄褐色土層と交差状況を示している。中心に近い地層断面は第１図のように、堆積の厚さ70cm以上で、小れきやれきまじりの砂層、細砂層、細砂と褐色土の交差した層等の互層で下層ほど新鮮である。れきは古生層起源で、流れはおだやかであったと考えられる。

第二の特徴は上記の砂れき層を離れ、北西に移るに従い、各トレンチでみるように、れき層の存在が深くなっている(第１表)。南東隅のれき層周辺で耕土を除いた面より10～20cm下でみられるものが、50cm以上の深さに存在している。そのため表面にれき層をかく住居跡は、厚い黄褐色ローム質粘土質土層の中へ深く切りこんでいて、深さ70cmに達するものもある。耕土下にあるれき層と、深部にあるれき層との関係は下底で連続するものか、黄褐色土層の上下に堆積の中断を示す状況が見当たらない現在は速断ができない。ただ南東隅のれき層が、黄褐色土層と交差状況にあることは、黄褐色土層と上層の部分だけでも同時異相と考えられる。従って住居跡がこれらの層を切って掘られていることは、すでに住居跡が成立される以前に、この堆積面は形成していたとみるべきだろう。

次に北部に三本の溝（小－２・大－１）がみられるが、小溝には川の流れとしての出土物はない。大溝は溝の中央に50～60cm厚さに下から鉄分の集積、粗砂、細れきの堆積があり、この上あるいは中に土師器片、須恵器片の少量が出土していたが、全体としてみて、自然流よりは流れ込みと解釈した方が適当であろう。

またもち込まれた石として、住居跡内外に花こう岩が出土し、その多くは焼け石となっていたが、近くでは梓川でみられるものである。

中道、熊坂（第２次発掘地）は南田尻の数倍に当たる面積であるが、旧河床の流れの方向については変りはない。中道面でれき層の浅い部分は北西隅、熊坂面では数条、特に中央と北西のものは幅も広く、南田尻、中道からの連続とみられるものもある。熊坂面では南東部と北西部に黄褐色土層の深いところがみられるが、一般に住居跡は南田尻に比べ浅い。

中道面では北西隅にN40°Eのれき層が、熊坂面へ連続するほかに、南部にれきの散在がみられる。注目されるのはほぼ中央近く、N80°W(東)、N60°W(中央)、E－W(西)と続く、幅50～60cmの小れきのつまった流れとみる溝と更にその南側に、ほぼ同方向に分岐した同様な溝が発見された。この小れきのれき種はN40°Eれき層のものと同様であるが、明らかに新鮮であって、れき層と同時異相の黄褐色粘土層を切っているのが特徴である。後で述べる熊坂面の溝と同様に、住居跡内の水路と考えられる。

熊坂面には中央部と北西部に砂れき層があり、いずれもN40°～50°Eの方向を示し、広い面積を占め、深い土層は砂れき層により、西部・北西部・南東部に分けられている。熊坂面で注目されるのは、ほぼ中央から西北隅へ、南よりN20°W、N－S(幅165cm)、N10°W、N－S(幅230cm、底35cmれき層を切る、土器片)、N20°W(幅130cm、底40cm、土器片)、N30°W(幅130cm、底25cm、土器片、れき層を切る)、N80°W(幅150cm底35cm)の曲流となっている。発掘地面に現われた長さは約100mで、溝内には周辺と違ったシルト、細砂、落ち込みとみられる土器片がみられた。重要なことはこの溝がN40°Eの堆積層をすべて切っていることは、堆積層、溝、住居跡の前後関係の推定資料となるであろう。

またもう一つの顕著な溝が、南東から北西へN40°Eの堆積層を切っている。熊坂面で最も厚い土層の部分（南東部）と砂れき層が最も広がった部分（中央部）を切って、前記の溝と合流する形となっている。この溝の延長は約80m、幅60～80cm、深さ30cmである。西半分は砂れき層を切るため、溝の深さも浅いが、南東部分は特殊な堆積状況がみられ、住居跡はこの位置をはずれている。

第7図は下底のれき層まで、最も深い地層断面を示したものであるが、他の場所の土層の堆積と明らかに状況を異にし、滞水か流れの影響を受けていると考えられる。試掘可能な10m四方の面積内の資料から推定すると、南北方向のなべ底地形で、基底が粘土まじりの細・小れき層である。上層は耕土30cmの下に黄褐色土20～40cmがあり、基底れき層の間に砂質土、青灰色粘土、細れきまじり土、粗砂が介在している。介在の層には濃褐色、赤褐色の鉄・マンガンの汚染が共通している。この層厚は耕土を除き40～60cmである。次に第7図の地点に限り、細れき層や砂質粘土層の下部に更に粘土層、砂質土、砂層があり、加えて深さ1mに、上部に腐植を含む青灰色粘土層、下部に鉄・マンガンの汚染をみる。更に注目すべきは、鉄・マンガンにより固結した黒褐色粘土層がその下部に発見されたことである。ただ上部層と下部層が2回の堆積によるか、連続のものか現在の資料では速断できない。あるいはここがなべ底地形の最深部であった可能性もある。いずれにしても、ここでみられる粘土、砂、小・細れきは、他の場所の砂れき(N40°Eれき層)とは違って新鮮である。滞水がなにを意味するか、興味ある問題である。南東から北西に走る溝は、この堆積の中央に第8図のような地形を残しているところから、上記の層の中を貫通したものだろう。

熊坂面に現われた二条の溝の、上流とみられる先端は、鉄工所の敷地内に入っているので追求は不可能である。下流域は北西隅と考えられ、試掘によると耕土を除き、55cmまで砂質粘土で以下細れき混りの土層に変っている。砂質粘土層の上部は時々細れきをまじえ、下部45～50cmに斑鉄をみ、褐色土に変わる。10cm、30cmに土師器の破片が混入している。この北西隅には、なお幾条かの東西性、南北性の溝がみられ、集水域と考えられる。最終の流れの方向は発掘面外になるので、推定の域をでない。ただ全体の地形面の傾斜からみて、北西隅周辺の凹地形が明らかに北東方向であるので、南田尻の水も含めて北東流したものと思われる。

次にこれらの溝の源流は、溝が歴史時代のもので、現在のような梓川からの導水の技術がなかったとすれば、恐らく地形上からみて川東付近から、自然流あるいは導水によって、下神集落一鉄工所の微地形上の高まりへ上げて配分したと思われる。そう考えれば中道面、熊坂面の溝がＳ方向へ集まっても説明がつく。

笹賀地籍の発掘地はトレンチ部分外を含めると、熊坂・中道面の２倍ほどになる。この地域は熊坂・中道と比べ、砂れき層の部分が少ない。砂れき層はまず最南端（トレンチなし）に３条（N50°～60°Ｅ、幅40～130㎝、れき新鮮、時代が新しい)、中央（トレンチ内、Ｎ30°Ｅ、幅40㎝、断続、住居が切る)、北面（一部トレンチ内、広い面積にわたる、住居が切る)にみられる。住居跡が多く発見された中央の広い部分は土層の深いところで、地形上でも南荒井から町神・下神間、発掘地に至る神林地区の地形面での最も低い地域と連なっている。砂れきや土層の堆積をみても、扇状地の最末端の状況がうかがえる。トレンチ内の上層は黄褐色ローム質土と下部は粘土、シルト砂、細れきがみられる。堆積層に含まれる岩石は、すべて古生層起源である。

集石遺構の石は円れきで、砂岩（古生層）139(焼けたもの６)、花こう岩19（焼けたもの14)、チャート６、ホルンフェルス（砂岩）５。れきの大きさは小14×10㎝、中20×10㎝、大40×25㎝の平均で、砂岩が全体として大きくチャートは小さい。花こう岩は梓川、他の石は奈良井川、鎖川が採集の近接地である。

３　ま　と　め

1　遺跡及び神林地区を支配する地形は鎖川扇状地である。

2　現河床の影響よりも、旧河床の影響の方が大きく、その流れと堆積方向は、およそN40°Ｅが一般的である。堆積の砂れき層や土層はすべてが上流へ連続しない。

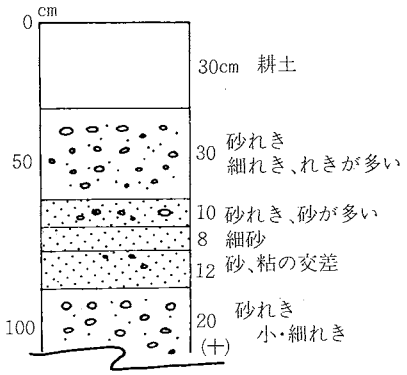
3　神林地区、特に遺跡及び周辺は扇状地の最末端に当るため、堆積層に変化が多くなる。

4　発掘された溝の流れの方向は、一般的な地形と異なるが、源流は一般の地形より導水していると推定される。神林郷など歴史時代の自然水路と計画水路を調べる必要がある。

5　堆積層の形成時代は、住居跡や溝と堆積層の切り合いによって前後関係がきまり、遺物から時代がきまる。本遺跡の場合は住居跡の成立前に地形形成は終っていると考える。

6　熊坂地籍のなべ状とみられる地形は、調査範囲が狭いので推定の域をでないが、水利用の問題として興味がある。

7　遺跡内の自然流による岩石は、古生層起源の砂岩(硬砂岩を含む)、チャート、輝緑ぎょう灰岩、珪岩(白)、粘土質岩、粘板岩の中・小・細れきで、外から運びこまれたものは、古生層起源の大れき以上の石や花こう岩である。　（太田守夫）

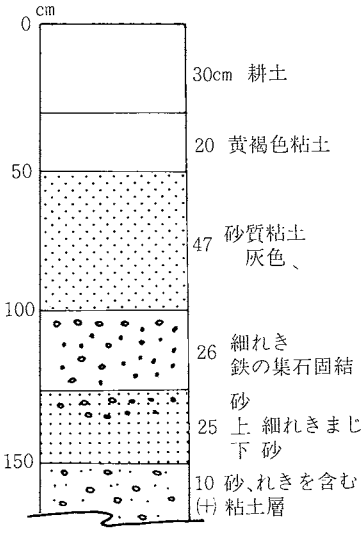


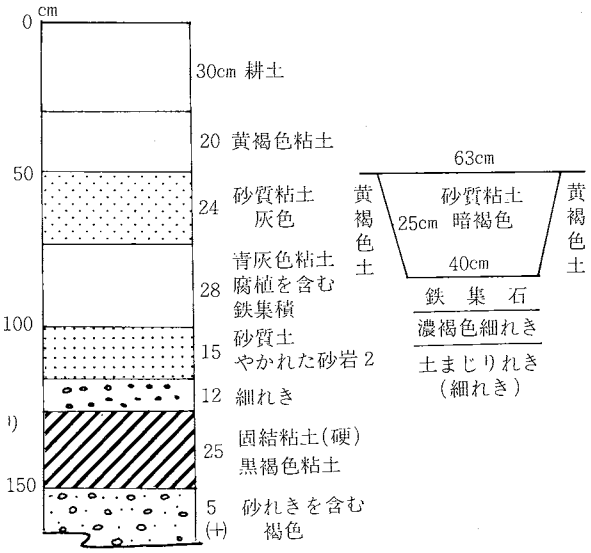
第６図　ＳＫＭＴ砂れき層

住居址No.	れき層までの深さ cm
1	0
2	0
3	0
4	180　100(+)
5	90　100(+)
6	51
7	42
8	50
9	100(+)
10	45
11	50

（耕土を除く）

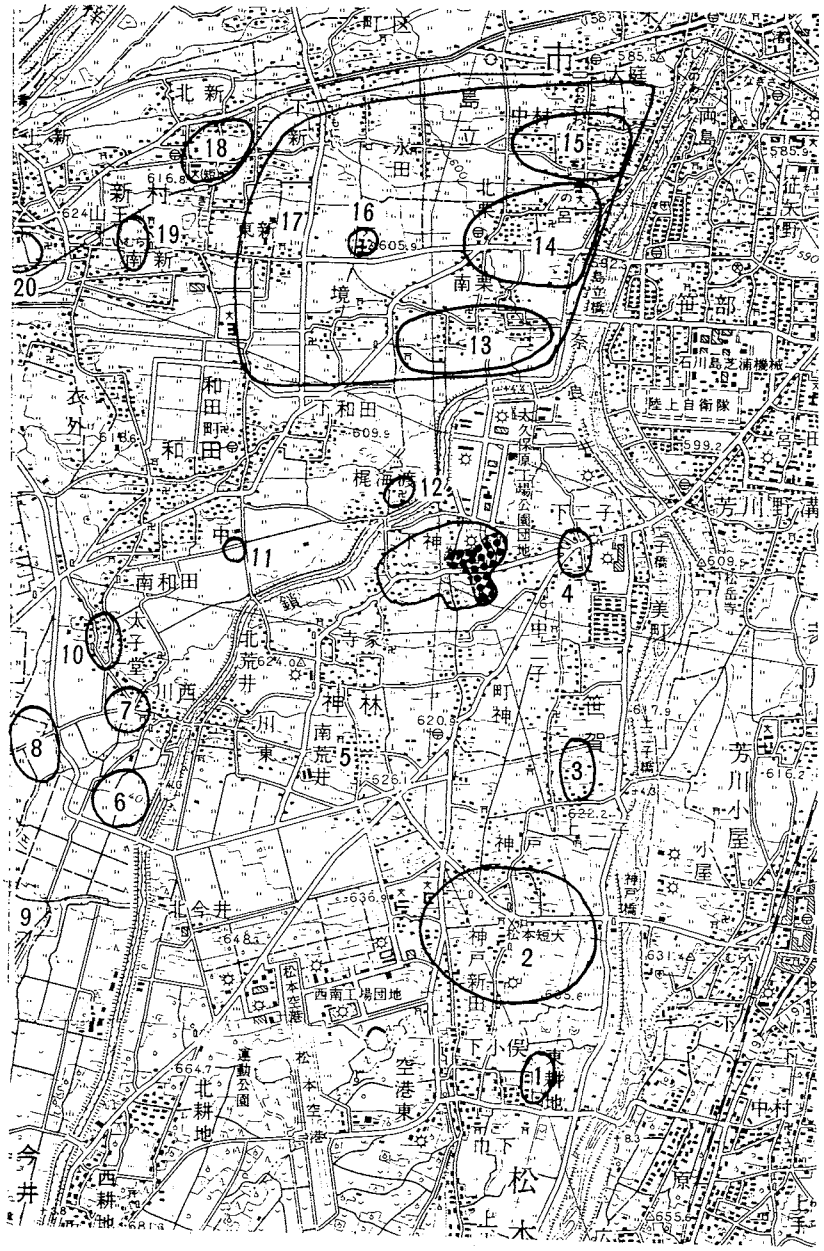
第１表　南田尻地籍れき層の深度





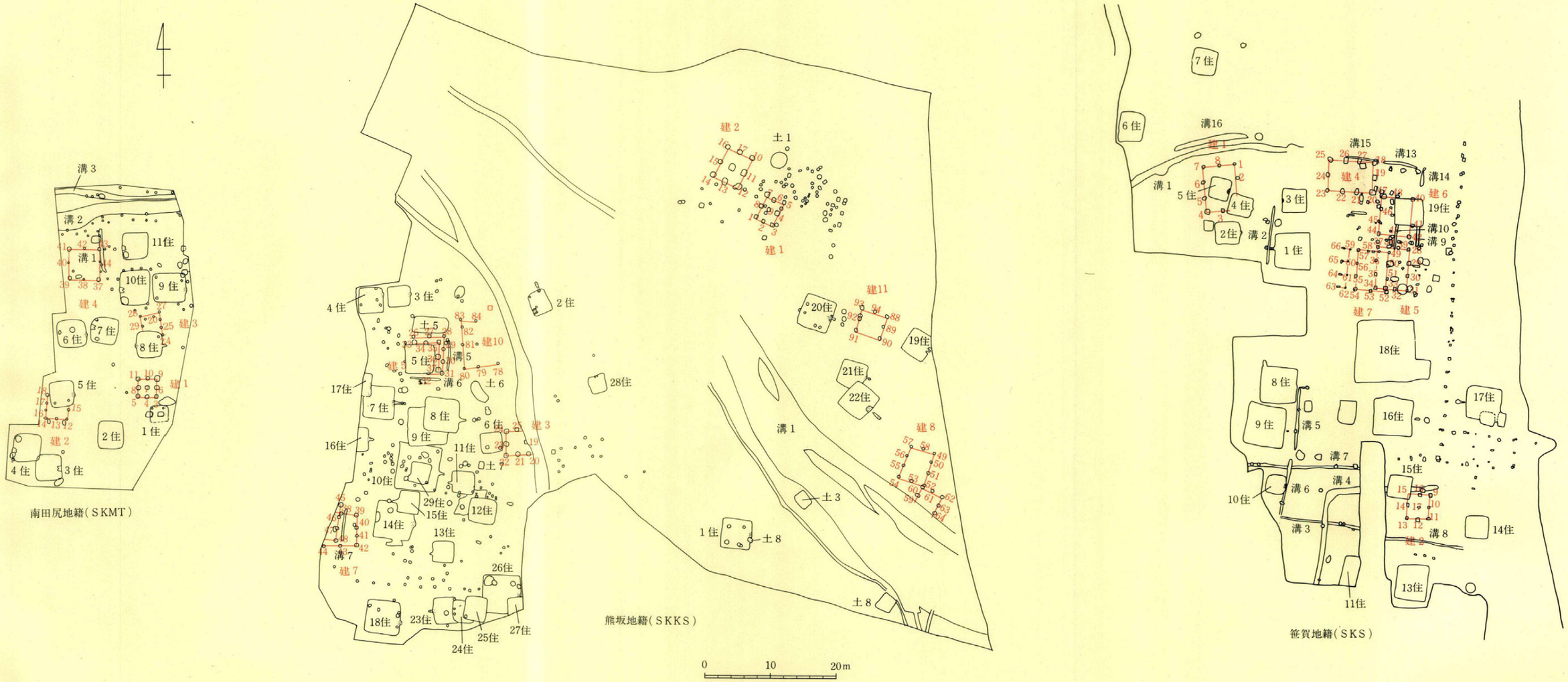
第７図　ＳＫＫＳ溝１土層

第８図　ＳＫＫＳ南東部落込み



1．牛の川遺跡
2．神戸遺跡
3．くまのかわ遺跡
4．下二子遺跡
5．南荒井遺跡
6．川西開田遺跡
7．川西遺跡
8．三間沢川左岸遺跡
9．境窪遺跡
10．太子堂遺跡
11．和田町遺跡
12．梶海渡遺跡
13．南栗遺跡
14．三の宮遺跡
15．北栗遺跡
16．高網中学校遺跡
17．新村・島立
　条里的遺構
18．新村遺跡
19．秋葉原遺跡
20．安塚古墳群

第9図　周辺遺跡



第10図　調査区全体図１（下神遺跡）

第11図　調査区全体図２（中道遺跡）

第2節　周　辺　遺　跡（第9図）

神林地区は松本市の西南に位置し、松本城より直線距離にして約5㎞隔たっている。本地区の西・北側を鉢盛山より発する鎖川が流れ、川の上流を上神林・下流を下神林、略して上神・下神という。同様に中央あたりを町神ともいう。村を灌漑する水はこの鎖川の自然流と、波田町の赤松にて梓川の水を取り入れて、和田地区を経て神林へ至る神林堰である。

神林の歴史には古代については現在のところ詳らかでないが、中世には神林（ほや）の郷とも言われ、鎌倉時代の地頭に法燈国師を出した常燈氏があり村内には千国道(仁科街道)が通じている。

神林は周辺の村と共に昭和29年に合併して松本市となり、笹賀、今井、和田、島立地区に接し南西部では山形村に接している。標高は615ｍあまりで、地形的には奈良井川の左岸1500ｍ余にあることと、鎖川が走っていることにより、東側は奈良井川、西側は鎖川の氾濫の影響をうけており、北東に僅かに傾斜する現状は水田地帯であるが、近年北東部の笹賀地区と接する周辺は、工場団地、住宅等開発が進んでいる。地下水は低く上水道敷設までは用水を利用していた程である。

遺跡を南より見てみると、奈良井川左岸の第2段丘に沿った笹賀地区で、牛の川（縄文・古墳、平安)、神戸（縄文・平安)、くまのかわ遺跡（縄文、奈良、平安、江戸）と続き、笹賀下二子地区に至る。この線をやや西へ入ると、笹賀菅野中学校周辺（神戸遺跡の西側）より、神林地区に入って南荒井遺跡（平安)、そして今回調査した町神、下神遺跡と続く。更に鎖川を渡ると神林川西地区では現在の集落南側の川西開田遺跡（縄文、平安)、山形村との境の三間沢川右岸では弥生中期前半に位置する境窪遺跡（弥生、平安)、三間沢川を渡って左岸の山形街道両側では開田時に大量の遺物を出土した三間沢川左岸遺跡（平安）があり、ややはずれるが山形村・波田町境では旧河川と思われる窪地の南・北微高地に縄文中期の集落のあった三夜塚遺跡（縄文）がある。神林・川西の北側の和田太子堂地区では石鏃が発見されており、更に和田町区では住宅建築の際に須恵器杯が数枚出土している。本址周辺に戻って下神遺跡の北、鎖川左岸の神林梶海渡で土師器が、その北側の島立南栗地区では本年度発掘調査をした南栗遺跡で平安から室町時代に至る住居址、建物址32軒などが検出されており、更にその北側水田地帯は条里的遺構が続いている。

今回発掘調査を行った下神・町神遺跡のうち特に下神地区では、小字で中道、若宮、中松原、寺の北、小原などから水田の床下げ、果樹の移植中、水道工事などで土師器、須恵器等が過去に出土しており、奈良井川、鎖川にはさまれた氾濫原でありながら、本遺跡の発達した時期には地形的には落着いていたことを伺わせている。

（神沢昌二郎）

参考文献

東筑摩郡・松本市・塩尻市誌　第2巻　歴史上、藤沢宗平　　同編纂委員会・昭48

第3章　調　査　結　果

第1節　調　査　の　概　要

今回の調査遺跡は松本市大字神林字下神・町神に所在し、一部笹賀地区にかかっている。位置は遺跡の北側約900ｍで西流する鎖川と北流する奈良井川の合流点がある。本遺跡は神林地区の県営ほ場整備に伴なう緊急発掘調査で昭和57年11月～12月にかけてほ場整備地区内の予備調査を行ない本調査は昭和58年５月より実施した。調査にあたっては下神遺跡について４地籍に区分して実施した。以下地籍ごとに概要を記述する。

南田尻地籍（ＳＫＭＴ）

調査面積は約1200m²で今回の調査遺跡の西端に位置する。確認されたおもな遺構は竪穴住居址11軒、建物址４軒、土壙15基、溝３基、その他にピット多数である。遺構検出面までは南側で40cm、北側は徐々に深くなって50～60cmとなり分布状況は調査地区全体にわたっているがやや北側に多くまた保存状態も南側より北側の方が良好である。出土遺物は須恵器坏身、蓋、土師器坏、甕、鋳と思われる銅製品がおもなもので他に編物用石錘と思われる自然石が出土している。

熊坂地籍（ＳＫＫＳ）

ＳＫＭＴの東側70ｍのところに位置し調査面積は今回の調査地籍ではもっとも広く約10,000m²におよぶ。確認された遺構は竪穴住居址が29軒、建物址11軒、土壙11基、溝７基、その他にピット多数検出された。検出状況は西側に濃密に分布し溝をはさんで東側はわずかな分布である。検出面までの深さは40～60cmで比較的深く保存状態も良好なものが多い。おもな出土遺物は須恵器坏身、蓋、長頸壺、土師器坏、甕、灰釉陶器で耳皿、平瓶、施釉陶器で三彩小壺などが出土している。

笹賀地籍（ＳＫＳ）

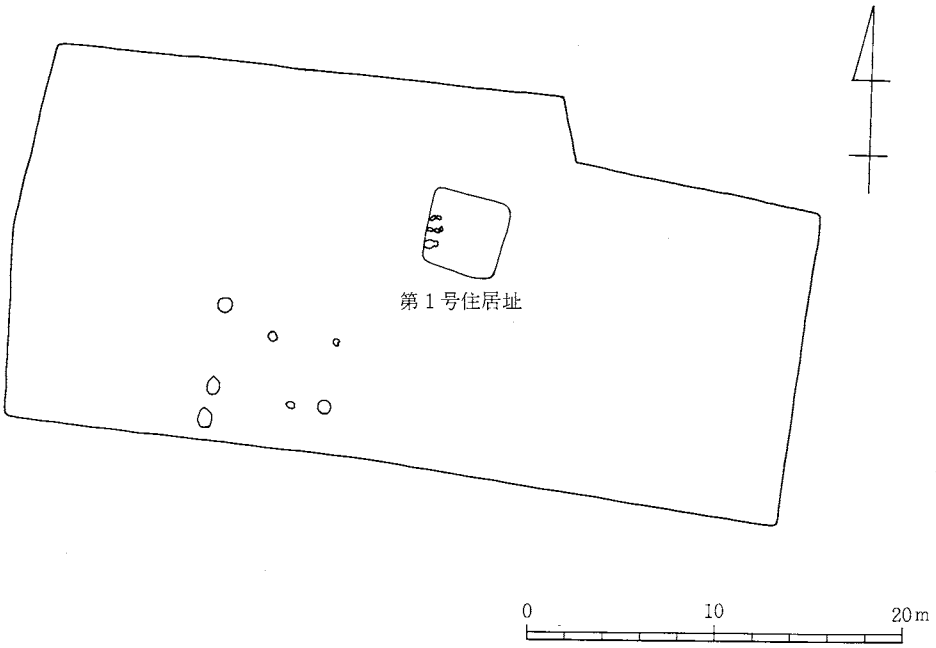
ＳＫＫＳの東側中央道長野線建設予定地をはさんで60ｍのところにあり調査地区の東端に位置する。調査面積は約9000m²である。遺構の検出状況は調査地籍の中央部やや北寄りに多く分布しており確認された遺構は竪穴住居址が18軒、建物址が６軒、土壙22基、溝10基である。検出面までは他の地籍と同じく40～60cmの深さであり遺構の保存状態は良好である。おもな出土遺物は須恵器坏身、蓋、横瓶、土師器坏、甕、金属製品で佐波理鋺片、その他に編物用石錘と思われる自然石が出土している。

中道地籍（ＳＫＮＭ）

ＳＫＫＳの南側に隣接しており地形的には一段高いところに位置している。調査面積は約5000m²であり遺構検出面は50～60cmで南側がやや浅い。分布状況は東側、北側に多くの遺構が見られた。検出された遺構は竪穴住居址が20軒、建物址が14軒、その他溝５基、土壙、ピットと思われるものが多数出土した。この地籍は排土後上面検出をして、遺構の所在を確認したのち盛土により現在も地下に保護されている。

町神遺跡（ＭＫ）

当遺跡は上記の下神遺跡の南側で県道神林・松本線をはさんだところに位置する。Ａ、Ｂ、Ｃ地点の３地点を調査した。Ａ地点は約2400m²、Ｂ地点は約1000m²について排土を行なったが遺構は検出されず遺物もＢ地点で中世陶磁器片少量と須恵器片１点のみであった。Ｃ地点は町神遺跡の北端に位置する。約800m²排土を行ない検出をした結果、竪穴住居址１軒を確認した。遺構検出面までは約40ｍの深さで東側では徐々に浅くなり住居址面では30cmぐらいになる。出土遺物は須恵器坏身、蓋、土師器坏、甕、灰釉陶器埦である。（熊谷康治）



第12図　調査区全体図３（町神遺跡・Ｃ地点）

第2節　遺　　構

1　下神遺跡住居址（第2表）

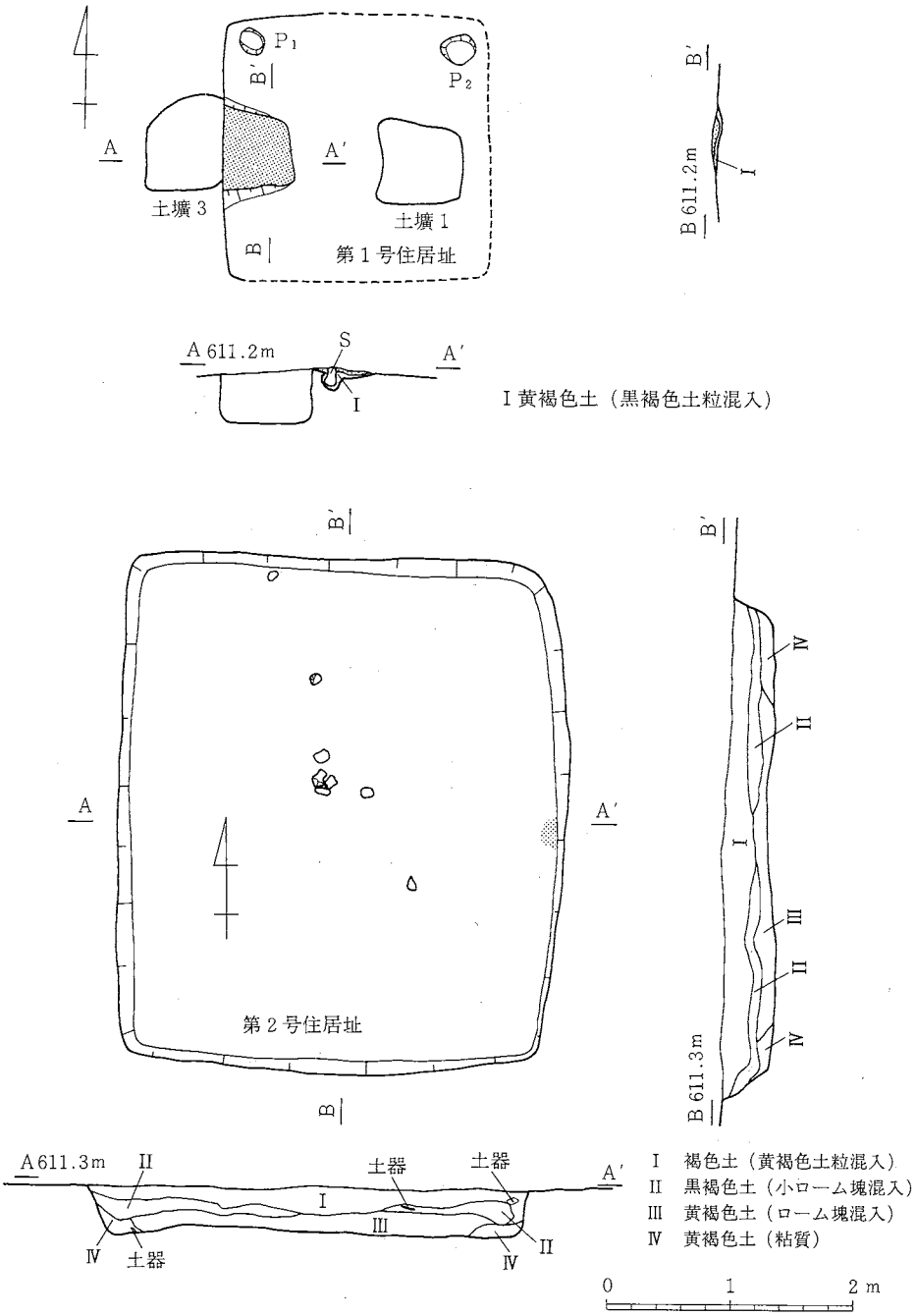
ＳＫＭＴ

第1号住居址　（第13図）

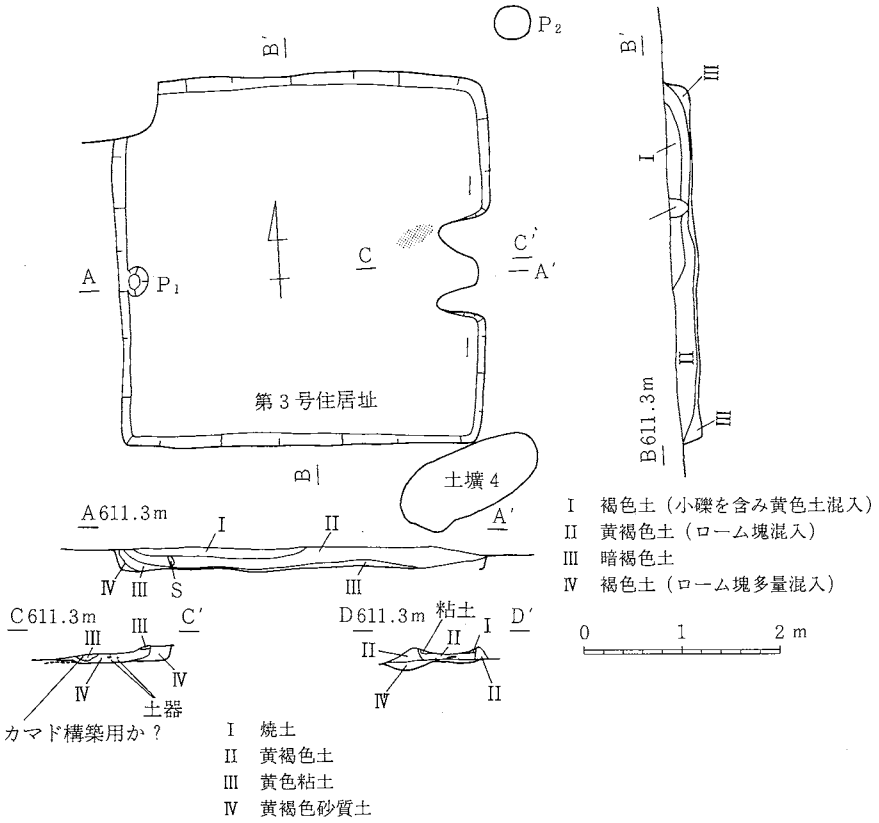
位　　置	発掘区南東部に位置し、土壙3を切る。土壙1を切る。
規　　模	？×２ｍ
平 面 形	方形　？
主軸方向	W
ピット，柱穴	ピット１　24×19×７cm　楕円形　北西隅
	ピット２　29×23×13cm　楕円形　北東隅
床　　面	黄褐色土で軟弱である。南側はれきになる。
壁・状態	残存高なし。
か ま ど	西壁中央部　焼土のみ
遺物の出土状態	かまど周辺に須恵器片が出土。

第2号住居址（第13図）

位　　置	発掘区南部に位置する。
規　　模	4.1×3.6ｍ
平 面 形	長方形
長軸方向	Ｎ－10°－Ｅ
ピット、柱穴	なし
床　　面	明るい褐色土で西際は軟くあとはややかたい。
壁・状態	北壁、東壁は41cm、南壁、西壁は33～36cm。南、北壁はわずかに傾斜をもつ。
か ま ど	東壁中央部と思われる。焼土がわずかに見られる。
遺物の出土状態	全体的に少ない。須恵器、土師器片が出土。



第13図　ＳＫＭＴ 第１・２号住居址



第14図　ＳＫＭＴ 第３号住居址

第３号住居址（第14図）

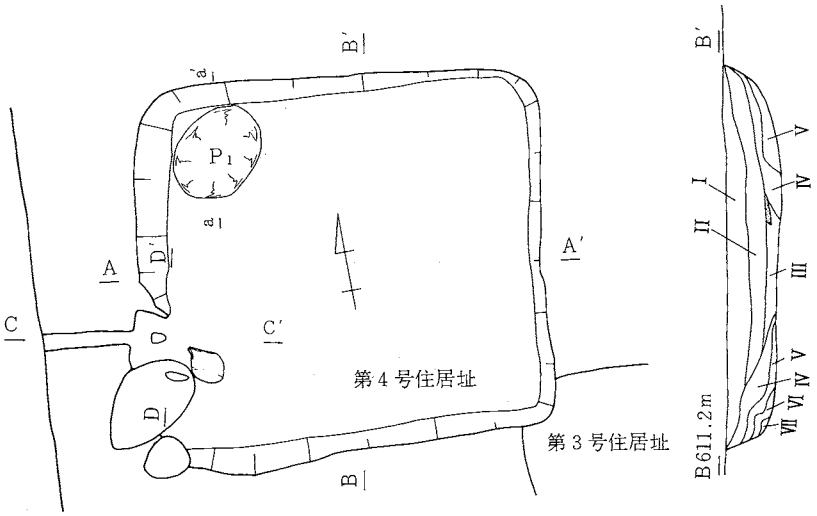
位　　置	発掘区南西部隅。第４号住居址が北西部を切る。南東隅で土壙４と接している。
規　　模	3.8×3.8ｍ
平 面 形	方形
主軸方向	Ｎ－84°－Ｗ
ピット、柱穴	ピット１、30×24×９cm　楕円形　西側中央　壁に接する。
床　　面	黄褐色土、南側は礫上面になる。軟弱
壁・状態	12～39cmで西壁側がやや深い。壁は全体にやや礫が混る。
か ま ど	東壁中央部　粘土を使用。
遺物の出土状態	あまり多くはなく、かまど周辺に土師器、須恵器の出土をみた。

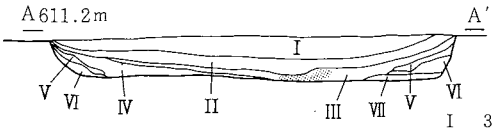
第４号住居址（第15・52図）

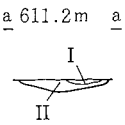
位　　置	発掘区南西部隅　南東隅が第３号住居址を切る。かまど部分を土壙２に切られる。
規　　模	4.1×4.0ｍ
平 面 形	不整方形
主軸方向	Ｎ－88°－Ｗ
ピット、柱穴	ピット１　100×76×13cm　楕円形　北西隅
床　　面	黄褐色粘質土でかたい。
壁・状態	41.5×48cmで北壁側がやや深い。
かまど	西壁やや南寄り。花崗岩の平石と黄色粘土を使用。南部分を土壙２に切られ不明。
遺物の出土状態	１～10。覆土中は上層より下層に比較的多く、床面直上では、かまど周辺部に完形に近い須恵器坏(７)、土師器甕２個体が一括出土している。

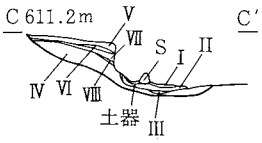
第５号住居址（第16図）

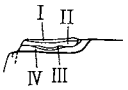
位　　置	発掘区南西部　建物址２の北側を切る。
規　　模	3.6×3.7ｍ
平 面 形	隅丸方形
主軸方向	Ｎ－79°－Ｅ
ピット、柱穴	ピット１　40×36×10cm　円形　南東隅 ピット２　36×30×11cm　円形　南西隅
床　　面	黄色土でたたきしめてありかたい。
壁・状態	72cm　やや傾斜をもつ。保存状態は良好で覆土との検出も良かった。
かまど	東壁やや南寄り。壁外へわずかに張り出す。
その他の施設	幅３～15cm、深さ５～10cmの周溝をもつ。全周する。
遺物の出土状態	全般にあまり多くない。床面からは中央部付近とかまど周辺に須恵器坏、土師器甕の出土が見られた。











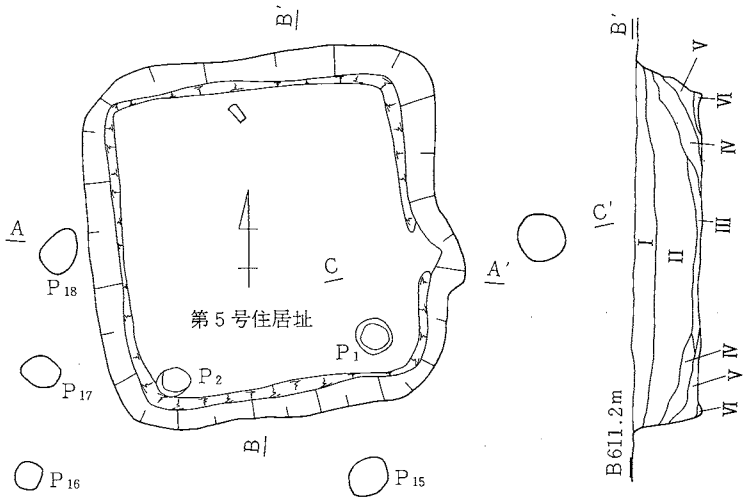
I　3住Iと同じ
II　〃 II　〃
III　〃 III　〃
IV　暗褐色土のブロックを含む黄褐色土
V　暗茶褐色土（やや砂質）
VI　暗褐色土をブロック状に含む明るい黄色土（やや粘質）
VII　IIIと似ているがやや明るい（やや砂質）

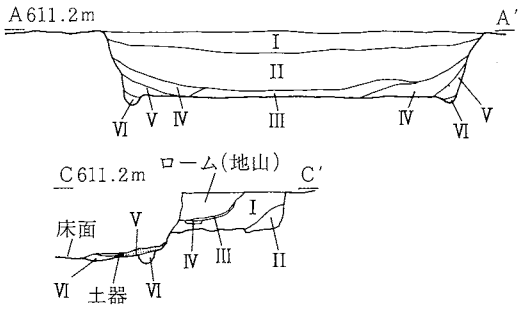
V″　暗褐色土と焼土ブロックがまばらにとぶ灰褐色土層
V″　焼土がまばらにとぶ灰褐色土層黄色土ブロックが含まれる。
V′　灰褐色土層
V　黄色土ブロックが少量あり鉄分がとぶ灰褐色土

I　火熱をうけた粘土と焼土ブロック層崩落した天井部と思われる。
II　炭と焼土ブロックを多量に含む。暗灰褐色土，ケモノの骨含む。
III　火熱をうけた粘土，火床と思われる。
IV　本来，III層と分離するべきではない。地山の黄褐色砂質層

0　1　2 m

第15図　ＳＫＭＴ 第４号住居址





Ⅰ　褐色土（黄褐色土粒混入）
Ⅱ　褐色土（ローム粒混入）
Ⅲ　褐色土（小ローム塊黒褐色土混入）
Ⅳ　黒褐色土（小ローム塊混入）
Ⅴ　黄褐色土（小ローム塊混入）
Ⅵ　暗褐色土

0　1　2 m

Ⅰ　褐色土（ローム粒，ローム塊混入，
　　焼土，炭化物を含む）
Ⅱ　黒褐色土（ローム塊，褐色土塊混入
　　焼土，炭化物を含む）
Ⅲ　淡赤褐色
Ⅳ　黄褐色
Ⅴ　黒色土（焼土，炭化物を多量に含む）
Ⅵ　青褐色土

第16図　ＳＫＭＴ 第５号住居址

第６号住居址（第17・53図）

位　　置　発掘区西部　東側に第７号住居址が隣接する。煙道は第７号住居址に接する。

規　　模　4.5×4.3m

平 面 形　隅丸方形

主軸方形　E

ピット、柱穴　ピット１　86×76×12cm　楕円形　中央やや北寄り

ピット２　60×48×17cm　楕円形　西壁際やや北寄り

床　　面　黄褐色土で軟弱である。

壁・状態　62×85cmで西側が特に深い。

か ま ど　東壁。多量に焼土がみられる。

遺物の出土状態　11～24　覆土中上層に多くみられた。北西側検出面近くの覆土中に銅製の銙の出土を見た。床面からは、南西隅に多く須恵器坏、土師器甕の出土を見た。全体的に床面からの出土はあまり多くない。かまどの南側床面上に植物繊維状の炭化物が見られた。厚さは約３cm。

第７号住居址（第18・53・54図）

位　　置　発掘区中央部　西側に第６号住居址が隣接する。

規　　模　4.2×3.9m

平 面 形　隅丸方形

主軸方向　N－80°－W

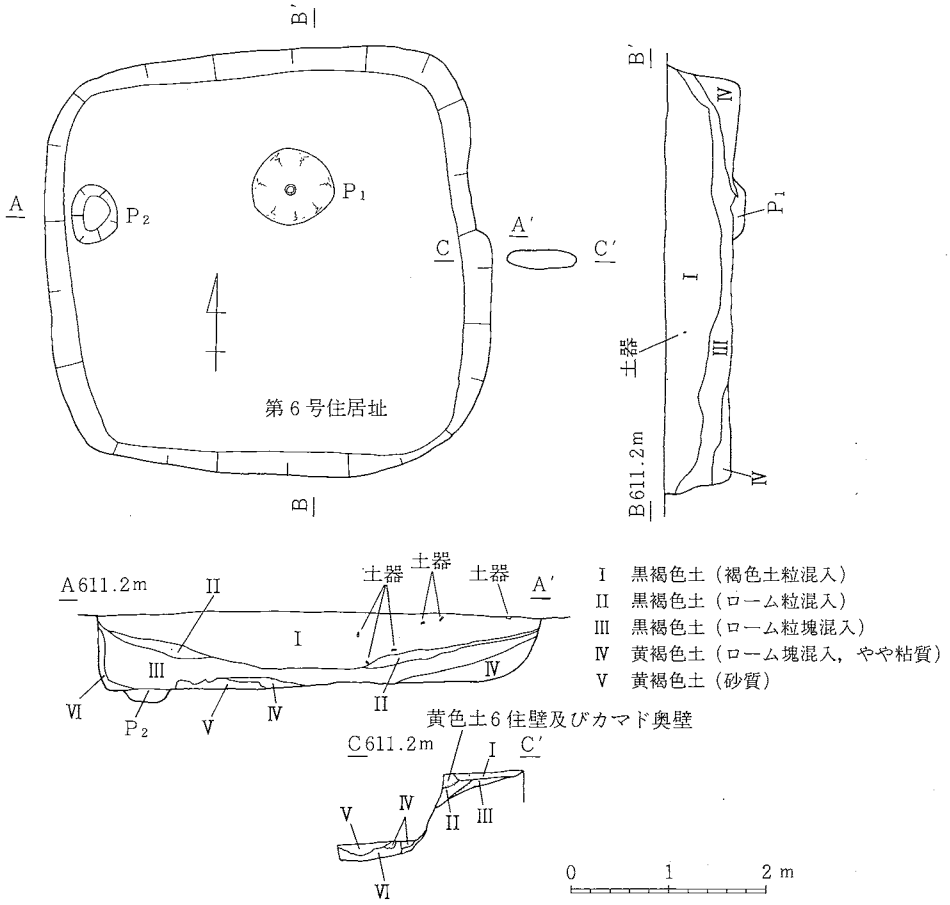
ピット、柱穴　ピット１　90×50×16cm　不整楕円形　南西隅

床　　面　暗褐色土の混る褐色土でやや軟。

壁・状態　41～59cmで南側が深い。東壁がやや傾斜をもつ。保存状態は良い。

か ま ど　西壁中央と北西隅の２ヶ所にあった。西壁中央のかまどは前面に焼土の入った深い掘り込みがあった。

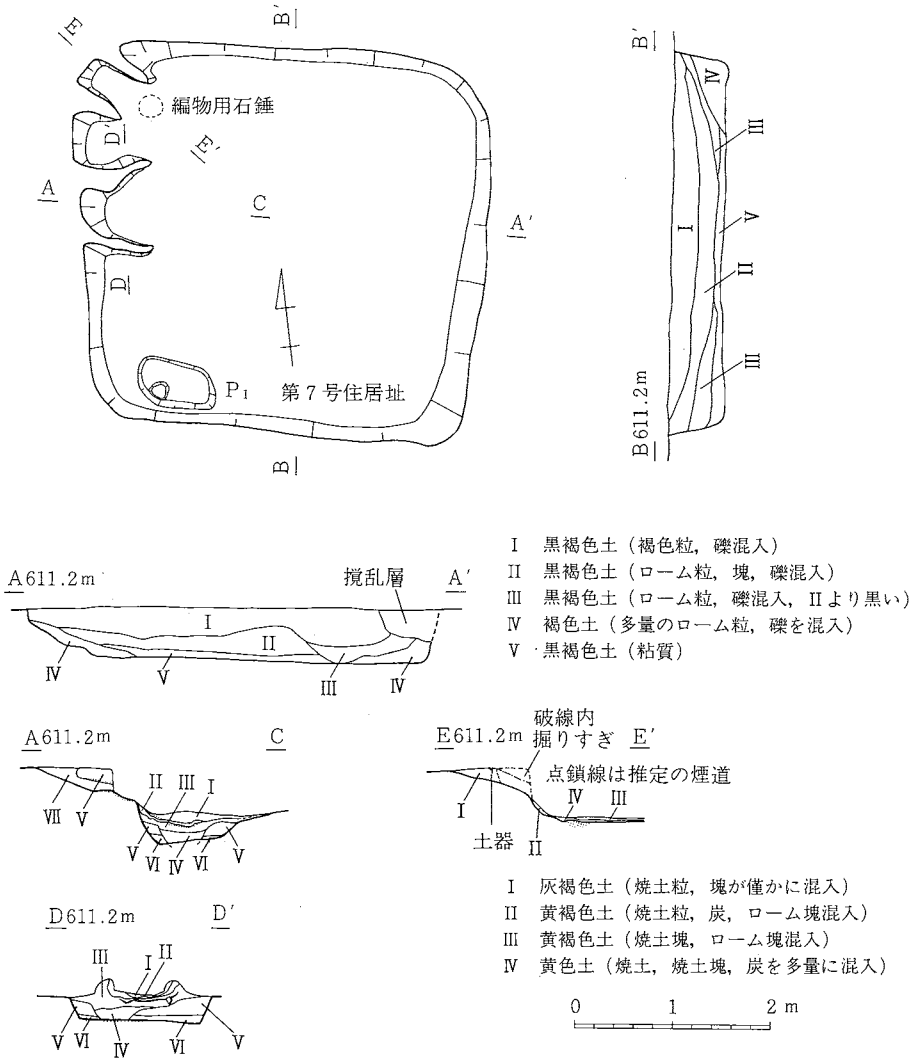
遺物の出土状態　西壁中央周辺に土師器、甕、小形甕が、北西隅のかまど前面に編物用石錘と思われる自然石の出土をみた。またピット１内に土師器、須恵器片が出土した。



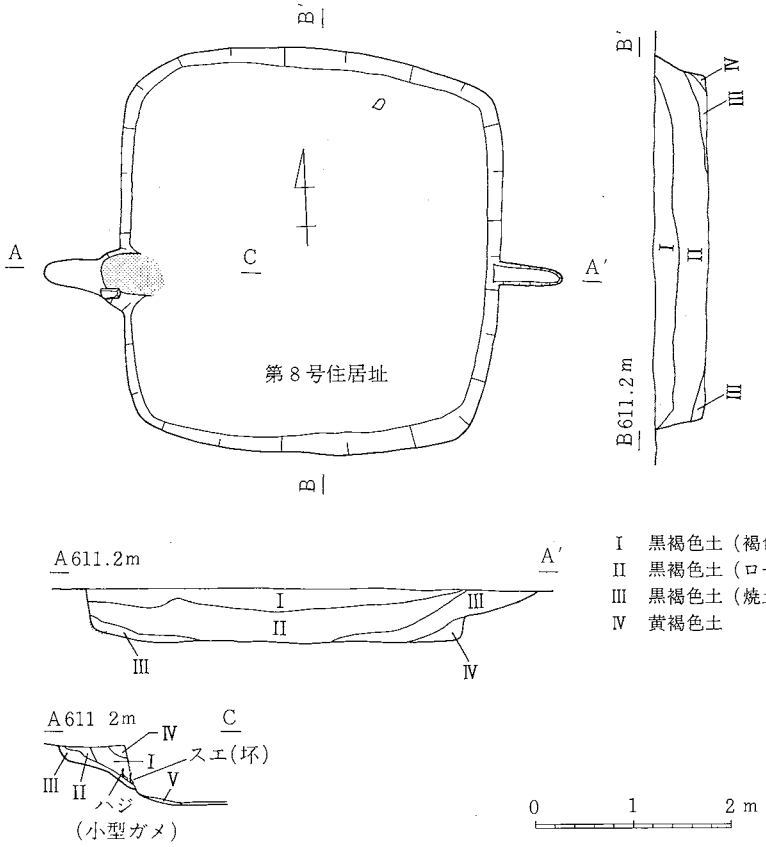
I　黒褐色土（褐色土粒混入）
II　黒褐色土（ローム粒混入）
III　黒褐色土（ローム粒塊混入）
IV　黄褐色土（ローム塊混入，やや粘質）
V　黄褐色土（砂質）

I　灰褐色粒質土（ローム粒がまばらにとぶ）
II　灰褐色土（焼土塊，ローム塊混入）
III　灰褐色土（炭粒，僅かな焼土混入）
IV　黄色土（焼土混入の粘質褐色土を含む）
V　黄色土（僅かに褐色味を帯びる，粘質）
IV　砂層

第17図　ＳＫＭＴ 第６号住居址



第18図　ＳＫＭＴ 第７号住居址



I　黒褐色土（褐色土粒混入）
II　黒褐色土（ローム粒，ローム塊混入）
III　黒褐色土（焼土，炭化物多量混入）
IV　黄褐色土

I　茶褐色土
II　黄褐色土（煙道様の茶褐色土混入）
III　黄褐色土（微砂質，地山）
IV　黄褐色土（IIIと同様）
V　焼土と炭化物のつまった土層

第19図　ＳＫＭＴ 第８号住居址

第８号住居址（第19・54・55図）

位　　置　発掘区中央部東寄り　建物址３の南側を切る。

規　　模　3.9×4.1ｍ

平 面 形　隅丸方形

主軸方向　Ｎ－87°－Ｗ

ピット、柱穴　なし

床　　面　暗褐色土で軟かい。

壁・状態　47～50cmで、北壁、南壁はやや傾斜をもつ。

かまど　西壁　壁外へ張り出しており石を持つ。焚口部の焼土は５cm程である。

遺物の出土状態　31～51　須恵器坏類が多い。東側から北側の床面上に多く出土した。かまど北側の壁際に完形に近い須恵器坏が出土している。かまど内の煙道入口部に貼り付くような形で須恵器坏が、左右の壁に須恵器甕片、土師器甕片が貼り付いていた。

第９号住居址（第20・55図）

位　　置　発掘区北東部　北東隅を土壙８及び土壙12に切られる。西側に第10号住居址が隣接する。

規　　模　4.6×4.3ｍ

平 面 形　不整方形

主軸方向　Ｓ－89°－Ｅ

ピット、柱穴　ピット１　36×32×11cm　楕円形　北西隅

ピット２　44×32×８cm　不整楕円形　南西隅

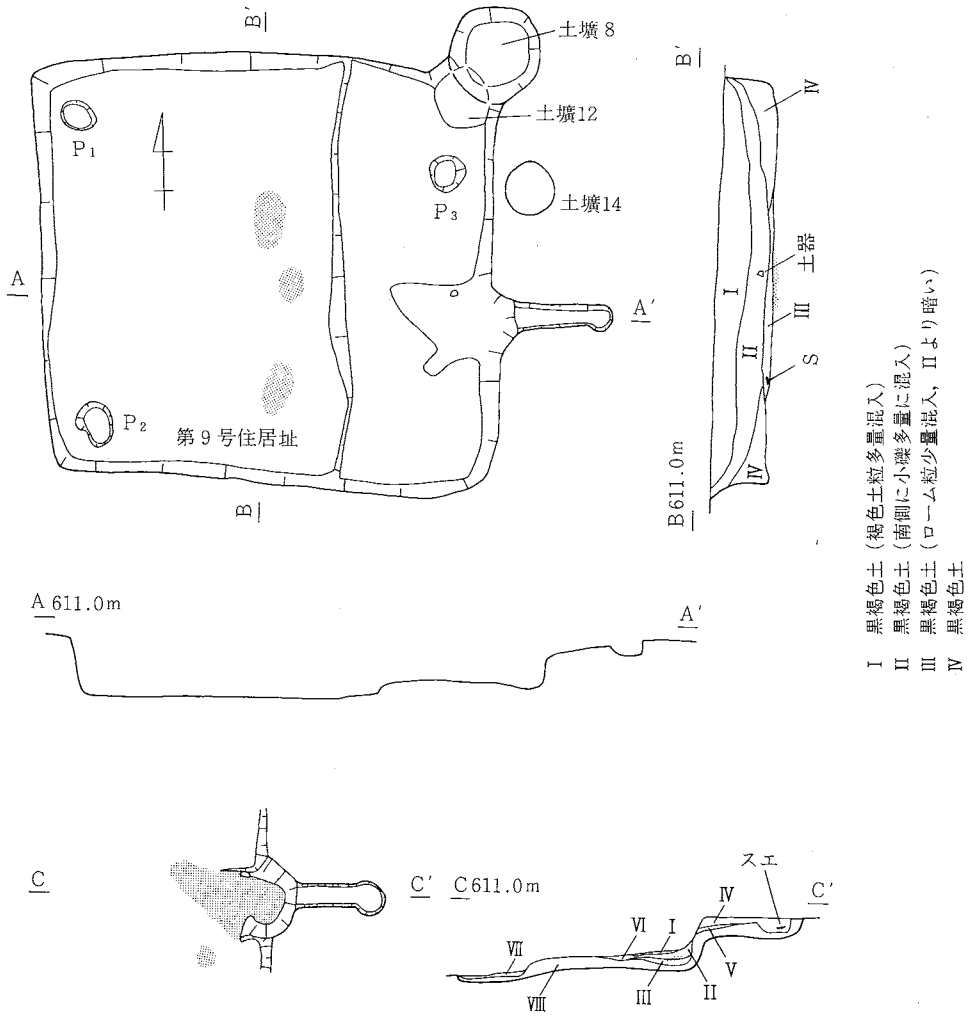
ピット３　38×38×18cm　円形　北東

床　　面　黄褐色土で覆土とは容易に識別できる。やや軟。東側が一段高い。段は約15cm。

壁・状態　西壁、北、南壁の西側で53～59cm、東壁で41cm、状態は良好である。ほぼ垂直に立上がる。煙道が明瞭に確認された。

かまど　東壁やや南寄り。粘土を使用。焼土多量に有り。

遺物の出土状態　52～63　覆土中上層に多く、中層が少なく床面付近で多くなる。かまど周辺から須恵器蓋、坏、土師器坏、甕が出土している。北壁中央上部に鉄器が貼付いていた。



第20図　ＳＫＭＴ 第９号住居址

第10号住居址（第21・56図）

位　　置　発掘区中央部北寄り　東側に第９号住居址が隣接する。

規　　模　4.5×5.1m

平 面 形　長方形

主軸方向　N－85°－W

ピット、柱穴　ピット１　40×36×10cm　楕円形　カマド南側横

床　　面　黄褐色土で比較的良好

壁・状態　49～56cmでやや傾斜する。

か ま ど　西壁やや南寄り。粘土を使用。

遺物の出土状態　64～73　かまど周辺とピット１内より須恵器坏、蓋、土師器甕、刀子状の鉄製品が出土している。特にピット１内は土師器片、須恵器片が重なり合うように出土した。かまどの焚口部断面には須恵器甕の大型破片が見られた。

第11号住居址（第22・56図）

位　　置　発掘区北部　第10号住居址の北側に位置する。

規　　模　4.0×4.2m

平 面 形　不整方形

主軸方向　N－85°－W

ピット、柱穴　ピット１　84×66×13cm　楕円形　かまど南側横　石が入る。

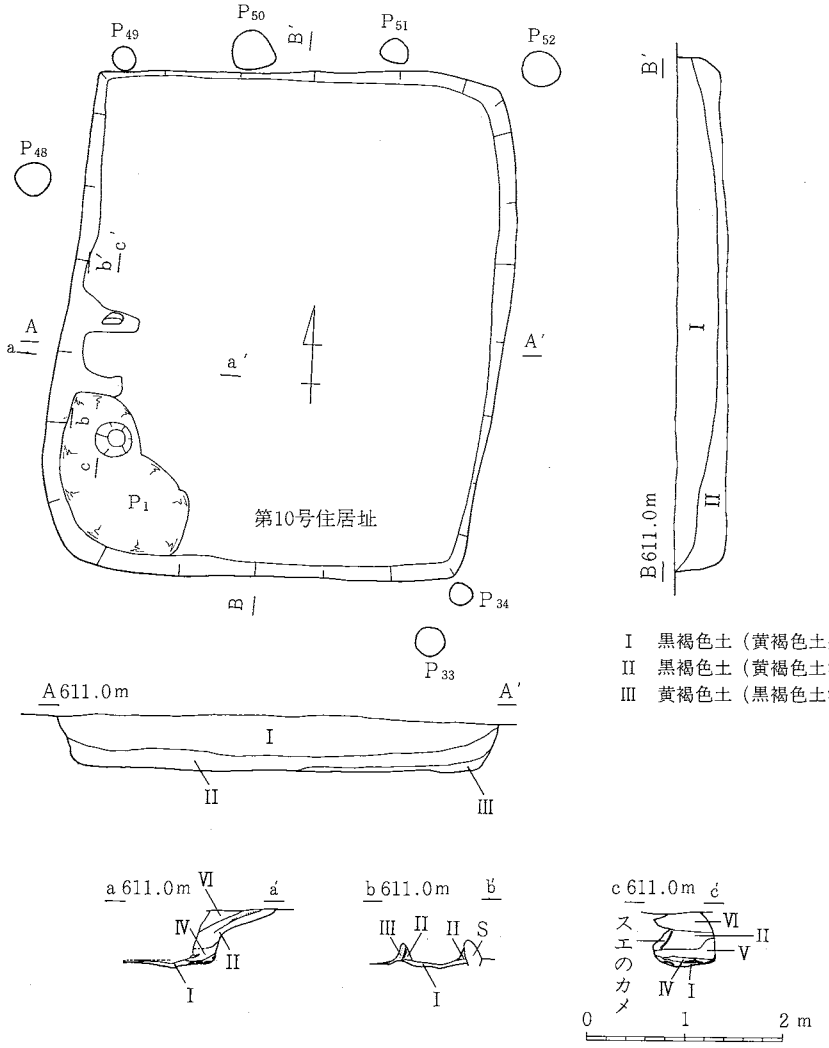
ピット２　32×29×８cm　楕円形　南西隅

床　　面　北側は礫層が広がる。南側は黄褐色土で軟い。

壁・状態　30～54cmでやや傾斜する。

か ま ど　西壁やや南寄り。粘土を使用。焼土はかまど前面に広範囲に広がっている。

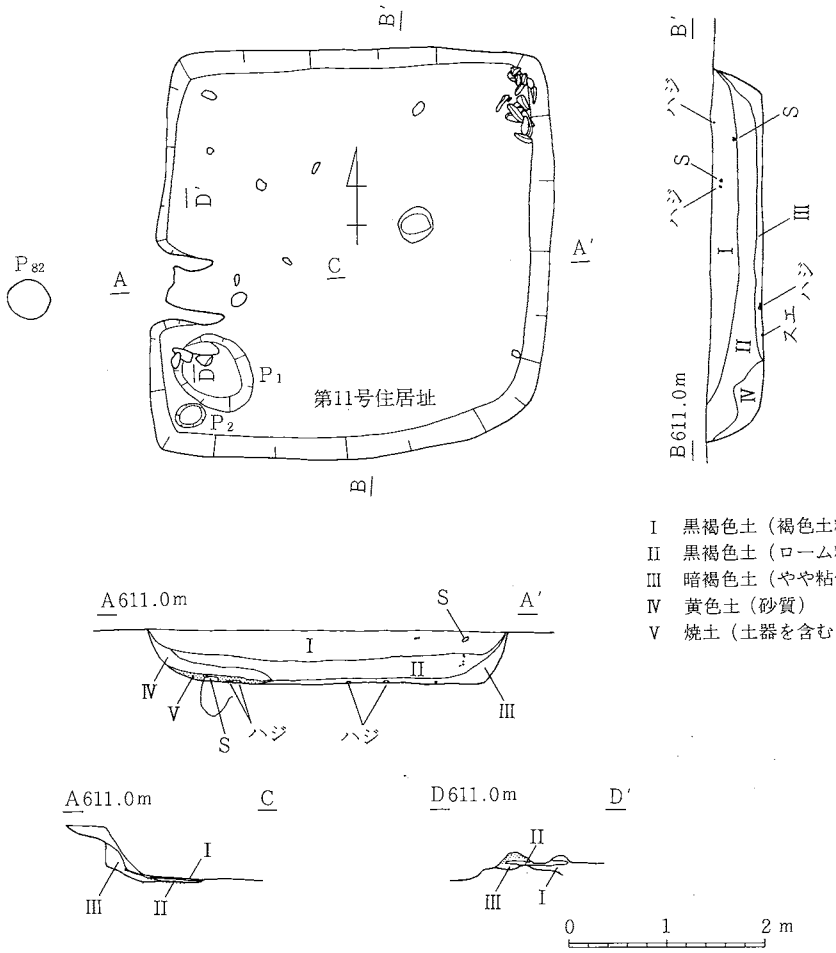
遺物の出土状態　74～77　かまどの周辺にほぼ完形の須恵器蓋、土師器坏、須恵器坏が出土している。また北東隅の壁際には編物用石錘と思われる自然石の一括出土が見られた。この内に小型の砥石が１つ混っていた。　（熊谷康治）



I　黒褐色土（黄褐色土少量混入）
II　黒褐色土（黄褐色土混入）
III　黄褐色土（黒褐色土混入，粘質）

I　灰褐色土（焼土塊，炭多量混入）
II　黄褐色土（外側部に焼土塊混入）
III　黄色土（砂質）
IV　灰褐色土（焼土多量混入）
V　灰褐色土（焼土塊，炭塊，ローム塊混入）
VI　暗褐色土（土器片，ローム塊を僅かに混入）

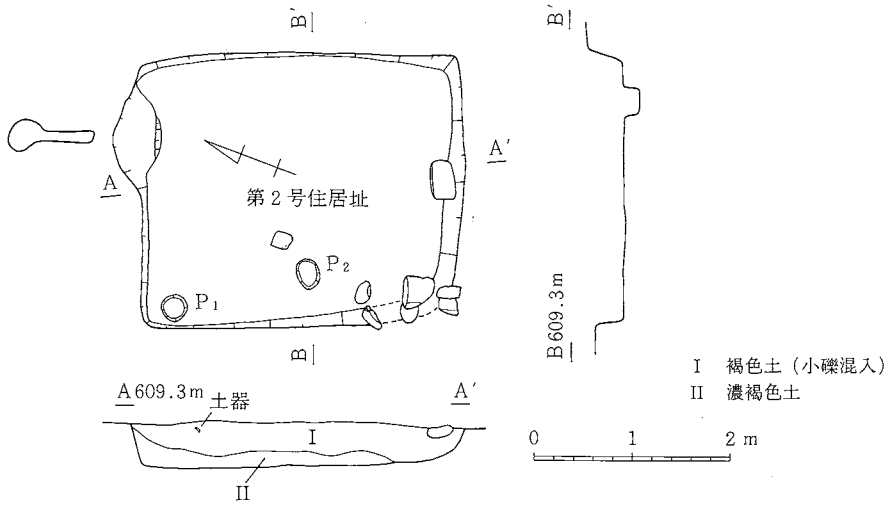
第21図　ＳＫＭＴ 第10号住居址



I　黒褐色土（褐色土粒混入）
II　黒褐色土（ローム粒混入）
III　暗褐色土（やや粘質）
IV　黄色土（砂質）
V　焼土（土器を含む）

I　黄褐色土（焼土少量混入）
II　黄褐色土（炭，焼土を含む）
III　黄色土（粘質）

第22図　ＳＫＭＴ 第11号住居址

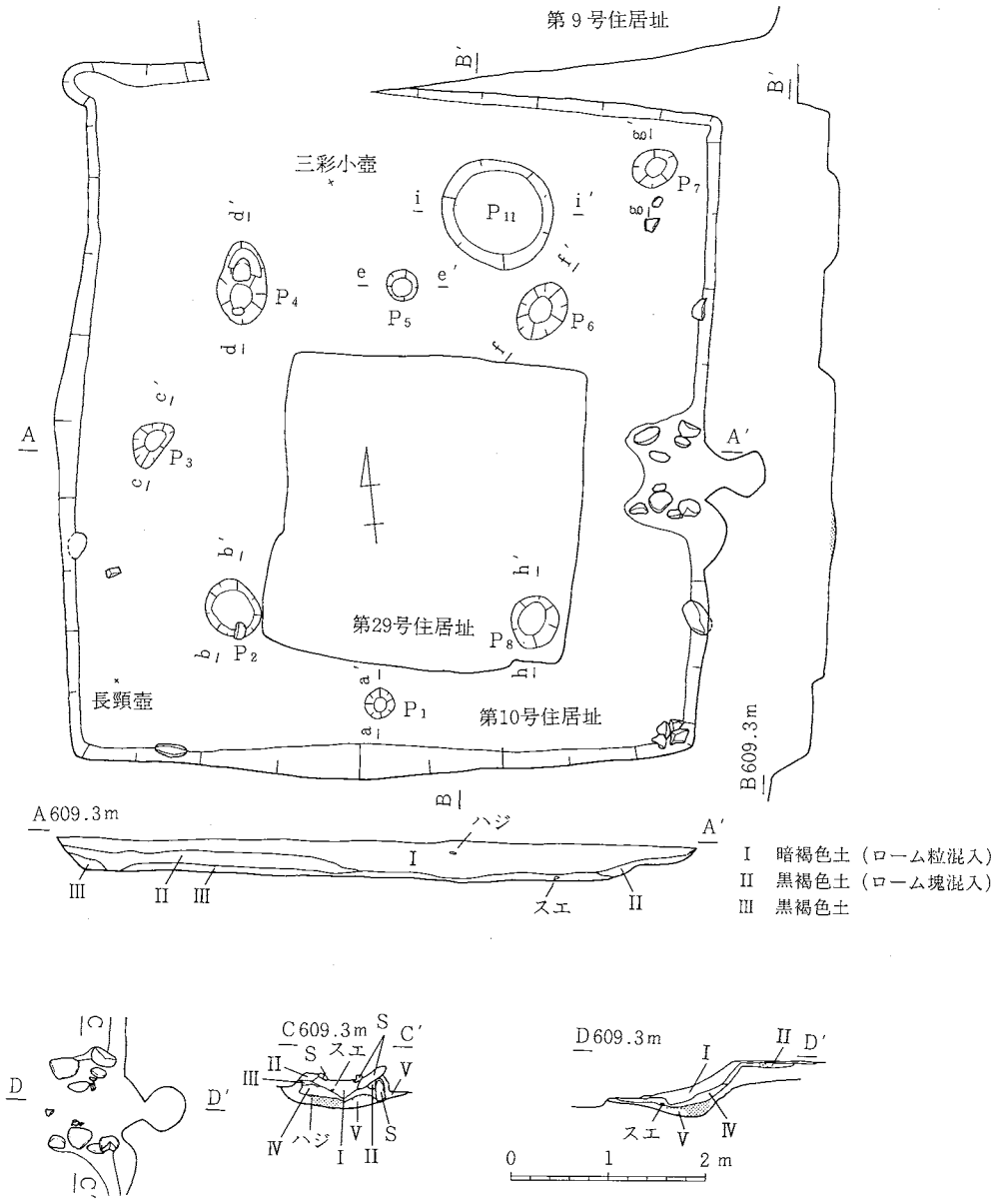


第23図　ＳＫＫＳ 第２号住居址

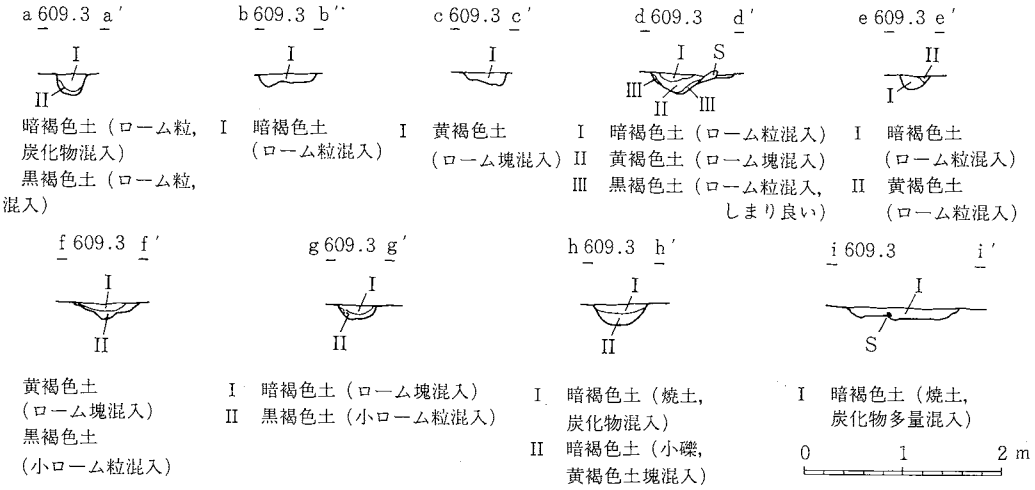
ＳＫＫＳ

第２号住居址（第23・57・58図）

位　　置	発掘区中央部西寄りで溝３東側
規　　模	3.3×2.8ｍ
平 面 図	長方形
主軸方向	Ｎ－11°－Ｗ
ピット、柱穴	ピット１　30×30×５cm　円形　北西隅
	ピット２　32×26×５cm　楕円形　西側中央
床　　面	黒褐色土で軟弱
壁・状態	31～44cmで東、西、北壁は乗直に立上がるが南壁は礫層に掘込まれ傾斜をもつ
かまど	北壁　北東隅に近い。壁外に張り出す。
遺物の出土状態	78～89　南西隅に他の住居址のものと思われる石組かまどがあり、かまど内及びその周辺から遺物が出土している。土師器坏、皿、甕、須恵器、短頸壺、手付長頸壺である。
所　　見	この住居址の南西隅に他の住居址のものと思われるかまどが検出されたが、第２号住居址南側は礫層のためプランの確認は困難であった。かまどの方向及び遺物から第２号住居址の中央南側と重なるように構築されていたものと思われる。高底差は第２号住居址床面より約20cm高い。



第24図　ＳＫＫＳ 第10号住居址



第25図　ＳＫＫＳ 第10号住居址ピット

第10号住居址（第24・25・58・59・60図）

位　　置　発掘区南西部　北壁を第９号住居址に切られる。南側に第15号住居址が隣接する。

規　　模　6.6×7.0m

平 面 形　方形

主軸方向　Ｓ－86°－Ｅ

ピット、柱穴　ピット１　32×32×20cm　円形　南側中央

ピット２　63×52×９cm　楕円形　南西

ピット３　52×34×12cm　不整楕円形　西側中央

ピット４　85×53×21cm　不整楕円形　北西

ピット５　33×33×14cm　円形　北中央寄り

ピット６　66×50×19cm　楕円形　北東中央寄り

ピット７　51×37×８cm　楕円形　北東隅

ピット８　54×52×19cm　円形　南西中央寄り

ピット11　116×110×13cm　長円形　北やや東寄り

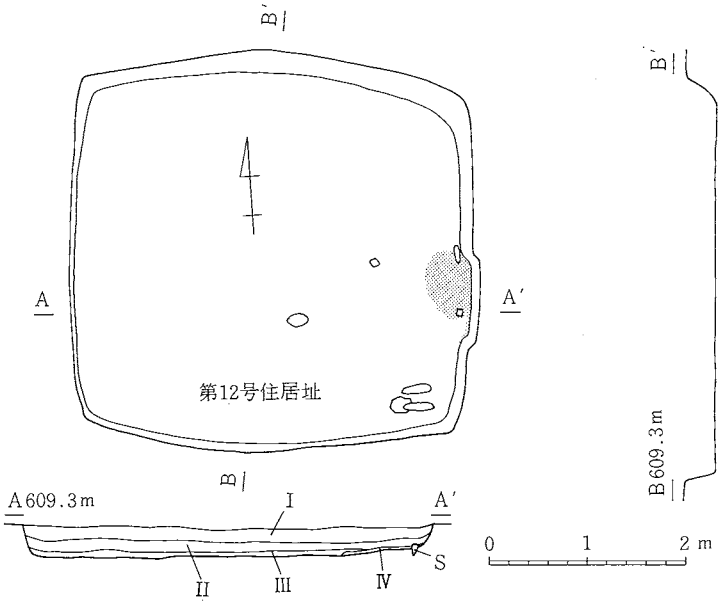
ピット２、４、６、８は柱穴と思われ、ほぼ等間隔に建てられている。

床　　面　ローム塊混りの黒褐色土で比較的良好である。

壁・状態　34～38cmで北、東壁はほぼ垂直に立ち上がり西、南壁は傾斜をもつ。

かまど　東壁　石を持つ。

遺物の出土状態　90～119　北側床面上より口を北側に向けた状態で三彩小壺が出土した。単独出土で特別な施設はなかった。南西隅床面より完形の須恵器長頸壺が出土し、他にはかまど周辺から須恵器坏、蓋が出土した。（伊那史彦）



Ⅰ　黒褐色土（ローム粒混入）
Ⅱ　黒褐色土（ローム粒，小ローム塊混入）
Ⅲ　黒褐色土（小ローム塊少量混入）
Ⅳ　黒褐色土＋焼土

第26図　ＳＫＫＳ 第12号住居址

第12号住居址（第26・60・61図）

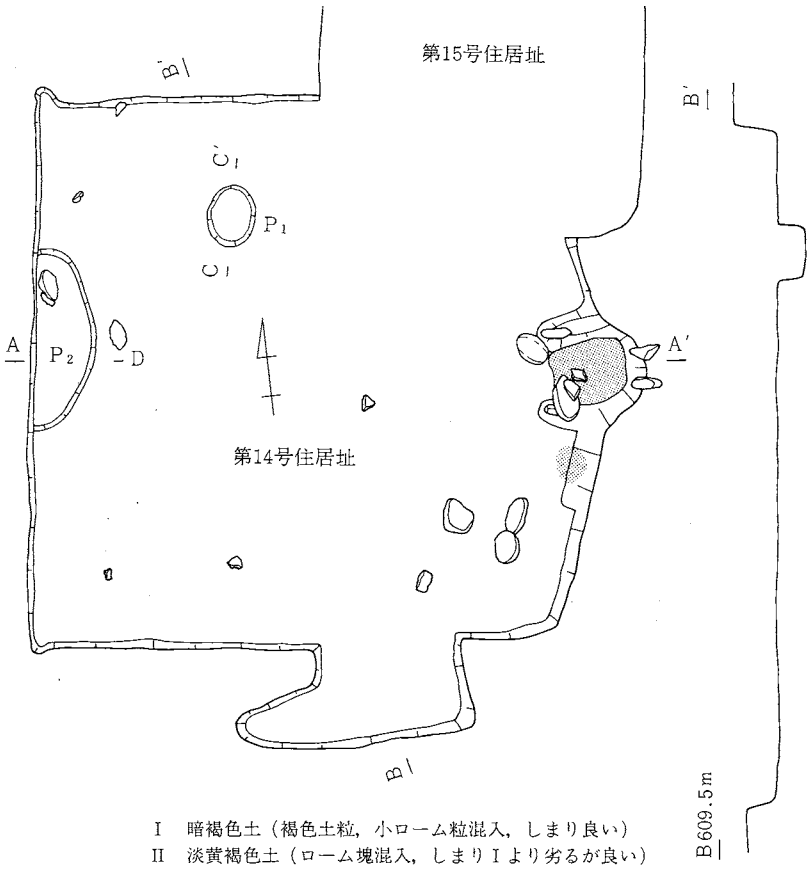
位　　置	発掘区南西部　北西に第11号住居址が隣接する。
規　　模	4.1×4.1m
平 面 形	方形
主軸方向	Ｓ－87°－Ｅ
ピット、柱穴	なし
床　　面	黄褐色土で礫面直上にあり、やや軟
壁・状態	27～32cmでやや傾斜する。
か ま ど	東壁やや南寄り。45×65cmの大きな平石を持つ。
遺 物 の 出土状況	120～131　住居址の南東側床面に多い。特にかまど周辺には須恵器坏、土師器埦、小形甕、甕、灰釉陶器、平瓶が出土し、また少しはなれて灰釉陶器耳皿が出土した。覆土中では西壁南側の上部で羽釜の破片が出土した。

第14号住居址（第27・61・62・63図）

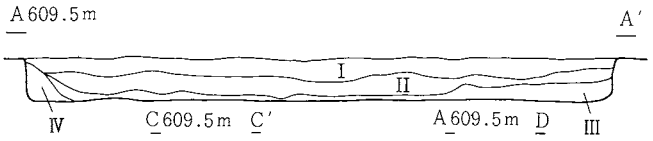
位　　置	発掘区南西部、北東部を第15号住居址が切る。
規　　模	5.6×5.6m
平 面 形	方形　南側に不整形な張り出し部をもつ。
主軸方向	E
ピット、柱穴	ピット1　186×60×8cm　半長円形　西壁中央部に接する。 ピット2　60×52×25cm　楕円形　北やや西寄り。
床　　面	黄色土で非常にかたく、たたきしめられている。
壁・状態	42～49cmで垂直に立ち上がる。
かまど	東壁　粘土と石を使用。壁へ張り出す。
遺物の出土状態	132～164　かまど周辺の床面付近より完形の須恵器坏、南側張り出し部内覆土中より須恵器蓋、壺頸部、北西隅より須恵器四耳壺が出土している。
所　　見	南側の張り出し部は当初より別な遺構かと思われたが切り合い関係が確認できず掘り上げた結果第14号住居址に付随するものとした。　（小口妙子）

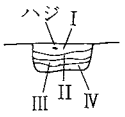
第17号住居址（第28・64図）

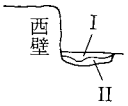
位　　置	発掘区西部　南東隅が第7号住居址を切る。西側は調査区域外。
規　　模	？×3.8m
平 面 形	方形
主軸方向	S－82°－E
ピット、柱穴	不明
床　　面	暗褐色土で軟弱。
壁・状態	30cmでやや傾斜をもつ。
かまど	東壁やや南寄り。石組。
遺物の出土状態	165～170　ほとんどの遺物はかまど内及び周辺より出土した。土師器埦、坏、甕である。



Ⅰ　暗褐色土（褐色土粒，小ローム粒混入，しまり良い）
Ⅱ　淡黄褐色土（ローム塊混入，しまりⅠより劣るが良い）
Ⅲ　暗褐色土（ローム粒混入，しまりⅠ，Ⅱより劣る）
Ⅳ　黒褐色土（ローム粒混入）





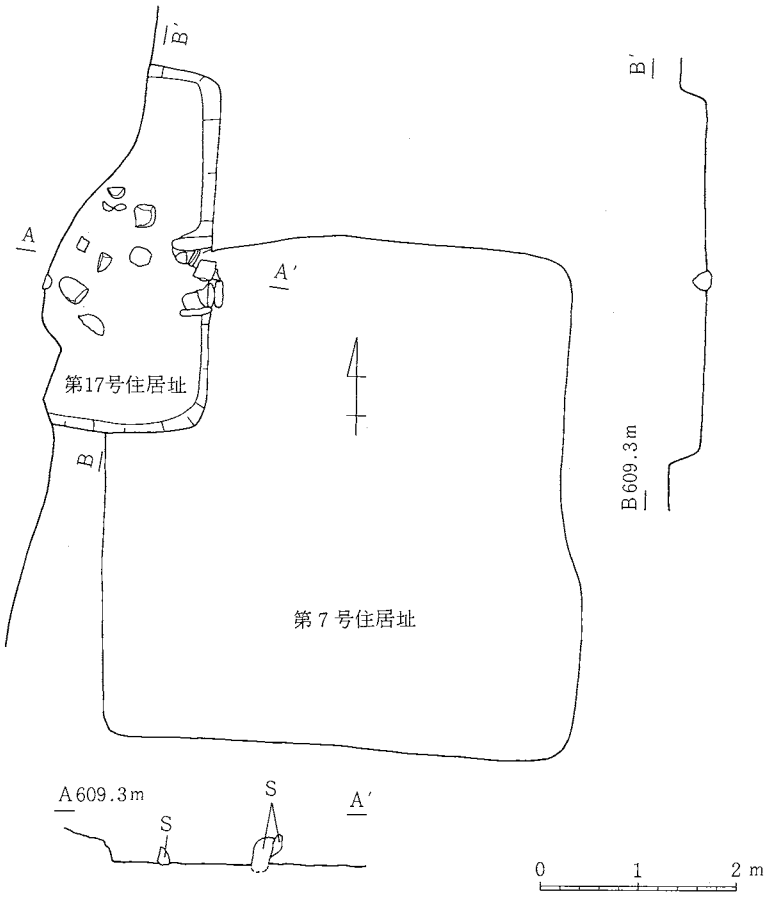


Ⅰ　黒褐色土（黄褐色土塊（５～８cm）混入）
Ⅱ　黒褐色土（黄褐色土塊（１～２cm）混入）

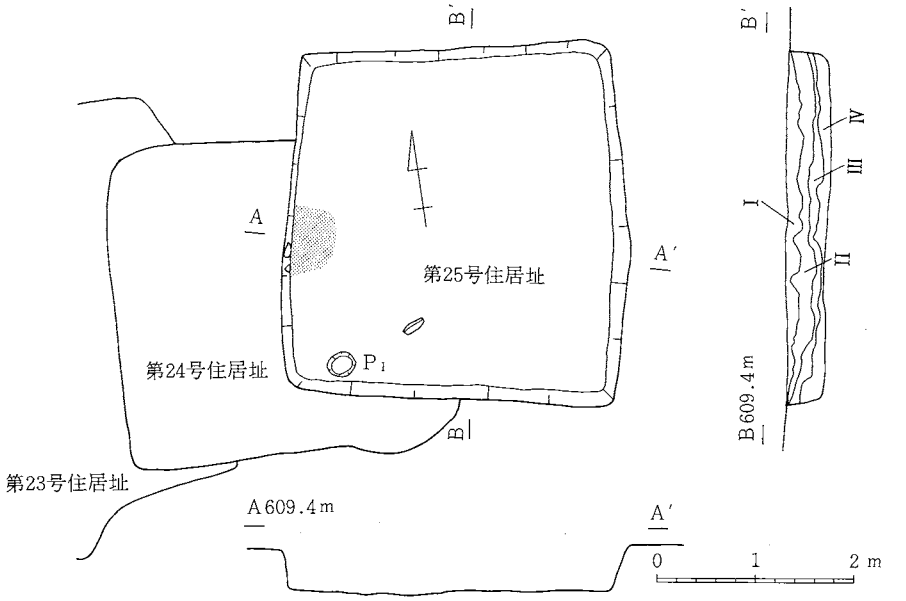
0　1　2 m

Ⅰ　黒褐色土
Ⅱ　黒褐色土（褐色土粒多量混入）
Ⅲ　暗褐色土（焼土，炭化物混入）
Ⅳ　暗褐色土

第27図　ＳＫＫＳ 第14号住居址



第28図　ＳＫＫＳ 第17号住居址

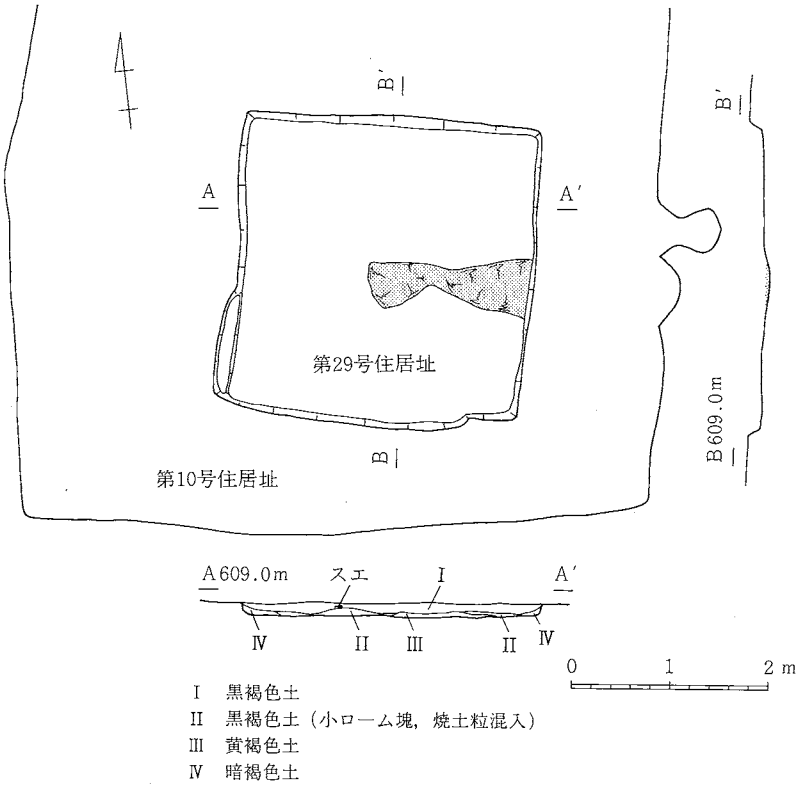


I　褐色土
II　褐色土（3～8cmの黄色土塊混入）
III　褐色土（1cm前後の黄色土粒混入）
IV　灰黄褐色土

第29図　ＳＫＫＳ 第25号住居址

第25号住居址（第29・64・65図）

位　　置	発掘区南西部隅　南西が第24号住居址を、北東が第26号住居址を切る。
規　　模	3.5×3.5m
平 面 形	方形
主軸方向	N－76°－W
ピット、柱穴	ピット１　30×25×11cm　楕円形　南西隅
床　　面	黄褐色土で比較的良好
壁・状態	41～46cmでほぼ垂直に立ち上がる。
か ま ど	西壁。焼土、炭化物あり。煙道部は第24号住居址覆土中より検出された。
遺物の出土状態	171～179　遺物の出土はあまり多くない。北東隅に土師器坏、かまど北東側に完形の土師器皿、かまど周辺に土師器坏、甕が出土している。　（山下泰永）



第30図　ＳＫＫＳ 第29号住居址

第29号住居址（第30・65図）

位　　置	発掘区南西部　第10号住居址床面で検出された。
規　　模	3.0×3.2m
平 面 形	方形
主軸方向	Ｓ－77°－Ｅ
ピット、柱穴	なし
床　　面	黄色土で軟らかい。
壁・状態	９～13cm　北壁はやや傾斜する。
か ま ど	東壁　焼土が広範囲に広がる。
遺物の出土状態	180～185　かまど周辺の床面上より須恵器坏、土師器坏、小形甕、甕が出土。
所　　見	この住居址は第10号住居址床面検出時に確認された。第10号住居址検出時には確認できず、また第10号住居址掘り下げ時の覆土中でも確認されなかった。

（伊那史彦）

ＳＫＳ

第４号住居址（第45図）

位　　置　発掘区北西部　北西に第５号住居址、南西に第２号住居址が隣接する。建物址１の南東を切る。

規　　模　3.4×3.2m

平 面 形　方形

主軸方向　Ｓ－77°－Ｅ

ピット、柱穴　なし

床　　面　軟弱

壁・状態　26～38cm　南壁西寄りと西壁は傾斜をもつ。

か ま ど　東壁　壁外へ張り出し石を持つ。前面に焼土が広がる。

遺物の出土状態　覆土中層では北西隅と東壁際に多く見られた。床面では全体的に少ないが、須恵器、土師器の出土がある。

第５号住居址（第45図）

位　　置　発掘区北西部　南東に第４号住居址が隣接する。建物址１を切る。

規　　模　3.1×3.2m

平 面 形　方形

主軸方向　Ｓ－73°－Ｅ

ピット、柱穴　なし

床　　面　比較的良好

壁・状態　37～50cm　北東壁にやや傾斜をもつ。

か ま ど　東壁　石を持ち、わずかに焼土がちらばる。

遺物の出土状態　全体的に出土量は少ないが、かまどの周辺からわずかに出土している。

第８号住居址（第31・66図）

位　　置　発掘区南西部　南側に第９号住居址が隣接し、煙道南側から溝５が南へ伸びる。

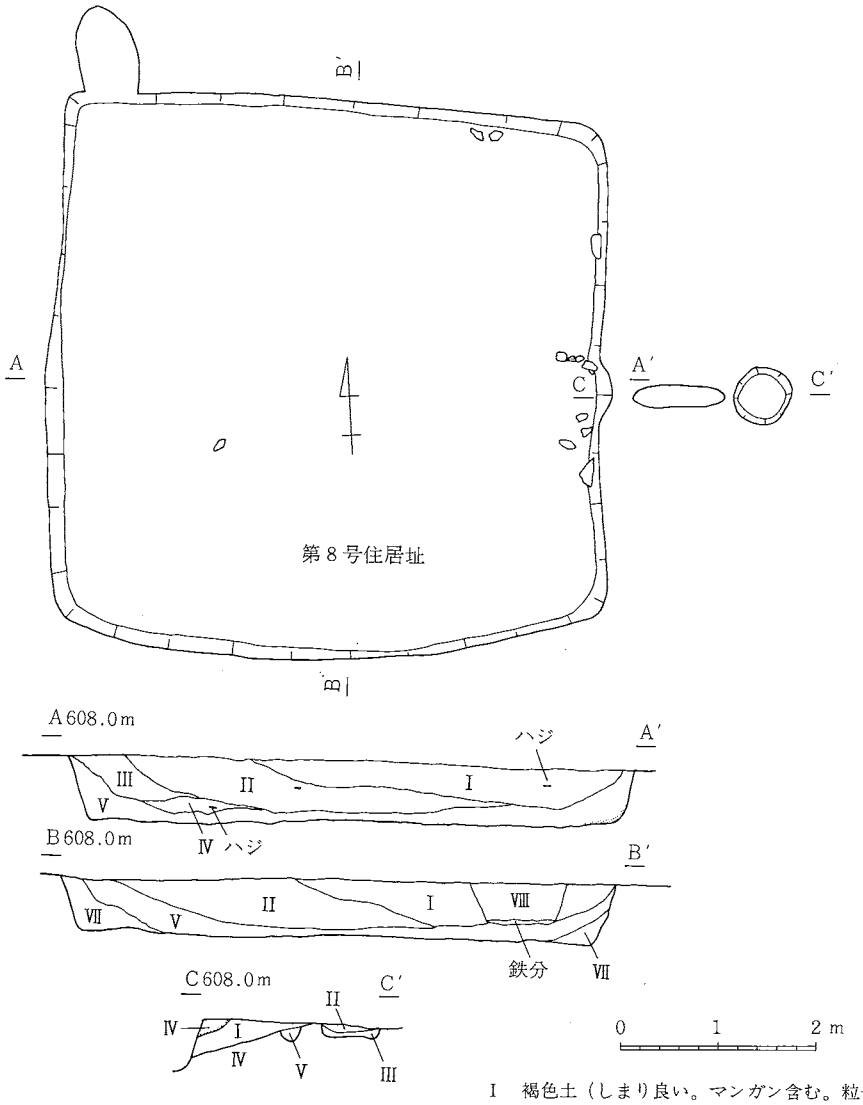
規　　模　5.6×5.7m

平 面 形　方形

主軸方向　Ｓ－87°－Ｅ

ピット、柱穴　なし

床　　面　地山をたたきかためて堅緻にしている。平坦である。



I　暗褐色土（黄色土微粒を含む）
II　暗灰色土（赤黒色焼土塊，橙々色の焼土を多量に含む。しまり悪い）
III　暗灰色土（黄色土多量に混入。僅かに赤黒い焼土を含む。しまり悪い）
IV　地山
V　ピットが煙道に切られている。

I　褐色土（しまり良い。マンガン含む。粒子細かい）
II　にぶい黄橙（しまり良い。Ｉよりかたい。マンガン含む。粒子細かい）
III　にぶい黄褐色土（黄褐色土塊，マンガン含む）IIよりかたい。しまり良い。粒子細かい）
IV　灰褐色土（炭を多量に含んでいる。やわらかくてしまり悪い）
V　灰褐色土（やわらかくてしまり悪い。焼土を含む）
VI　赤褐色土（炭を多量に含む。IIIより柔らかくしめっている）
VII　にぶい黄褐色土（しまりがない。粒子細かい）
VIII　暗褐色土（本址を切る土壙の覆土，鉄滓を含む）

第31図　ＳＫＳ 第８号住居址

壁・状態　54～65cmで西側が特に深い。西、南側はやや傾斜をもつ。

かまど　東壁　わずかに張り出し、石を持つ。

遺物の出土状態　186～196　覆土中層に多く見られた。特に中央やや西寄りに多くの土師器片等が出土している。床面では北西隅と南東に多く見られ、土師器坏、皿、須恵器坏、土師器小形甕、甕が見られる。　（山田真一）

第9号住居址（第32・67・68・69図）

位置　発掘区南西部　北側に第8号住居址が隣接し、東側に溝5が隣接する。

規模　6.0×6.1m

平面形　方形

主軸方向　S－83°－E

ピット、柱穴　なし

床面　地山をたたいて堅緻にしている。平坦である。南壁東半の壁際に高さ10cm、幅20cm程度の段をもつ。

壁・状態　59～67cm　北壁と東、西壁の北半、南壁の東半はやや傾斜をもつ。

かまど　東壁やや南寄り、焼土が大きく広がる。石を持つ。

遺物の出土状態　床面では南西に多く、土師器坏、埦、皿、小形甕、甕、須恵器坏、蓋、壺、短頸壺、長頸壺、灰釉陶器、鉄製品が見られた。また北西隅では佐波理鋺の一部と思われる金属製品が見られた。

第15号住居址（第46図）

位置　発掘区南東部寄り、溝4、建物址2の北西を切る。

規模　3.7×3.5m

平面形　方形

主軸方向　S－88°－E

ピット、柱穴　なし

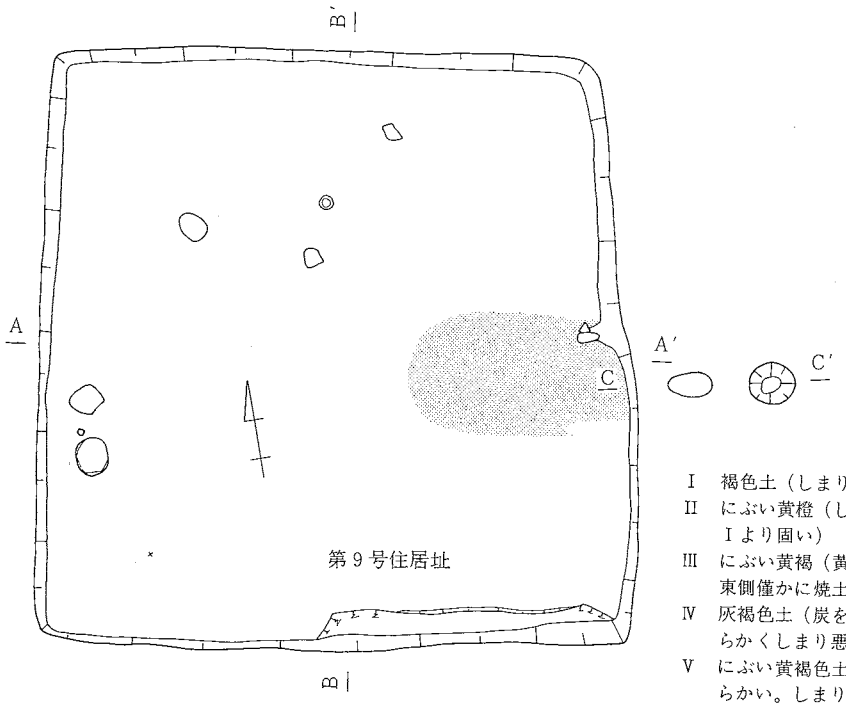
床面　比較的良好

壁・状態　29～36cm　四隅及び南壁に傾斜をもつ。

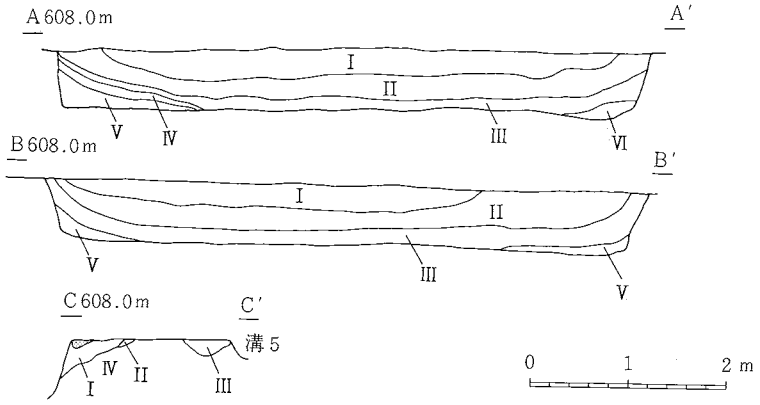
かまど　東壁　焼土のみが広範囲に広がる。

遺物の出土状態　全体的に少ない。東寄りの床面上より須恵器坏が出土した。

（三村竜一）



Ⅰ　褐色土（しまりよくマンガン含む）
Ⅱ　にぶい黄橙（しまり良くマンガン含む。Ⅰより固い）
Ⅲ　にぶい黄褐（黄褐土塊含み，マンガン含む。東側僅かに焼土混入）
Ⅳ　灰褐色土（炭を多量に含んでいる。やわらかくしまり悪い）
Ⅴ　にぶい黄褐色土（Ⅲより濃い。Ⅰよりもらかい。しまりがない）
Ⅵ　赤褐色土（焼土の層，炭を多量に含む。Ⅲよりやわらかくしめっている。



Ⅰ　暗黄褐色土（赤黒色や橙々の大きな焼土塊を僅かに含む。砂質）
Ⅱ　暗黄褐色土（砂質）
Ⅲ　暗黄褐色土（橙々色の焼土を僅か，黄色土を多量に含む）
Ⅳ　地山

第32図　ＳＫＳ 第９号住居址

第16号住居址（第33・69・70図）

位　　置　発掘区中央部南寄　北側に第18号住居址が隣接する。

規　　模　5.7×5.7m

平 面 形　方形

主軸方向　S－83°－E

ピット、柱穴　なし

床　　面　たたきかためており極めて良好である。薄く炭化物が広範囲に広がる。床面下からも土器が出土（貼床か）

壁・状態　39～56cm　北壁、東壁北寄り、及び南東隅は傾斜をもつ。

か ま ど　東壁　石を持つ。

遺物の出土状態　239～256　北側中央、西側中央、中央やや東寄りに多く見られた。須恵器蓋、坏、高坏、短頸壺、甕、土師器坏、小形甕、甕がある。南側床面より横瓶、北西隅より編物用石錘が出土した。

第19号住居址（第47図）

位　　置　発掘区中央部北寄り　溝9、10、建物址6を切る。

規　　模　4.4×4.1m

平 面 形　方形

主軸方向　S－86°－E

ピット、柱穴　ピット1　30×30×25cm　円形　中央南寄り

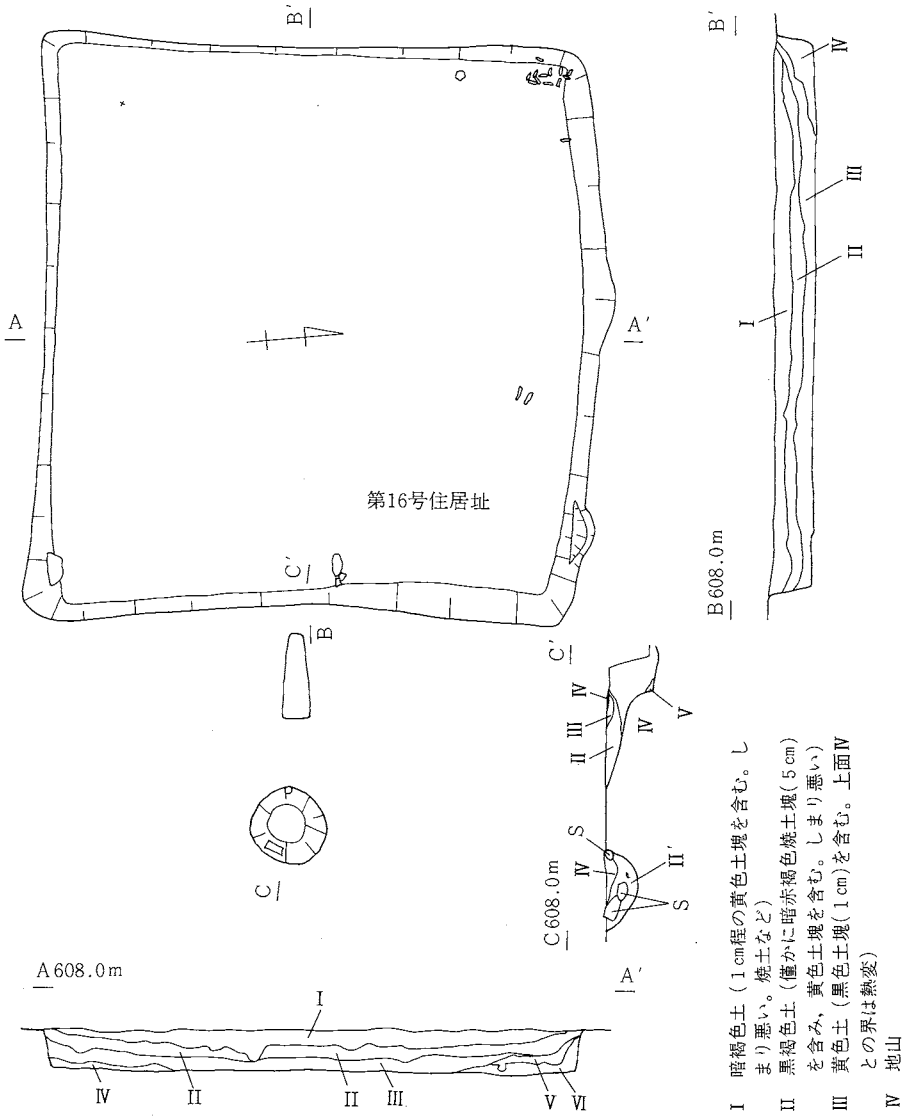
ピット2　31×30×29cm　円形　南西

床　　面　比較的良好だが凸凹がある。

壁・状態　49～56cm　南西隅を除き傾斜をもつ。

か ま ど　東壁　粘土を使用し石を持つ。

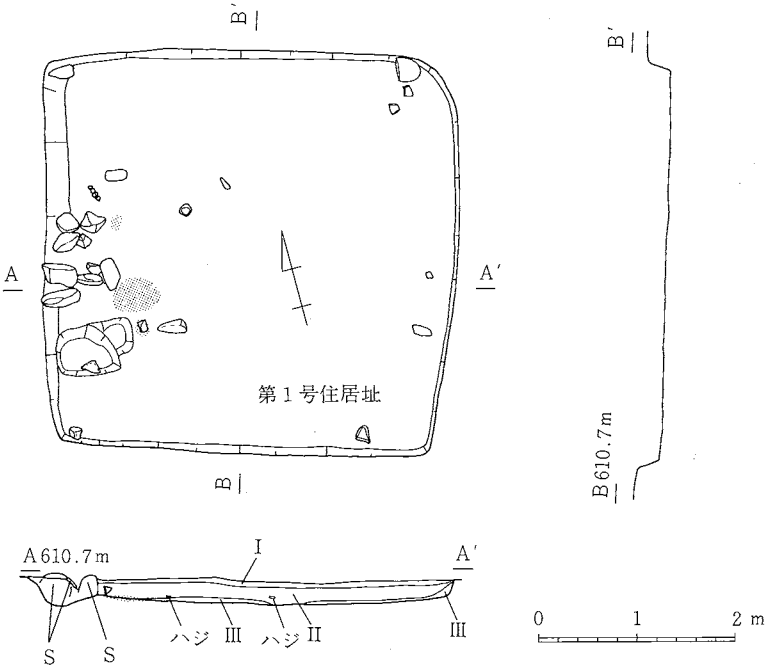
遺物の出土状態　上層に多く見られる。中間層ではやや減る。床面は少ない。須恵器蓋、坏、甕片土師器坏、甕、鉄製品などが見られる。　（山田真一）



I　黄褐色土（しまり良い）
II　淡茶褐色土（Iに比べしまり良くない）
III　茶褐色土（IIよりしまりない。茶が強い）
IV　茶褐色土（IIよりしまりない。黄が強い）
V　黄褐色土（しまり悪い）
VI　黄色土（しまり良い。砂質）

0　1　2 m

第33図　ＳＫＳ 第16号住居址



Ⅰ　茶褐色土（やや粘質で鉄分が含まれる）
Ⅱ　暗茶褐色土（Ⅰより砂質。鉄分はあまり含まない）
Ⅲ　暗茶褐色土（ローム塊混入）

第34図　ＭＫ 第１号住居址

2　町神遺跡住居址（第２表）

ＭＫ

第１号住居址（第34・71図）

位　　置	発掘区中央部北東寄り
規　　模	4.2×4.1ｍ
平 面 形	方形
主軸方向	Ｎ－75°－Ｗ
ピット、柱穴	ピット１　80×52×13cm　不整楕円形　かまど南側で西壁に接する。 ２つのピットの切り合いがあったかもしれないが確認できなかった。
床　　面	黄色土塊を含む茶褐色土。全体的に軟弱。
壁・状態	22cm　ほぼ垂直に立ち上がるが、西壁のみ傾斜をもつ。
か ま ど	西壁　石組
遺物の出土状態	１～17　覆土上層では東寄りに多く灰釉の埦、壺が出る。床面ではかまど及びその周辺に多い。土師器坏、埦、甕、小形甕、須恵器坏である。　（熊谷康治）

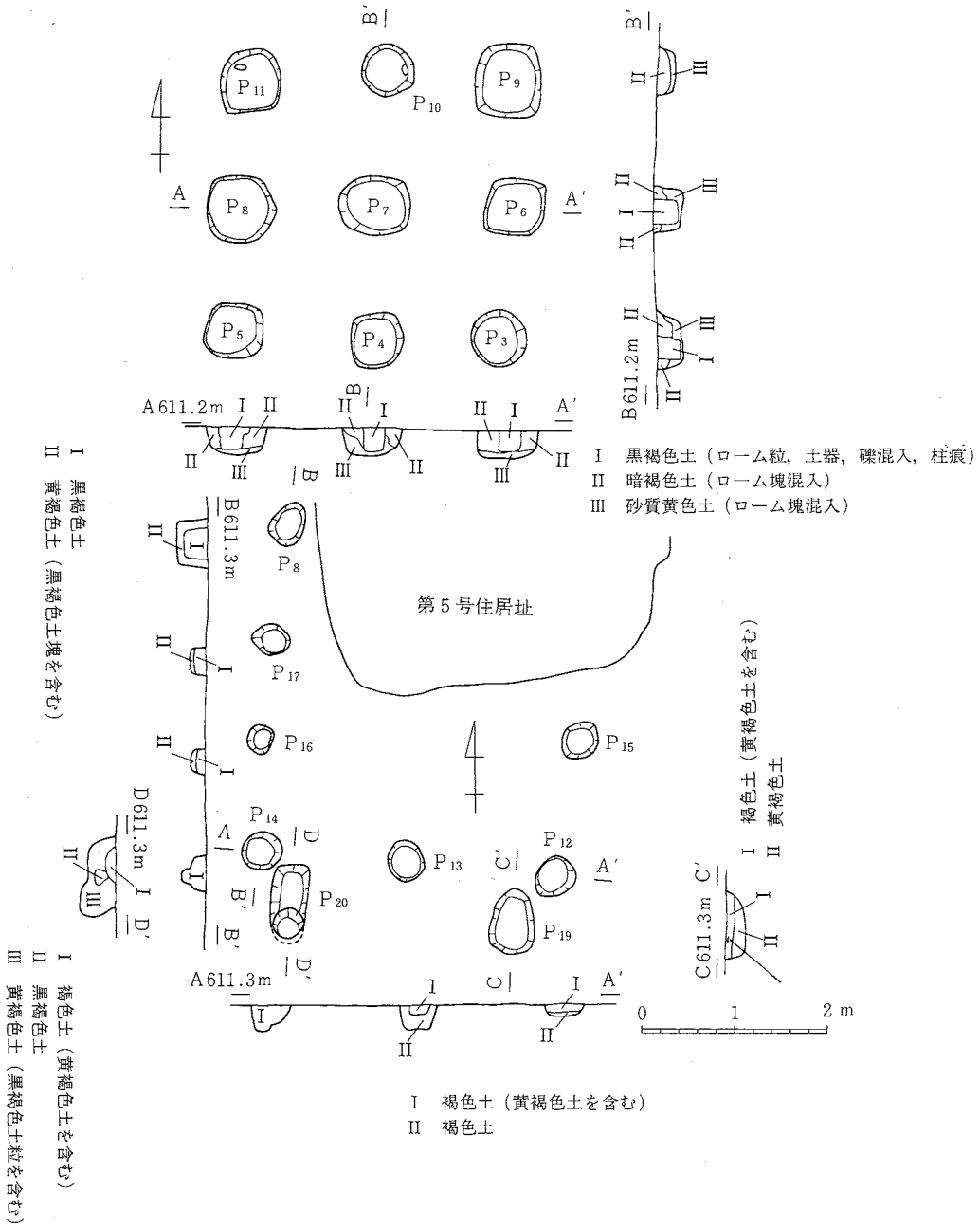
3　掘立柱建物址（第35～48図、第３表）

掘立柱建物址は以下の記述中建物址№として記述する。今回の調査で確認された建物址は総計で35軒、地籍別の内訳を見るとＳＫＭＴ４軒、ＳＫＫＳ11軒、ＳＫＳ６軒、ＳＫＮＭ14軒である。ＳＫＮＭがもっとも多いがこの地籍は掘上げ調査を行なわなかったため細部については不明である。また、発掘調査時に攪乱、削平、他遺構との切合い等のためピットとして取上げたもの、時間的制約のために掘上げが完了しなかったものなどで今後実測図等の子細な検討によって建物址として確認され加えられるものも相当数あるものと思う。個々の子細については建物址一覧表に記載した。

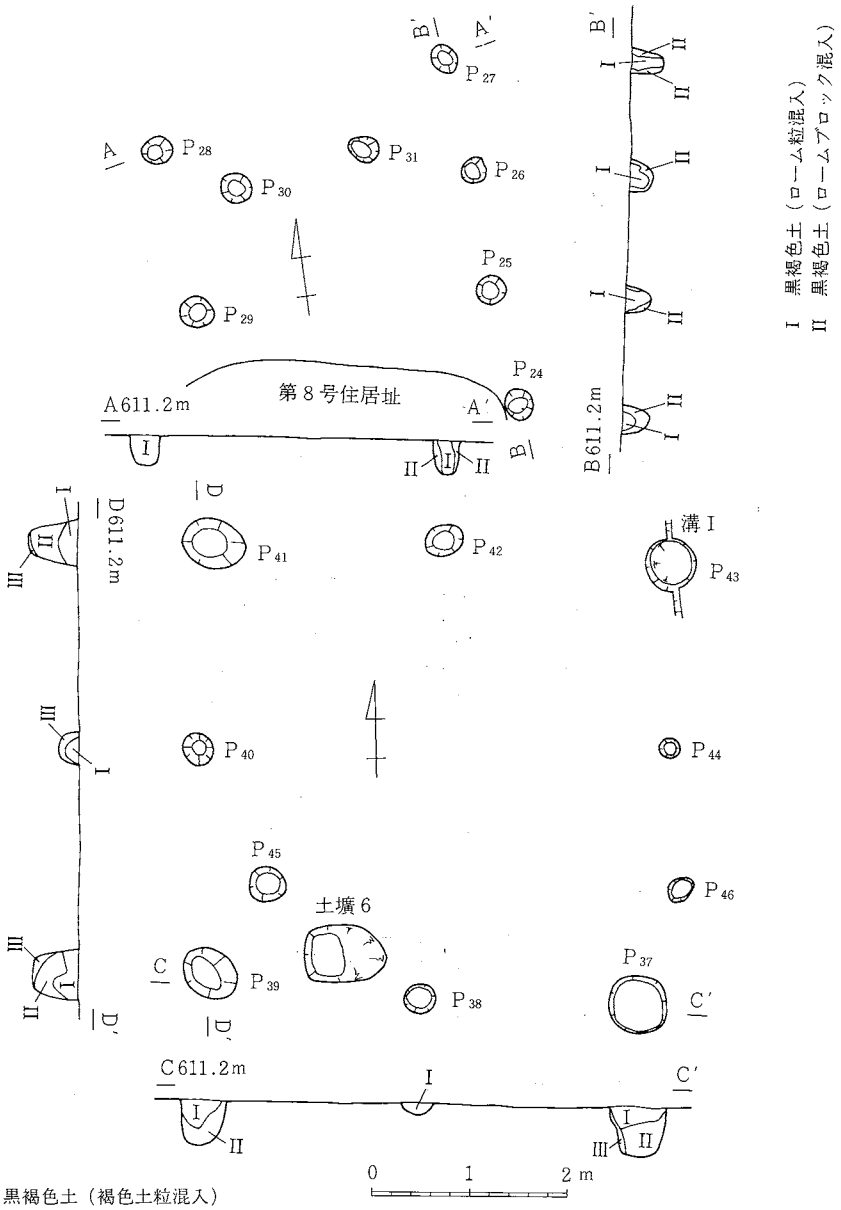
桁行、梁行の間数によって分類してみると２間×２間のもの13軒（ＳＫＭＴ建物址１、４、ＳＫＫＳ１～３、５、11　ＳＫＳ２、ＳＫＮＭ５、７、９～11)、３間×２間は11軒（ＳＫＭＴ２、ＳＫＳ４、８、９、ＳＫＳ１、４、６、７、ＳＫＮＭ４、６、14)、３間×３間は４軒（ＳＫＳ５　ＳＫＮＭ１、３、８)、４間×３間は１軒（ＳＫＮＭ２)、３間×１間（ＳＫＭＴ３）（疑問があり、今後検討を要する）また他の遺構等との切り合により全容をつかむことができないもの５軒（ＳＫＫＳ６、７、10、ＳＫＮＭ12、.13）である。次に柱の建て方により分類してみると総柱式と側柱式があり総柱式では、ＳＫＭＴ建物址１　ＳＫＫＳ１、２　ＳＫＳ２　ＳＫＮＭ１、２、５、８、10、14の10軒で残り25軒の内側柱式と考えられるものは18軒でＳＫＭＴ建物址２、３、４、ＳＫＫＳ３、６、８、９、11、ＳＫＳ４、５、６、７、ＳＫＮＭ３、４、６、７、９、11であり他の７軒については不明である。側柱式が主であった。また地籍別でも側柱式が多かった。柱穴の掘り方は、いわゆる坪掘地業で他の布掘地業等は見られなかった。ＳＫＮＭ、ＳＫＳの１を除き柱痕が確認できたものは12軒で、柱穴数55基であって大きさは径15～30cmであった。今回の建物址の内で最も広い面積をもつものはＳＫＳ建物址１の37.1m²であり５号住に切られるので不明であるが３間×２間の側柱式と思われる。残念ながら掘上げ調査はしてない。また最小のものは、ＳＫＭＴ１の8.4m²であって２間×２間の総柱式である。全体的に見て側柱式の方が大きなものが多いと思われるが、ＳＫＮＭの２は４間×３間総柱式で30m²以上であった。この面積については柱列間の面積であるので床面積と相違があると考える。次に特徴的なものを上げて見るとＳＫＭＴの２は、南側のピット19、ピット20は斜めに掘込まれており、つっかえ棒的なものと考えられ北側にもあったかもしれない。ＳＫＭＴ３は、４角が大きな柱穴で間は小柱穴である。ＳＫＫＳ４、７、については東側及び南側に巾約20cm、深さ約10cm程度の溝があり建物址に付随するものではないかと考えられるが今後類例等の検討が必要である。ＳＫＳ７は、西側に建物址の庇ではないかと思われる柱列が２列確認された。内側の柱穴は本体の柱穴より小さく円形で外側の柱穴は長方形であり間隔は本体よりややせまい。また本体とは約１ｍ離れている。

最後に今後直ぐに建物址として加えられると思うものは、ＳＫＳ５～７周辺のピット群で、特に６西側は少なくとも２軒はあると思われる。

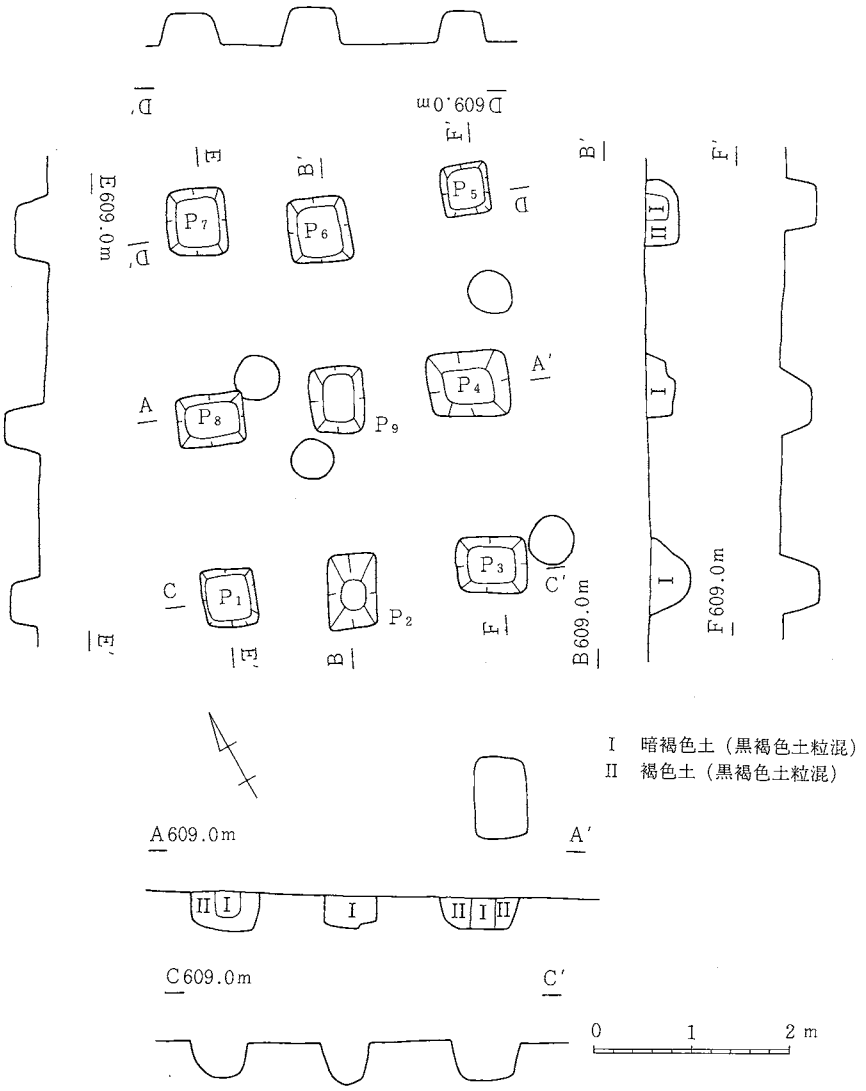
（熊谷康治）



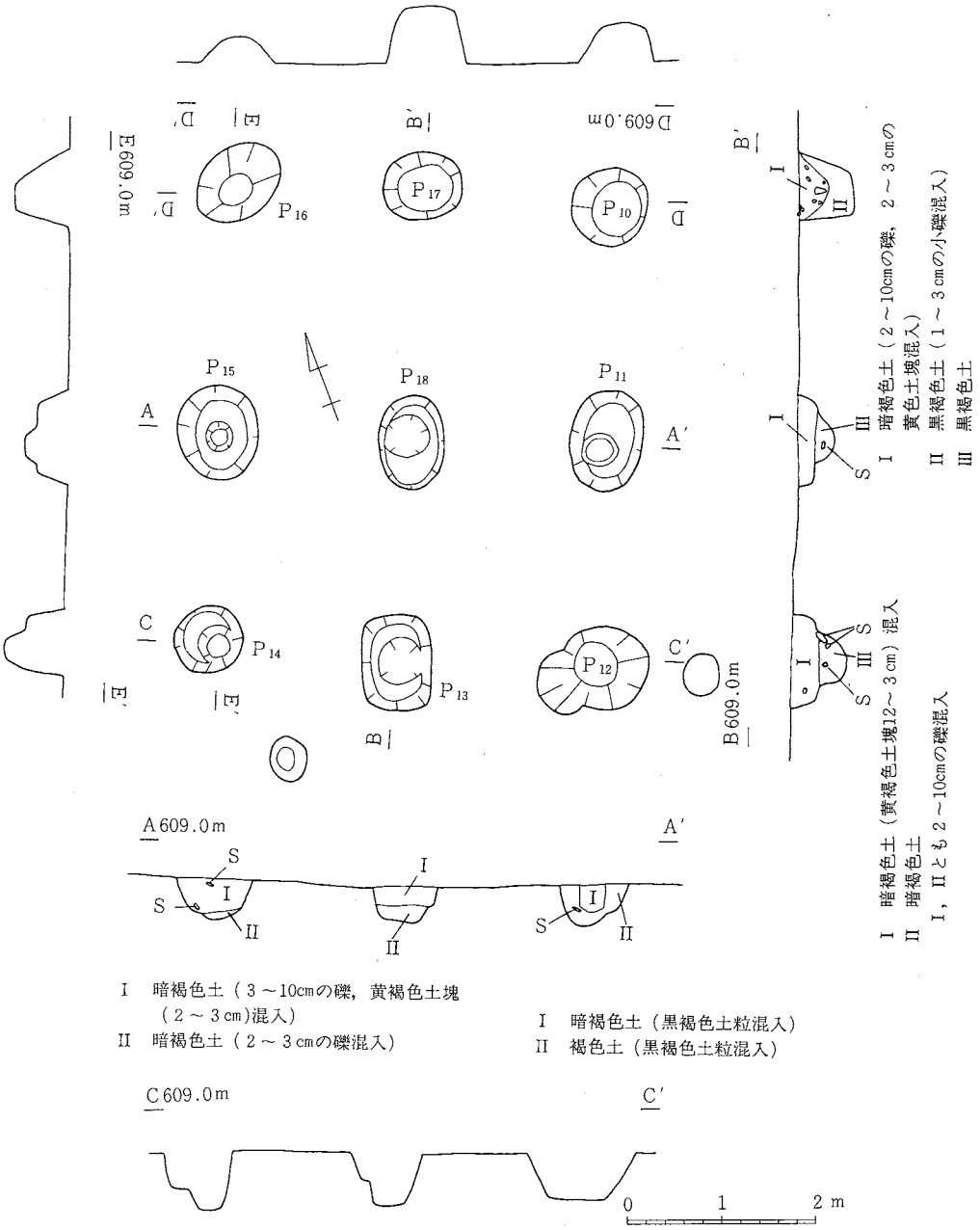
第35図　ＳＫＭＴ 建物址１(上)・２(下)



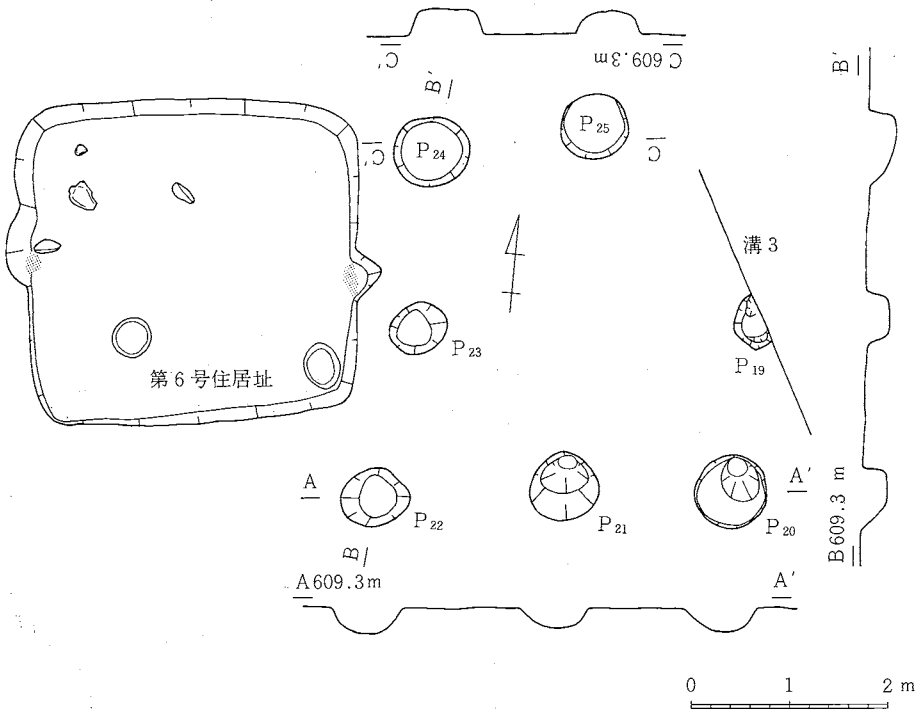
第36図　ＳＫＭＴ 建物址３(上)・４(下)



第37図　ＳＫＫＳ 建物址１

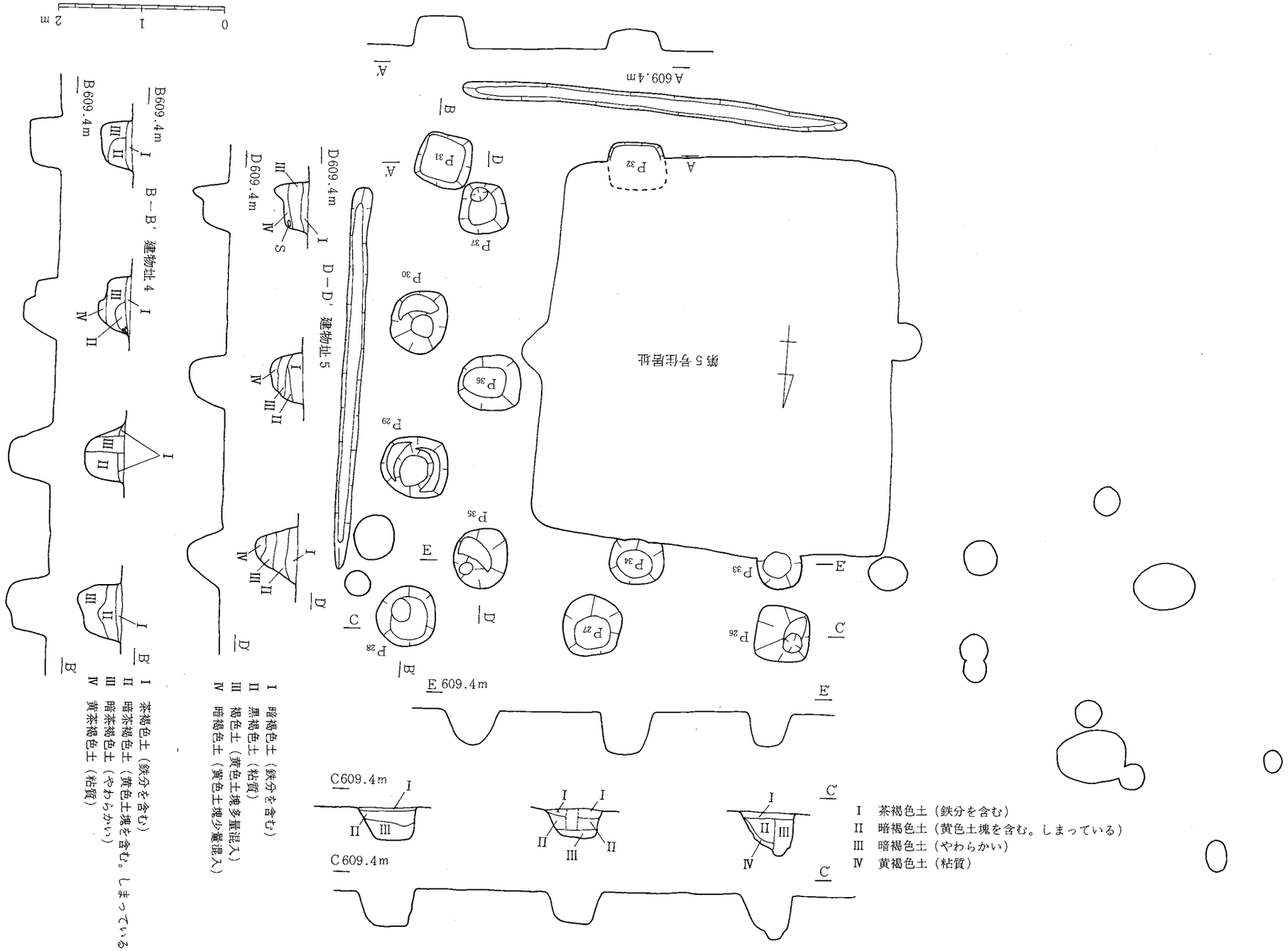


第38図　ＳＫＫＳ 建物址２



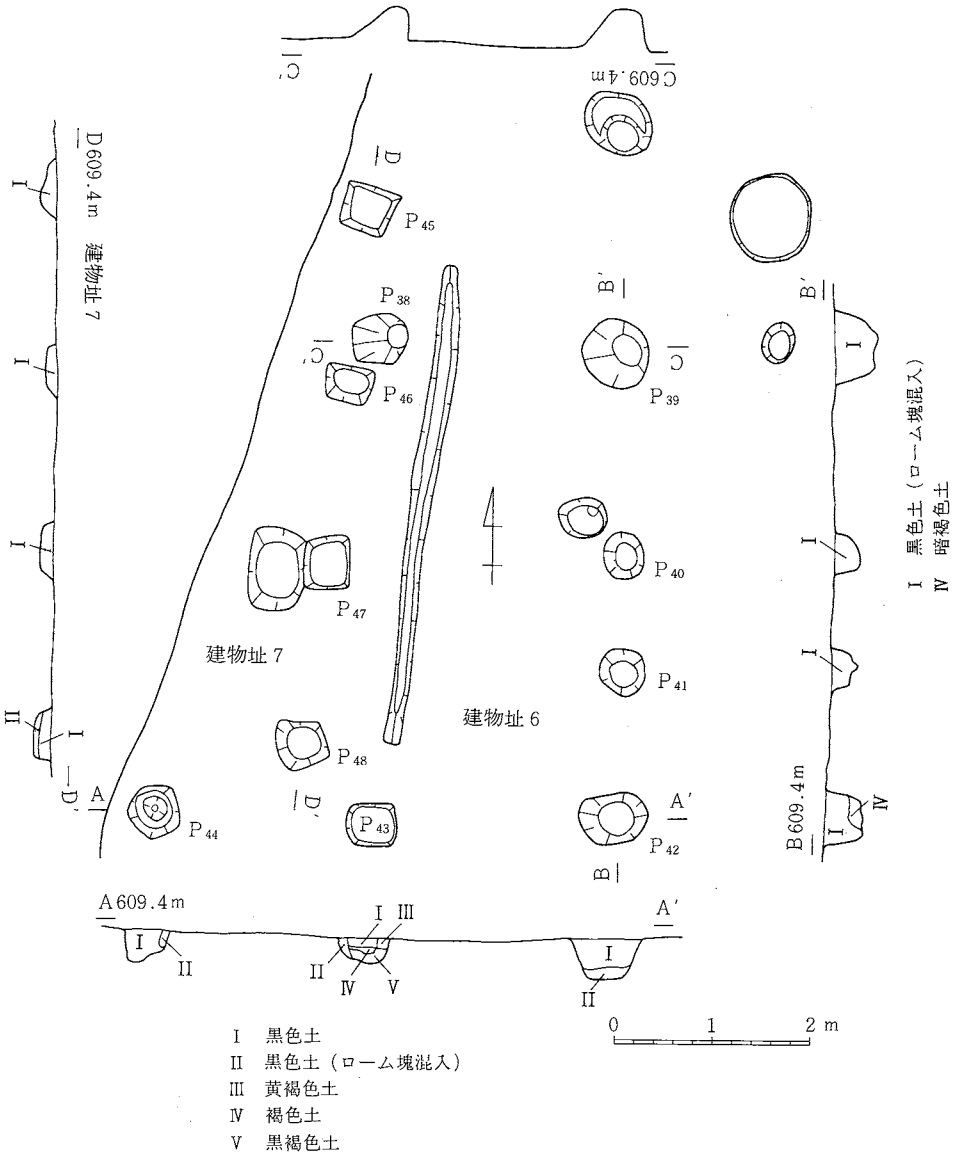
6つのpitとも黒色土
（1～3cmの小ローム塊を多量に混入）

第39図　ＳＫＫＳ 建物址３・第６号住居址

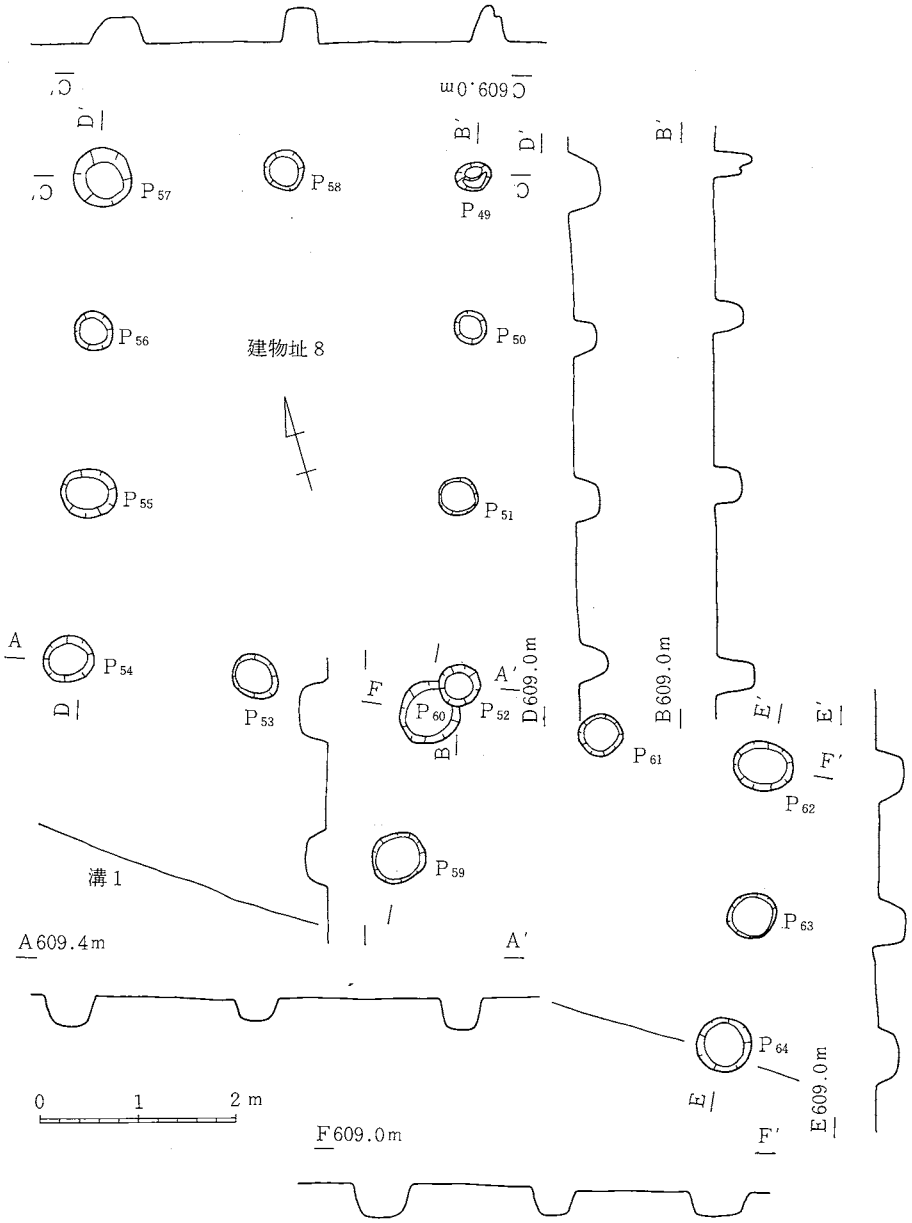


I 茶褐色土（鉄分を含む）
II 暗褐色土（黄色土塊を含む。しまっている）
III 暗褐色土（やわらかい）
IV 黄褐色土（粘質）
C 609.4m
E 609.4m
I 暗褐色土（鉄分を含む）
II 黒褐色土（粘質）
III 褐色土（黄色土塊多量混入）
IV 暗褐色土（黄色土塊少量混入）
I 茶褐色土（鉄分を含む）
II 暗茶褐色土（黄色土塊を含む。しまっている）
III 暗茶褐色土（やわらかい）
IV 黄茶褐色土（粘質）
P26
P27
P28
P33
P34
P35
P29
P36
P30
P37
P31
P32
第5号住居址
D－D′ 建物址5
B－B′ 建物址4
A 609.4m
D609.4m
B609.4m
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
S
0
1
2 m

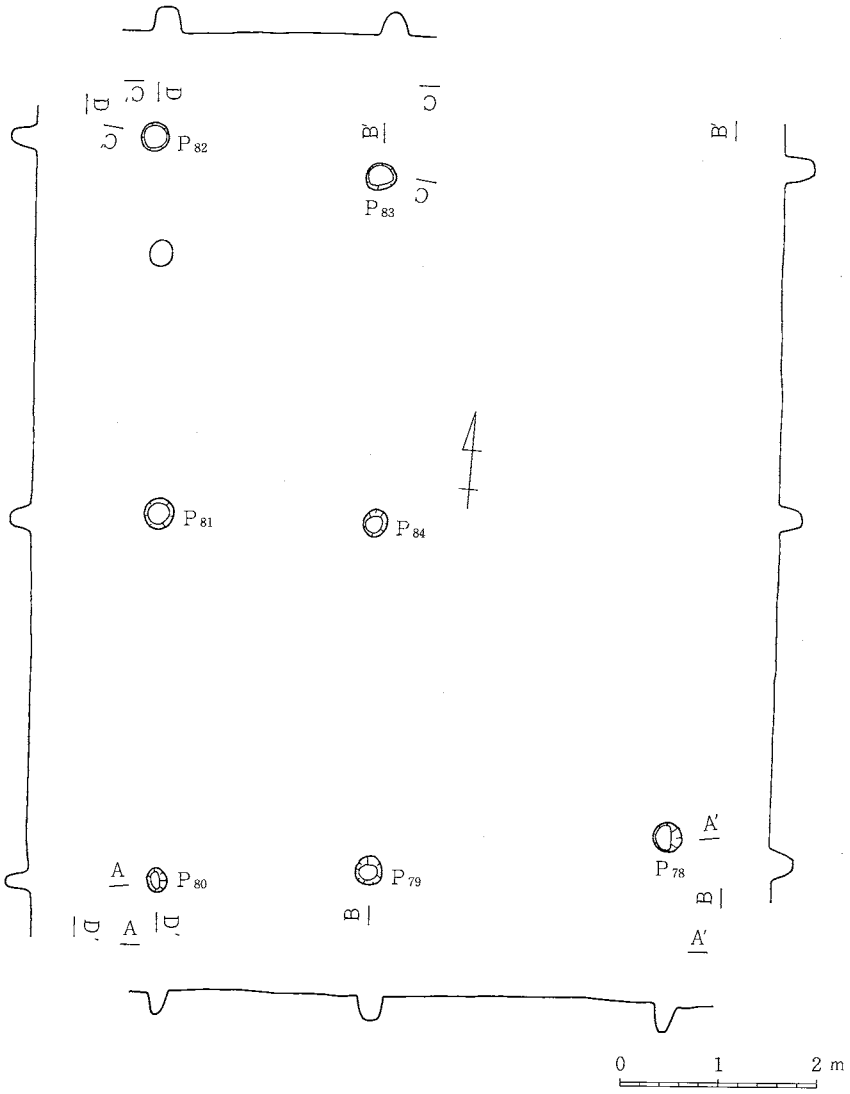
第40図　SKKS 建物址4・5



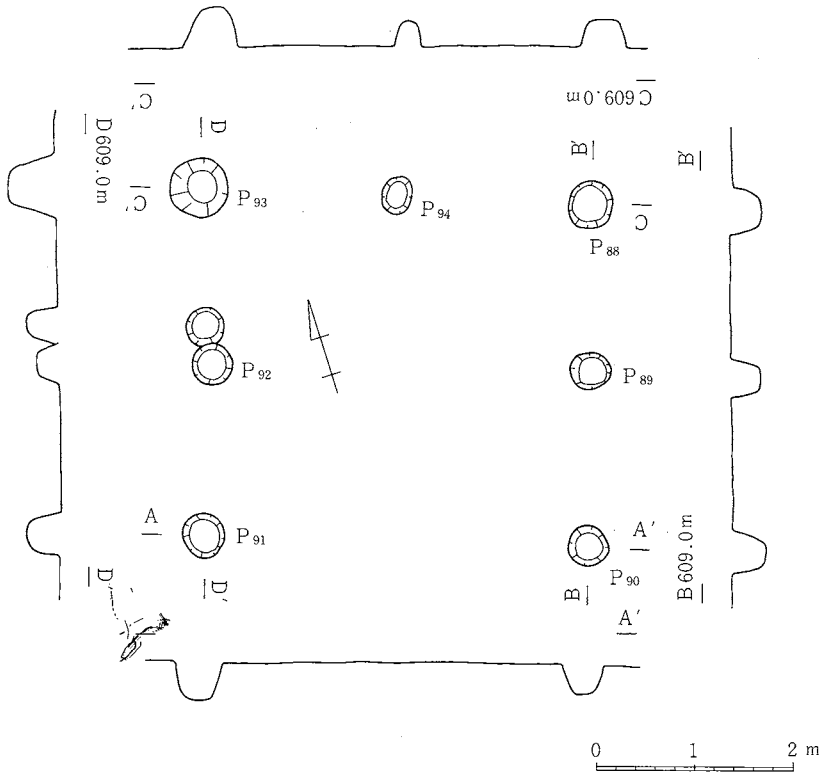
第41図　ＳＫＫＳ 建物址６・７



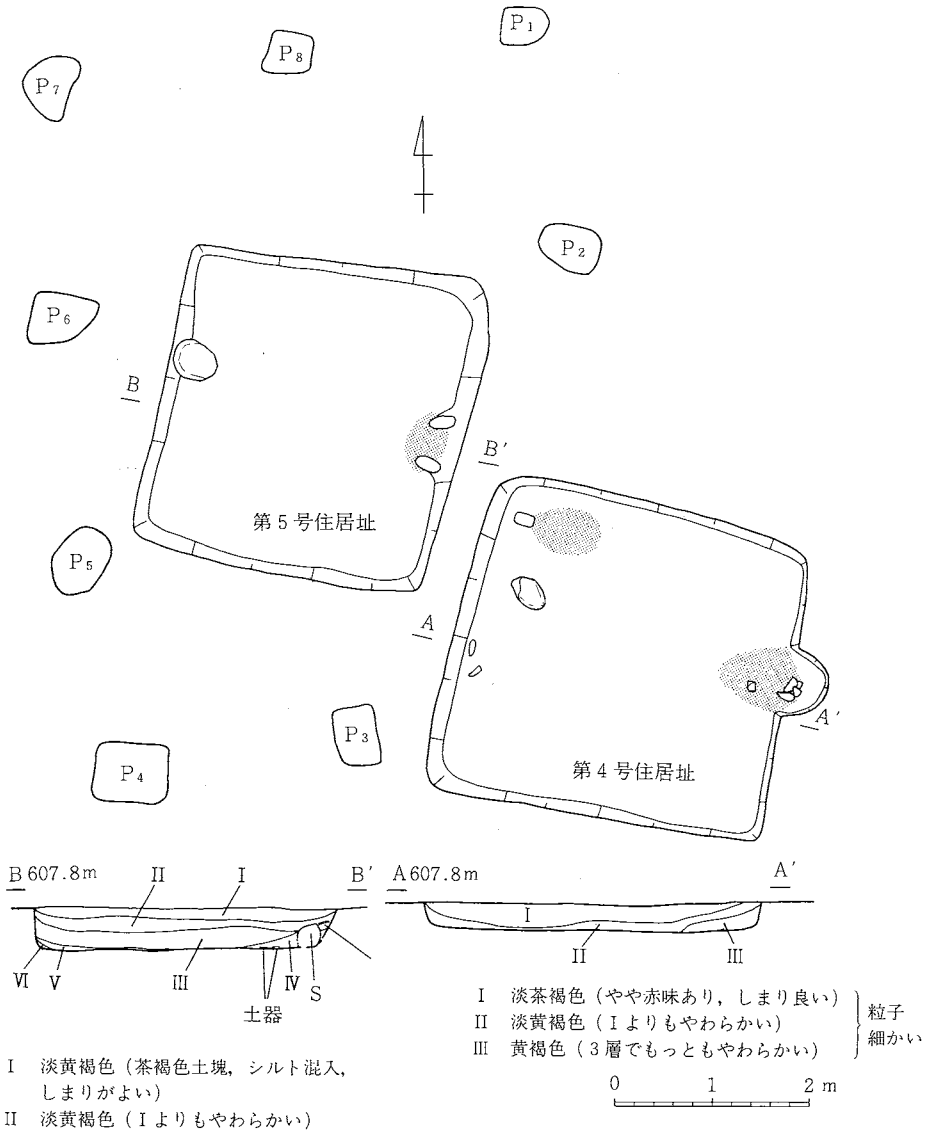
第42図　ＳＫＫＳ 建物址８・９



第43図　ＳＫＫＳ 建物址10

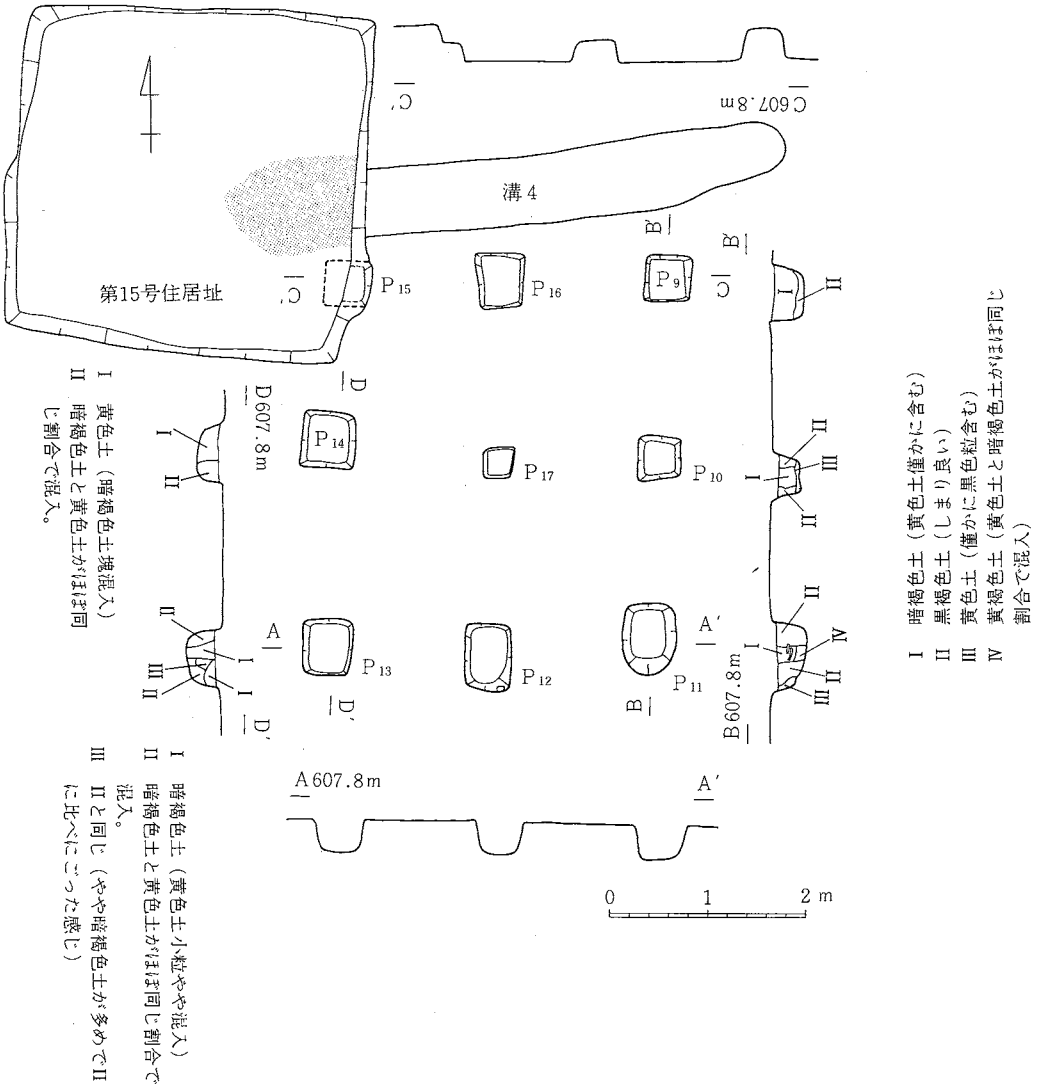


第44図　ＳＫＫＳ 建物址11

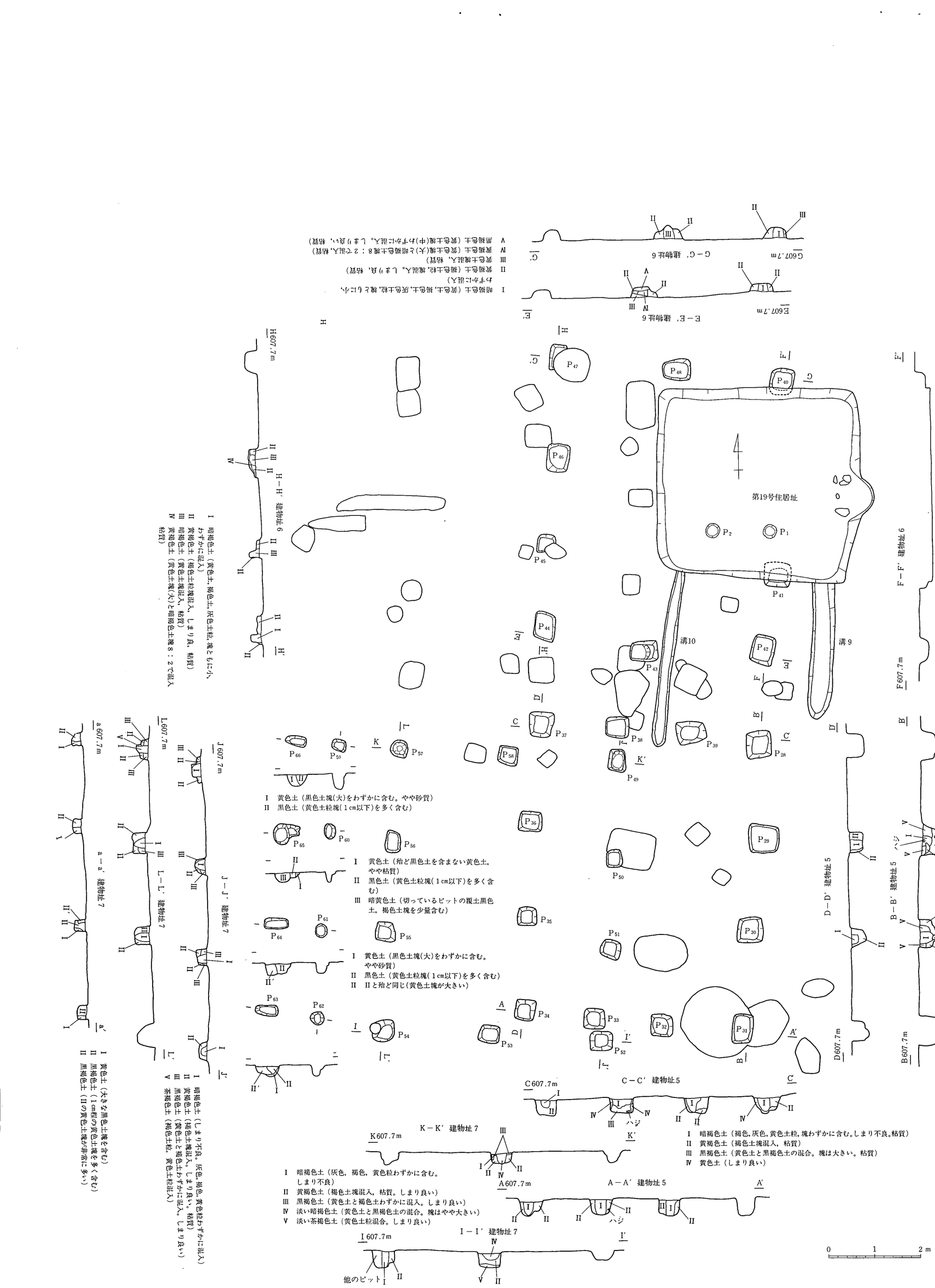


I 淡黄褐色（茶褐色土塊，シルト混入，しまりがよい）
II 淡黄褐色（Iよりもやわらかい）
III 暗褐色（IIよりもやわらかい。粒子細か）
IV 黄褐色（強砂質）

第45図　ＳＫＳ 建物址１・第４・５号住居址



第46図　ＳＫＳ 建物址２・第15号住居址



I 暗褐色土（黄色土，褐色土，灰色土粒，塊ともに小，わずかに混入）
II 黄褐色土（褐色土粒塊混入。しまり良い。粘質）
III 暗褐色土（黄色土塊混入，しまり良，粘質）
IV 黄褐色土（黄色土塊(大)と暗褐色土塊８：２で混入，粘質）
V 凹褐色土（黄色土塊(中)わずかに混入。しまり良い，粘質）

I 暗褐色土（黄色土，褐色土，灰色土粒，塊ともに小，わずかに混入）
II 黄褐色土（褐色土粒塊混入。しまり良い，粘質）
III 黄色土塊混入，粘質）
IV 黄褐色土（黄色土塊混入８：２で混入，粘質）
V 凹褐色土（黄色土塊(中)わずかに混入。しまり良い，粘質）

I 暗褐色土（しまり不良。灰色，褐色，黄色粒わずかに混入）
II 黄褐色土（褐色土塊混入。しまり良い。粘質）
III 黒褐色土（黄色土と褐色土わずかに混入。しまり良い）
IV 淡い暗褐色土（黄色土と黒褐色土の混合。塊はやや大きい）
V 淡い茶褐色土（黄色土粒混合。しまり良い）

I 暗褐色土（しまり不良。灰色，褐色，黄色粒わずかに混入）
II 黄褐色土（褐色土塊混入。しまり良い。粘質）
III 黒褐色土（黄色土と褐色土わずかに混入。しまり良い）
IV 茶褐色土（褐色土粒，黄色土粒混入）

I 暗褐色土（褐色，灰色，黄色土粒わずかに含む。粘質）
II 黄褐色土（褐色土塊混入，粘質）
III 黒褐色土（黄色土と黒褐色土の混合。塊は大，粘質）
IV 黄色土（しまり良い）
V 淡い暗褐色土（褐色，黄色土粒塊Ⅰより大きい。しまりやや不良）

I 黄色土（黒色土塊(大)をわずかに含む。やや砂質）
II 黒色土（黄色土粒塊(１cm以下)を多く含む）

I 黄色土（殆ど黒色土を含まない黄色土，やや粘質）
II 黒色土（黄色土粒塊(１cm以下)を多く含む）
III 暗黄色土（切っているピットの覆土黒色土，褐色土塊を少量含む）

I 黄色土（黒色土塊(大)をわずかに含む。やや砂質）
II 黒色土（黄色土粒塊(１cm以下)を多く含む）
II Iと殆ど同じ(黄色土塊が大きい)

I 暗褐色土（しまり不良。灰色，褐色，黄色粒わずかに混入）
II 黄褐色土（褐色土塊混入。しまり良い。粘質）
III 暗褐色土（黄色土塊混入，しまり良，粘質）
IV 黄褐色土（黄色土塊(大)と暗褐色土塊８：２で混入，粘質）

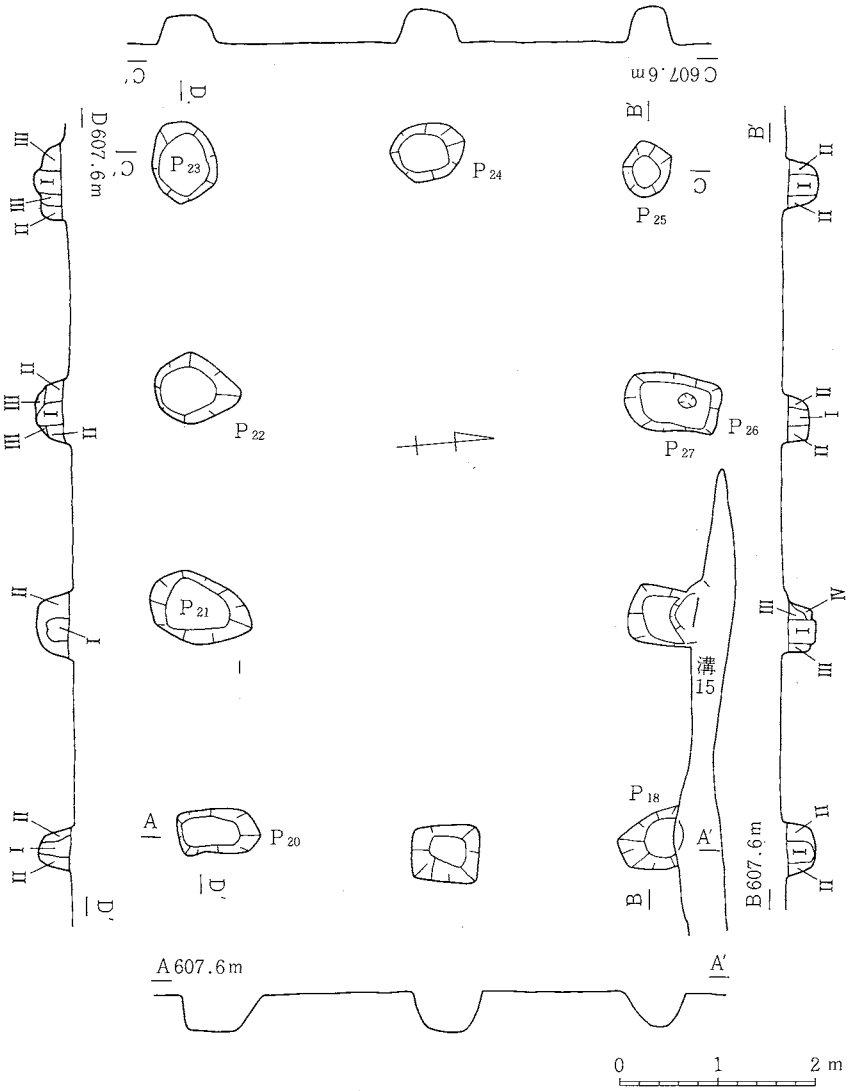
I 黄色土（大きな黒色土塊を含む）
II 黒褐色土（１cm程の黄色土塊を多く含む）
II 黒褐色土（IIの黄色土塊が非常に多い）

I 暗褐色土（黄色土，褐色土，灰色土粒，塊ともに小，わずかに混入）
II 黄褐色土（褐色土粒塊混入。しまり良，粘質）
III 黄色土塊混入，粘質）
IV 黄褐色土（黄色土塊(大)と暗褐色土塊８：２で混入，粘質）
V 凹褐色土（黄色土塊(中)わずかに混入。しまり良い，粘質）

I 暗褐色土（褐色，灰色，黄色土粒わずかに含む。粘質）
II 黄褐色土（褐色土塊混入，粘質）
III 黒褐色土（黄色土と黒褐色土の混合。塊は大きい。粘質）
IV 黄色土（しまり良い）

I 暗褐色土（しまり不良。灰色，褐色，黄色粒わずかに含む。しまり不良）
II 黄褐色土（褐色土塊混入，粘質。しまり良い）
III 黒褐色土（黄色土と褐色土わずかに混入。しまり良い）
IV 淡い暗褐色土（黄色土と黒褐色土の混合。塊はやや大きい）
V 淡い茶褐色土（黄色土粒混合。しまり良い）

第47図　SKS 建物址５・６・７、第19号住居址



Ⅰ　黒褐色土
Ⅱ　暗褐色土（黄色土粒混入，粘質）
Ⅲ　淡黄褐色土（粘質）
Ⅳ　黄色土（粘質）

第48図　ＳＫＳ 建物址４

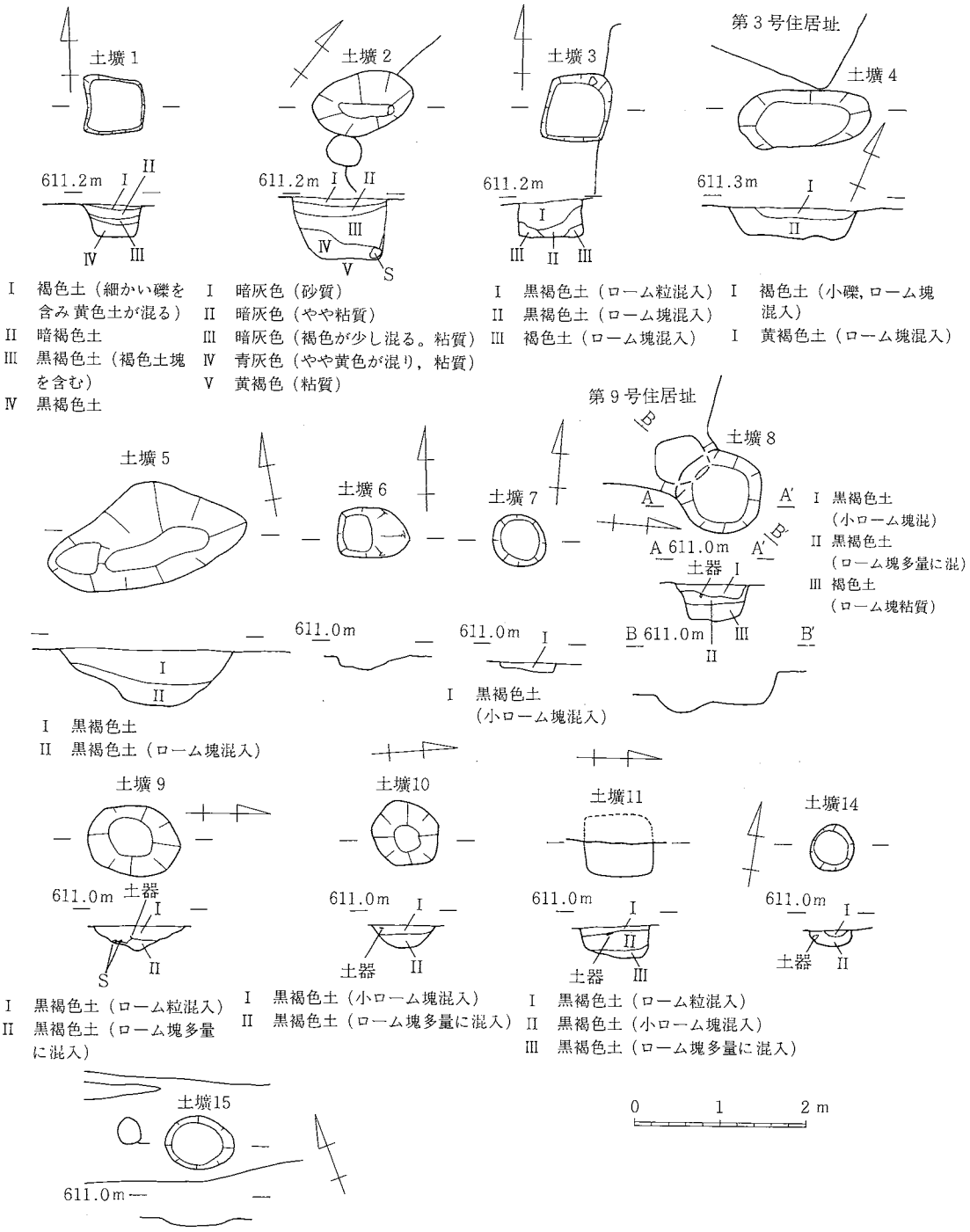
4　土　壙（第49図、第４表）

今回の調査で確認された土壙は、ＳＫＭＴで15基、ＳＫＫＳで11基、ＳＫＳで22基の合計48基であるが、検出のみで調査を終了したＳＫＮＭについてを加えるならば総数では60基以上になるものと思われる。その他ピットとしたものについても今後の詳細な検討によっては、土壙となりうるものもあるかもしれない。

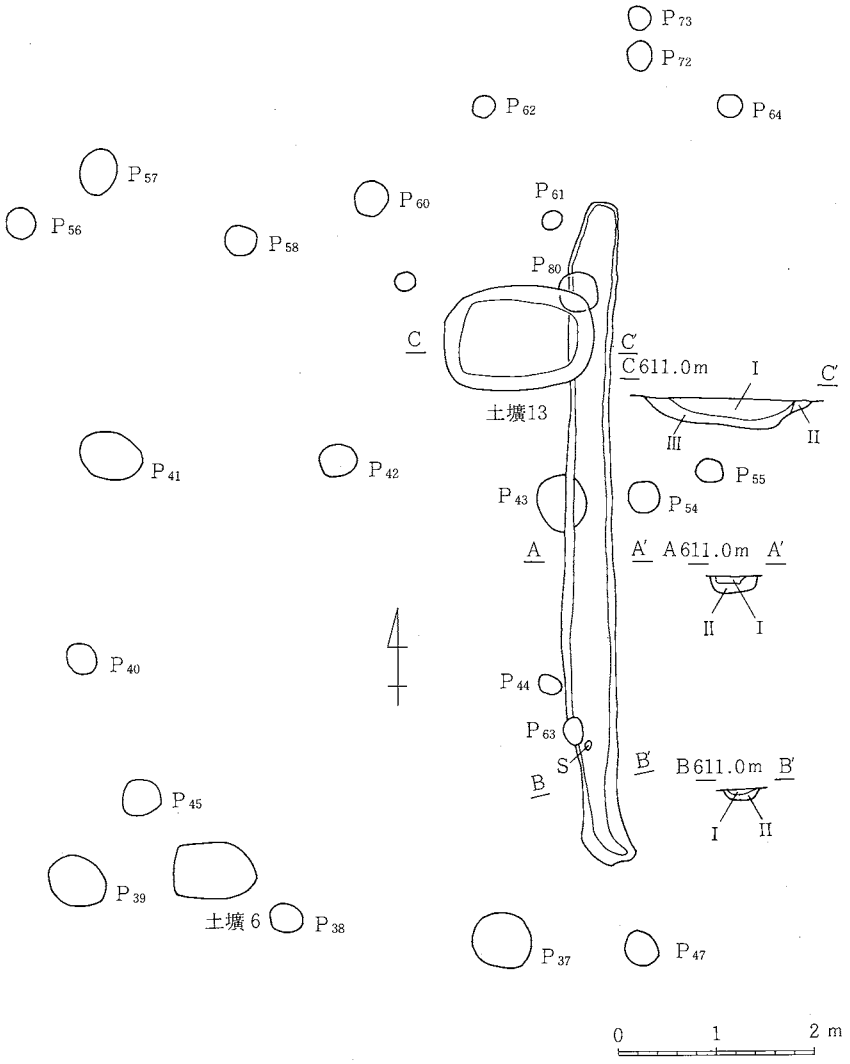
形状については、円形のものと楕円形を呈すものが主である。円形のものではＳＫＭＴで土壙７、８、10、12、14、ＳＫＫＳで土壙１、９、ＳＫＳは土壙１、２、６、11～15、21などがある。楕円形のものはＳＫＭＴ土壙２、９、15、ＳＫＫＳ土壙４、10、11、ＳＫＳでは土壙10、16、18、20などである。その他として方形、あるいは長方形を呈すもの、形状不整なものがある。断面形をみると逆台形とＵ字形をなすものが多い。深さをみると、深いもので70～80cmを測るＳＫＭＴの土壙２、３、５があり、浅いものではＳＫＭＴ土壙15の５cm、ＳＫＫＳ土壙５、10の10cm、ＳＫＳ土壙16の８cmなどである。遺物を出土したものは、ＳＫＭＴで土壙８～11、13、14、ＳＫＫＳで土壙２～５ＳＫＳでは土壙13、18、21である。出土遺物のほとんどは須恵器、土師器の小さな破片である。しかしながらＳＫＳの土壙13からは帯金具と思われる鉄製品の出土をみている。また土壙内において焼土あるいは炭化物がみられたものは、ＳＫＭＴで土壙14、ＳＫＫＳの土壙３、７、８、ＳＫＳでは土壙11、14～16、19～21である。なかでもＳＫＫＳの土壙７、８については、厚さ２～４cmを測る焼土及び、炭化物の層が底面においてみられた。

以上が調査をした概略である。これら総ての土壙の性格を把握することはできないが、ＳＫＫＳの土壙７、８、とＳＫＳの土壙13、また鉄製品の出土こそはみられなかったがＳＫＳ土壙13に隣接している土壙14などについては墓址であった可能性も考えられる。また、切り合い関係の明確であるものを除いてその他建物址等との切り合いの関係については、遺物の出土も少なく新旧の区別が断定しえなかった。尚、子細については土壙一覧表を参照されたい。

（伊那　史彦）

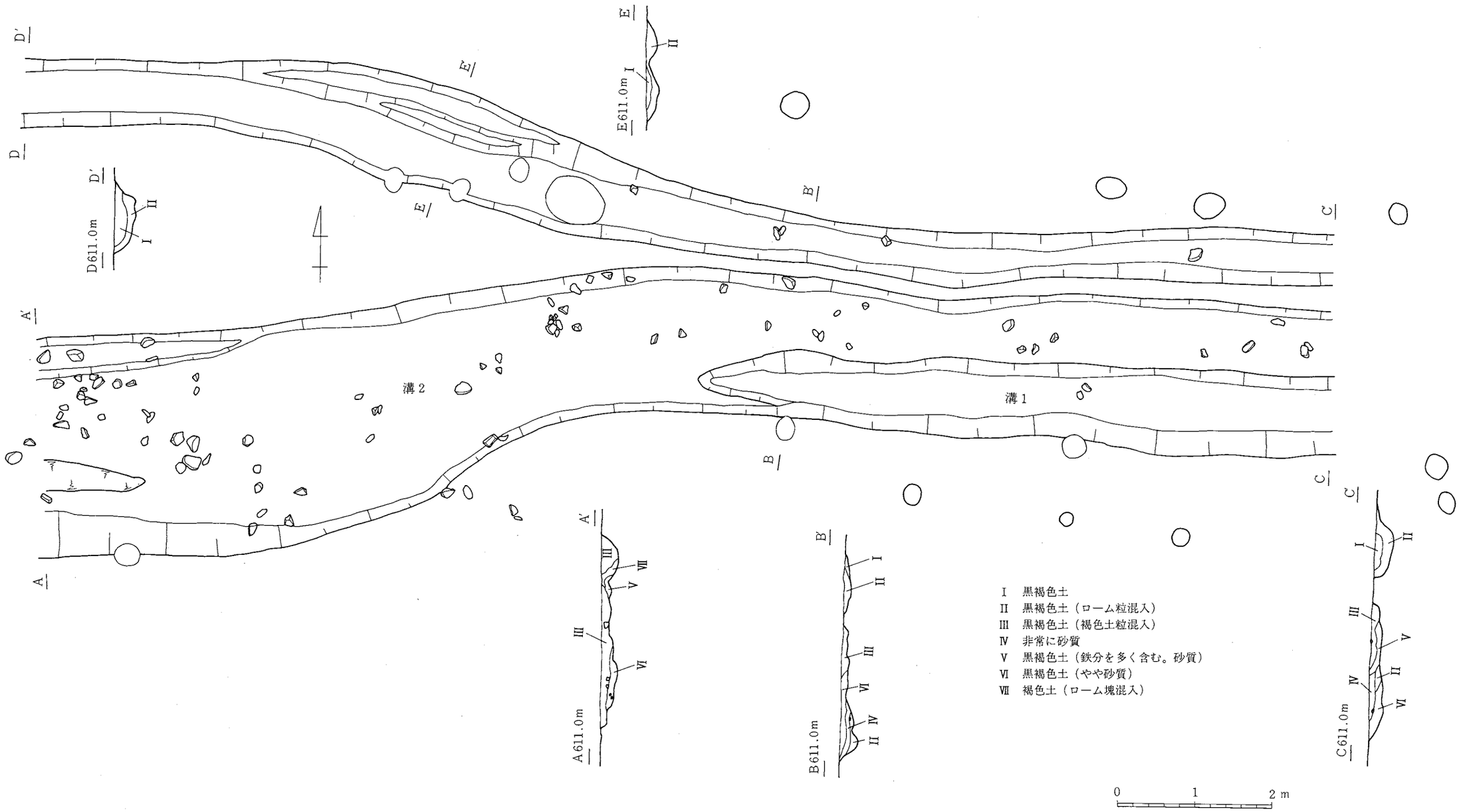


第49図　ＳＫＭＴ 土壙１～12・14・15



I　黒褐色土（ローム塊混入）
II　黒褐色土（ローム粒混入）
III　黒褐色土（小ローム塊混入）

第50図　ＳＫＭＴ 溝１・土壙13



第51図　ＳＫＭＴ 溝２・３

5　溝（第50・51図）

今回の調査で確認された溝はＳＫＭＴ３基、ＳＫＫＳ７基、ＳＫＳ16基の合計26基である。ＳＫＮＭについて加えるならば、33基を数えることになる。しかしながらＳＫＮＭについては検出のみの調査に基く数値である。

ＳＫＭＴでは溝１の規模が小さく幅60cm、長さ640cmの南北に走る溝である。建物址４のピット43を切り、土壙13に切られている。溝２は幅200～300cm、長さ1800cm、溝３は幅40～120cm、長さ1800cmを測り、南北に走るが、溝２、３の両端は調査区域外へ伸びるため全容は不明である。深さはいずれも10～20cm程度である。ＳＫＫＳについては、溝１が最大であり幅は100～800cm、長さ6000cm深さ10～60cmを測り北西から南東方向へ走るが、南東端は調査区域外へ伸びる。北西端は明確に検出できなかった。溝２は溝１の南に沿う形で幅60cm、長さ4600cmを測り、検出結果は溝１と同様に南東端は調査区域外へ、北西端は明確でない。溝３は幅100～300cm、長さ5400cm、深さ20～46cmで北西から南へ走り、遺物の出土がある。西端は調査区域外へ伸びる。溝４は幅100cm、長さ3200cmを測り北西から南東へ走る。北西端及び南東は礫混りのため明確に検出できなかった。溝５、６は幅30cm、長さ460～500cm、深さ６～10cmを測り、溝５は建物址４東側、溝６は同じく南側に位置し、建物址４に伴うものかもしれない。溝７は幅30cm、長さ500cm、深さ３～６cmであり、建物址７の東側に位置し南北に走る。建物址７に伴うものと思われるが、詳細は不明である。ＳＫＳについては溝４以外は検出のみで調査を終っているが、幅は狭いもので20cm、広いもので100cm、長さは短いもので90cm、長いもので2400cmを測る。溝１、３、７、８、11、12、13、15、16は東西に走り、溝２、５、６、９、10、14は南北に走る。溝３は調査区域外を隔てて、溝８につながる。溝６は溝７を切る。溝９と建物址６との関係は第19号住居址に切られているので不明である。溝15は建物址４の北にあって建物址４のピット18を切っている。溝４はＬ字形に曲がり、南北に走る部分は溝３を切り、東西に走る部分は第15号住居址に切られる。幅100cm、長さ2680cm、深さ50～60cmを測る。覆土は特徴的な様相を呈しており、黒褐色土層と褐色土層に黄褐色土塊、あるいは粒の混入する黒褐色土層がはさまれている。遺物はあまりなく須恵器坏片が少々出土した。

尚、覆土の地質的検討、及び流れの方向等については別稿にて詳述するため、ここでは触れなかった。

（伊那史彦）

第3節　遺　　物

1　土器（第52～71図、第5表）

今回の調査で出土した土器は整理用コンテナー30箱以上に及ぶ多量なもので、そのほとんどすべてが土師器と須恵器である。施釉陶器も出土したが数量は極く僅かであった。各種別について認められた器形（器種）を列記すると次の様になる。

土師器：坏・皿・埦・鉢・甕・小形甕

須恵器：坏（有台・無台）・蓋・高坏・壺（短頸壺・長頸壺）・横瓶・平瓶・甕・四耳壺

灰釉陶器：埦・皿・耳皿・長頸瓶・平瓶

土師器坏・皿・埦：単純に高台のつくものを埦、そうでないものを坏、埦の器高が低いものを皿とする。坏は底面が平垣で体部との境界がはっきりしており、回転糸切り痕を残すものがほとんどで、僅かに丸底気味の底部をもつもの（111）、底面にヘラケズリ等の再調整が施されるもの（77・111～115・156・175・177)は少ない。埦・皿は高台を貼りつけた際に底面の痕跡を消してしまったものが多いが、基本的には底面に回転糸切り痕をもつものであろう。坏・皿・埦ともに、そのほとんどが内面を黒色処理している。坏114・115は精選された胎土と赤橙色の良好な焼成、底面の回転糸切りとヘラケズリの同居等、特異なものである。鉢は、坏類の大きなもの(168・227・228）をあてる。

土師器甕：外形と調整の差により4種類のものが認められる。第1のものは、口縁端部または胴部上半位に最大径をもち、底部はしっかりした平底で、胴部外面全てに縦のハケメ、口縁部内面に横走するハケメ（カキ目）が施されている。土師器甕の9割はこの種のものである。169・179・185などが代表とされる。第2のものは、胴部が砲弾形を呈し、底部が丸底気味で不明瞭になり、口頸部は強いヨコナデ、胴部外面はきびしいヘラケズリが全面に施され、極めて薄手に仕上げられている。9・30・253が該当する。第3・4のものについては、28・131等を考えている。

土師器小形甕：球形に近い外形を呈する胴部をもつ小形の甕類である。4種類ほどに分けられる。その1は、ロクロ回転を用いて整形されたらしく、床面に回転糸切り痕、胴部外面及び口縁部内面に横走するハケメ（カキ回）が施されるもので、16・130等が好例である。その2は、同じくロクロ回転を用いたと推定されるが、横走するハケメ（カキ目）を残さないもの。良い例がないが、184 234が該当する。その3は、底面に木葉圧痕をもち内外面をハケメ整形される26、その4は、口頸部に強いヨコナデ、胴部外面にヘラケズリが施される10をあてたい。

須恵器坏：有台と無台のものがあり、無台のものは99%が底面に回転糸切り痕を残している。有台のものの底面は全面が回転ヘラケズリされるものと、中央部に回転糸切り痕を残すものの2種が

ある。

須恵器蓋：天井部端の屈曲が甘く、屈曲部が盛り上がりを呈すものもある。端部は嘴状につくられるものが多い。つまみは扁平な疑宝珠形になっているものと頂部が窪んでしまっているものがみられる。天井部外面は回転ヘラケズリが施されている。

須恵器高坏：ＳＫＳ第16号住居址から脚部片が２点出土しているにすぎない。別々につくった坏部と脚部を接合して成形しており、脚部内面にはしぼり痕が観察できる。

須恵器壺：長頸壺と短頸壺があり、短頸壺にはいくつかバラエティーがある。長頸壺は83と116が良好な資料で、83は肩部付近に把手がとれた様な痕跡があり、手付長頸壺と考えたが器体が大きすぎる点に疑問が残る。胴部の丸さ、口頸部の外開度に各個体の差がみられる。

須恵器甕：大甕は256の１点しか図示できなかったが、各住居で破片は散見された。口縁が大きく外反して立ち上がるものと、それよりやや小ぶりで短めに外反して面取りされた端部に至る口頸部をもつものの２種があるようだ。胴部外面は平行タタキ目が施され、内面は同心円の当て具痕を明瞭に残すものと、擦り消したものがみられ、前者の方が多い。

須恵器四耳壺：基本的には中形の甕の肩部に貼付凸帯を一周させ、それを平面的に４分割するように瘤状の耳部を貼付したものである。外面のタタキ目は須恵器甕と同一で、特徴的な部分の破片以外は区別がつき難い。

須恵器横瓶・平瓶：極く稀にしかみられなかった器形である。252の横瓶は、口頸部のつくりは長頸壺と全く同じで、胴部にタタキ目は全くみられない。胴部両側には粘土板を貼りつけた跡があり、成形は、まず筒状のものをつくり、その両端を内側へ弯曲させ、粘土板を貼りつけて胴部をつくり、頸部接合予定地をくりぬいたのであろう。平瓶は断面方形に面取りされた把手部が得られているにすぎない。

灰釉陶器類：ＳＫＫＳ第12・14号住居址、町神遺跡第１号住居址から少量出土しているのみである。126は体部に丸味があり端部が短く外反する器形が特徴的である。128は口頸部・把手部を欠く平瓶で、天井部は肩部で接合された痕跡があり、内面に成形時のしぼり状の渦巻痕がみられる。耳皿には高台のつくものとそうでないものがある。

三彩・緑釉：三彩の一括品が１点と、緑釉破片が数点得られている。三彩は小壺、緑釉は皿類になると推定している。三彩の釉は濃緑の地に白と褐色が千鳥に配されている。

土器の特色と問題点：第一に各器形内で型式差が少いことがあげられる。これは各遺構自体が時期的に集中していたことに起因するものと考えている。このことは、第２、前代（奈良時代）、後代（平安時代後半）の様相を示す器形が希薄である、ことでも証明される。第３に、他地域に分布の中心があるといわれている土器の存在（土師器坏114・115、土師器甕類９・10・30等）があげられよう。以上の外にも問題点はいくつかあるが、今後の研究に委ねたい。　　（直井雅尚）

三彩小壺の釉について

三彩の壺の胎土については、鉄分の少ないカオリンが主でその他に石英粒が目立ち長石類が所々に散在している。したがって断面は乳白色を呈し、一応水簸してある。製作過程は、ロクロ目が見られないが、釉に垂直方向の貫入が規則正しく入っていることから、低速のロクロを使用したことを物語っており、高台の削り出しは、明らかにロクロを使用している。底部が高台より飛び出して安定性を欠いているが、これは高台の削り出し後、底部の肉厚を減ずるため、壺の狭い口から工具を入れて、手作業で削り取ったため底が下がったものとみられる。

釉と焼成温度については、壺の器体が薄く生掛けは不可能であり、素焼後釉掛けして焼いたものと推定できるが、釉掛け後一度に焼き上げたものか、色の種類の回数だけ焼いたものかは不明である。釉は外側の着色剤の入った色釉と内部及び底部の無色釉に大別される。(着色剤は金属塩を用いているか、天然の鉱物を使用しているかは不明である。) 焼成温度は、胎土が全くガラス化していないこと、非常に脆いこと、吸水性が大きいことなどから700℃～800℃と推定され、釉もこの温度で熔融するためには、当然、唐の土 (鉛白ともいい塩素性炭酸鉛$PbCO_3 \cdot Pb(OH)_2$である。この他に鉛丹Pb_2O_2や密陀僧PbOかもしれない。) を主体とした、いわゆる鉛釉でなければならないことになる。釉の屈折率は鉱物顕微鏡によるベッケ lineの移動からプレパラートのガラスよりも大で、鉛ガラスと似ている。なお、釉の表面は風化し始めているが銀化は現われていない。釉の厚さは盛り上がったところを除くと、外側の色彩が100μ～110μで写真のフイルムよりやや薄く、内部と底部の無色釉は60μ～70μと薄くフィルムの約半分の厚さである。内部の土は一部を静かに洗浄しつつ調べていったが、シルト質＋細砂 (石英粒90%以上) で周辺の土壌と変らず、二次的に入った堆積物であり、周辺の土壌と異なった物は何も見られなかった。 (森　義直)

2　石器・石製品 (SKMT・SKKS) (第6・7表)

遺構内より出土した石器・石製品等は表6の如く多種類にわたるものである。この中では石鏃、打製石器、スクレイパー、凹石、磨石、敲打器の一部が石器時代に属するものと考えてよい。ここでは遺構に直接関わりのある砥石について見てみよう。砥石は大別して2種類に分けられる。1つは極端に加工して現在使用されているものに良く似たタイプのもの。(SKMT22～24、SKKS10～15) と、もう一つは自然石、主として円礫の一部を利用したもの (SKMT16・25・26、SKKS18・19) である。前者は大概4面が使用されている。これは石材も周辺では入手しがたい凝灰岩、粘土質岩であり石の緻密さから、中砥・仕上砥として用いられたものと考えられ、その故に小型化するまで使用されたり又持ち運び用に小型化・溝などを設けて (15)、携帯用にしたものであろう。後者は全部砂岩であり石材の質に応じて粗粒・中粒のものは荒砥用・細粒のものは中砥用にでも使用したものであろう。 (高桑俊雄)

3　鉄・青銅製品（ＳＫＭＴ・ＳＫＫＳ・ＳＫＳ）（第72図、第８・９表）

本遺跡出土の鉄製品は紡錘車、鉄鏃、刀子、工具、鎌、帯金具、棒状製品及び不明品等、合計46点である。

ＳＫＫＳ第14号住居址からは径58㎜程の紡錘車の円盤らしきものが出ている（10）がその軸となるものは共伴しなかった。

刀子はＳＫＫＳ第２、13号住居址、ＳＫＭＴ第９号住居址から計４点出土（４・５・９・17）しているが、いずれも刃部から茎部にかけての間が残存している。

工具と考えられるものは、ＳＫＫＳ第10・14・15号住居址、ＳＫＳ第９号住居址とＳＫＭＴ（出土遺構不明）からのもの合せて10点出土しているが、そのうちＳＫＳ第９号住居址とＳＫＭＴ出土の２点は、鑓鉋である可能性が強い。その他はたがねであろう。

ＳＫＫＳの第24・26号住居址からは各々鎌が１点ずつ出土（22・23）しているが、30は刃が内反りし、木柄着装が折り返しとなる曲刃鎌であろう。刃先が欠損しているが、おそらく急に内側に曲がる形態をとると思われる。31は、茎がほとんど欠損しているが、三ヶ月形の茎付鎌である。

前述した棒状製品とは、径が３～６㎜程の棒状のもので、何かの茎部や紡錘車の軸、あるいは小形の利器を造る際に用る鉄芯のいずれかと考えることができる。この鉄芯とは鍛造をしていない粗悪な鉄で、このまわりに鋼を巻いて刀子などの小形利器を造ったと考える。（松本市笹賀くまのかわ遺跡、松本市教委　1982.3）この場合、断面を観察するとよくわかる。

又、13号土壙からは帯金具の完形２点（５・６）、その一部と思われる小片が２点出土している。５は52×33㎜、６は64×46㎜のゆるやかな長方形を呈しているが、５は、その中にもう一本あった形跡があり、ちょうど「日」の字形をしていたようである。この出土遺物から察すると、13号土壙は、墓址であった可能性も考えられる。

その他、不明品が13点、鉄滓が９点検出されている。

青銅製品は２点である。銙帯はＳＫＭＴ第６号住居址出土で44×46×0.6㎝のほぼ正方形で、断面は台形の箱状を呈する。四隅は厚くなっている。鋺は口縁のみの同一破片が二つあり、そのうち一つは〝く〟の字状に曲っており、あるいは弁当箱状のものではとの考えもあったが、二次的曲りと思われる亀裂から緑青ができているので、他片の弯曲を推して鋺としてとりあげた。口縁に二本組の細い沈線を二組計４本めぐらしており、断面は口唇内側が肥厚している。外見は酸化銅により黒く光っている。推定口径は163㎜である。　（吉田浩明）

第4章　調査のまとめ

本遺跡の発掘調査は神林地区の県営ほ場整備事業に伴う調査であり、同地区では初めての本格的な発掘調査である。昭和57年度より始まったほ場整備事業に伴う予備調査の結果、南荒井地区では２ヶ所のかなり深い所から土器の細片が出土したのみで遺構等の確認はされなかったが、下神地区南田尻地籍では耕作土下30cmのところで土師器の出土が見られ、その下部より掘立柱建物址と思われるピットを検出した。この結果58年５月からの本遺跡の調査となったものである。

本調査では南田尻地籍で11軒、熊坂地籍では29軒、笹賀地籍では18軒、中道地籍では20軒、そして町神遺跡で１軒合計79軒の竪穴住居址が検出された。この他多数の遺構とこれに伴う須恵器坏、蓋、壺類をはじめ土師器坏、皿、埦、甕、鉢、灰釉陶器で皿、耳皿、埦、平瓶等多くの遺物が出土した。特に今回の調査で注目すべき出土遺物は、施釉陶器で三彩小壺の出土を見たことである。これらの遺構、遺物を出土した本遺跡の調査面積は２遺跡合わせて20,000m²以上になり、下神遺跡は４地籍に区分して調査を実施した。町神遺跡でも３地点で排土作業を行ない遺構の確認ができたＣ地点のみで調査を実施した。以下に項目を上げて記述し、調査のまとめとしたい。

１．住居址について

平安時代初から中頃にかけての竪穴住居址が総計で79軒確認された。検出状況は検出面までが約20～40cmで黄褐色土を呈し遺構部分には黒褐色土が入っており識別は比較的容易であったがＳＫＭＴ南東部、ＳＫＫＳ北側は一部礫層上にかかる遺構について困難なところもあった。住居址の切合についてはＳＫＭＴ３・４号住、ＳＫＫＳ８～10号29号住、14・15号住、21・22号住、23・27号住のみでＳＫＳでは１軒もなく短い時期の集落であったことを思わせる。最も大きいものはＳＫＳ18号住で平面形は方形を呈し11.3×9.1ｍ面積は88.8m²、東壁のかまど南側に３×２ｍの長方形を呈する張出し部が検出された。最小のものはＳＫＫＳ29号住で平面形は方形を呈し３×3.2ｍ、面積は9.6m²であり他の住居址は４～５×６ｍ前後のものが多い。かまどの構築は東壁にあるものは34軒、西壁にあるものは17軒、北壁は２軒であり、ほとんどが東及び西向きで壁の中央部付近に構築されていた。壁角に構築された例はＳＫＭＴ７号住に見られたが中央部にもかまどがあり編年上の時期差は無いと思われる。かまどの構築材料は粘土のみのもの、粘土と石のもの、石のみのものとがあり石のみで構築された石組かまどと他との時期的な差は今後の検討課題であるが石組かまどを持つ住居址は他との切合関係、出土遺物から見てやや新しいものと思われる。また他の住居址と比較して浅く住居址上部が削平されて石組が壁より出ているものが見られた。柱穴についてはＳＫＫＳ１、10号住を除いては柱穴と確認できるものがほとんど無かった。このことについては竪穴住居址上部構造上の問題となり今後の検討課題の１つである。壁の残存高は割合良好でＳＫＭＴ５・６号住は

70cm以上あり、また他も平均残存高は40cm以上であるが、時期のやや新しいものの中に比較的浅いものが見られる。

2．遺物について

出土遺物の中で土器については別項で述べられているので詳述は避けるが今後の問題として1点だけ述べておきたい。調査地区内の地籍別の土師器甕出土状況について見るとＳＫＭＴ４号住出土の甕（９、10）は当地方での出土例が少ないものであるがＳＫＭＴの殆どの住居で出土した。しかしＳＫＫＳ、ＳＫＳでは破片が出土したのみで殆ど見られなかった。このことについては遺物の仔細な検討が済まないので時期差については明確ではない。次にＳＫＫＳ10号住出土の三彩小壺(119)である。口径3.6cm底径4.2cm器高3.7cmで外面は三彩の釉がかかり内面は薄い黄灰色を呈する。胎土は軟質で薄茶色であり残りは3分の2程である。底部に多少歪が見られ、一部高台より出ていで坐りが悪い。出土状態は10号住北側の床面直上に、口縁を北側にした状態で出土した。伴出遺物は須恵器長頸壺(116)がある。10号住は検出された住居址の内でも2番目に大きく、　また柱穴も4本確認された。三彩小壺はもちろん生活用具ではなく当時の政治・文化の中心地から権力の象徴としてもたらされたものであろう。県内でも、2遺跡で出土が確認されている。(1)他には佐波理鋺の破片と青銅製の銙帯の出土を見た。双方ともこの地方では珍らしい遺物である。佐波理鋺はＳＫＳ９号住床面より出土した。類例は正倉院御物や法隆寺等で見られる。銙帯はＳＫＭＴ６号住の覆土上面で出土した。このため確実に6号住に伴うものかどうかは不明である。形状は方形で巡方と思われる。

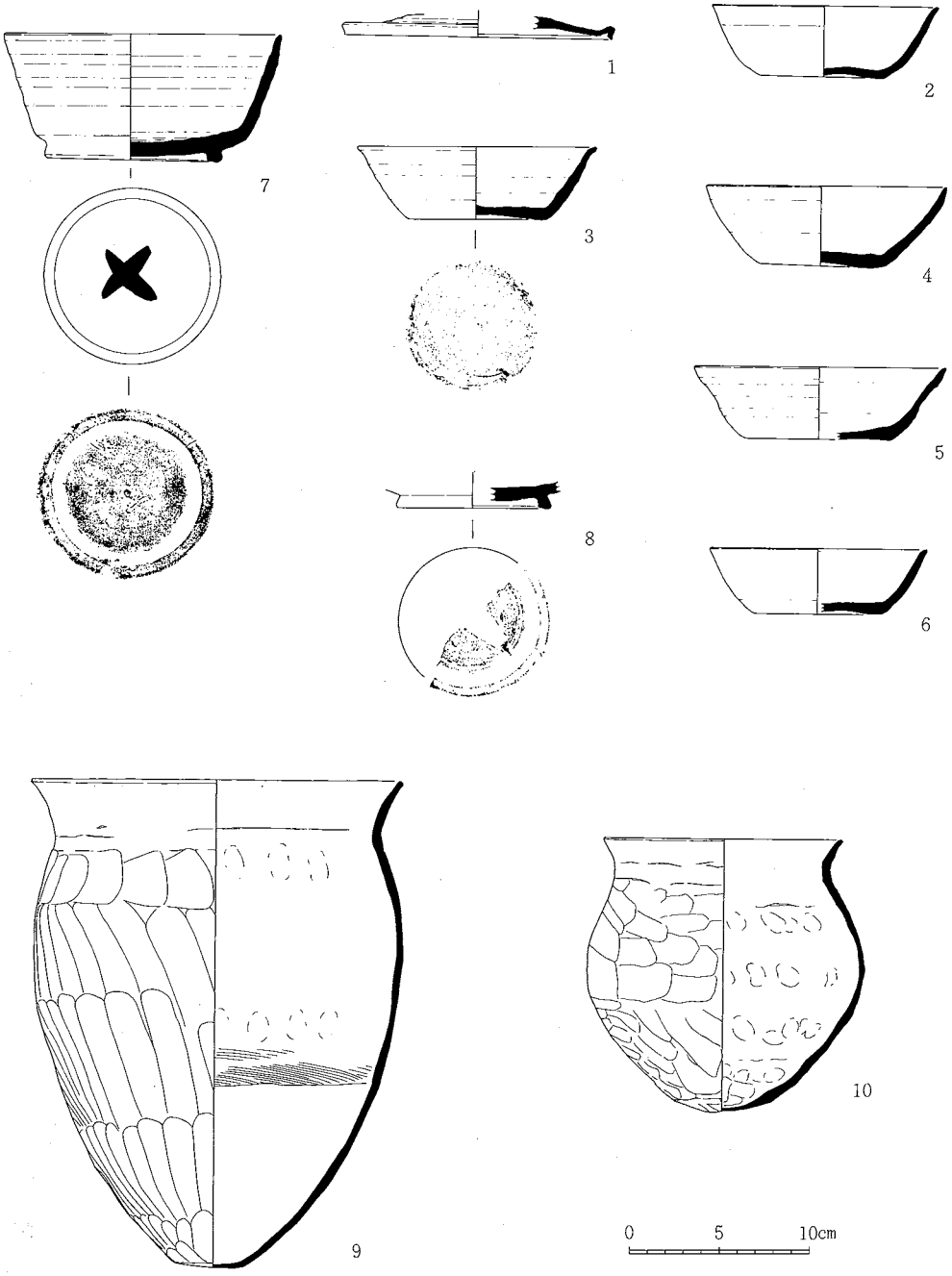
3．調査方法及び調査体制について

今回の調査は県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査である。この調査の目的の一つに開発により破壊される遺跡の記録保存があり文化財保護の一つである。このためほ場整備のような大きな事業ではこれにかかる範囲全部を調査し記録保存するのが望ましい。しかしこの目的を追求すればするほど本来の意味を失うことになるのを今回の調査で痛感した。①時間的な制約、②調査をする指導的体制の不備、③人手不足等は埋蔵文化財を保護する立場を失なわせている大きな原因であるように思う。今回でもＳＫＮＭ（中道）に対する処置はこれらが原因であるが結果は文化財保護の精神を忠実に守ることとなった。今後も現在の状態が続くとすれば調査の性格を遺跡の範囲確認のためのものにし、破壊される所のみ最少限の範囲で調査を行なわないと対応できないと思う。本書の作成にあたっては計5遺跡の調査及び報告書作成と重って充分に記述できなかった点お詫び申しあげる。

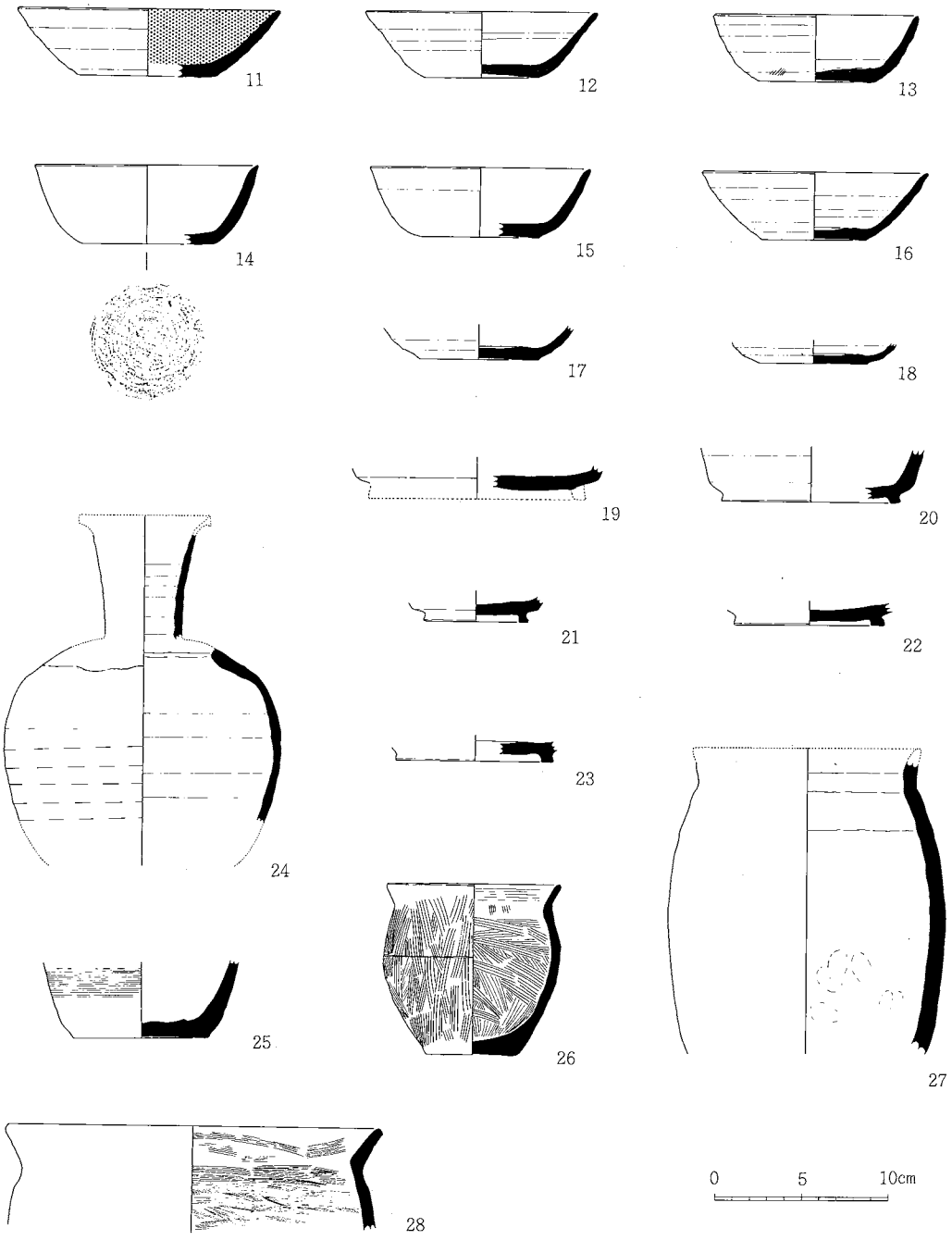
最後に炎天下を長期にわたり調査に参加し御協力いただいた調査員、調査補助員、神林地区の地元の皆様、また連日遅くまで本書の作成に御協力いただいた学生諸君に対して衷心より感謝申し上げます。

（神沢昌二郎）

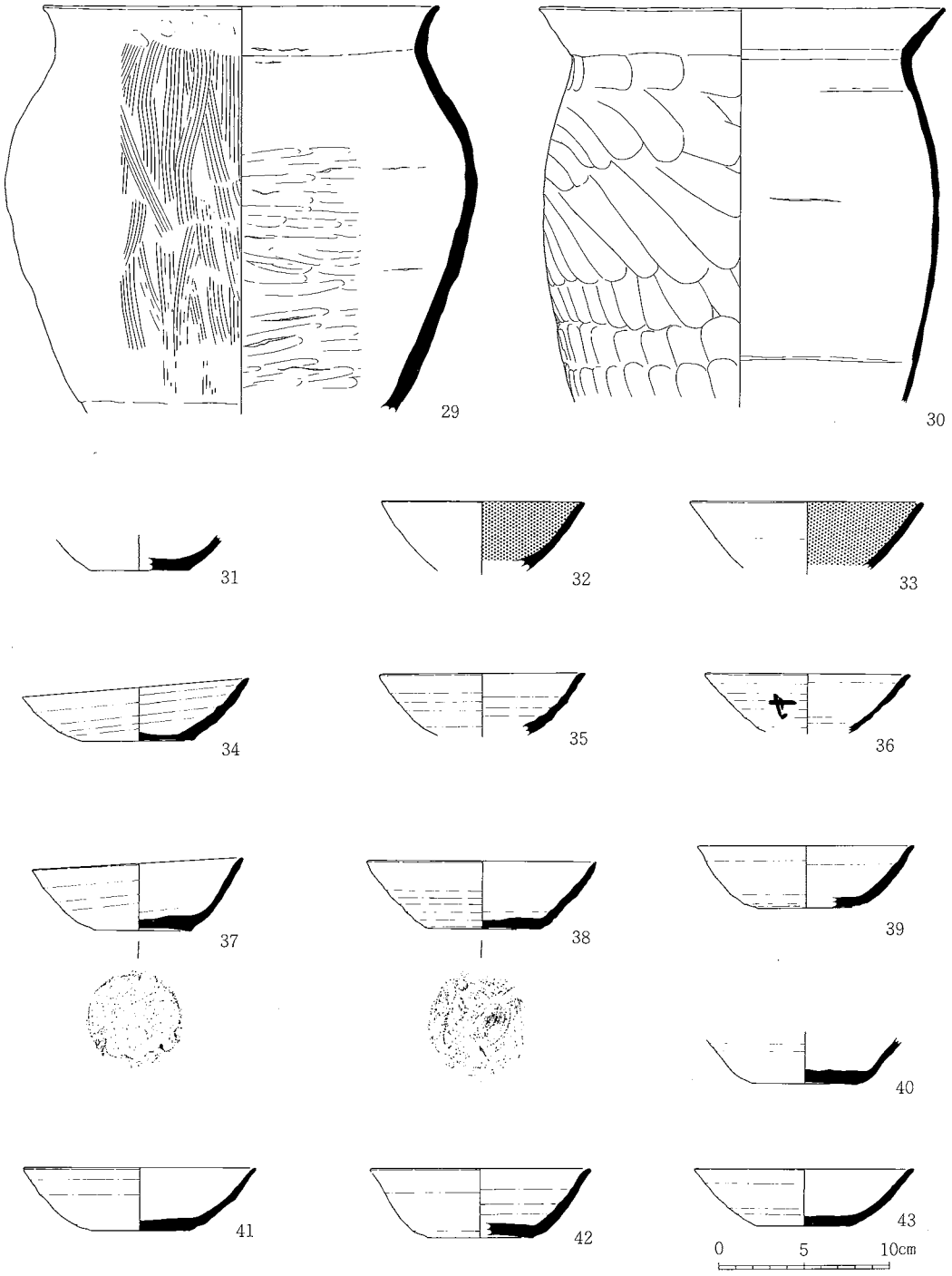
参考文献　(1)長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－上伊那郡箕輪町－昭和48年度
長野県史　考古資料編　全一巻(一)遺跡地名表　佐久市　中道遺跡　昭和56年



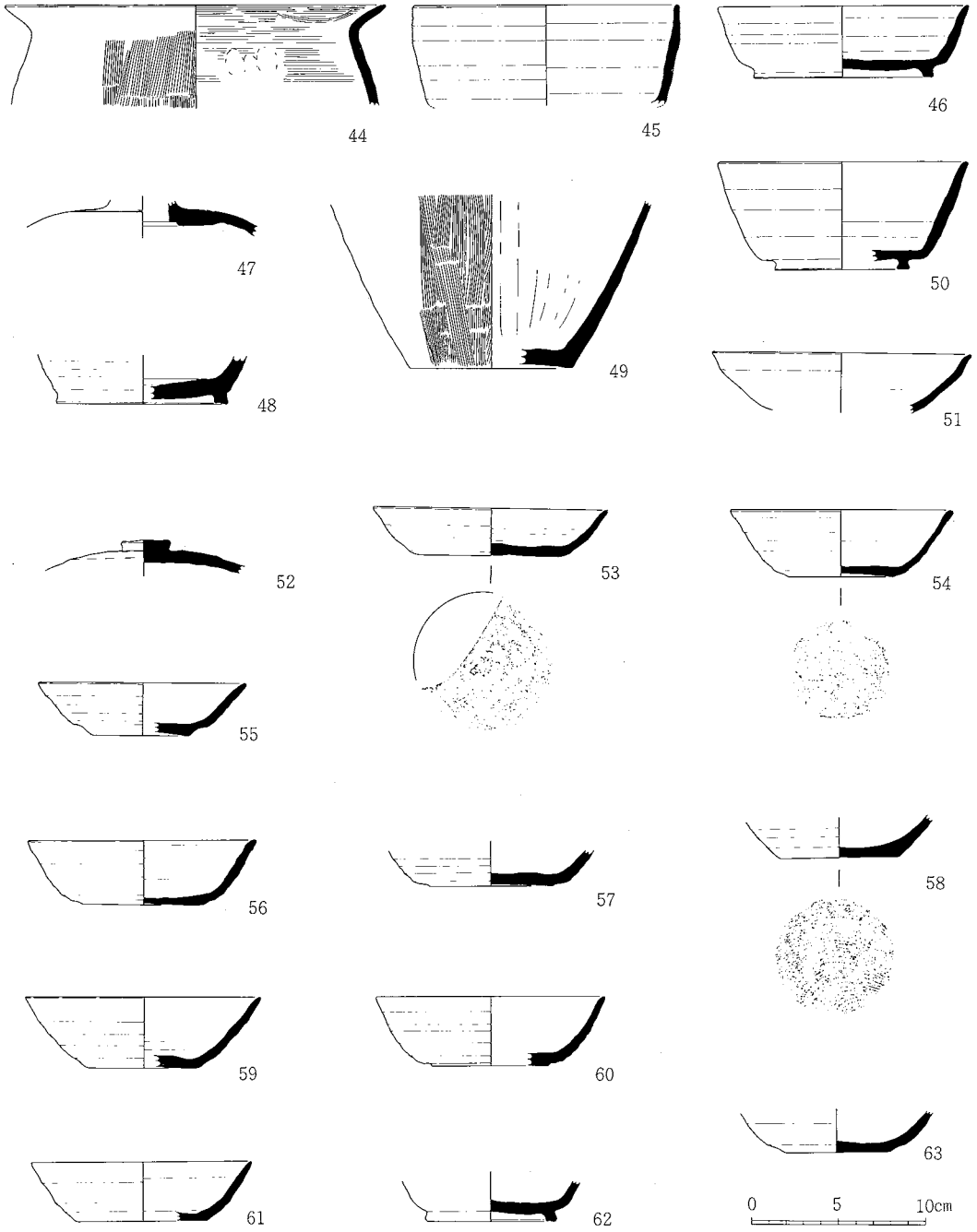
第52図　出土土器（ＳＫＭＴ第４号住居址）



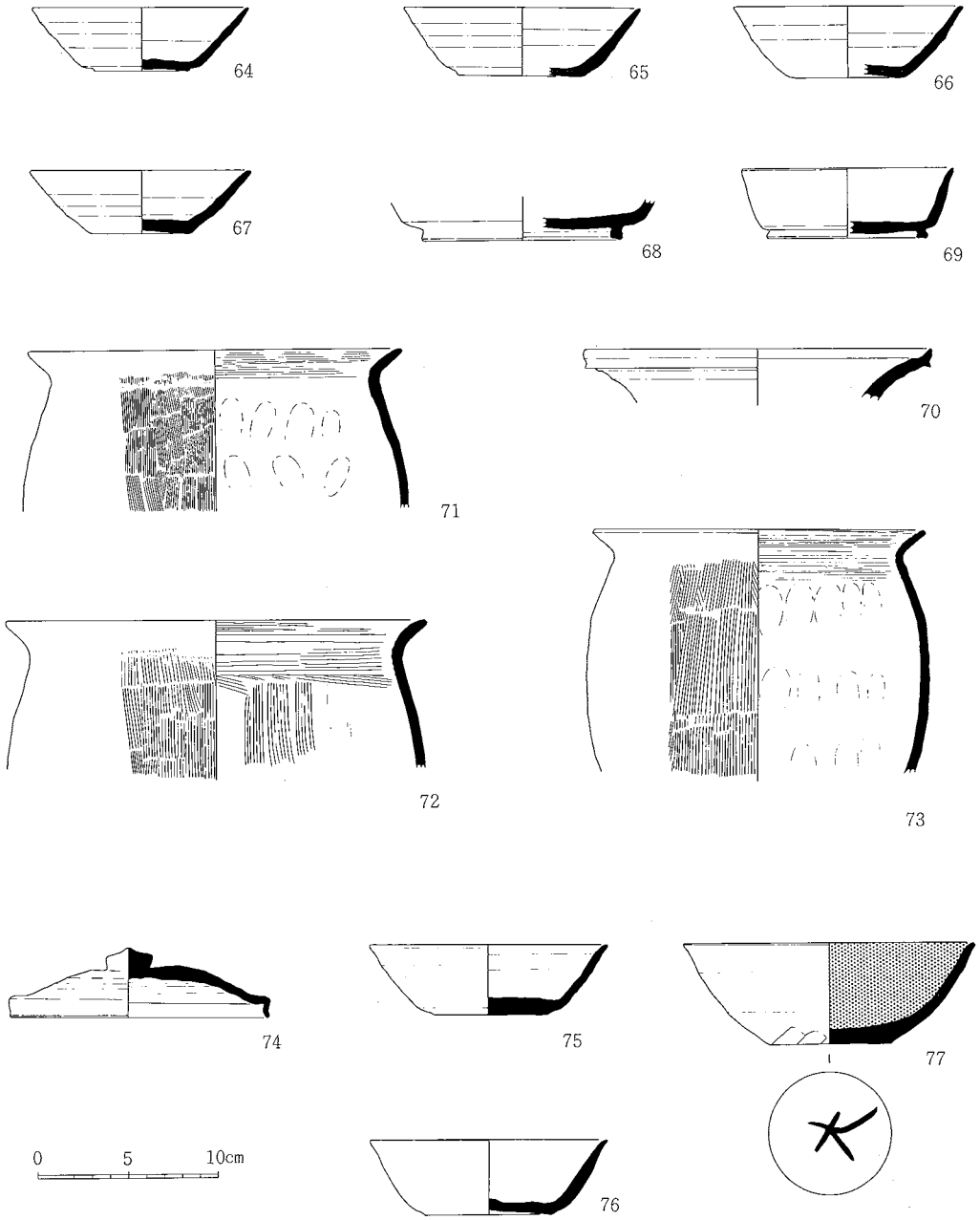
第53図　出土土器２（11～24：ＳＫＭＴ第６号住居址、25～30：ＳＫＭＴ第７号住居址）



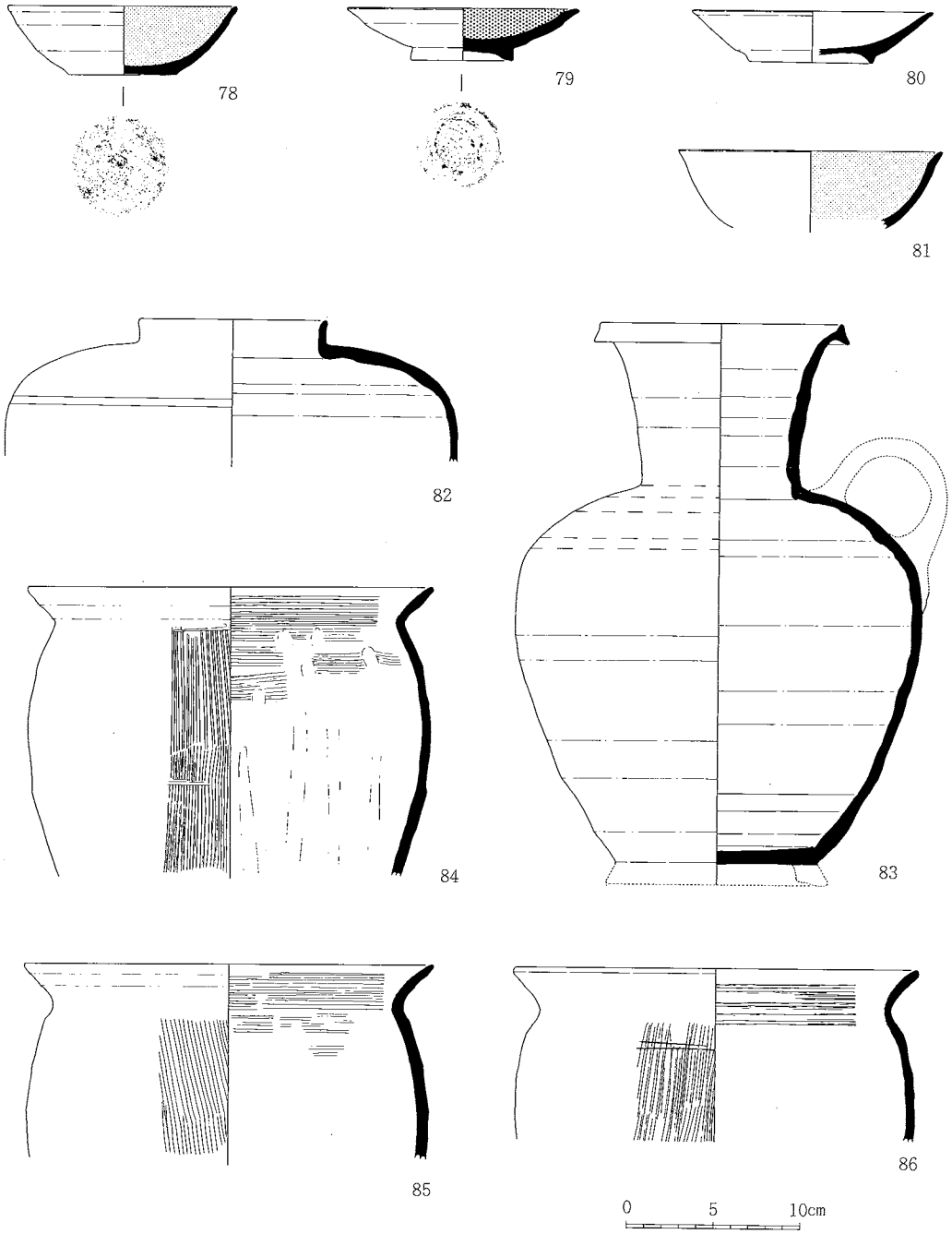
第54図　出土土器３（29・30：ＳＫＭＴ 第７号住居址、31～43：ＳＫＭＴ 第８号住居址）



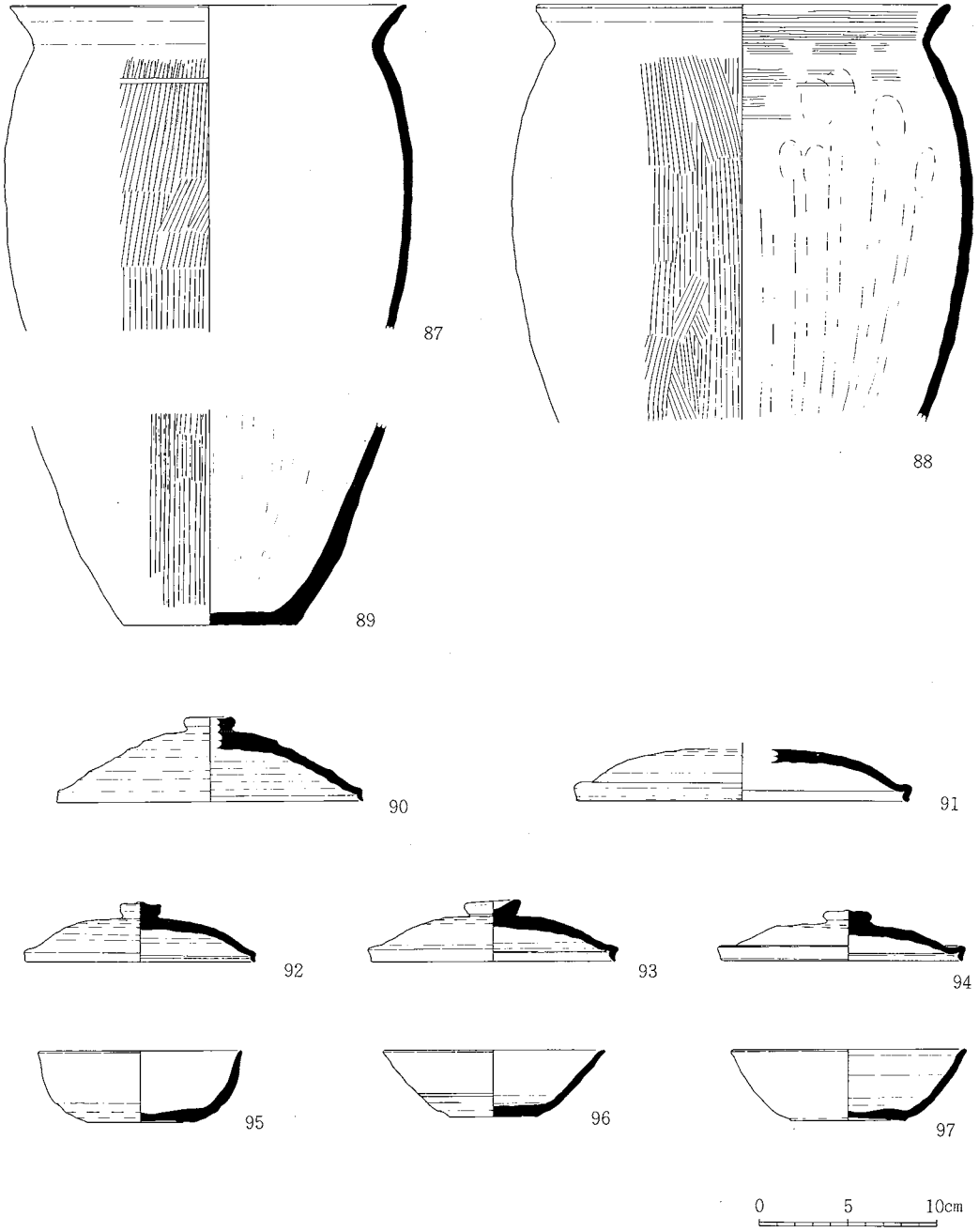
第55図　出土土器４（44～51：ＳＫＭＴ 第８号住居址、52～63：ＳＫＭＴ 第９号住居址）



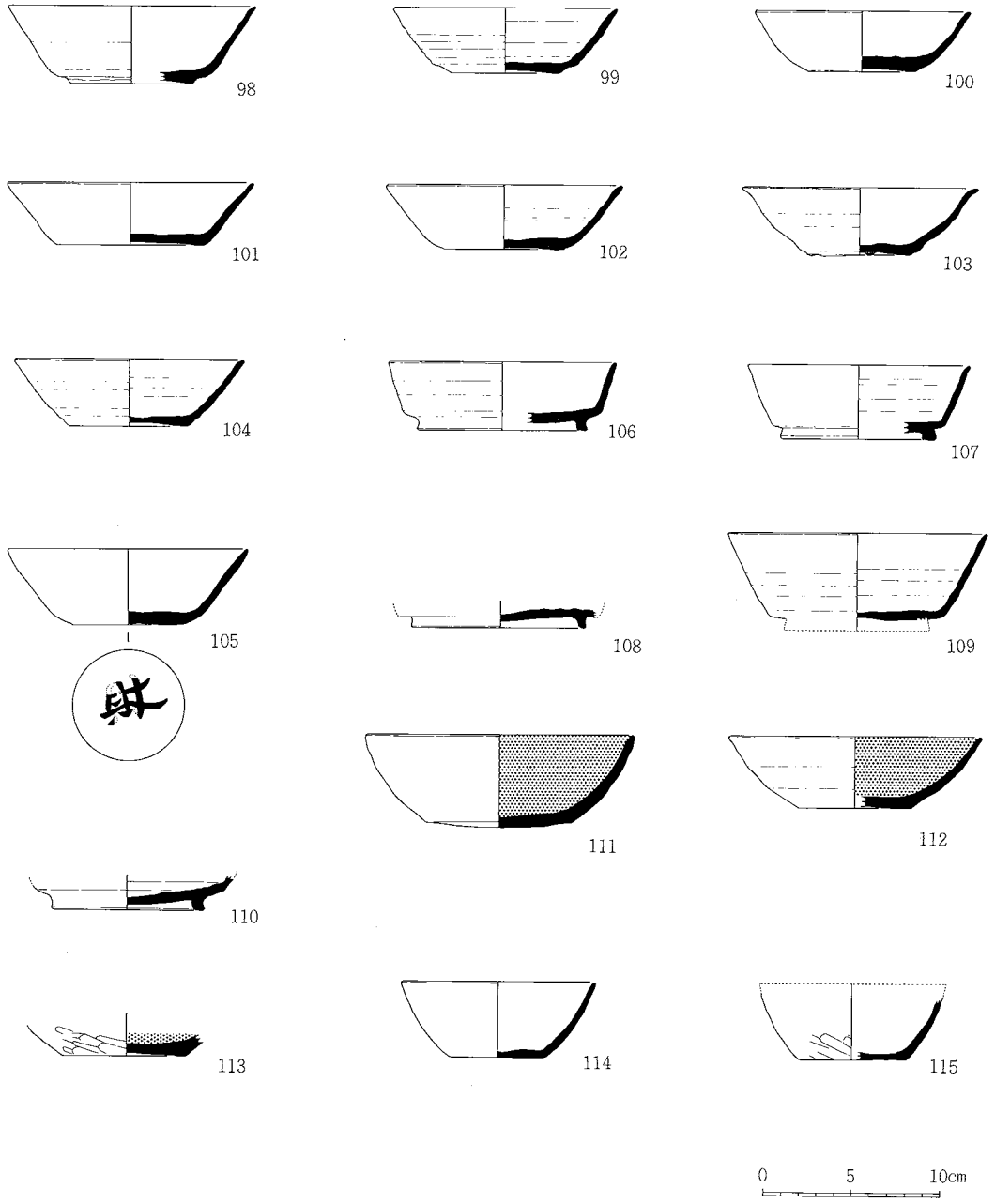
第56図　出土土器５（64～73：ＳＫＭＴ 第10号住居址、74～77：ＳＫＭＴ 第11号住居址）



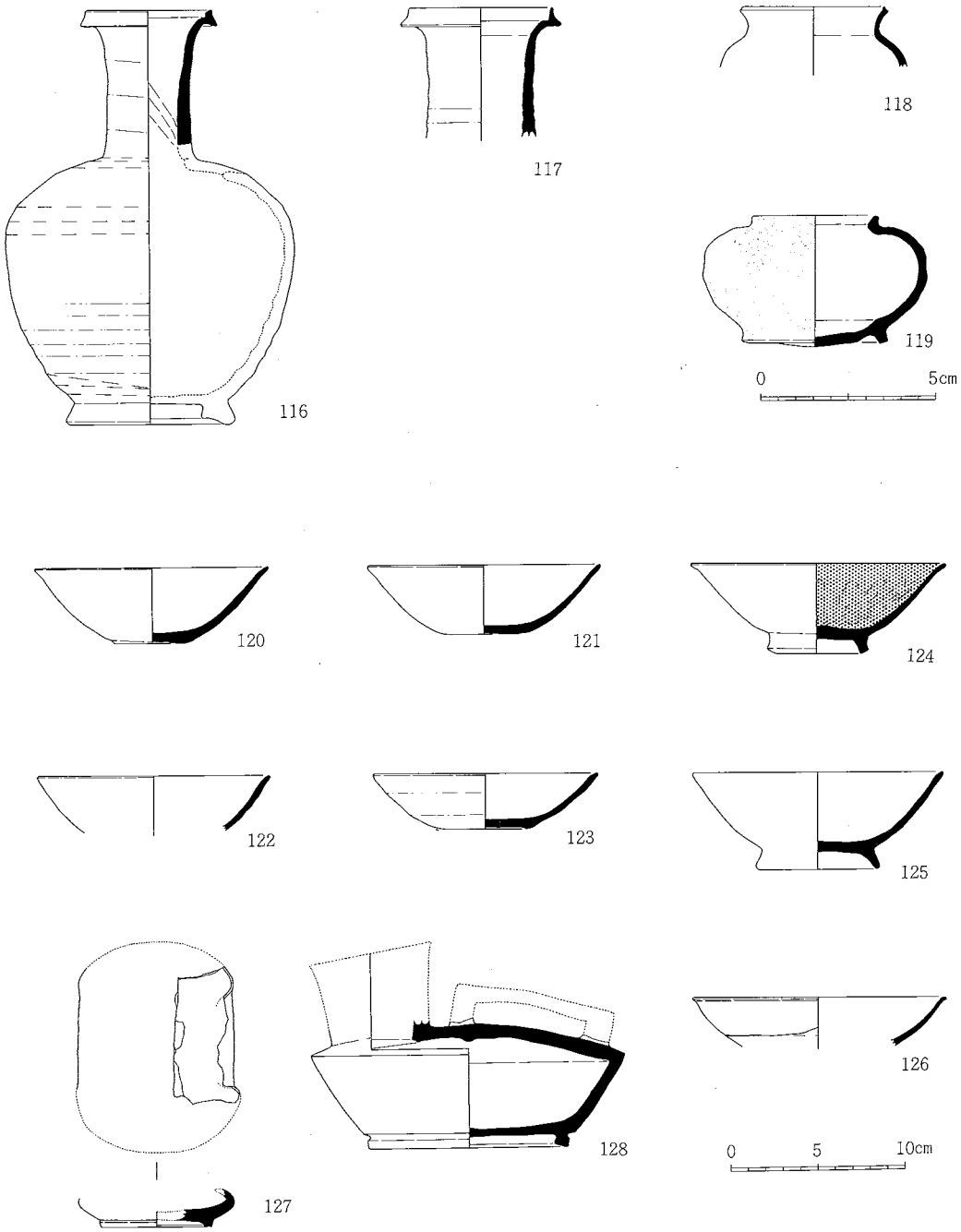
第57図　出土土器６（ＳＫＫＳ 第２号住居址）



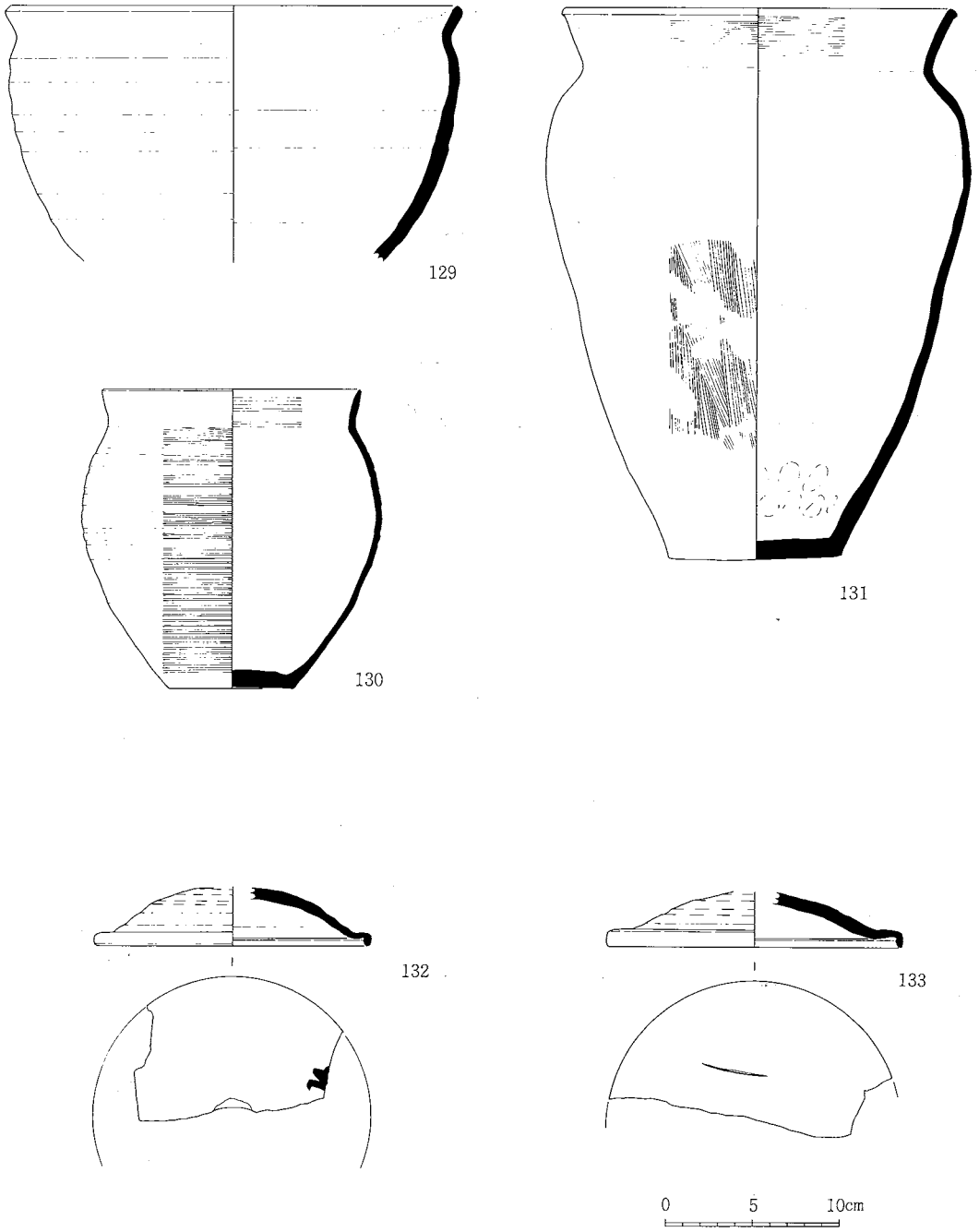
第58図　出土土器７（87～89：ＳＫＫＳ 第２号住居址、90～97：ＳＫＫＳ 第10号住居址）



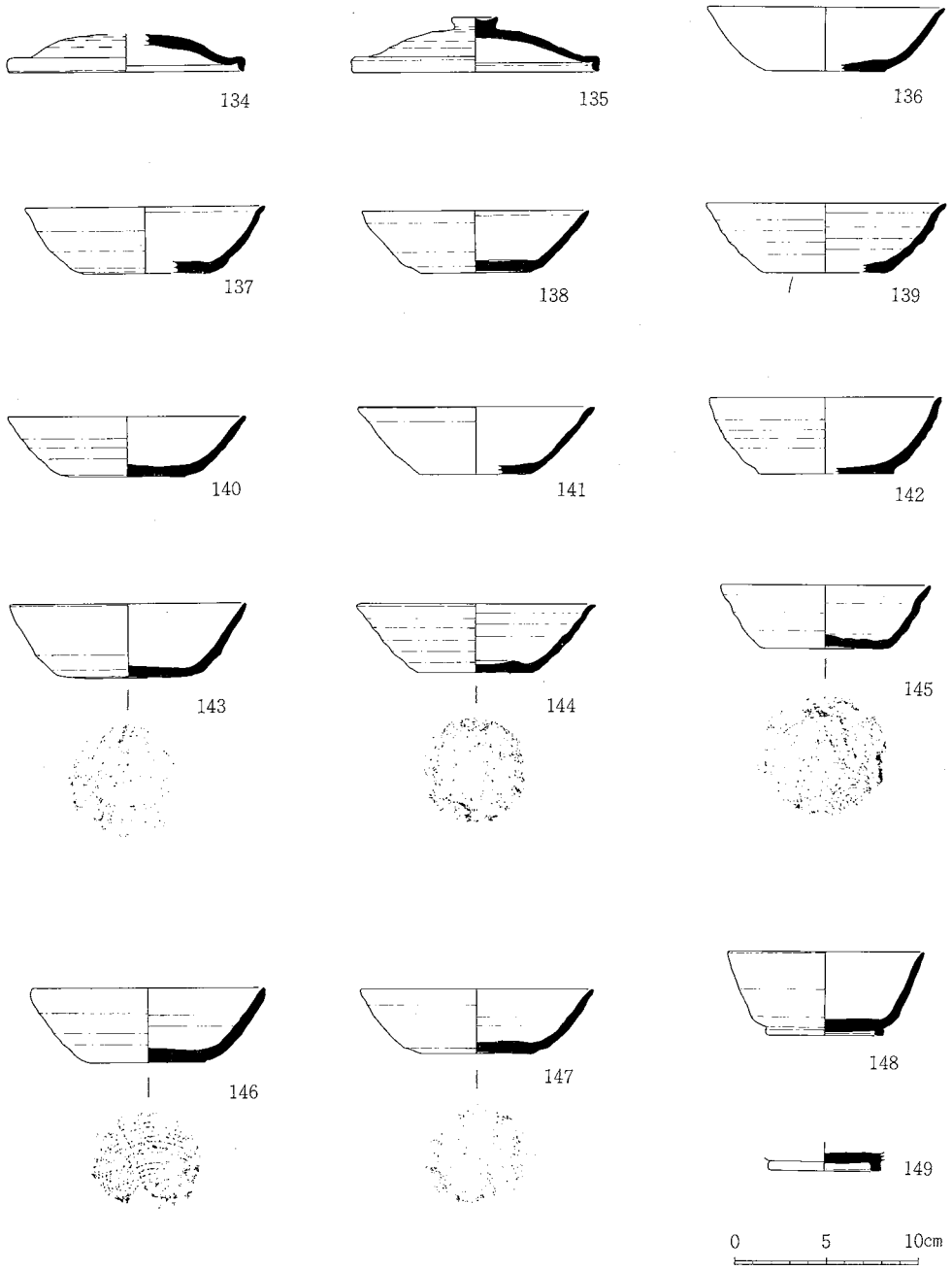
第59図　出土土器８（ＳＫＫＳ 第10号住居址）



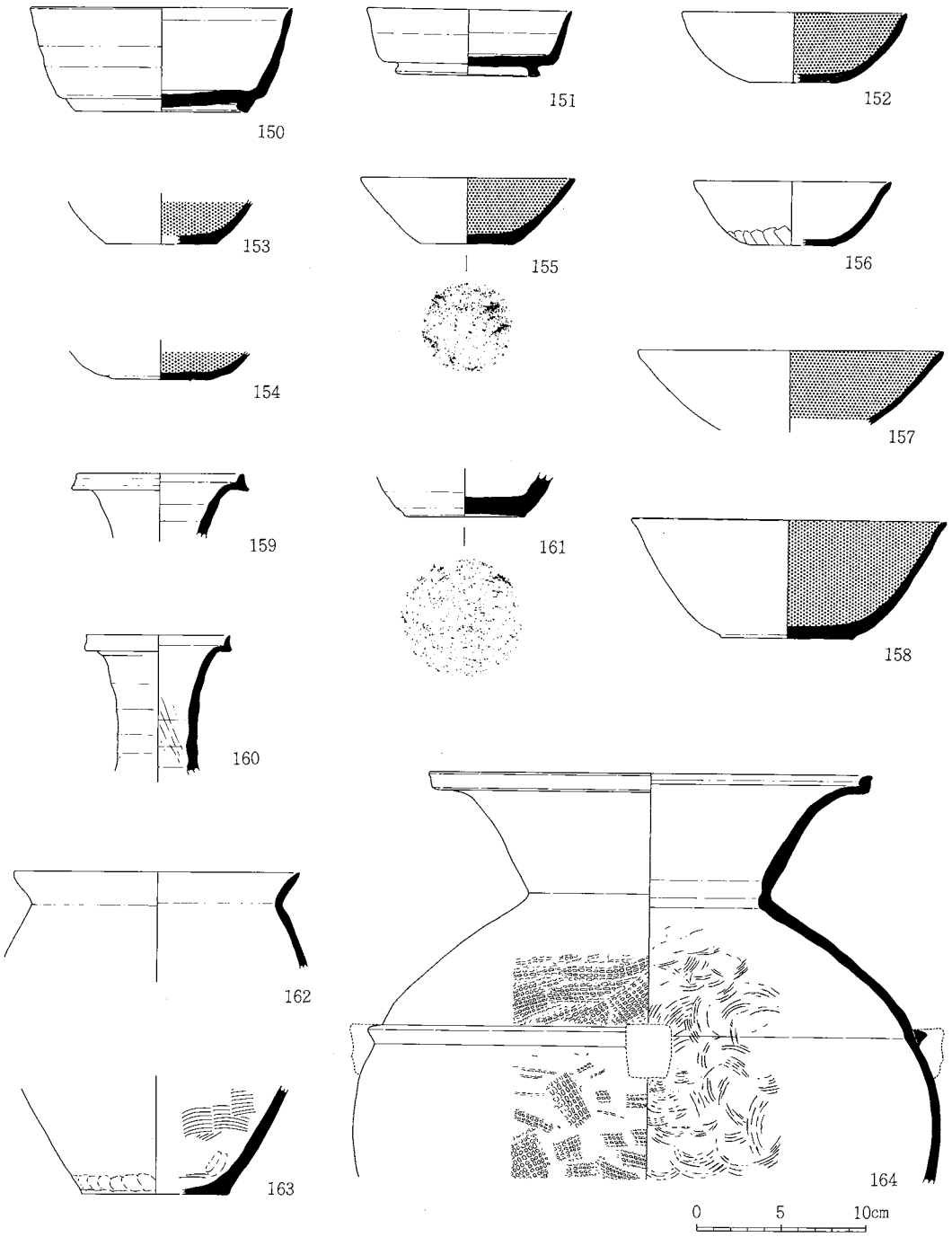
第60図　出土土器９（116～119：ＳＫＫＳ 第10号住居址、120～128：ＳＫＫＳ 第12号住居址）



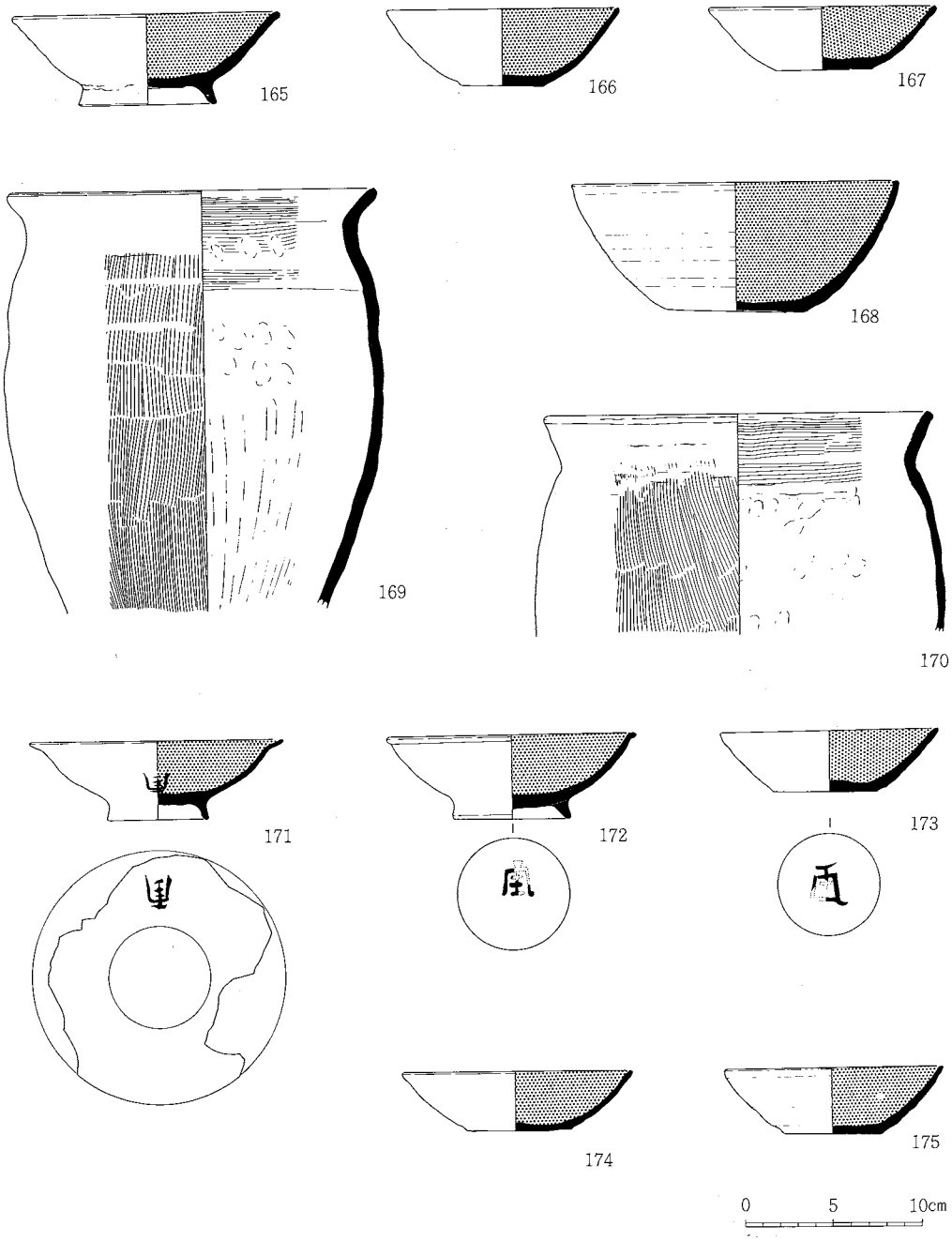
第61図　出土土器10（129～131：ＳＫＫＳ 第12号住居址、132・133：ＳＫＫＳ 第14号住居址）



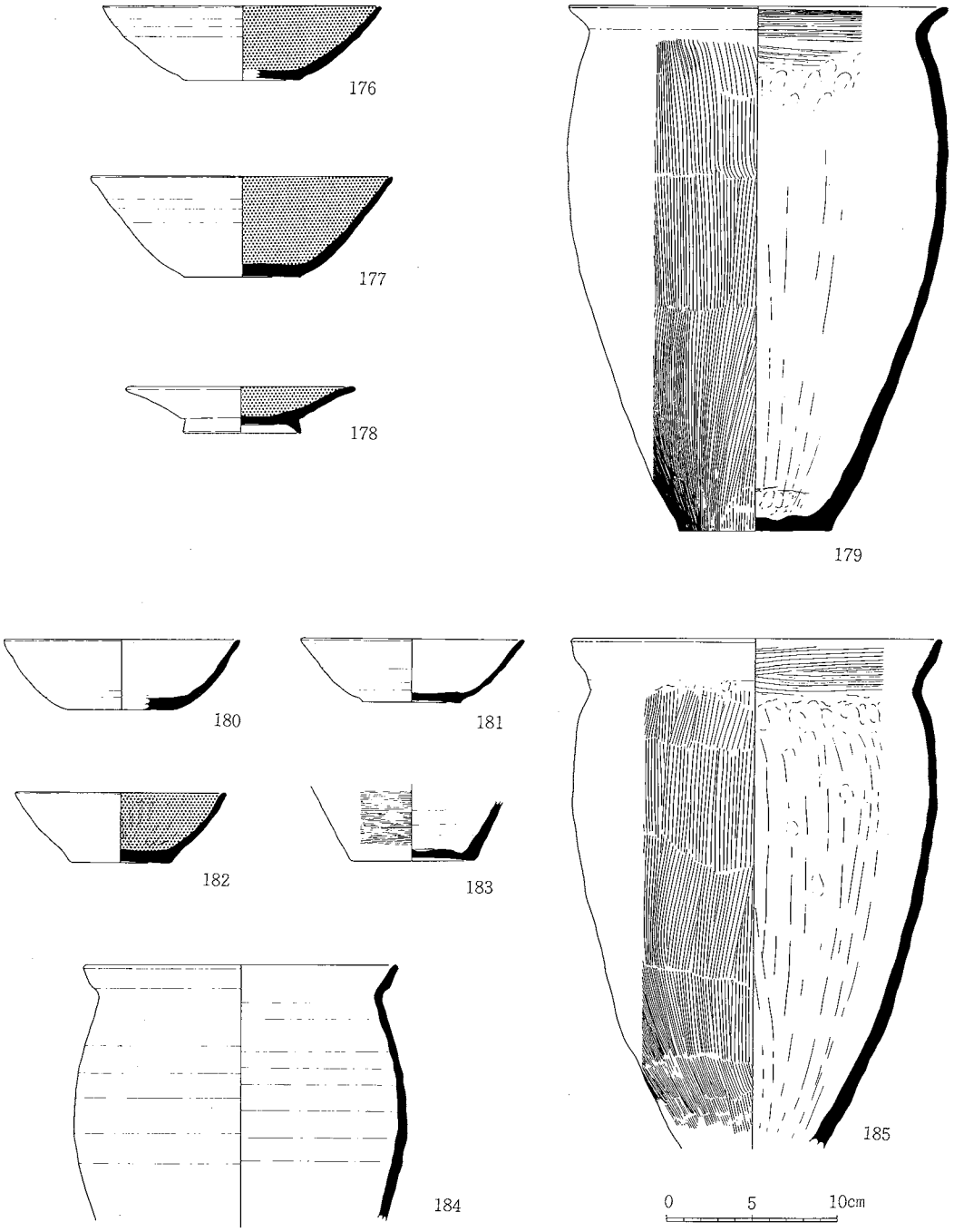
第62図　出土土器11（ＳＫＫＳ 第14号住居址）



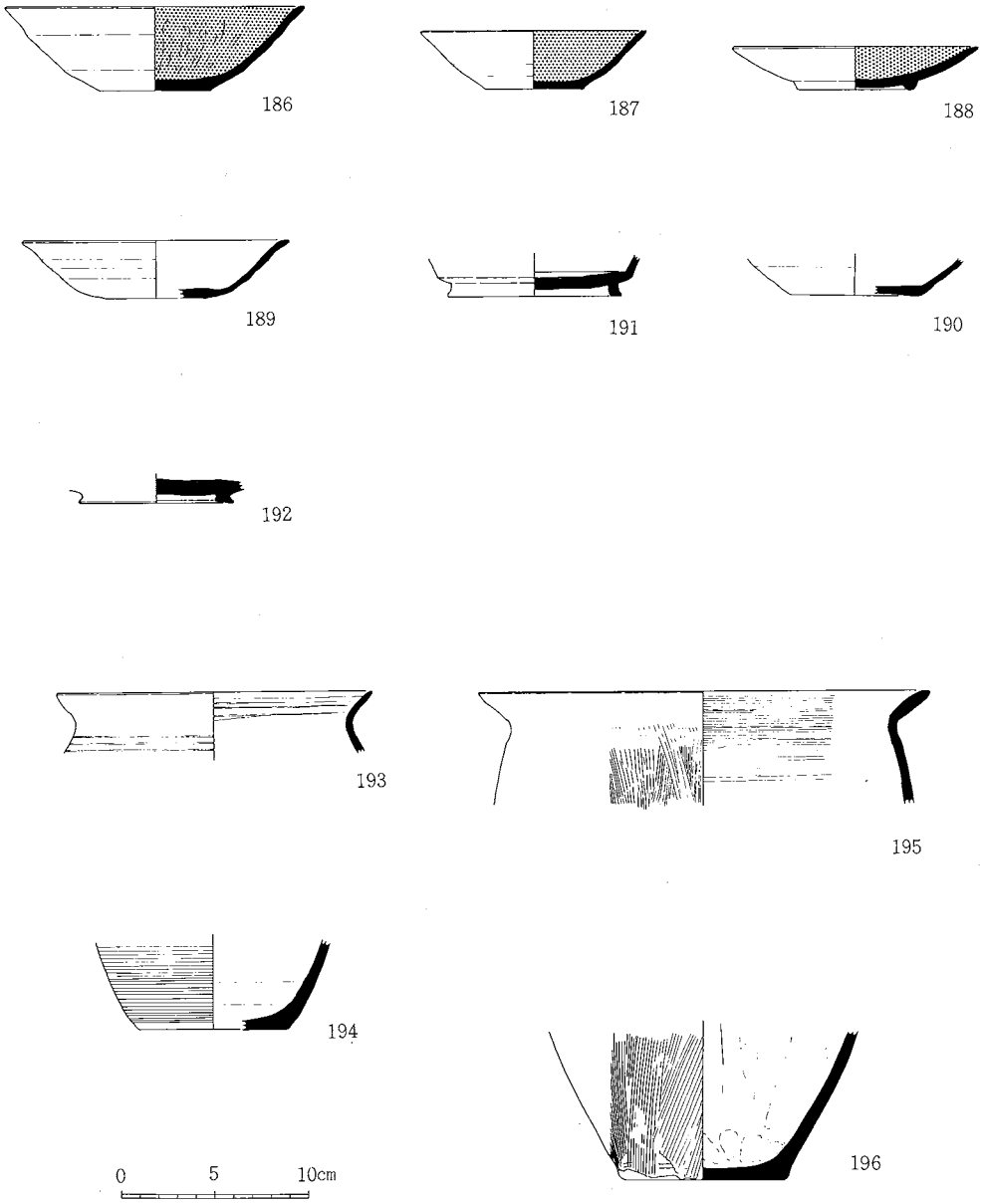
第63図　出土土器12（ＳＫＫＳ 第14号住居址）



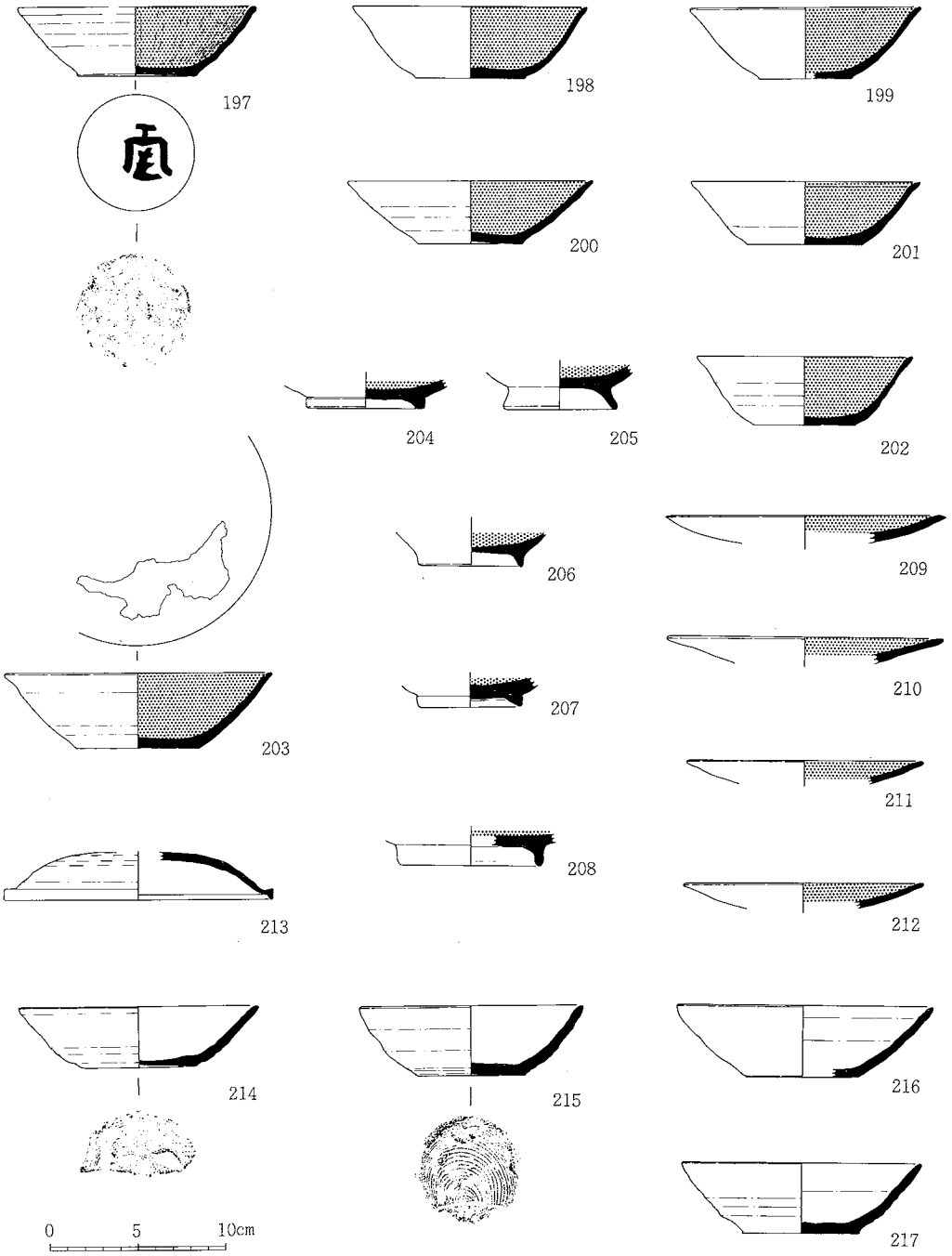
第64図　出土土器13（165～170：ＳＫＫＳ 第17号住居址、171～175：ＳＫＫＳ 第25号住居址）



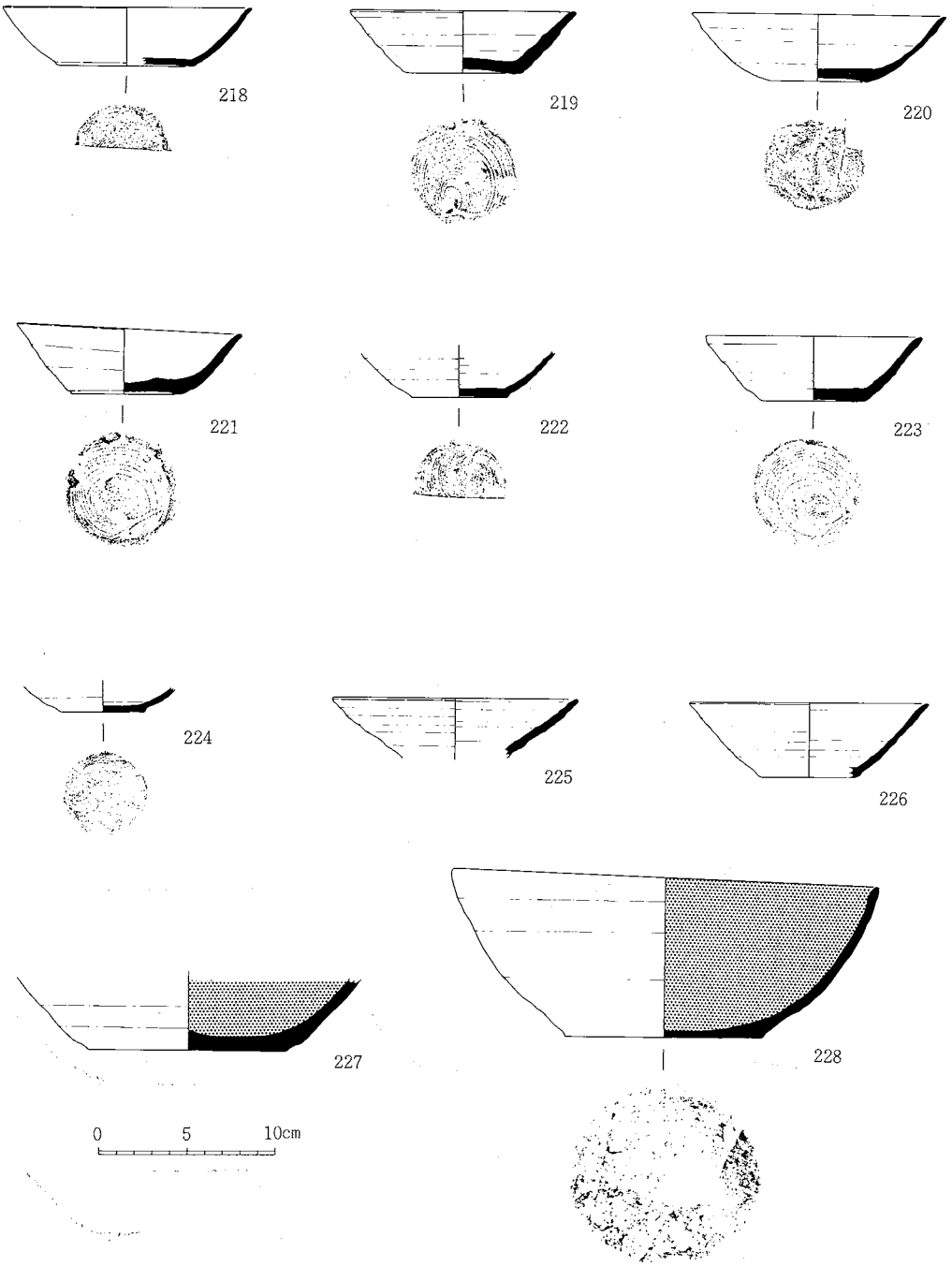
第65図　出土土器14（171～174：ＳＫＫＳ 第25号住居址、175～180：ＳＫＫＳ 第29号住居址）



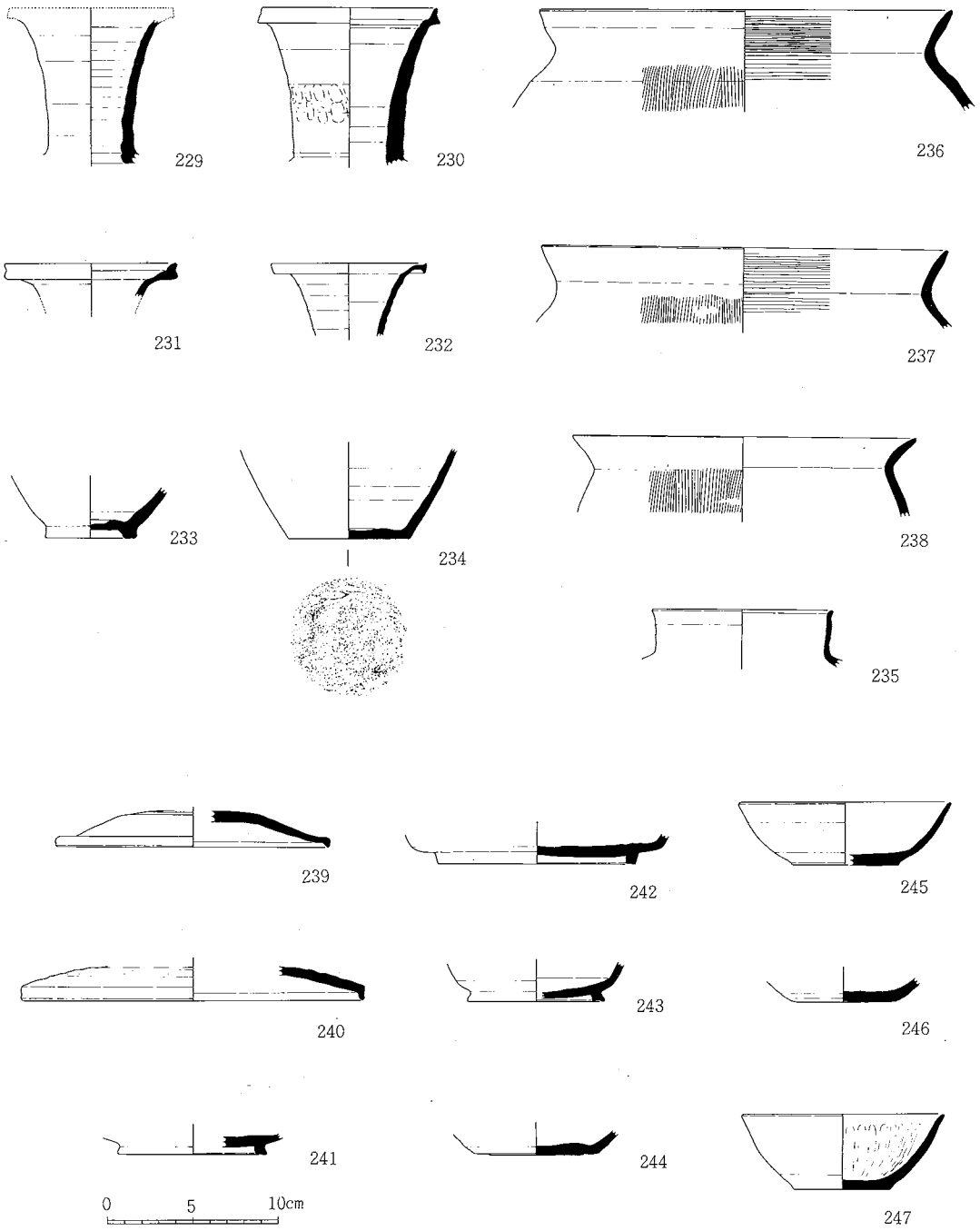
第66図　出土土器15（ＳＫＳ 第８号住居址）



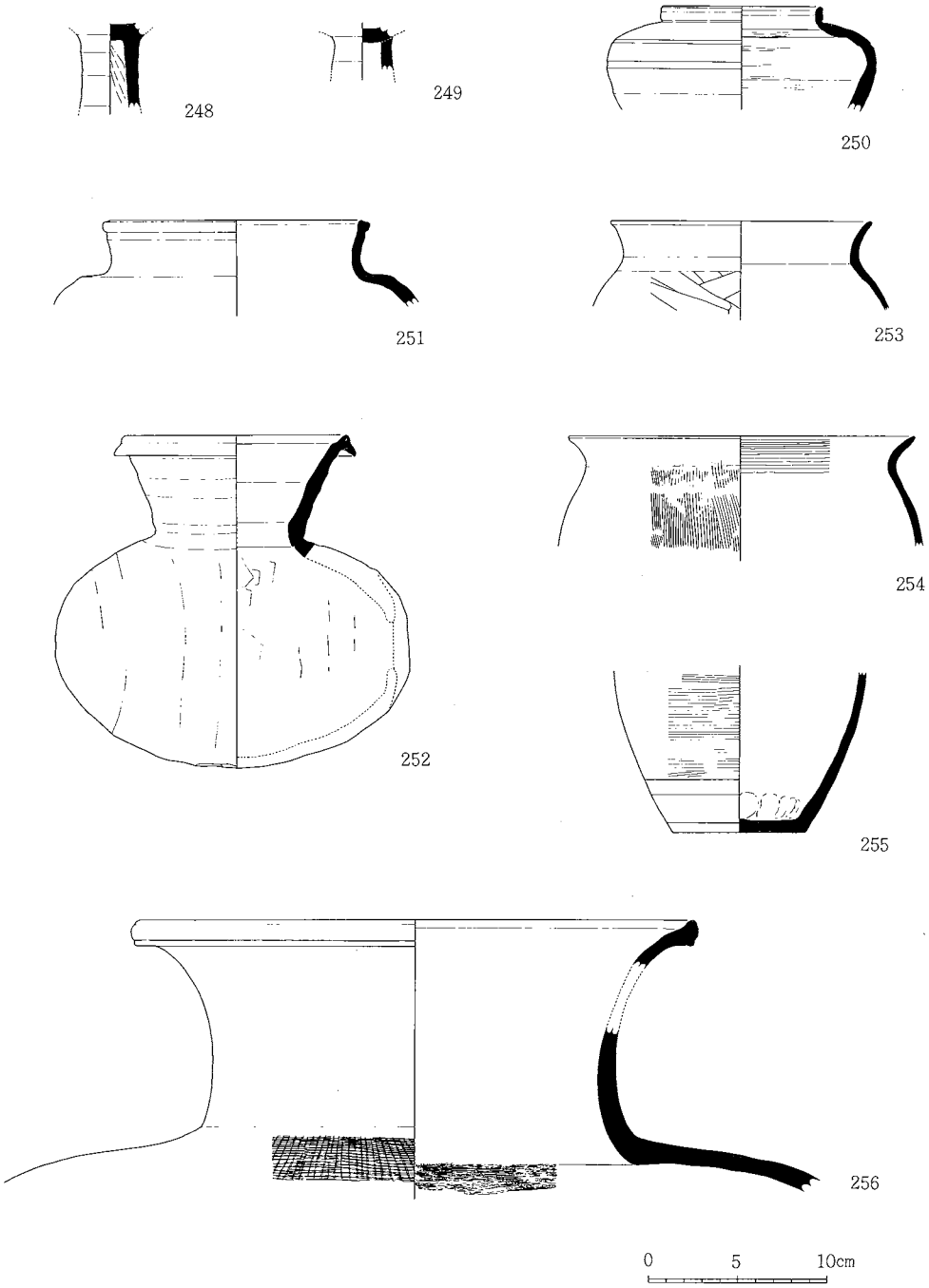
第67図　出土土器16（ＳＫＳ 第９号住居址）



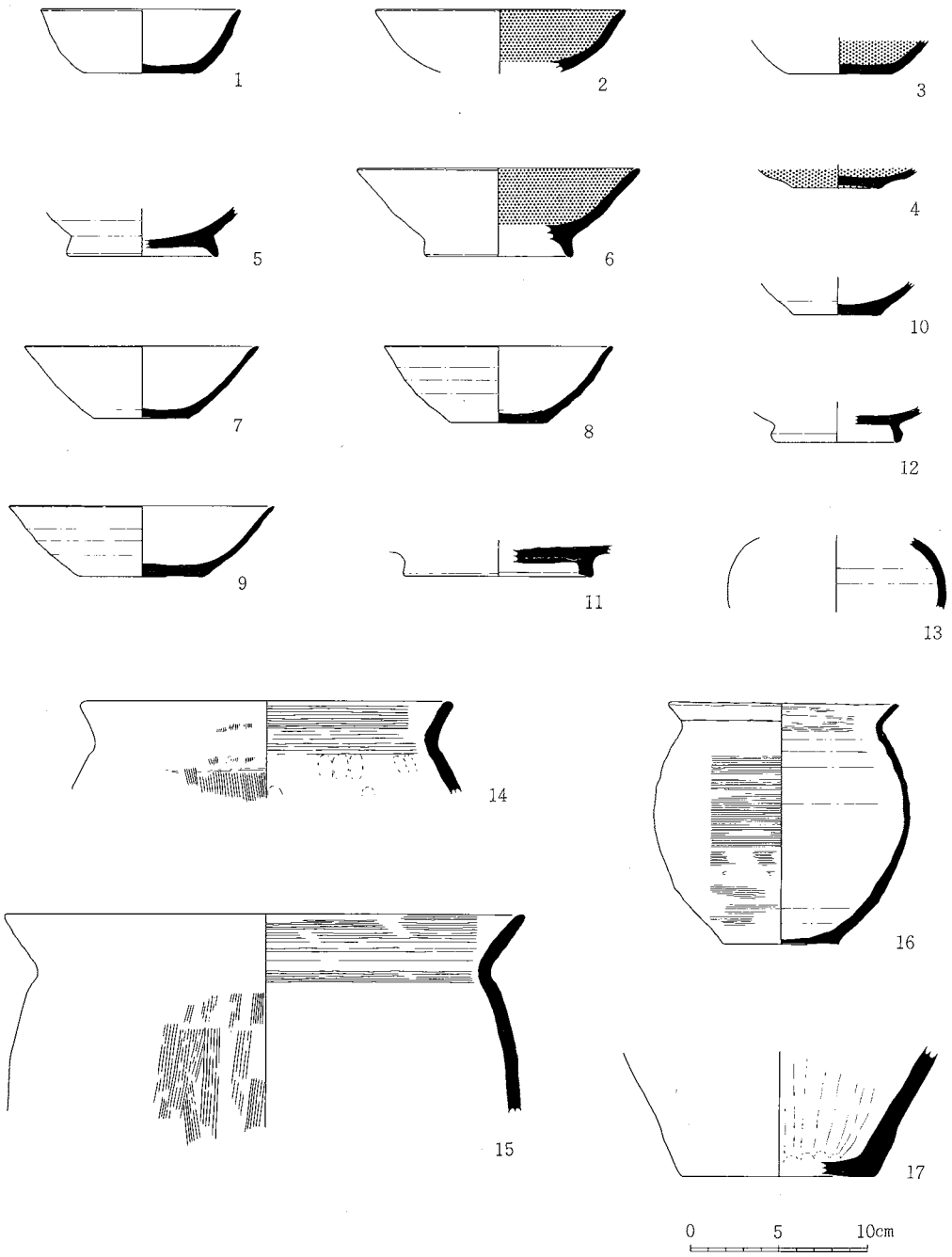
第68図　出土土器17（ＳＫＳ 第９号住居址）



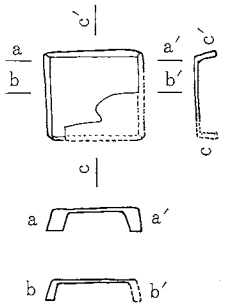
第69図　出土土器18（229～238：ＳＫＳ 第９号住居址、239～247：ＳＫＳ 第16号住居址）



第70図　出土土器19（ＳＫＳ 第16号住居址）

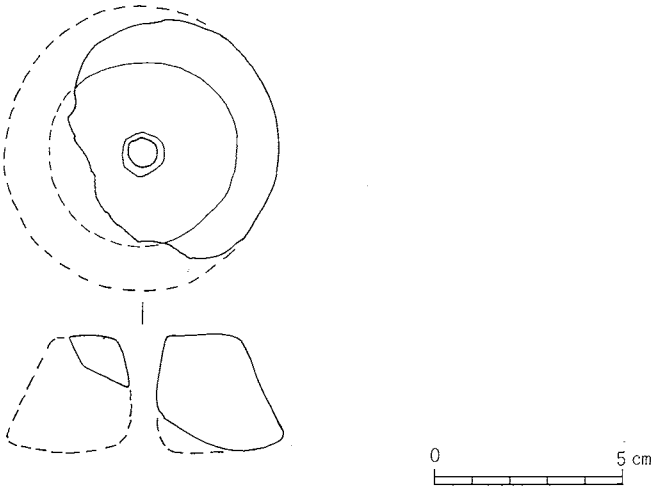


第71図　出土土器20（ＭＫ 第１号住居址）



SKMT第6号住居址出土鋳

SKS第9号住居址出土　佐波理鋺



SKKS第23号住居址出土　紡錘車

第72図　金属製品・土製品実測図

第2表　ＳＫＭＴ住居址一覧表

番号	調査地区内の位置	主軸	平面形	大きさ（m）（主軸×　）	壁高（cm）	ピット	カマド 位置	カマド 状態	遺物	摘要
1	南東	W	方形？	？×2		2	西壁	焼土のみ		
2	南	N10°W	長方形	4.1×3.6	43	2				
3	南西隅	N84°W	方形	3.8×3.8	21	1	東壁	粘土		4住に切られる
4	南西隅	N88°W	不整方形	4.1×4.0	48	1	西壁	石を持つ	1～10	3住を切る。カマド部分土壙2に切られる
5	南西	N79°E	隅丸方形	3.6×3.7	72	2	東壁	壁外へわずか張出		幅3～15cm深5～10cmの周溝をもつ
6	西	E	隅丸方形	4.5×4.3	73	2	東壁		11～24	ピットが2有り。煙道7住に接する
7	中央	N80°W	隅丸方形	4.2×3.9	54	1	西北壁隅	粘土	25～30	ピットが1有り。
8	中央東寄り	N87°W	隅丸方形	3.9×4.1	51		西壁	壁外へ張出し石を持つ	31～51	
9	北東	S89°E	不整方形	4.6×4.3	54	3	東壁	粘土	52～63	床面が東側に段があり一段高い
10	中央北寄り	N85°W	長方形	4.5×5.1	50	1	西壁	粘土	64～73	カマドの横にピット有り。
11	北	N85°W	不整方形	4.0×4.2	49	2	西壁	粘土	74～77	カマドの横にピット2有り

ＳＫＫＳ住居址一覧表

1	南東	E	方形	4.6×4.5	26	4	東壁	焼土わずかに張出す		柱穴が4本、西、北側に周溝
2	中央西寄り	N11°W	長方形	3.3×2.8	43	2	北壁	壁外へ張出す	78～89	他の住居址に切られていると思われるがプラン不明
3	西隅	N76°E	方形	3.4×3.3	42		東壁	粘土、石を持つ		
4	西隅	N86°E	方形	3.8×3.8	20	4	東壁	壁外へ張出す		
5	西	N89°E	長方形	4.2×4.8	45		東壁	壁外へ張出す		
6	南西	N58°W	隅丸方形	3.4×3.3	26		西壁			
7	西	N86°E	方形	4.7×5.2	37	1	東壁	石を持つ		17住に切られる。
8	南西	不明	方形	6.0×5.7	35					9住に切られる、10住を切る。
9	南西	S89°E	方形	5.4×5.2	34		東壁	石を持つ		8住を切る
10	南西	S86°E	方形	6.6×7.0	38	9	東壁	石を持つ	90～119	29住と重る。8住に切れる。北側床面より三彩小壺
11	南西	N85°W	方形	3.3×3.4	41		西壁			
12	南西	S87°E	方形	4.1×4.1	32		東壁	石を持つ	120～131	カマド周辺に遺物多し
13	南西	N88°W	隅丸方形	3.3×3.4	32		西壁	石を持つ		
14	南西	E	方形	5.6×5.6	43	2	東壁	焼土、石を持つ	132～164	15住に切られる。南側に張出し部。
15	南西	N83°W	隅丸方形	3.4×3.7	44		西壁	石を持つ		14住を切る。10住に隣接。
16	西	N87°E		？×3.7	28		東壁	石を持つ		カマド周辺に骨片。西側は調査区域外・南側周溝
17	西	S82°E	方形	？×3.8	20		東壁	石組	165～170	7住を切る。西側は調査区域外
18	南西隅	S85°E	方形	5.2×5.2	40	5	東壁	壁外へわずか張出		
19	東隅	S46°E	方形	4.0×3.9	47		東壁	粘土		南側に溝状の掘込みあり
20	東	S73°E	方形	4.8×4.8	65	5	東壁	石を持つ		
21	東	S87°E	方形	4.0×4.0	52		東壁	壁外へ張出す		22住に切られる。
22	東	S59°E	方形	4.7×4.7	54		東壁	石を持つ		21住を切る
23	南西隅	S89°W	隅丸方形	3.9×4.3	47	3	西壁	粘土		24住に切られる。北東隅に編物用石錘
24	南西隅	不明	隅丸方形	3.5×3.2	47	1		焼土、炭化物		23住を切る。25住に切られる。
25	南西隅	N76°W	方形	3.5×3.5	46	1	西壁	粘土	171～179	24・26住を切る。
26	南西隅	S87°E	隅丸方形	6.0×5.9	40	4	東壁			25・27住に切られる。周溝あり。
27	南西隅			？×？	50					
28	中央	N14°W	長方形	2.9×2.6	18		北壁	石組		上部は耕作により破壊
29	南西	S79°E	方形	3.0×3.2	13		東壁	焼土	180～185	10住と重る

ＳＫＳ住居址一覧表

番号	調査地区内の位置	主軸	平面形	大きさ（m）（主軸×）	壁高(cm)	ピット	カマド 位置	カマド 状態	遺物	摘要
1	中央北寄り	N88°W	方形	5.5×5.8	62	0	西壁	焼土のみ		東壁際に編物用石錘溝２を切る
2	北西	N89°E	長方形	3.8×3.2	30	0	東壁	壁外へ張出す		
3	中央北寄り	N89°W	方形	3.8×3.7	25	0	西壁	石を持つ		床面はやや軟弱
4	北西	S77°E	方形	3.4×3.2	38	0	東壁	壁外へ張出す		
5	北西	S73°E	方形	3.1×3.2	43	0	東壁	石を持つ		
6	北西隅	N88°E	不整長方形	3.5×4.7	34	0	東壁	壁外へ張出す		
7	北西隅	N88°W	方形	3.8×3.9	27	0	西壁	焼土のみ		
8	南西	S87°E	方形	5.6×5.7	65	0	東壁	石を持つ	186～196	９住に隣接する
9	南西	S83°E	方形	6.0×6.1	64	0	東壁	焼土、石を持つ	197～238	８住に隣接する。南西隅床面より依波理鏡
10	南西隅	S82°E	隅丸胴張長方形	3.3×2.9	33	0	東壁			
11	南隅	N81°E	不明	2.4(H)×4.8(H)	53	確認部にはない	西壁			
欠番										
13	南隅	S80°E	隅丸方形	5.0×5.3	34		東壁	焼土のみ		
14	南東		方形	3.6×3.6	37	不明				
15	南寄り	S88°E	方形	3.7×3.5	36	0	東壁	焼土のみ		溝４建物址２を切る
16	中央南寄り	S83°E	方形	5.7×5.7	56	0	東壁	石を持つ	239～256	南側床面より横瓶、北西隅に編物用石錘
17	南西	N88°W	方形	5.3×5.2	63	0	西壁	焼土のみ		床面所々に鉄分が沈澱、土壙13・14に切れる
18	中央南寄り	S79°E	方形	11.3×9.1	66	0	東壁	焼土のみ		東壁南に張出し部を持つ
19	中央北寄り	S86°E	方形	4.4×4.1	55	2	東壁	粘土、石を持つ		床面凹凸あり

ＳＫＮＭ住居址一覧表

1	西隅	S71°W	長方形	2.9×3.4						
2	西隅	N77°W S77°E	方形	4.7×4.5						
3	北西隅	N80°W	長方形	4.0×3.6						
4	北西	S78°E	長方形	3.6×4.0						
5	北西	S71°E	長方形	5.1×5.5						
6	中央西寄り	S71°E	方形	4.2×4.4						
7	中央	N68°W	長方形	4.3×4.9						
8	中央北寄り	N86°W	方形	3.3×3.1						
9	北	N77°W	方形	3.6×3.6						
10	北東	N85°W N87°E	方形	3.9×3.9						
11	北東	N 2°W N88°E	方形	3.6×3.8						
12	東隅北寄り	N89°E	隅丸長方形	6.4×4.8						
13	東		隅丸方形	3.5×3.3						
14	東隅	N81°W	方形	4.1×4.1						
15	東隅	N87°E	方形	5.5×5.2						
16	東隅	?	?	?×3.2						
17	東隅	?	?	?× ?						
18	南東隅	?	?	5.4× ?						
19	南隅	N11°E	長方形	4.2×4.6						
20	西	N17°E	長方形	2.1×2.8						

町神遺跡Ｃ地点

1	中央北東寄り	N75°W	方形	4.2×4.1	26	1	西	焼土、石組	1～17	カマド南にピット有り

第3表　建物址一覧表

ＳＫＭＴ建物址

番号	平面形	長軸×短軸（m）	長軸方位	Pit No.	平面形	長径×短径（cm）	深さ（cm）	断面形	遺物	所見
1	方形	2.9×2.9	N 2°E	3	円形	61×59	33			１住の北、８住の南側に位置する。 埋め土は、ローム ブロックを含む暗褐色でＰ６・７・８・10に柱痕が確認できた。柱痕内はローム粒、小礫を含む。黒褐色土で大きさは、径約30cmである。柱列の大きさは２間×２間で柱穴は比較的大きな方形及び円形を呈する。 遺物の出土はなかった。
				4	長方形	61×56	29	逆台形		
				5	方形	63×60	27	逆		
				6	方形	61×61	36	逆台形		
				7	不整長方形	77×64	30	逆台形		
				8	不整円	75×73	32	逆台形		
				9	長方形	81×70	27			
				10	円形	57×56	32	逆台形		
				11	不整方形	67×64	34			
2	長方形	4.2× 3.2	N 5°E	12	楕円	46×38	37	U字形		５住の南側に位置し、５住に切られる。 覆土は暗褐色で小礫を含む。柱痕はＰ12に確認され、大きさは径約30cmである。 柱列は３間×２間と思われるが、北側５住に切れているため不明である。Ｐ19とＰ20は北側より斜に柱を立てたと思われる柱穴である。
				13	楕円	45×38	25	逆台形		
				14	楕円	45×40	29	有段逆台形		
				15	楕円	46×38	37	U字形		
				16	不整方形	29×27	15	逆台形		
				17	楕円	42×33	20	逆台形		
				18	楕円	49×36	33	逆台形		
				19	楕円	70×48	39	逆台形		
				20	不整長方形	79×38	39	逆台形		
3	長方形	3.6×3.1	N11°W	24	円形	31×29	30	U字形		８住の北側に位置し８住に切られる。 覆土はローム ブロックを含む黒褐色で、柱痕は、Ｐ24･25･26･27で確認できた。柱痕の大きさは、径約20～25cmである。柱列は３間×１間と思われる。柱穴は比較的小さい。
				25	円形	31×31	37	U字形		
				26	不整円	27×25	26	U字形		
				27	楕円	26×21	36	U字形		
				28	円形	30×28	27	逆台形		
				29	楕円	37×32	15			
4	方形	4.5×4.5	N 2°W	37	円形	59×59	49	逆台形		11住の西側、溝Ｉを狭んで位置する。 覆土は、ローム ブロックを含む黒褐色土及び黒色土である。 柱痕は確認できなかった。 柱列は２間×２間で、４角の柱穴が大きく、主柱穴と思われる、間に小さな柱穴が入る。中央部には柱穴はなし。 Ｐ43は溝Ｉに切られる。
				38	円形	33×30	11	椀形		
				39	楕円	60×48	47	U字形		
				40	円形	34×30	20	U字形		
				41	楕円	66×50	46	逆台形		
				42	楕円	40×32	14			
				43	円形	53×53	33			
				44	円形	22×21	7			

ＳＫＫＳ建物址

番号	平面形	長軸×短軸（m）	長軸方位	Pit No.	平面形	長径×短径（cm）	深さ（cm）	断面形	遺物	所見
1	長方形	3.8×2.7	N25°E	1	長方形	54×48	32	椀形		調査地区の北東部に位置し北西側に建物址２がある。 覆土は、褐色土で、Ｐ４・６・８に柱痕が確認できた。柱痕内は、暗褐色土であり大きさは径約25cmである。 柱列は２間×２間で柱穴は比較的大きい。 出土遺物はない。
				2	方形	78×68	32	椀形		
				3	長方形	73×58	40	逆台形		
				4	長方形	76×50	46	逆台形		
				5	方形	59×55	37	逆台形		
				6	長方形	70×52	40	逆台形		
				7	長方形	68×61	34	逆台形		
				8	長方形	67×62	39	逆台形		
				9	長方形	69×55	33	有段の逆台形		
2	長方形	4.9×4.0	N23°E	10	円形	85×80	43	逆台形		建物址２の北西側に隣接する。 覆土は、褐色土でＰ11に柱痕が確認できた。柱痕内は暗褐色土であり、径は約25cmである。 柱列は、２間×２間で、柱穴は比較的大きい。 Ｐ11・13・14・15・18に段を有する。
				11	楕円形	107×77	43	有段のＵ字形		
				12	ひょうたん形	123×90	51	逆台形		
				13	長方形	101×75	57	有段のＵ字形		
				14	円形	75×70	58	有段のＵ字形		
				15	楕円形	100×85	44	有段の逆台形		
				16	楕円形	73×49	58	逆台形		
				17	楕円形	85×72	61	逆台形		
				18	楕円形	100×69	39	有段の逆台形		
3	方形	3.6×3.5	N２°W	19	円形？	55×？	24			調査地区南西の６住東側に位置し、溝３に切られる。 覆土は、ローム塊を含む黒色土で、柱痕は確認できなかった。 柱列は２間×２間で、柱穴はほぼ円形を呈し、比較的浅い。Ｐ19は溝３に切れる。中心部には柱穴は確認できなかった。
				20	円形	75×73	45	半円形		
				21	円形	71×70	57	半円形		
				22	楕円形	73×58	29	半円形		
				23	楕円形	61×51	26	逆台形		
				24	円形	78×70	26	逆台形		
				25	円形	69×66	24	逆台形		
4	長方形	5.7×4.8	N	26	方形	67×65	55	逆台形凹有す		調査地区西側５住周辺に位置し５住に切られる。 覆土は、鉄分を含む下層はやや粘質になる。柱痕は、Ｐ27・29に確認認できる。大きさは径約15～20cmである。 柱列は３間×２間と思われ、柱穴は比較的大きい。 東側と西側に巾約20cm深さ10cmの溝をもつ。
				27	不整円形	74×71	34	逆台形凹有す	有	
				28	円形	73×73	49	有段の逆台形	有	
				29	不整円形	83×75	48	逆台形凹有す		
				30	楕円形	77×68	40	逆台形凹有す	有	
				31	方形	67×63	37	逆台形	土師器片	
				32	方形？	70×？	22		有	
5	長方形	4.2×3.6	N４°W	33	円形？	55×45上	39	不明		５住周辺に位置し、５住に切られる。
				34	円形？	67×55上	48	不明		

5	長方形			35	楕円形	75×64	41	有段のコ字形		覆土は鉄分と、黄色土塊を含みやや粘土質な土層で、柱痕については確認できなかった。柱列は2間×2間でほとんどが5住に切られる。
				36	楕円	75×57	43	U字形		
				37	不整方形	63×55	45	逆台形凹有す		
6	方形あるいは西に伸びる長方形	4.8×？	N	38	5角形	57×52	33	U字形		調査地区の南西部に位置し、西側が調査区域外にかかる。 覆土は、黒色土、黄褐色土、暗褐色土、黒褐色土からなりローム塊を含むやや粘質な土層である。柱痕は確認できなかった。 柱列は3間×3間と思われるが確認できない。P40・41は他に比してやや小さく、間隔も狭い。
				39	円形	73×66	40	逆台形		
				40	楕円形	47×41	34	逆台形		
				41	不整円形	50×45	30	逆台形凹有す		
				42	楕円形	72×50	42	逆台形		
				43	長方形	53×44	29	有段の逆台形		
				44	5角形	53×52	60	有段の逆台形		
7	不明	5.5×？	N8°E	45	方形	51×48	16	皿形		調査地区の南西部に位置し西側がほとんど調査区域外なので、東端の柱列のみ確認した。 覆土は、黒色で下層はローム塊を含む。柱痕は確認できない。
				46	台形	48×37	14	逆台形		
				47	長方形	54×47	16	逆台形		
				48	台形	50×47	34	逆台形		
8	長方形	5.2×3.9	N17°W	49	円形	36×29	40	有段のU字形		調査地区の南東部、溝1の北側に位置する。建物址9のP60を切る。 覆土は、褐色土粒小ローム塊混入暗褐色土で柱穴はやや小さいものが多い。 柱列は3間×2間で中心部に柱穴はない。
				50	円形	36×32	28	逆台形		
				51	円形	42×40	27	逆台形		
				52	円形	44×42	36	逆台形		
				53	楕円形	52×42	19	逆台形		
				54	円形	51×47	26	U字形		
				55	楕円形	56×50	26	逆台形		
				56	楕円形	41×38	22	逆台形		
				57	円形	58×58	28	逆台形		
				58	円形	42×41	32	逆台形		
9	不明	？×3.6	N25°E	59	円形	54×51	19	逆台形		調査地区の南東部、溝1の北側に位置し南側を溝1に切られる。北西角のP60は建物址8のP52に切られる。覆土は褐色土粒ローム塊混入暗褐色土で、柱穴は建物址8より大きい。 柱列は3間×2間と思われる。
				60	円形	67×63	31	逆台形		
				61	円形	46×44	29	逆台形		
				62	楕円形	62×50	31	逆台形		
				63	円形	52×46	30	逆台形		
				64	円形	58×56	20	逆台形		
10		7.6×？	N1°W	78	円形	29×28	32	逆台形		調査地区西部の5住東側、溝3の西側に位置する。 柱穴は径25～30cmで、小さいが、柱穴間は南北が約350cm、東西が約200～300cmで比較的大きい。 北東側は検出面が礫混りのため確認できなかった。 覆土は、ローム塊混入黒褐色土である。
				79	円形	29×26	25	逆台形		
				80	楕円形	25×20	25	U字形		
				81	円形	31×30	21	逆台形		
				82	円形	29×28	27	逆台形		
				83	楕円形	32×27	27	逆台形		
				84	楕円形	28×25	22	逆台形		
11	長方形	4.0×3.5	N15°E	88	円形	48×45	26	逆台形		調査地区東部、溝3の北側、20住と19住の間に位置する。 覆土は小ローム塊混入暗褐色土であり、柱痕は確認できなかった。柱
				89	円形	42×37	31	逆台形		
				90	円形	42×41	34	逆台形		

番号	平面形	長軸×短軸（m）	長軸方位	Pit No.	平面形	長軸×短軸（cm）	深さ（cm）	断面形	遺物	所見
11	長方形			91	円形	46×42	38	逆台形		穴は、やや小さ目であり柱列は２間×２間と思われるが、南側の中央の柱穴は確認できなかった。
				92	円形	42×42	22	逆台形		
				93	円形	60×60	47	逆台形		
				94	楕円形	38×30	25	U字形		

ＳＫＳ建物址

1	長方形	7.0×5.3	N７°W	1	不整長方形	50×40				調査地区北西部に位置し、４住、５住に切られる。 柱穴の検出のみで掘上げができなかった。 柱列は、３間×２間で柱穴の大きさは比較的大きく形状は不整形が多い。
				2	不整長方形	62×42				
				3	長方形	50×42				
				4	長方形	77×60				
				5	楕円形	71×50				
				6	不整形	79×55				
				7	不整形	67×47				
				8	不整方形	47×42				
2	方形	3.8×3.4	N７°E	9	方形	47×46	34	逆台形		調査地区南寄り15住の南側に位置し一部を15住に切られる。 覆土は、黄色土が混入する暗褐色土及び黒褐色土で柱痕と思われるものは、Ｐ10・11・13で確認できた。大きさは径15cm～20cmである。柱列は２間×２間で、柱穴は方形が多く中心部のＰ17がやや小さい。 Ｐ11の柱痕内に須恵器甕片、土師器片の出土を見た。
				10	不整方形	44×44	29	逆台形		
				11	不整楕円形	70×55	33	逆台形	須恵器、土師器	
				12	長方形	68×48	30	逆台形		
				13	長方形	56×56	37	逆台形		
				14	方形	57×54	26	逆台形		
				15	方形？					
				16	不整長方形	57×46	23	逆台形		
				17	方形	31×30	16	逆台形		
4	長方形	6.1×4.8	N86°W	18	楕円形？	？×60	37	U字形		調査地区中央北寄り、19住の北西側に位置する。 覆土は、黄色土粒混入のやや粘質な土層で柱痕は全ての柱穴で確認された。大きさは径約20cmである。柱列は３間×２間で、東西に長い。 中心に柱穴はなかった。
				19	方形	76×60	40	逆台形凹有す		
				20	長方形	83×42	34	U字形		
				21	楕円形	108×68	39	逆台形		
				22	卵形	88×73	36	椀形		
				23	楕円形	84×65	29	逆台形凹有す		
				24	楕円形	75×57	36	逆台形		
				25	楕円形	58×47	35	逆台形		
				26	楕円形	100×60	30	逆台形		
				27	長方形？	？×58	28	逆台形		
5	長方形	6.4×4.8	N４°E	28	方形	58×55	35	逆台形凹有す		調査地区中央北寄り９住の南側に位置する。
				29	方形	58×55	41	逆台形	土師器	

5				30	方　　形	56×55	38	台形凹有す		覆土は、褐色土塊や黄色土塊混入のやや粘質な土層であり、柱痕はP28・29・30・32・33・34・35・36・37・39で確認できた。大きさは径約20cm～25cmで内部は暗褐色土である。 柱列は3間×3間で南北に長い。 この周辺は建物址が多く、建物址7が西側に重なり、建物址6が北側に隣接している。柱穴の切合はなかった。遺物は、P29・33・38より土師器片が出土した。
				31	長方形	63×42	40	コ　字　形		
				32	方　　形	50×46	36	コ字形凹有す		
				33	方　　形	44×44	33	U　字　形	土師器	
				34	方　　形	46×41	36	逆台形U字形		
				35	方　　形	42×42	36	逆台形凹有す		
				36	方　　形	48×44	34	逆　台　形		
				37	長方形	56×45	36	逆　台　形		
				38	方　　形	49×45	33	コ　字　形	土師器	
				39	長方形	62×49	39	逆台形凹有す		
6	長方形	5.8×4.9	N4°E	40	長方形	50×？	23	逆　台　形		建物址5の北側に隣接し、19住に北東側の一部が切られる。 覆土は、黄色土や灰色土が混る暗褐色土であり柱痕はP40・42・43・44・45・46に確認でき大きさは径約20～25cmである。 柱列は、3間×2間で南北に長い。建物址の東側に幅50cm深さ20cmの溝9が有り北側を19住に切られているので、詳細は不明であるが建物址6に伴うものかもしれない。
				41	方　　形	55×？				
				42	長方形	62×51	21	逆　台　形		
				43	長方形	63×45	22	有段の逆台形		
				44	不整長方形	61×45	13	有段のコ字形		
				45	不　整　形	40×38	30	有段のU字形		
				46	長方形	63×49	22	逆　台　形		
				47	長方形	55×36	18	逆　台　形		
				48	長方形	61×46	29	逆台形凹有す		
7	長方形	6.1×4.8	N4°E	49	長方形	48×35	24	有段の逆台形		建物址5の西側に位置し、東側が重なる。 覆土は、黄褐色土、黒褐色土で褐色土、黄色土塊を含む。柱痕は、P49・50・51・52・54・55・56・57・58で確認された。大きさは径約15cm～25cmである。 柱列は3間×2間で南北に長い。この建物址は西側に付随するものと思われる柱列が2列南北方向に検出された。柱列は南北に3間で本体よりややせまい。柱穴も東側は円形で本体より小さく西側は長方形である。
				50	方　　形	36×32	25	U　字　形		
				51	不整方形	41×39	26	逆　台　形		
				52	長方形	49×38	20	逆　台　形		
				53	方　　形	45×39	33	コ　字　形		
				54	不整方形	49×49	38	有段の逆台形		
				55	不整長方形	45×41	23	逆台形凹有す		
				56	不整長方形	50×33	32	コ字形凹有す		
				57	不整円形	39×38	39	コ　字　形		
				58	方　　形	42×40	26	逆　台　形		
				59	不整長方形	30×25	35	U　字　形		
				60	楕円形	32×25	22	有段のU字形		
				61	楕円形	25×30	22	U　字　形		
				62	円　　形	30×30	20	U　字　形		
				63	不整長方形	50×20	23	不整半円形		
				64	不整長方形	52×27	28	不整逆台形		
				65	不　整　形	57×48	20	不整逆台形		
				66	不整長方形	45×24	24	U　字　形		

SKNM建物址

番号	平面形	長軸×短軸 (cm)	長軸方位 (cm)	Pit No.	平面形	長軸×短軸 (cm)	深さ (cm)	断面形	遺物	所見
1	長方形	4.4×4.0	N 7°E	1	方形	64×56				11住に切られる。 3間×3間
				2	方形	48×40				
				3	方形	40×32				
				4	方形	48×40				
				5	円形	32×32				
				6	長方形	64×48				
				7	方形	56×56				
				8	方形	64×64				
2	長方形	6.6×4.7	N 8°E	9	楕円形	56×48				4間×3間
				10	楕円形	48×40				
				11	長方形	72×56				
				12	楕円形	88×56				
				13	長方形	56×48				
				14	不整方形	88×80				
				15	長方形	56×48				
				16	長方形	96×72				
				17	円形	80×80				
				18	楕円形	80×48				
				19	方形	56×48				
				20	長円形	80×64				
3	長方形	6.1×4.6	N10°E	21	円形	72×72				3間×3間
				22	方形	56×56				
				23	楕円形	80×56				
				24	方形	72×72				
				25	?	72×64				
				26	長方形	112×64				
				27	不整長方形	88×72				
				28	長方形	72×56				
				29	長方形	72×56				
				30	方形	72×72				
				31	長円形	96×64				
				32	長方形	80×56				
4	長方形	4.4×3.5	N 7°E	33	円形	40×40				
				34	円形	32×32				

4				35	円　　形	64×64				3間×2間
				36	方　　形	64×64				
				37	円　　形	64×64				
				38	円　　形	56×56				
				39	楕円形	64×48				
				40	楕円形	64×48				
				41	長方形	64×40				
5	長方形	3.6×3.2	N14°E	42	長方形	64×40				2間×2間
				43	長方形	40×36				
				44		?×36				
				45	楕　　円	48×24				
				46	方　　形	48×48				
				47	長方形	40×32				
				48	長方形	56×48				
				49	円　　形	32×32				
6	長方形	5.4×4.6	N11°E	50		40×?				9号住に切られる。 3間×2間
				51	長方形	64×40				
				52	長方形	48×40				
				53	長方形	64×56				
				54	長方形	56×48				
				55	方　　形	48×48				
				56	長方形	56×40				
				57	楕円形	48×32				
				58	円　　形	32×32				
7	長方形	3.8×2.9	N15°E	59	円　　形	56×56				2間×2間
				60	楕円形	64×56				
				61	長方形	88×72				
				62	円　　形	48×48				
				63	方　　形	72×72				
				64	楕円形	56×48				
				65	円　　形	48×48				
				66	楕円形	56×48				
8	長方形	6.1×5.9	N15°E	67	方　　形	56×56				3間×3間
				68	楕円形	104×64				
				69	長方形	64×56				
				70	長方形	64×56				
				71	楕円形	96×56				
				72	長方形	88×72				
				73	楕円形	96×72				
				74	長方形	88×72				

番号	平面形	長軸×短軸 (cm)	長軸方位	Pit No.	平面形	長軸×短軸 (cm)	深さ (cm)	断面形	遺物	所見
				75	長円形	96×72				
				76	長方形	80×72				
				77	三角形	96×72				
				78	不整楕円形	96×80				
9	長方形	4.2×3.5	N13°E	79	長方形	64×48				2間×2間
				80	長方形	64×40				
				81	長方形	72×48				
				82	方形	44×40				
				83	?	?×56				
				84	?	?×56				
				85	長方形	64×56				
				86	方形	56×56				
10	長方形	4.6×3.9	N18°E	87	長方形	80×72				2間×2間
				88	長方形	88×56				
				89	長方形	64×48				
				90	?	?×?				
				91	?	64×?				
				92	長方形	64×56				
				93	長方形	72×56				
				94	方形	64×64				
				95	長方形	72×64				
11	長方形	4.2×3.2	N21°E	96	?	?×?				3.5号住に切られる。 2間×2間
				97	?	?×?				
				98	楕円形	48×40				
				99	長方形	64×48				
				100	?	48×?				
12		6.0×?	N86°W	101	楕円形	64×56				西側が調査区域外 3間×?
				102	方形	72×72				
				103	方形	80×80				
				104	長方形	88×80				
13		4.9×?	N85°W	105	円形	80×80				西側が調査区域外 3間×?
				106	長方形	80×72				
				107	方形	80×80				
				108	円形	56×56				
14	長方形	5.3×3.8	N75°W	109	円形	64×64				3間×2間
				110	不整円形	80×64				
				111	不整円形	80×64				

				112	不整円形	72×56				
				113	不整円形	72×56				
				114	不整円形	80×72				
				115	長方形	80×56				
				116	?	80×?				
				117	不整円形	72×64				
				118	楕円形	72×64				

第4表　土壙一覧表

SKMT　土壙一覧表

番号	掲載図	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土の特徴	出土の遺物	備考
1	49	長方形 60×60	逆台形 35	暗褐色土、褐色のブロックを含む。黒褐色土		1号住と重なる。土壙が新
2	49	楕円形 120×65	U字形 70	砂質層から粘質層へ。		4住を切る。
3	49	不整長方形 60×50	長方形 80	ロームブロックを含む。		1住のカマドを切られる。
4	49	不整楕円形 150×70	逆台形 40	底面は礫		3住の南側
5	49	不整楕円形 240×120	不整形 70	小ロームブロックを含む。		第1号住居址北東、建物址1南東に隣接する。
6	49	不整楕円形 80×60	逆台形 20			建物址4と重なる。
7	49	円形 30×30	U字形 10	小ローム塊を含む。		9住の北側
8	49	円形 90×90	逆台形 50	ローム塊、粒を含む。	有	9住を切る。 土壙12との切合は不明
9	49	楕円形 100×80	逆台形 30	ローム塊、粒を含む。	有	9住北側
10	49	円形 80×80	U字形	小ローム塊を含む。	有	9住北側
11	49	方形 120×？	逆台形 40	ローム塊を含む。	有	土壙10北側、東側半分が調査地区区域外にかかる。
12	49	円形 60×60	逆台形 55	土壙8よりローム塊、粒を多く含む。		9住を切る。 土壙8との切合は不明
13	50	長方形 150×90	U字形 30	ローム塊、粒を含む。	土師器	建物址4の北側 溝1を切る。
14	49	円形 60×60	半円形 20	焼土、ローム塊を含む。	有	9住東側
15	49	楕円形 80×60	逆台形 5			溝3に切られている。

SKKS　土壙一覧表

1		円形 250×250	U字形 40	小・中の礫を含む。		建物址1の北側
2		方形 240×240	U字形 60	黒褐色土を含む。褐色土	須恵器 土師器	溝1、2の南側
3		長方形 240×170	U字形 40	黒褐色土を含む。褐色土	須恵器、土師器、炭化物	溝1と2の間
4		楕円形 200×160	U字形 50	ローム粒を含む。	須恵器 土師器	建物址4の北側、内部にピット有り
5		長方形 550×250	逆台形 10		須恵器 土師器	5住北側、内部南側に不整形な掘り込みとピット有り
6		不整楕円形 400×120				建物址10の北側
7		長方形 100×80	逆台形 60	ローム塊を含む。壁面は厚さ3cmの炭層。底面は厚さ2cmの焼土		11住北東側
8		長方形 90×70	U字形 20	鉄分を含む。 底面に厚さ2～4cmの炭層		1住を切る
9		円形 85×80	逆台形 19			
10		楕円形 80×70	有段の逆台形 16			
11		楕円形 87×76	逆台形 10			

SKS　土壙一覧表

番号	掲載図	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土の特徴	出土遺物	備考
1		円形 40×40				溝4を切る
2		円形 48×48	逆台形 28			溝4を切る
3		方形 40×32				溝3を切る
4		方形 50×28				溝3を切る
5		方形 58×34				溝3を切る
6		円形 60×60	逆台形 20	上部粘質土		溝4の西側
7		方形 50×60				溝7を切る
8		方形 50×60	逆台形 50			溝7を切る
9		方形 170×130				溝5の東側
10		楕円形 128×100	逆台形凹有り 34	鉄分を含む		13住東側　溝7北側
11		円形 170×50	逆台形 16	焼土を含む		溝4東側
12		円形 150×150				13住東側
13		円形 230×215	逆台形 44	自然堆積状		17住を切る
14		円形 120×210	U字形 40	焼土含む		17住を切る
15		円形 82×90	逆台形凹有り 40	鉄分を含む		溝7北側
16		楕円形 110×70	逆台形 8	炭化物含む		
17		方形 110×85	逆台形 10	ロームを含む		
18		楕円形 110×80	逆台形凹有り 24	ロームを含む	土師器	土壙19を切る 建物址5の東側
19		方形 100×100	逆台形 10	焼土を含む		土壙18に切られる
20		楕円形 120×70	U字形 15	焼土・土器片を含む層		建物址5の中
21		円形 160×170	U字形 15	焼土を含む	土師器 須恵器	建物址5に切られる
22		方形 70×80				

1

第5表　出土土器観察表　　下神遺跡

No.	出土地点	種別	器形	寸法(cm) 口径	底径	器高	色調 外面	内面	成形・調整，形態の特徴	備考
1	SKMT 第4号住居址	須恵器	蓋	14.6	—		青灰	青灰	ロクロナデ，回転ヘラケズリ	
2	〃 〃	〃	坏	12.4	6.6	4.0	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	内部に火だすき状痕
3	〃 〃	〃	〃	13.1	7.8	4.0	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	底部に墨書？
4	〃 〃	〃	〃	13.8	7.2	4.3	褐	褐	ロクロナデ，底部回転糸切り	
5	〃 〃	〃	〃	13.8	7.9	4.0	淡灰	淡灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	内・外面に火だすき状痕
6	〃 〃	〃	〃	12.0	7.2	3.6	青灰	青灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	内・外面に火だすき状痕
7	〃 〃	〃	〃	16.6	9.4	6.9	暗灰	暗褐	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ，付高台	ほぼ完形，墨書
8	〃 〃	〃	〃		8.3		青灰	青灰	ロクロナデ，底部糸切コン・ヘラケズリ・付高台	
9	〃 〃	土師器	甕	20.8	3.8	26.9	茶褐	茶褐	ナデ，縦・横位ヘラケズリ(外面)，部分的にハケ目状工具によるナデ(内面)	
10	〃 〃	〃	小形甕	13.2	5.0	15.0	暗赤褐	暗赤褐	ナデ，横位ヘラケズリ，(体部外面)，ロクロナデ・指頭圧痕(内面)	ほぼ完形
11	〃 第6号住居址	〃	坏	15.0	7.9	3.9	褐	黒	ロクロナデ，底部回転糸切痕がわずかに残る	
12	〃 〃	須恵器	〃	13.3	6.4	3.8	淡灰	淡灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	内・外面に火だすき状痕
13	〃 〃	〃	〃	11.7	6.6	3.8	青灰	青灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
14	〃 〃	〃	〃	12.8	7.6	4.5	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	内・外面に火だすき状痕
15	〃 〃	〃	〃	12.6	6.8	4.0	淡灰	淡灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	内・外面に火だすき状痕
16	〃 〃	〃	〃	12.9	8.0	3.9	暗灰	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	外面に火だすき状痕
17	〃 〃	〃	〃		6.8		暗灰色に褐色のしま模様	暗灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
18	〃 〃	〃	〃		6.2		淡灰	淡灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
19	〃 〃	〃	〃		12.4		青灰	青灰	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ，付高台	
20	〃 〃	〃	〃		10.2		〃	〃	ロクロナデ，底部ロクロナデ，付高台	
21	〃 〃	〃	〃		8.0		〃	〃	ロクロナデ，回転ヘラケズリ，付高台	
22	〃 〃	〃	〃		8.6		〃	〃	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ，付高台	
23	〃 〃	〃	〃		9.1		〃	〃	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ，付高台	
24	〃 〃	須恵器か灰釉か？	長頸壺	(7.5)			灰白－暗灰白	灰白－暗灰白	ロクロナデ，回転ヘラケズリ	濃緑半透明の釉
25	〃 第7号住居址	土師器	小形甕		7.8		暗茶	薄茶	横位カキ目(内面)，底部ナデ，カキ目(体部外面)	
26	〃 〃	〃	〃	10.0	5.3	9.8	〃	〃	横位ハケ目(体部内面)，縦位ハケ目(体部外面)	木葉底
27	〃 〃	〃	〃	(13.0)			茶褐	茶褐		
28	〃 〃	〃	甕	21.2			〃	〃	横位薄いハケ目(内面)	
29	〃 〃	〃	〃	23.2			暗橙－暗褐	暗橙－暗褐	ヨコナデ，ナデ・ハケ目(外面)，内面一部ミガキ	
30	〃 〃	〃	〃	23.7			黄橙	黄橙	ヨコナデ，ヘラケズリ(体部外面)・ナデ	
31	〃 第8号住居址	〃	坏		5.8		茶褐	茶褐	ロクロナデ，ヘラミガキ・底部回転糸切り痕	
32	〃 〃	〃	〃	11.9			褐	黒	ロクロナデ	
33	〃 〃	〃	〃	13.7			〃	〃	ロクロナデ	
34	〃 〃	須恵器	〃	13.3	6.6	3.1	青灰	青灰	ロクロナデ，底部糸切り痕	ゆがみがひどい

35	SKMT 第8号住居址	須恵器	坏	12.1			青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部糸切り痕	
36	〃 〃	〃	〃	12.0			白青灰	白青灰	ロクロナデ	側面に墨書
37	〃 〃	〃	〃	12.3	5.6	4.0	褐	暗 灰	ロクロナデ，底部糸切り痕	ゆがんでいる
38	〃 〃	〃	〃	13.2	6.6	3.5	淡 褐	淡 褐	ロクロナデ，底部糸切り痕	
39	〃 〃	〃	〃	12.6	5.5	3.6	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部糸切り痕	
40	〃 〃	〃	〃		6.2		灰	灰	ロクロナデ，底部糸切り痕	
41	〃 〃	〃	〃	13.6	6.0	4.6	底部褐・体部淡灰	底部褐・体部淡灰	ロクロナデ、底部糸切り痕	
42	〃 〃	〃	〃	13.0	6.2	4.1	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部糸切り痕	
43	〃 〃	〃	〃	12.9	5.5	3.3	〃	〃	ロクロナデ，底部糸切り痕	
44	〃 〃	土師器	甕	21.8			茶 褐	茶 褐	ヨコナデ・カキ目(内面)・細いハケ目(体部外面)	
45	〃 〃	須恵器	坏	15.2			青 灰	青 灰	ロクロナデ，付高台	
46	〃 〃	〃	〃	14.3	10.3	4.1	淡 褐	暗 褐	ロクロナデ，底面回転ヘラケズリ・付高台	
47	〃 〃	灰釉土器？	長頸壺				濃 緑	白 灰	ロクロナデ	頸部のみ
48	〃 〃	須恵器	坏		9.9		淡 灰	淡 灰	ロクロナデ，底面回転ヘラケズリ・付高台	
49	〃 〃	土師器	甕		9.3		暗 茶	暗 茶	ハケ目(外面)・縦位のおさえ調整(内面)	
50	〃 〃	須恵器	坏	14.2	7.7	6.2	青 灰	暗 褐	ロクロナデ，底面回転ヘラケズリ・付高台	
51	〃 〃	〃	〃	14.8			〃	青 灰	ロクロナデ	
52	〃 第9号住居址	〃	蓋				〃	〃	ロクロナデ，回転ヘラケズリ	
53	〃 〃	〃	坏	13.5	8.2	2.8	〃	〃	ロクロナデ，底部回転ヘラ切り痕	
54	〃 〃	〃	〃	12.8	6.0	3.8	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	内・外に火だすき状痕
55	〃 〃	〃	〃	11.9	5.5	3.0	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
56	〃 〃	〃	〃	13.2	7.0	3.7	茶 褐	茶 褐	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
57	〃 〃	〃	〃		7.2		淡 灰	淡 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
58	〃 〃	土師器	〃		6.8		褐	黒	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	内黒
59	〃 〃	須恵器	〃	13.5	6.3	4.1	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	内・外に火だすき状痕
60	〃 〃	〃	〃	13.2	8.7	4.0	淡 灰	淡 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
61	〃 〃	〃	〃	12.6	7.5	3.4	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
62	〃 〃	〃	〃		7.6		茶 褐	茶 褐	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ	底部に墨書
63	〃 〃	土師器	〃		6.0		暗茶褐	黒	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	内黒
64	〃 第10号住居址	須恵器	〃	12.0	5.3	3.5	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
65	〃 〃	〃	〃	13.1	7.0	3.8	褐・淡灰	褐・淡灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
66	〃 〃	〃	〃	12.6	6.1	4.0	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	内・外面に火だすき状痕
67	〃 〃	〃	〃	12.2	5.5	3.5	暗 灰	暗 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
68	〃 〃	〃	〃		11.1		褐	青 灰	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ・付高台	高台に何かの圧痕
69	〃 〃	〃	〃	11.7	8.9	3.9	青 灰	〃	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ・付高台	内面底部に火だすき状痕
70	〃 〃	〃	甕	19.3			褐	褐	ヨコナデ	
71	〃 〃	土師器	〃	20.7			茶 褐	茶 褐	ヨコナデ・カキ目とおさえ調整(内面)，ハケ目(体部外面)	
72	〃 〃	〃	〃	23.5			薄 茶	薄 茶	ヨコナデ・カキ目と薄いハケ目(内面)，ハケ目(体部外面)	

No.	出土地点	種別	器形	寸法(cm) 口径	底径	器高	色調 外面	内面	成形・調整，形態の特徴	備考
73	SKMT 第10号住居址	土師器	甕	18.5			茶 褐	茶 褐	ハケ目，(体部外面)，カキ目とおさえ調整(内面)	
74	〃 第11号住居址	須恵器	蓋	14.5	—	3.9	淡 灰	淡 灰	ロクロナデ，回転ヘラケズリ・ヨコナデ	
75	〃 〃	〃	坏	13.3	6.0	3.9	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
76	〃 〃	〃	〃	13.3	7.1	4.2	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
77	〃 〃	土師器	〃	16.3	6.7	5.6	淡 褐	黒	ロクロナデ，底部ヘラケズリ	底部に墨書・内黒
78	SKKS 第2号住居址	〃	〃	13.2	6.2	4.0	茶 褐	茶褐・黒	ロクロナデ，ヘラミガキ(内面)，底部回転糸切り痕	
79	〃 〃	〃	皿	13.3	6.0	3.0	〃	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ(内面)，底部僅かに糸切り痕	
80	〃 〃	〃	〃	13.6	7.1	3.0	〃	茶 褐	ロクロナデ，ヘラミガキ(内面)，底部回転糸切り痕	
81	〃 〃	〃	坏	15.1				〃	ロクロナデ，ヘラミガキ(内面)	
82	〃 〃	須恵器	短頸壺	10.9			淡灰－暗灰	灰	ロクロナデ	外面灰が付着していて茶褐色
83	〃 〃	〃	手付長頸壺	13.9	(11.6)	(31.1)	茶灰～灰	茶灰～灰	ロクロナデ・回転ヘラケズリ？とナデ(内面)	
84	〃 〃	土師器	甕	23.2			茶 褐	茶 褐	ヨコナデ，横位ハケ目と指頭調整(内面)・縦位ハケ目(体部外面)	
85	〃 〃	〃	〃	23.6			〃	〃	縦位ハケ目(体部外面)，カキ目(頸部内面)	
86	〃 〃	〃	〃	23.2			〃	暗茶褐	縦位ハケ目(体部外面)，カキ目(頸部内面)	
87	〃 〃	〃	〃	22.3			〃	茶 褐	縦位ハケ目(体部外面)	
88	〃 〃	〃	〃	23.3			〃	黒・薄茶	縦位ハケ目(体部外面)，カキ目，内面オサエ痕	
89	〃 〃	〃	〃		9.8		暗 茶	暗 茶	縦位ハケ目(体部外面)，縦位の調整痕(内面)	
90	〃 第10号住居址	須恵器	蓋	18.4	—	4.8	青灰～薄青灰	青灰～薄青灰	ロクロナデ，天井部回転ヘラケズリ	
91	〃 〃	〃	〃	23.6	—		灰 白	灰 白	ロクロナデ，天井部回転ヘラケズリ	火だすき状痕(内面)
92	〃 〃	〃	〃	13.1	—	3.4	青 灰	青 灰	ロクロナデ，天井部回転ヘラケズリ	完形，重ね焼き痕(内面)
93	〃 〃	〃	〃	13.8	—	3.4	青灰～薄青灰	青灰～薄青灰	ロクロナデ，天井部回転ヘラケズリ	重ね焼き痕(内面)
94	〃 〃	〃	〃	13.6	—	2.9	青 灰	青 灰	ロクロナデ，天井部回転ヘラケズリ	
95	〃 〃	〃	坏	11.6	6.1	4.0	薄青灰	薄青灰	ロクロナデ，回転糸切り痕，回転ヘラケズリ	
96	〃 〃	〃	〃	12.8	5.0	3.8	青 灰	青 灰	ロクロナデ，回転糸切り痕，	
97	〃 〃	〃	〃	13.4	6.6	4.0	青灰－薄青灰	青灰－薄青灰	ロクロナデ，回転糸切り痕	内面火だすき状痕
98	〃 〃	〃	〃	13.9	6.8	4.4	暗青灰	暗青灰	ロクロナデ，回転糸切り痕	
99	〃 〃	〃	〃	12.6	6.0	3.7	暗灰～暗青灰	暗灰～暗青灰	ロクロナデ，回転糸切り痕	火だすき状痕多し
100	〃 〃	〃	〃	12.2	6.0	3.4	薄青灰	薄青灰	ロクロナデ，底面回転糸切り痕	底面に『L』の刻みあり
101	〃 〃	〃	〃	13.9	8.3	3.5	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底面回転糸切り痕	
102	〃 〃	〃	〃	13.4	6.7	3.6	灰－薄灰	灰－薄灰	ロクロナデ，底面回転糸切り痕	
103	〃 〃	〃	〃	13.4	5.6	3.8	灰白～暗灰白	灰白～暗灰白	ロクロナデ，底面回転糸切り痕	器面の荒れがはげしい
104	〃 〃	〃	〃	13.0	6.6	3.8	灰－薄青灰	灰－薄青灰	ロクロナデ，底面回転糸切り痕	
105	〃 〃	〃	〃	13.6	6.4	4.3	灰～灰白	灰－灰白	ロクロナデ，底面回転糸切り痕	底部に墨書
106	〃 〃	〃	〃	12.4	9.6	3.8	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底面回転ヘラケズリ，付高台	
107	〃 〃	〃	〃	12.6	8.6	4.2	〃	〃	ロクロナデ，底面回転ヘラケズリ，付高台	
108	〃 〃	〃	〃		9.8		〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り痕の周りを回転ヘラケズリ，付高台	底完

109	SKKS 第10号住居址	須恵器	坏	14.7	(4.2)	(5.5)	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切りの周り，回転ヘラケズリのちナデ，付高台	
110	〃 〃	〃	〃		8.5		暗灰～暗青灰	暗灰～暗青灰	ロクロナデ，わずかに回転糸切り痕を残し，回転ヘラエズリ，付高台	底完
111	〃 〃	土師器	〃	15.3	8.0	5.2	橙	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ(内面)，底部手持ちヘラケズリ？	底完，内黒
112	〃 〃	〃	〃	14.4	6.4	4.1	〃	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ(内面)	ヘラ記号あり？，内黒
113	〃 〃	〃	〃		7.0		〃	〃	放射状ヘラミガキ(内面)，底部回転糸切り)の周り回転ヘラケズリ，手持ちヘラケズリ(外面)	底完，内黒
114	〃 〃	〃	〃	11.0	5.2	4.3	赤 橙	赤 橙	ロクロナデ，底部回転糸切りの周り回転ヘラケズリ	
115	〃 〃	〃	〃		5.8		黄 橙	黄 橙	ロクロナデ，ヘラケズリ，底部回転糸切りの周り回転ヘラケズリ	底完
116	〃 〃	須恵器	長頸壺	7.2	9.1	23.8	青灰－淡黒灰	青灰－漆黒灰	ロクロナデ，頸部内にしぼり痕，肩部と胴下部に回転ヘラケズリ，底面回転糸切り	ほぼ完，底面連続爪形圧痕
117	〃 〃	〃	〃	8.1			灰	灰	ロクロナデ	内面黒緑色の釉
118	〃 〃	〃	壺	8.0			灰－暗灰	灰－暗灰	ロクロナデ	
119	〃 〃	三 彩	小 壺	3.6	4.2	3.7	薄黄灰	薄黄灰		濃緑，白，褐色の釉
120	〃 第12号住居址	須恵器？	坏	13.4	4.0	4.4	暗灰～黄灰	灰黄～黒灰	ロクロナデ，器面荒れて不明	重ね焼きのあとあり？
121	〃 〃	〃 ？	〃	13.3	4.0	4.0	白灰・黄灰・黒	灰 黄	ロクロナデ，器面荒れて不明	
122	〃 〃	〃	〃	13.4			灰 桃	灰 桃	ロクロナデ，	
123	〃 〃	〃 ？	〃	12.9	(6.0)	3.2	灰 褐	黒 灰	ロクロナデ，回転糸切り痕	
124	〃 〃	土師器	埦	16.6	4.9	5.2	〃	黒	ロクロナデ，内面ヘラミガキ，付高台	内黒
125	〃 〃	〃	〃	14.4	6.8	5.6	赤 褐	暗黒・暗褐	ロクロナデ，付高台	
126	〃 〃	灰釉陶器	碗	14.6			灰 白	灰 白	ロクロナデ，体部下半回転ヘラケズリ	淡緑釉
127	〃 〃	〃	耳 皿	8.9×12.0	6.3		〃	〃	ロクロナデ，付高台，底面ヘラケズリ	
128	〃 〃	〃	平 瓶		11.4		灰 青	灰 青	ロクロナデ，底面ヘラケズリ，付高台	淡緑色，外面上部全面に釉がかかる
129	〃 〃	須恵器？	鉢？	25.5			灰 黄	灰 黄	ロクロナデ	
130	〃 〃	土師器	小形甕	14.7	7.2	17.1	赤 褐	赤 褐	ロクロナデ，カキ目，底部回転糸切り	
131	〃 〃	〃	甕	22.0	9.9	31.2	〃	〃	ヨコナデ，ナデ，ハケ目(体部外面)，指頭圧痕(内面)	
132	〃 第14号住居址	須恵器	蓋	15.4	—		青 灰	青 灰	回転ヘラケズリ，ロクロナデ	墨書
133	〃 〃	〃	〃	16.7	—		〃	黒 灰	ロクロナデ，回転ヘラケズリ	ひだすき状痕，ヘラ記号？(内面)
134	〃 〃	〃	〃	12.9	—		〃	青 灰	ロクロナデ，回転ヘラケズリ	
135	〃 〃	〃	〃	13.4	—	3.0	〃	〃	ロクロナデ，回転ヘラケズリ	
136	〃 〃	〃	坏	12.8	6.4	3.5	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	体部に火だすき状痕
137	〃 〃	〃	〃	13.0	6.8	3.7	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	外面火だすき状焼成痕
138	〃 〃	〃	〃	12.4	6.0	3.4	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
139	〃 〃	〃	〃	13.0	6.7	3.8	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
140	〃 〃	〃	〃	13.0	6.4	3.3	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
141	〃 〃	〃	〃	12.9	6.1	3.7	淡青灰	青灰白	ロクロナデ，底部回転糸切り	
142	〃 〃	〃	〃	12.5	7.4	4.2	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	
143	〃 〃	〃	〃	12.8	(6.0)	4.1	黒灰白	茶味がかった白灰色	ロクロナデ，底部回転糸切り	
144	〃 〃	〃	〃	13.0	6.4	3.7	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	
145	〃 〃	〃	〃	11.4	6.9	3.5	濁乳灰	濁乳灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	
146	〃 〃	〃	〃	12.6	6.2	4.1	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	

No	出土地点	種別	器形	寸法(cm)			色調		成形・調整，形態の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面		
147	SKKS 第14号住居址	須恵器？	坏	12.7	6.0	3.5	黄灰・淡青灰	黄灰・淡青灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	完形
148	〃 〃	須恵器	小 坏	10.6	6.3	4.6	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り，ナデ，付高台	
149	〃 〃	〃	〃		6.0		〃	〃	ロクロナデ，底部ナデ，付高台	
150	〃 〃	〃	坏	15.3	10.0	6.2	緑青灰	緑青灰	ロクロナデ，底部回転糸切り，付高台	
151	〃 〃	〃	〃	12.0	8.1	3.9	青灰(一部黒灰)	青灰(一部黒灰)	ロクロナデ，底部回転糸切り，付高台	
152	〃 〃	土師器	〃	13.1	5.0	4.1	茶 褐	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り	内黒
153	〃 〃	〃	〃		6.4		〃	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り	〃
154	〃 〃	〃	〃		5.6		濁茶褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り	〃
155	〃 〃	〃	〃	12.5	5.4	3.9	茶 褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り	〃
156	〃 〃	〃	〃	11.6	4.8	3.7	〃	淡い赤褐	ロクロナデ，ヘラケズリ	
157	〃 〃	〃	〃	17.9			淡茶褐	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ	内黒
158	〃 〃	〃	〃	18.5	7.8	6.9	茶 褐	淡黒褐・淡黄褐	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り	
159	〃 〃	須恵器	長頸壺	8.9			黒 灰	黒 灰	ロクロナデ	頸部 自然釉(黒)
160	〃 〃	〃	〃	8.3			〃	〃	ロクロナデ，指ナデ痕，しぼり痕(頸部内面)	
161	〃 〃	土師器	小形甕		7.0		黄 褐	黄 褐	ロクロナデ，底部回転糸切り	
162	〃 〃	〃	〃	16.8			茶 褐	黒 褐	ロクロナデ	
163	〃 〃	〃	甕		8.6		〃	〃	外面横位のナデ，内面横ハケメ，指圧痕，底面ヘラケズリ	
164	〃 〃	須恵器	四耳壺	26.1			黒 灰	黒 灰	平行タタキ目，内面同心円文・指頭圧痕	
165	〃 第17号住居址	土師器	埦	14.8	7.3	5.2	橙	黒	ロクロナデ，内面ヘラミガキ，回転糸切り，付高台	底完，内黒
166	〃 〃	〃	坏	12.9	4.6	4.3	黄橙－橙	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り痕	口縁わずか欠，内黒
167	〃 〃	〃	〃	12.6	5.2	3.6	橙－黄橙	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り痕	内黒
168	〃 〃	〃	〃	18.1	7.6	7.3	橙－黄橙	黒(斑)	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り痕，ナデ	〃
169	〃 〃	〃	甕	20.4			橙	橙	外面縦ハケメ口縁内面カキ目，内面縦の調整痕	
170	〃 〃	〃	〃	21.2			〃	橙－黄橙	外面縦ハケ，口縁内面カキ目，内面縦の調整痕	
171	〃 第25号住居址	〃	埦	14.2	5.5	4.5	黄 橙	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部ナデ，付高台	墨書，内黒
172	〃 〃	〃	〃	13.8	6.4	4.7	〃	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部ナデ，付高台	完形，墨黒，内黒
173	〃 〃	〃	坏	12.1	5.8	3.4	暗 褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り痕	墨書，内黒
174	〃 〃	〃	〃	12.3	5.9	3.4	褐－黄褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り痕	底完形，内黒
175	〃 〃	〃	〃	12.2	5.4	3.7	黄橙－赤橙	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部手持ヘラケズリ	内黒
176	〃 〃	〃	〃	16.1	6.6	4.4	赤褐－褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り痕	〃
177	〃 〃	〃	〃	17.4	6.7	5.9	橙	暗 灰	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部手持ヘラケズリ	底完形
178	〃 〃	〃	皿	12.9	7.0	2.7	黄 橙	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り痕，付高台	墨書，内黒
179	〃 〃	〃	甕	21.5	8.8	30.6	暗橙－暗褐	暗橙－暗褐	ヨコナデ，縦位ハケ目(体部外面)，指頭圧痕(内面)，縦方向調整(内面)	歪みあり
180	〃 第29号住居址	須恵器	坏	13.6	6.4	4.1	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	
181	〃 〃	須恵器？	〃	12.9	5.8	3.7	橙灰－暗灰	橙灰－暗灰	ロクロナデ，底部回転糸切り痕	底完形
182	〃 〃	土師器	〃	12.1	5.6	4.1	黄 橙	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り痕	

183	SKKS 第29号住居址	土師器	小形甕		6.7		暗 褐	暗 褐	ロクロナデ，カキ目(体部外面)，底部回転糸切り痕	
184	〃 〃	〃	〃	18.1			灰 橙	灰 橙	ロクロナデ，カキ目？	
185	〃 〃	〃	甕	21.4			橙－暗褐	橙－暗褐	ヨコナデ，縦位ハケ目(体部外面)，カキ目(口頸部内面)	
186	SKS 第8号住居址	〃	坏	15.7	5.8	4.4	明黄褐－明茶褐	黒	ロクロナデ，ナデ，底部回転糸切り痕	内黒
187	〃 〃	〃	〃	11.9	5.3	3.1	黄 褐	黒・薄茶褐	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り？	
188	〃 〃	〃	皿	13.0	6.0	2.3	茶 褐	黒・薄茶褐	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り，付高台	
189	〃 〃	須恵器	坏	14.0	5.5	3.1	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	
190	〃 〃	〃	〃		6.8		〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
191	〃 〃	〃	〃		9.2		〃	〃	ロクロナデ，底部回転ヘラケズり，付高台	底部火だすき状痕
192	〃 〃	〃	〃		8.2		濃青灰	濃青灰	ロクロナデ，底部回転糸切り，付高台	
193	〃 〃	土師器	小形甕	16.7			黒 茶	黒 茶	ナデ，カキ目(口頸部・内・外面)	
194	〃 〃	〃	〃		7.9		茶 褐	濃茶褐－黒	ナデ，カキ目(口頸部・内・外面)	
195	〃 〃	〃	甕	23.9			黄 褐	黄 褐	外面縦ハケ目，口縁内面カキ目	
196	〃 〃	〃	〃		8.4		茶褐－濁黄褐	明黄褐	ハケ目(体部外面)，指頭圧痕と指ナデ(内面)	
197	〃 第9号住居址	〃	坏	12.9	6.7	4.0	茶	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り，暗文	底面墨書，内黒
198	〃 〃	〃	〃	13.3	6.3	4.1	明黄褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り，	内黒
199	〃 〃	〃	〃	13.0	5.2	4.1	〃	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り？	内黒
200	〃 〃	〃	〃	13.9	5.9	3.6	〃	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り？	底部完形，内黒
201	〃 〃	〃	〃	12.9	6.6	3.6	淡黒褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り？	内黒
202	〃 〃	〃	〃	12.1	5.8	3.9	濁黄褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り？	内黒
203	〃 〃	〃	〃	15.1	7.0	4.3	明 褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部ナデまたはヘラケズり	内黒
204	〃 〃	〃	埦		6.5		黄 褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部ナデ？，付高台	内黒，ヘラ記号？
205	〃 〃	〃	〃		6.3		赤褐・茶褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り，付高台	内黒
206	〃 〃	〃	〃		5.9		赤 褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部ナデ，付高台	内黒
207	〃 〃	〃	〃		5.7		黄 褐	黄 褐	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部ナデ，付高台	
208	〃 〃	〃	皿 ?		7.9		黒	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転ヘラケズり，付高台	内黒
209	〃 〃	〃	皿	15.6			黄 褐	〃	ロクロナデ	内黒
210	〃 〃	〃	〃	15.7			明黄褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ	内黒
211	〃 〃	〃	〃	13.5			〃	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ	内黒
212	〃 〃	〃	〃	13.5			〃	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ	内黒
213	〃 〃	須恵器	蓋	15.2	—		青 灰	青 灰	ロクロナデ，ヘラケズり	
214	〃 〃	〃	坏	13.6	6.3	3.5	黄 褐	黄 褐	ロクロナデ，底部回転糸切り	
215	〃 〃	〃	〃	12.8	6.1	4.0	〃〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
216	〃 〃	〃	〃	14.6	6.5	4.1	〃〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
217	〃 〃	〃	〃	13.8	6.7	4.0	〃〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
218	〃 〃	〃	〃	14.0	7.6	3.4	青 灰	青 灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	
219	〃 〃	〃	〃	12.7	6.5	3.5	黒灰一部茶	黒灰一部茶	ロクロナデ，底部回転糸切り	回転糸切りに伴う小穴あり
220	〃 〃	〃	〃	14.2	5.5	3.8	暗青緑	暗青緑	ロクロナデ，底部回転糸切り	

No.	出土地点	種別	器形	寸法(cm) 口径	底径	器高	色調 外面	内面	成形・調整，形態の特徴	備考
221	SKS 第9号住居址	須恵器	坏	12.5	6.3	3.8	黒灰	黒灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	回転糸切りに伴う小穴あり
222	〃 〃	〃	〃		5.4		灰白	灰白	ロクロナデ，底部回転糸切り	
223	〃 〃	〃	〃	12.2	5.8	3.7	黒灰一部茶灰	黒灰一部茶灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	回転糸切りに伴う小穴あり
224	〃 〃	〃	〃		4.7		暗青灰	暗青灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	
225	〃 〃	〃	〃	13.9			白灰	白灰	ロクロナデ	
226	〃 〃	〃	〃	13.6	5.4	4.3	暗青灰	暗青灰	ロクロナデ	
227	〃 〃	土師器	鉢		11.2		明黄褐一明茶橙	黒	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り	内黒
228	〃 〃	〃	〃	24.0	11.2	9.0	明褐一暗褐	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ，底部回転糸切り	〃
229	〃 〃	須恵器	長頸壺				明灰褐	明灰褐	ロクロナデ，指頭圧痕	
230	〃 〃	〃	〃	10.1			灰白	灰白	ロクロナデ，指頭圧痕	
231	〃 〃	〃	〃	9.9			灰青黒	灰青黒	ロクロナデ	
232	〃 〃	灰釉陶器	〃	9.0			灰白	灰白	ロクロナデ	
233	〃 〃	須恵器	壺		5.2		青灰	青灰	ロクロナデ	底部，釉かかる
234	〃 〃	土師器	小形甕		7.1		赤褐	濁黄褐	ロクロナデ，底部回転糸切りのちナデ	
235	〃 〃	須恵器	短頸壺	10.4			暗黒青	暗黒青	ロクロナデ	自然釉，灰黄色
236	〃 〃	土師器	甕	23.8			明黄褐	明黄褐	ロクロナデ，カキ目(口頸部内面)，縦位ハケ目(体部外面)	
237	〃 〃	〃	〃	23.5			〃	〃	ロクロナデ，カキ目(口頸部内面)，縦位ハケ目(体部外面)	
238	〃 〃	〃	〃	20.0			赤褐	赤褐	ロクロナデ，ハケ目(体部外面)	
239	〃 第16号住居址	須恵器	蓋	15.8	—		青灰	青灰	ロクロナデ，天井部回転ヘラケズリ	
240	〃 〃	〃	〃	19.9	—		薄青灰	薄青灰	ロクロナデ，天井部回転ヘラケズリ	
241	〃 〃	〃	坏		8.7		青灰	青灰	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ，付高台	
242	〃 〃	〃	〃		11.5		〃	〃	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ，付高台	
243	〃 〃	〃	〃		8.0		濃青灰	濃青灰	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ，付高台	
244	〃 〃	〃	〃		7.3		青灰	青灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	
245	〃 〃	〃	〃	12.3	6.1	3.7	淡赤灰	淡赤橙	ロクロナデ，底部回転糸切り	
246	〃 〃	〃	〃		4.5		青灰	青灰	ロクロナデ，底部回転糸切り	
247	〃 〃	土師器	〃	11.8	5.6	4.4	淡赤褐	淡暗褐	ロクロナデ，内面暗文(不明瞭)，底部回転糸切り？	
248	〃 〃	須恵器	高坏				濃青灰	淡青灰	ロクロナデ，しぼり痕(脚内面)	脚部のみ
249	〃 〃	〃	〃				黒灰	黒灰	ロクロナデ，脚部内面上部にうずまき状痕	
250	〃 〃	〃	短頸壺	8.8			白灰一黒灰	淡黒灰	ロクロナデ	自然釉，黒灰，白灰
251	〃 〃	〃	〃	14.0			白灰	白灰	ロクロナデ，	
252	〃 〃	〃	横瓶	12.3	—	18.6	青灰	青灰	ロクロナデ，ヘラケズリ，胴側面粘土板貼り付け	完
253	〃 〃	土師器	甕	14.4			暗褐一濃茶褐	暗褐	ヨコナデ，ヘラケズリ	
254	〃 〃	〃	〃	19.2			明茶褐	薄茶褐一暗茶褐	ヨコナデ，カキ目(口頸部内面)，縦位ハケ目(体部外面)	
255	〃 〃	〃	小形甕		7.4		茶褐	暗褐	ロクロナデ，指頭状痕，底部静止糸切り，カキ目(体部外面)	
256	〃 〃	須恵器	甕	30.9			白灰	白灰	ロクロナデ，タタキ目(体部外面)，同心円文(内面)	淡緑の自然釉

町押遺跡

No.	出土地点	種別	器形	寸法(cm) 口径	底径	器高	色調 外面	内面	成形・調整，形態の特徴	備考
1	MK 第1号住居址	土師器	坏	11.0	6.4	3.6	薄茶	薄黒茶褐	ロクロナデ，底部回転糸切り	
2	〃 〃	〃	〃	13.9			茶褐	黒	ロクロナデ	内黒
3	〃 〃	〃	〃		5.7		〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	〃
4	〃 〃	〃	〃		4.8		〃	〃	ロクロナデ，ヘラミガキ	〃
5	〃 〃	〃	塊		8.3		〃	茶褐	ロクロナデ，底部回転糸切り，付高台	
6	〃 〃	〃	〃		8.0		〃	黒	ロクロナデ，付高台	内黒
7	〃 〃	須恵器？	坏	13.0	5.2	4.1	薄茶	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
8	〃 〃	〃 ?	〃	12.7	5.3	4.3	〃	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
9	〃 〃	〃 ?	〃	14.7	6.9	4.0	茶褐	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
10	〃 〃	〃 ?	〃		4.8		薄茶	〃	ロクロナデ，底部回転糸切り	
11	〃 〃	〃	〃		10.4		青灰	青灰	ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ，付高台	
12	〃 〃	灰釉陶器	碗		6.6		白灰	白灰	ロクロナデ，底部ロクロナデ，付高台	
13	〃 〃	〃	壺				〃	〃	ロクロナデ	緑色釉薬
14	〃 〃	土師器	甕	20.9			茶褐	茶褐	ロクロナデ，カキ目(口頸部内部)，縦位ハケ目(体部外部)	
15	〃 〃	〃	〃	29.3			〃	〃	ロクロナデ，カキ目(口頸部内部)，縦位ハケ目(体部外部)	
16	〃 〃	〃	小形甕	12.8			橙ー暗褐	橙ー暗褐	ロクロナデ，カキ目(内・外面)，底部回転糸切り痕，ナデ	
17	〃 〃	〃	甕		10.9		薄茶	薄茶	縦おさえ・指頭圧痕	

第6表　石器・石製品一覧表　　SKMT　石器・石製品一覧表

No.	器　種	出土地点	長さ(mm)	巾(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石　質	備　考			
1	打　斧	溝　2	(133.0)	89.5	25.0	375.0	粘板岩	頭部欠損	撥型　偏刃	大　形	使用により片面が非常に滑らか
2	〃	4　住	(93.5)	83.0	17.0	195.0	〃	頭～胴部欠損	円刃	〃	
3	〃	8　住	95.5	46.0	24.0	130.0	砂　岩		撥型　円刃	小　形	
4	スクレイパー		35.5	27.0	11.0	9.76	黒曜石				
5	凹　石	溝　2	175.5	93.5	55.0	1135.0	砂岩		凹み　1		
6	〃	〃	142.5	67.5	42.0	540.0	〃		凹み　2面に計4		上・下段，両側縁部，敲き痕
7	〃	11　住	181.0	65.0	60.0	1005.0	〃		凹み　1		両端部敲き痕
8	磨　石	表　採	(94.5)	(77.0)	46.0	535.0	〃	半　折	すり面　1	円　形	平坦面を生ずる　砥石か
9	敲打器	6　住	182.5	62.0	42.0	675.0	〃		敲き痕　両端部		
10	〃	5　住	(73.5)	54.5	36.0	185.0	〃	片端部欠損	敲き痕　端部		平坦面を生ずる　砥石か
11	〃	溝　2	(90.5)	(44.5)	(30.5)	150.0	〃	〃	敲き痕　端部		
12	〃	表　採	147.5	31.5	18.0	125.0	〃		敲き痕　両側縁部	平たい石	
13	〃	8　住	137.0	103.5	33.5	435.0	〃		敲き痕　両側縁部	平たい石	
14	〃	溝　2	77.0	58.0	27.5	205.0	〃	片端部欠損	敲き痕　端部		風化作用進む
15	〃	〃	122.0	43.5	38.0	350.0	〃		敲き痕　片端部		
16	〃(砥石)	10　住	(96.5)	(78.0)	(43.5)	560.0	〃	半　折	敲き痕 周縁 砥石使用面2		自然面利用
17	〃(砥石)	〃	112.5	58.0	44.5	435.0	〃	〃	敲き痕 端部 砥石使用面2		〃
18	砥　石	〃	62.5	133.5	94.0	132.0	〃	破損後も使用	使用面4		熱を受け黒変
19	〃	7　住	89.0	85.0	50.5	78.5	〃	破損後再加工	使用面3		
20	〃	表　採	91.0	78.5	63.5	500.0	〃	破　損	使用面1		
21	〃	〃	109.0	56.5	67.5	520.0		破　損？	使用面3		
22	〃	11　住	84.5	83.0	29.5	185.0			使用面5	断面4角	溝状痕跡あり
23	〃	表　採	55.0	37.0	27.5	110.0	凝灰岩		使用面4	〃	
24	〃	8　住	54.5	35.0	16.5	75.0	砂　岩		使用面4	〃	巾広の溝状痕
25	〃	5　住	83.0	36.0	26.5	125.0	〃	一部のみ	使用面1		
26	〃	11住 カマド付近	328.5	109.5	70.0	4520.0	〃		使用面1		熱を受け3割
27	台　石	遺構外	(136.0)	(221.0)	(64.5)	2090.0	硬砂岩	半　折			周囲敲き痕，片面に溝状痕あり
28	〃	5　住	(247.0)	68.0	38.0	1320.0	〃				周囲敲きが丁寧，片面非常に滑らか
29	丸い石	9　住	38.5	35.5	19.0	42.61	砂　岩				周囲がすられている一調整か
30		4　住	26.5	23.5	6.5	11.08	瑪　瑙				

SKKS　石器一覧表

No.	器　種	出土地点	長さ(mm)	巾 (mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石　質	備　考			
1	打　斧	検出面	225.0	122.0	21.5	615.0	粘板岩(凝灰質)		撥型偏刃	大　形	
2	〃	〃	212.0	91.0	28.0	625.0	緑色火山岩		撥型円刃	大　形	頭部片面，刃部両面に使用痕
3	〃	〃	114.0	14.0	20.5	235.0	粘板岩		撥型円刃		
4	〃	20　住	(104.5)	72.0	14.5	100.0	粘板岩		撥型？円刃？		
5	〃	検出面	(96.5)	61.0	11.5	115.0	〃	頭部欠損	短冊型円刃		
6	石　鏃	12住外	28.0	17.5	3.0	1.47	チャート		無茎凹基		
7	〃	北側検出面	23.5	20.5	3.0	1.07	黒曜石		無茎凹基		
8	〃	29　住	(19.5)	17.5	3.0	1.21	〃	先端・両脚欠損			
9	凹　石	排　土	187.5	58.0	48.0	805.0	硬砂岩		凹み２面　計２		側縁，片端，敲打痕，１面に線条痕多
10	砥　石	5　住	42.0	25.5	25.0	44.0	凝灰岩	破　損	使用面４	断面４角	
11	〃	〃	64.0	39.0	16.5	5.1	〃	〃	使用面３	〃	溝状痕跡
12	〃	10　住	45.5	31.0	10.0	55.0	〃	〃	使用面４	〃	
13	〃	表　採	70.5	40.5	20.0	75.0	砂　岩		使用面３	〃	溝状痕
14	〃	20　住	70.5	19.5	12.5	60.0	〃		使用面４	〃	
15	〃	表　採	41.0	37.0	25.5	65.0	粘土質岩		使用面３	〃	抉り３ヶ所ー紐かけ用
16	〃	12　住	125.0	62.5	28.5	615.0	砂　岩		使用面４	〃	溝状痕，側縁部に敲き痕，紐かけ用？
17	〃	〃	116.0	37.5	39.5	255.0	〃		使用面３	〃	溝状痕
18	〃	?	149.5	87.5	47.0	1055.0	〃		使用面２		片面内弯，片面平坦，自然面利用
19	〃	25　住	218.0	66.0	63.0	1355.0	〃		使用面２		溝状痕
20	台　石	9　住	145.0	144.0	29.0	925.0	〃				周辺敲き痕

第7表　編物用石錘計測表

住居址	No.	重量(g)	たて	よこ	厚さ(cm)
SKMT 11住	1	1.120	21.5	5.5	4.8
	2	1.000	20.8	5.7	3.5
	3	960	19.7	6.3	4.2
	4	920	21.8	9.6	2.5
	5	920	20.0	8.5	3.4
	6	810	23.5	7.1	3.3
	7	760	19.8	6.3	4.1
	8	740	19.4	5.5	3.5
	9	730	20.5	5.7	4.0
	10	700	21.6	5.8	3.7
	11	670	21.6	6.1	3.1
	12	650	17.8	5.6	3.3
	13	580	16.5	5.4	3.7
	14	540	19.0	5.7	2.9
	15	530	17.1	6.1	3.6
	16	520	16.5	6.6	3.2
	17	185	8.4	8.3	2.9
	18	110	8.1	3.0	2.6
平均値		691.7	18.5	6.2	3.3
SKMT 7住	1	710	13.0	8.4	5.4
	2	180	10.1	5.1	2.0
	3	160	8.2	4.3	2.6
	4	160	11.2	4.0	3.2
	5	140	7.8	3.5	3.5
	6	130	7.0	4.6	2.0
	7	130	8.9	4.0	2.8
	8	130	8.0	4.7	2.0
	9	120	8.6	3.3	2.5
	10	120	7.6	3.8	2.6
	11	120	7.5	3.5	2.8
	12	120	7.9	2.8	2.6
	13	110	8.1	4.7	1.8
SKMT 7住	14	110	8.4	3.9	2.1
	15	100	8.6	2.8	2.3
	16	100	8.3	3.6	2.2
	17	100	8.9	3.6	2.0
	18	100	7.0	4.8	2.0
	19	90	9.1	3.2	3.0
	20	90	7.0	4.6	1.9
	21	90	6.3	3.7	2.3
	22	90	7.6	3.4	2.3
	23	80	8.3	2.7	2.5
	24	80	7.0	3.0	1.8
	25	80	7.5	3.7	2.1
	26	70	7.3	3.2	2.0
	27	70	8.0	3.5	1.4
	28	60	8.0	2.7	2.0
	29	60	6.7	2.8	2.0
	30	60	8.1	2.7	1.8
	31	50	7.6	3.3	1.9
	32	50	7.1	3.5	1.0
平均値		121	8.1	4.7	2.4
SKKS 23住	1	440	9.6	6.4	4.6
	2	420	13.0	4.3	3.9
	3	420	11.7	5.7	4.3
	4	420	13.4	5.2	4.3
	5	390	13.1	5.0	2.8
	6	360	10.5	5.0	3.5
	7	340	11.3	5.1	3.0
	8	340	9.8	5.3	3.8
	9	330	11.1	4.8	4.5
	10	320	13.1	5.4	3.8
	11	320	13.4	4.7	3.3
	12	320	12.4	4.5	4.1
SKKS 23住	13	320	11.9	4.7	3.0
	14	310	9.5	5.3	3.6
	15	300	12.6	4.3	3.8
	16	280	11.3	6.3	2.9
	17	270	10.6	4.7	3.5
	18	270	10.8	4.5	4.1
	19	270	9.9	5.1	3.3
	20	260	11.0	4.7	3.6
	21	260	9.0	5.2	3.6
	22	260	11.2	6.0	2.6
	23	250	9.3	4.8	3.7
	24	250	10.1	4.9	3.2
	25	240	10.2	5.2	3.8
	26	230	9.9	5.6	3.2
	27	230	8.9	4.3	2.9
	28	230	9.2	5.9	3.0
	29	220	8.8	6.1	2.7
	30	220	7.3	4.7	4.1
	31	220	9.9	4.2	3.8
	32	210	10.0	5.5	2.6
	33	210	10.4	4.8	3.7
	34	200	12.4	4.7	2.8
	35	200	9.3	4.8	2.9
	36	200	10.6	4.8	3.6
	37	200	9.2	4.1	4.0
	38	190	10.1	4.3	3.2
	39	190	10.4	4.0	2.9
	40	180	10.8	3.6	3.0
	41	130	9.5	3.3	2.5
	42	110	6.6	3.8	2.7
	43	90	9.0	6.3	1.6
平均値		265.6	10.5	4.9	3.4

石の長軸の最大長を「たて」(長さ) とし，短軸の最大長を「よこ」(幅) とする。
また最も厚い部分を「厚さ」として計測した。原則として、厚さはよこを凌駕しない。

第8表　鉄製品一覧表　　SKMT　鉄製品一覧表

No.	出　土　地	出土No.	製品名	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重量(g)	そ　の　他
1	6　住		紡錘車	76	8	7	9.2	
2	7　住	21	?茎部	38	10	8	3.7	鉄鏃か
3	〃	3	〃	35	6	5	2.0	〃
4	9　住	12	刃　子	108	16	8	36.9	刃部端と茎尻欠損
5	〃	35	〃	130	17	5	50.0	両端欠損
6	10　住	14	?茎部	48	径　7		4.3	断面円形
7	〃	57	不　明				計 3.0	6～16mmの小片6点
8	11　住	床面	茎　部	82	11	9	14.6	鉄鏃か，断面楕円形
9	建　2 (5住南方pit)	上面	不　明	17	12	7	3.4	
10	溝　2	48	不　明	44	14	12	9.4	刀子の一部か
11	溝　3	4	不　明	40	18	9	10.2	刀子の一部か
12	?	?	鎚　鉋	80	10	4	10.5	完　形

SKKS　鉄製品一覧表

1	2　住	2	刀　子	178	5	13	57.6	断面くさび形，茎尻欠損
2	10　住		工　具	74	32	10	41.4	たがねか
3	〃	フク土 下　層	〃	73	38	6	30.3	〃
4	〃		〃	29	35	8	12.7	〃　　端部
5	〃		?茎部	29	9	3	2.8	
6	12　住	フク土 中　層	?茎部	76	9	6	11.4	
7	〃	11	〃	34	11	7	3.5	
8	〃	22	不　明	43	10	8	7.1	「く」字形に屈曲
9	13　住	フク土	刀子か	45	20	13	5.2	刃部～茎部の間残存
10	14　住	フク土	紡錘車	径　58		9	50.1	円盤部一部欠損
11	〃	6	工　具	38	40	32	70.0	たがねか　端部
12	〃	22	〃	50	31	8	13.6	端部
13	〃((かまど)	2	〃	27	25	2	3.7	薄板状
14	〃	17	?茎部	37	10	6	3.5	
15	〃	36	〃	48	5	7	6.8	刃子か　断面くさび形
16	〃 (かまど)	1	不　明	16	径　10		2.8	管状呈す
17	15　住	6	不　明	108	15	12	36.6	断面3角形棒状呈す
18	〃	20甲	〃	104	17	12	24.7	土器小片付着
19	〃	20乙	〃	25	9	3	15.7	5cm程の土器付着
20	〃	20丙	〃	24	径　4		2.4	2本が付着，断面円形
				16	径　4			
21	19　住	フク土	?茎部	41	9	5	3.1	
22	24　住		曲刃鎌	194	40	9	321.0	
23	26　住	2	茎付鎌	182	28	6	148.1	
24	〃	フク土	?茎部か				計24.5	小片7片

SKS　鉄製品一覧表

No.	出　土　地	出土No.	製品名	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重量(g)	そ　の　他
1	9　住	ベルト	鎹　鉋	131	13	8	12.7	完形，刃部先端屈曲
2	11　住	9	工具か	29	34	3	8.2	薄板状
3	13号土壙	1	帯金具か	52	33	5	23.0	断面長方形（6×5）
4	〃	2甲	〃	64	46	9	24.1	断面楕円形（9×5）
5	〃	2乙	〃	39	径　6		3.6	帯金具の一部（断面円形）
6		2丙	〃	19	7	5	1.1	〃　〃　（断面楕円形）

鉄　滓　一　覧　表

発掘地区	No.	出土地	出土No.	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重量(g)	そ　の　他
SKMT	1	4　住	39	20	12	9	2.0	
	2	7　住	35	45	18	17	21.8	
	3	〃	24	32	28	24	18.1	
	4	〃	12	26	20	18	11.5	
SKKS	1	9　住	床面	123	94	57	595.0	
	2	〃		90	61	30	219.8	
	3	〃		54	47	37	108.7	
	4	〃		69	49	25	106.1	
	5	22　住	1	37	29	20	33.0	だんご状

第9表　鉄・青銅製品一覧表

発掘地区	出土地点	釘	紡	紡(?)	茎	刀子	鎌	工具	鉄滓	帯金具	不明	銙帯	鋺	計	備　考
SKMT	4住													0	
	6住		1									1		2	銙帯は青銅
	7住				2									2	
	9住					2								2	
	10住				1									1	
	11住				1						1			2	
	溝2										1			1	
	溝3										1			1	
	溝2										1			1	( )内数字は鉄滓を除いたもの
	計	0	1	0	4	2	0	出土不明 鉋1	0 (0)	0	4	1	0	13 (13)	
SKKS	2住					1								1	
	9住								4					4 (0)	
	10住				1			3 たがねか						4	
	12住				2						1			3	
	13住					1								1	
	14住			1 (円)	2			3 たがね1			1			7	
	15住							1						1	
	19住				1									1	
	22住								1					1 (0)	
	24住						曲1							1	
	26住						茎1				7 (小)			8	
	計	0	0	1	7	2	2	7	5 (0)	0	9	0	0	33 (28)	
SKS	9住							1 (鉋)					1	2	鋺は青銅
	11住							1						1	
	土壙13									2個体と2片				4	
	計	0	0	0	0	0	0	2	0	4	0	0	1	7	
合　計		0	1	1	11	4	2	10	5 (0)	4	13	1	1	53 (48)	

付　神林南荒井・下神遺跡試掘・下神遺跡立合調査報告

1．試掘調査　（第73・74図　図版37）

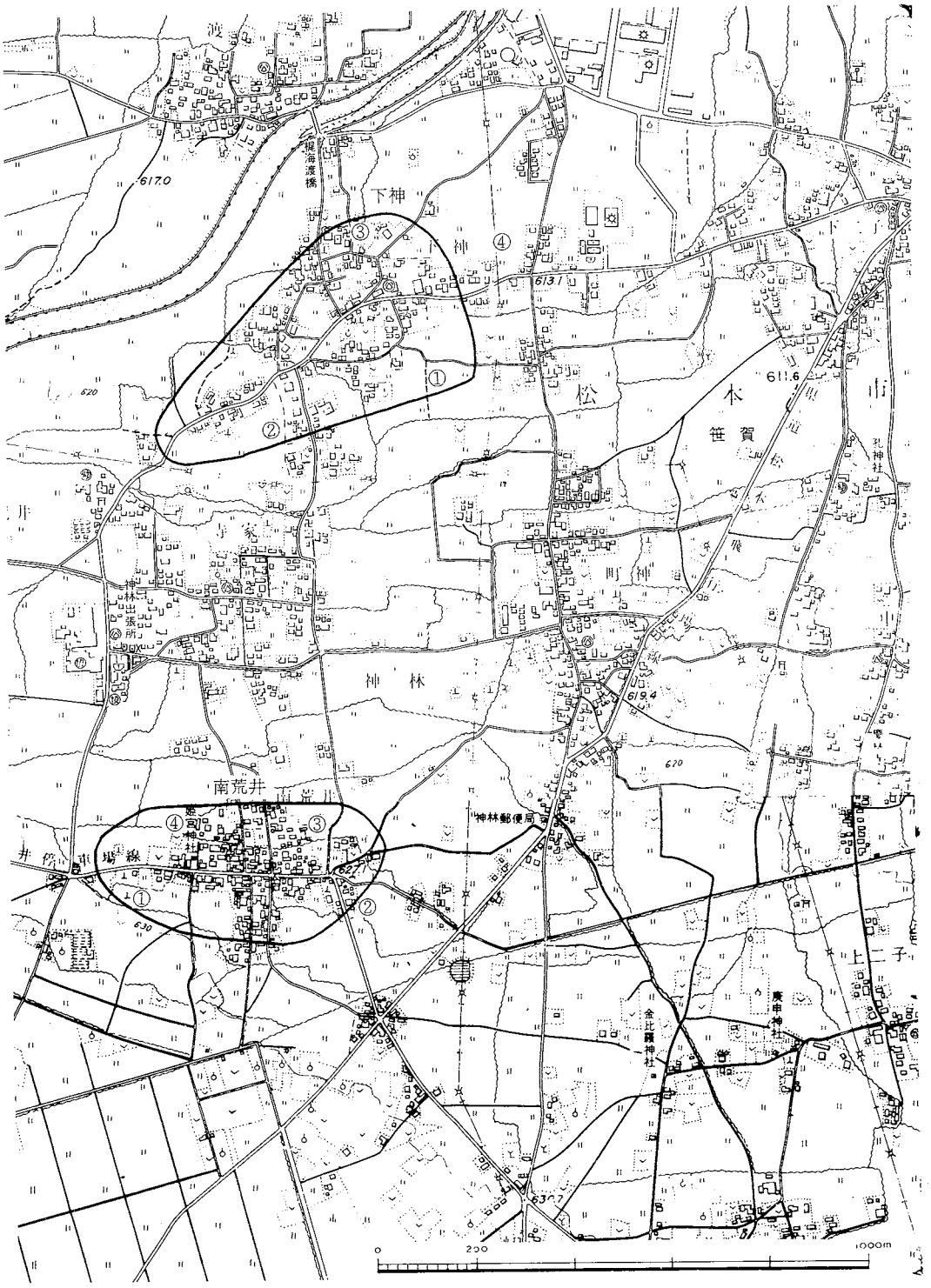
昭和57年度県営ほ場整備事業神林地区内工事に先立ち、下記の地点を試掘調査した。調査地の地番は南荒井第1地点　神林2825番地、第2地点　同2744－1、第3地点　同2312、第4地点　同1616。下神第1地点　同3710－イ、第2地点　同3574－ロ、第3地点　同3487－5、第4地点　同3692－3で、11月25日～12月1日まで市教委と太田守夫氏（地質）他で調査をした。その土層図は第74図であり、特に下神第4地点では住居址を示す落込みが検出された。

2．立合調査　（第75図、図版37）

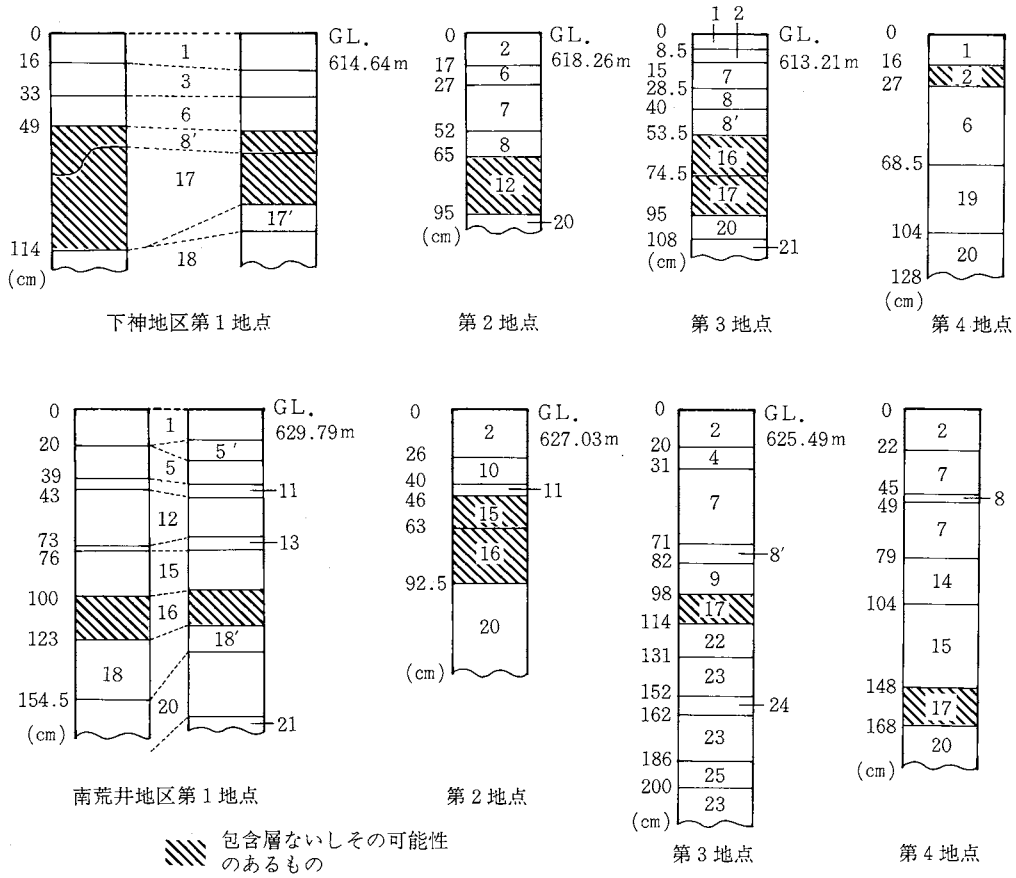
県営ほ場整備事業神林第一工区工事に伴う道路開削（配管）工事のための埋蔵文化財立合調査を2月8日より3月16日まで行ったが何ら遺物の検出はなかった。

3．結果と今後の対応について

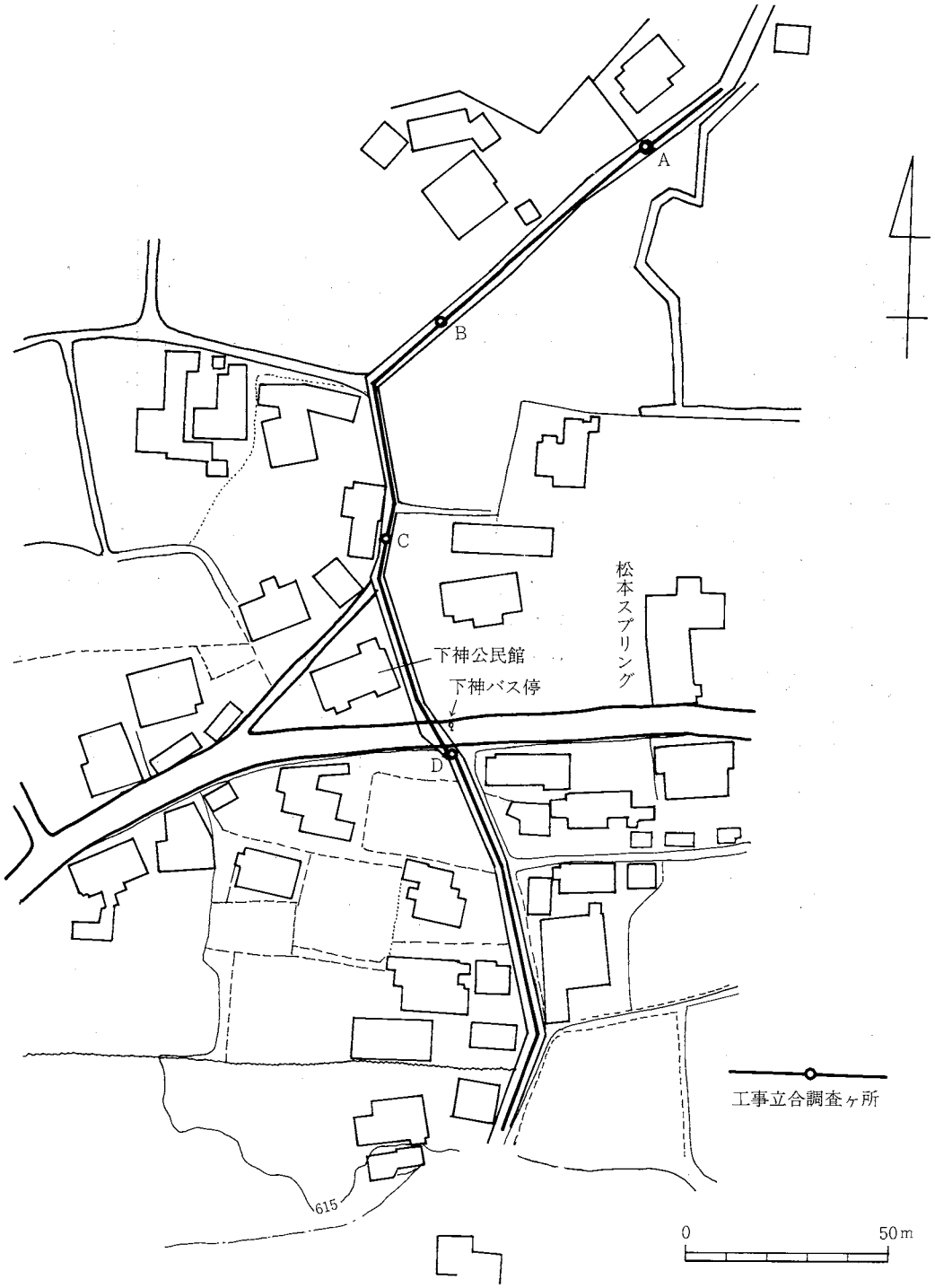
神林神映幼稚園南西の下神第4地点では表土下30cmあたりより住居址を検出しているので、本格的な発掘調査の必要がある。他は南荒井第1、第2地点に僅かに土器片（縄文か土師器か不明）が数片検出されたのみであり、本遺跡の中心をはずれている様子である。


下神
神
松
本
笹賀
町
神林
南荒井
神林郵便局
神林出張所
上二子
金比羅神社
617.0
613.1
611.6
619.4
620
630
0
200
1000m

第73図　調査位置図

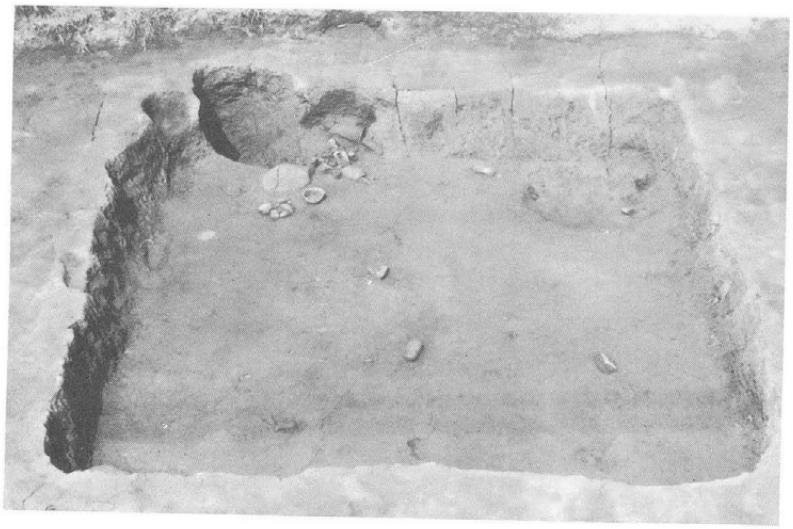


1　工事で削りとられた部分
2　黒色粘質土層（耕作土、水田の土）
3　工事で動いている層、灰黒色弱粘質土層
4　耕作土下部、薄青灰色粘土層
5　僅かに黄色味のかかる暗灰色砂層
5′　Ⅴ層上面の沈殿層がやや明瞭なもの
6　黄褐色粘質土層（溶脱している）
7　黄灰色粘質土層（鉄分を含む場合あり）
8　暗灰色粘質土層
8′　Ⅷ層に鉄分多く含む層
9　黄灰色粘土質層
10　黄色のブロックを含む灰褐色微砂層(シルド)、溶脱すすむ
11　茶褐色のブロック(鉄分)を多く含む暗灰色砂層、沈殿多
12　暗灰色砂層
13　暗灰色微砂層
14　茶褐色粘質層、沈殿層、黄色の風化砂岩を僅かに含む
15　小円礫や土器を小々僅かに含む。黄褐色粘質土層
16　黒褐色粘質砂層、小円礫、土器片や焼石を含む。炭化物僅かに含む。
17　黒褐色粘質土層、小礫を多量に含む。
17　小礫少なくなり、やや明るくなる
18　黄褐色粘質土層、漸移的に下部が黄色味を増し、堅くしまる。
18′　ⅧⅨ層に漸移的に茶色が増す。
19　土のまじる暗黄色砂礫層
20　黄褐色砂礫層
21　暗褐色砂層
22　灰黒褐色砂層（荒い砂）
23　暗黄色砂層（微砂）
24　暗黄色砂層（小礫含む）
25　暗黄灰色砂層（礫含む）



第75図　立合調査位置図

図　　版



SKMT
第4号住居址

SKMT
第5号住居址
建物址2

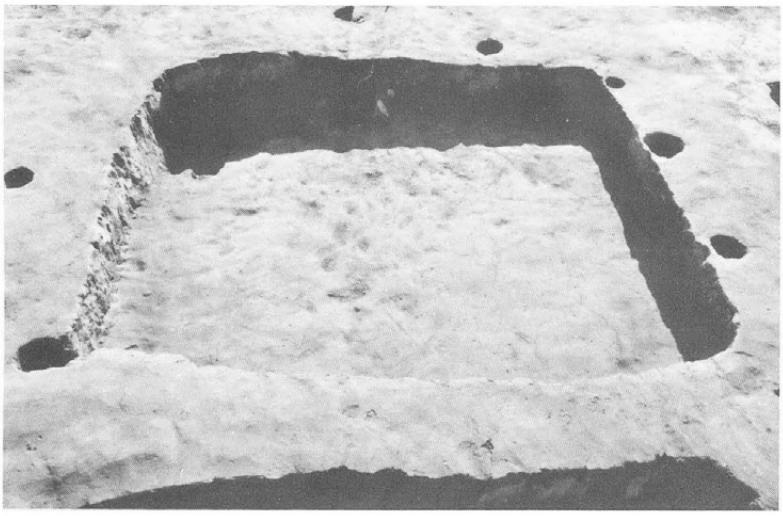
SKMT
第6号住居址

図版 2

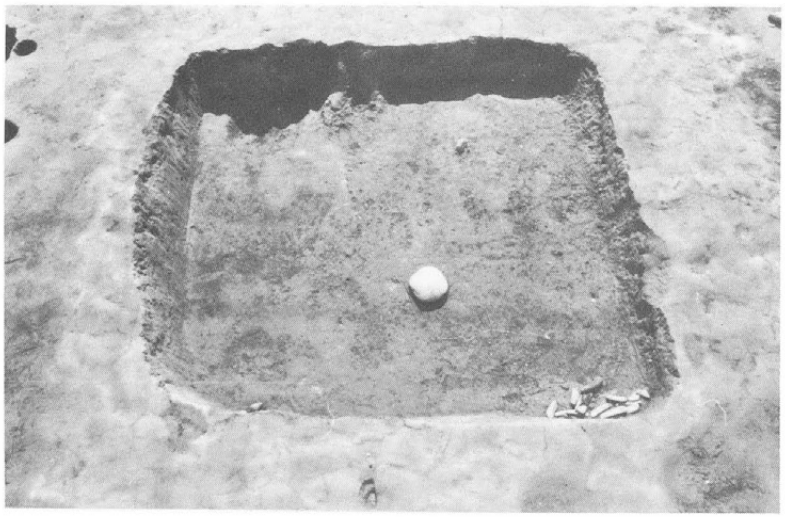
SKMT
第7号住居址

SKMT
第8号住居址

SKMT
第9号住居址



SKMT
第10号住居址



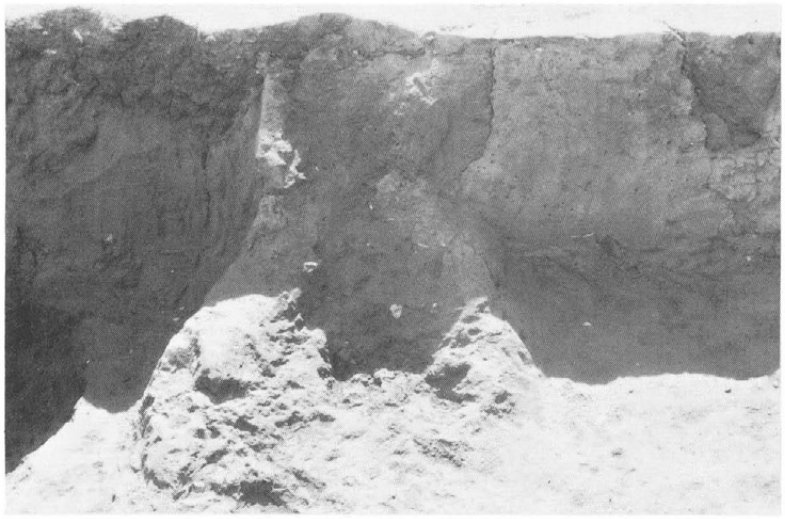
SKMT
第11号住居址

SKMT
第4号住居址かまど
左側土壙2

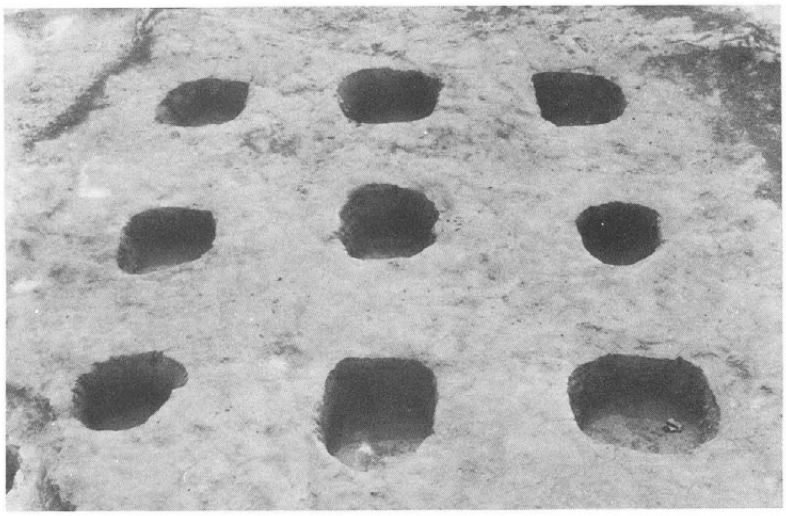
図版4

SKMT
第7号住居址
かまど

SKMT
第8号住居址
かまど



SKMT
第11号住居址
かまど



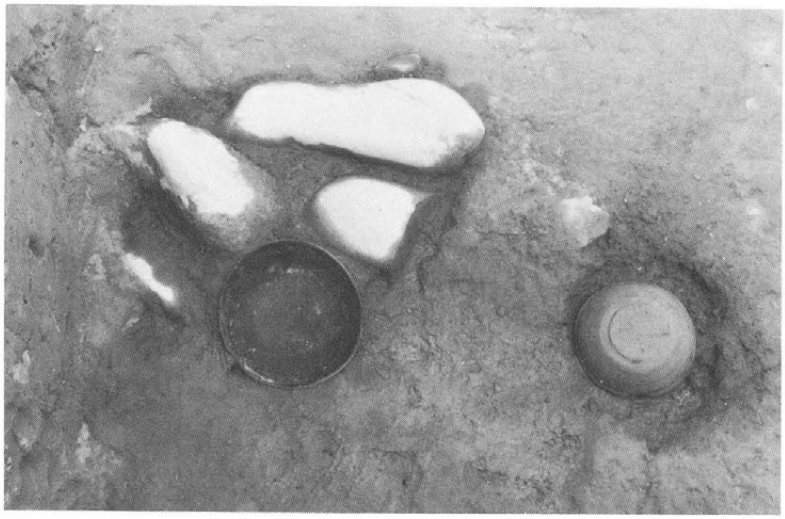
SKMT
建物址 1

SKMT
溝 2 ・ 3

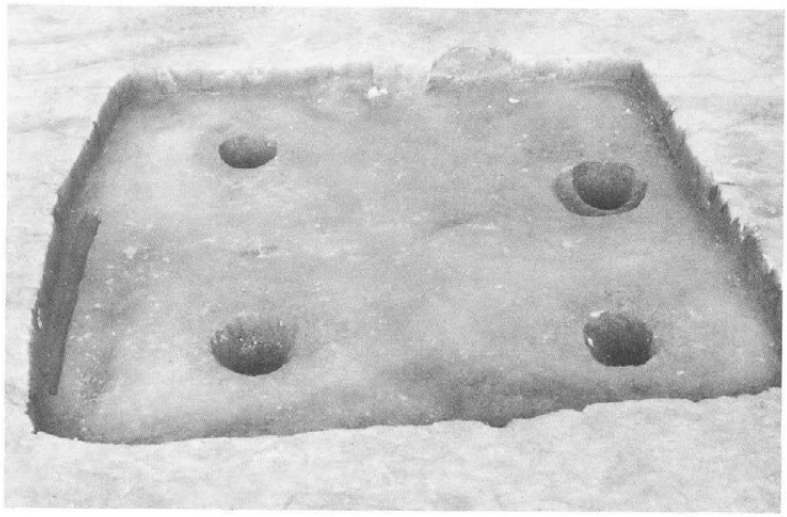
SKMT
第 4 号住居址
遺物出土状態

図版6

SKMT
第8号住居址
遺物出土状態

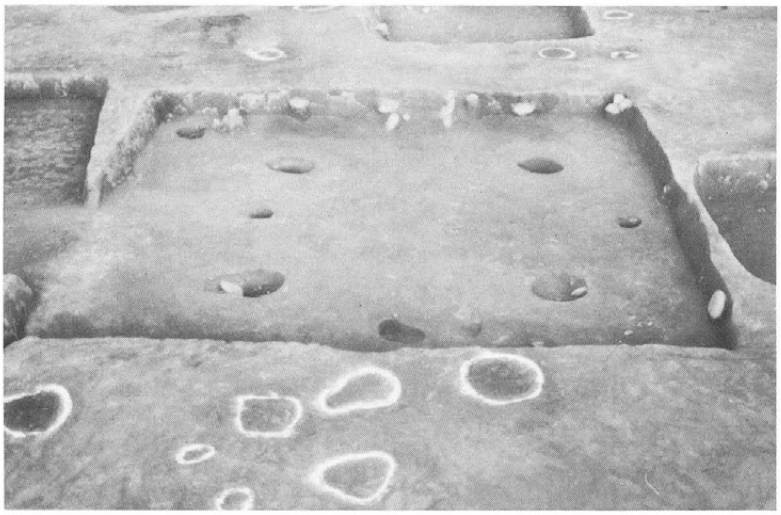


SKMT
第11号住居址
遺物出土状態



SKS
第1号住居址

SKKS
第２号住居址

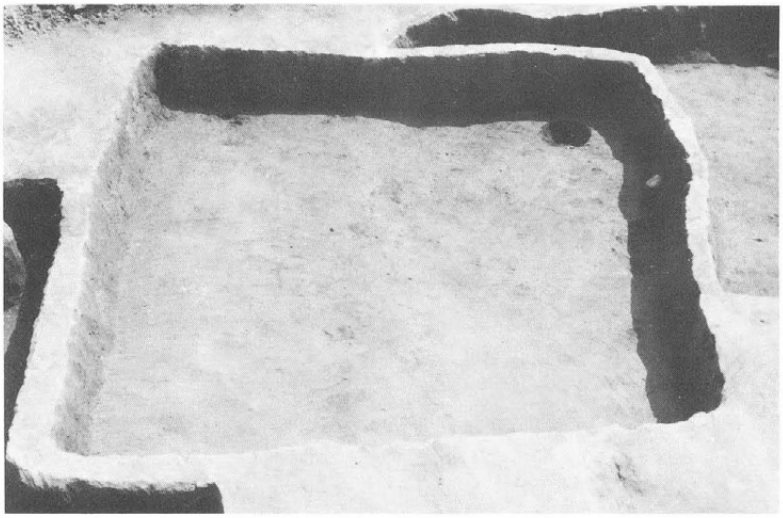


SKKS
第10号住居址

SKKS
第12号住居址

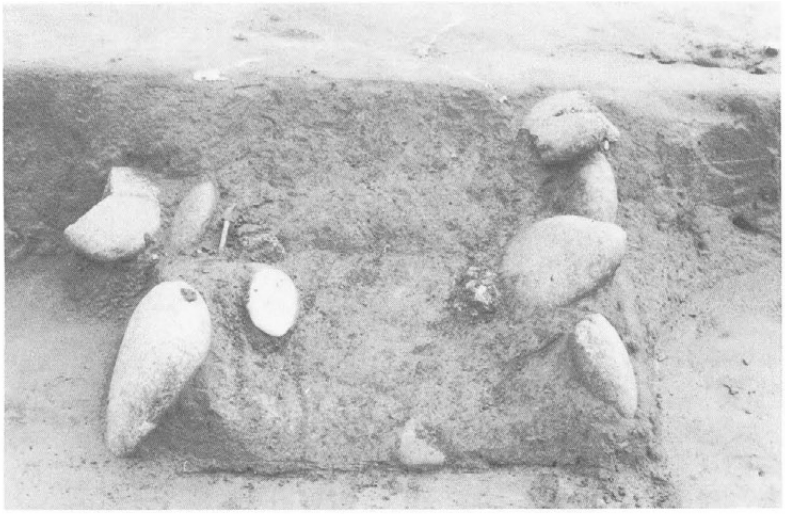
図版8

SKKS
第17号住居址
右上　7号住居址



SKKS
第25号住居址

SKKS
第23～27号住居址
手前より



SKKS
第10号住居址
かまど

SKKS
第10号住居址
三彩小壺出土状態

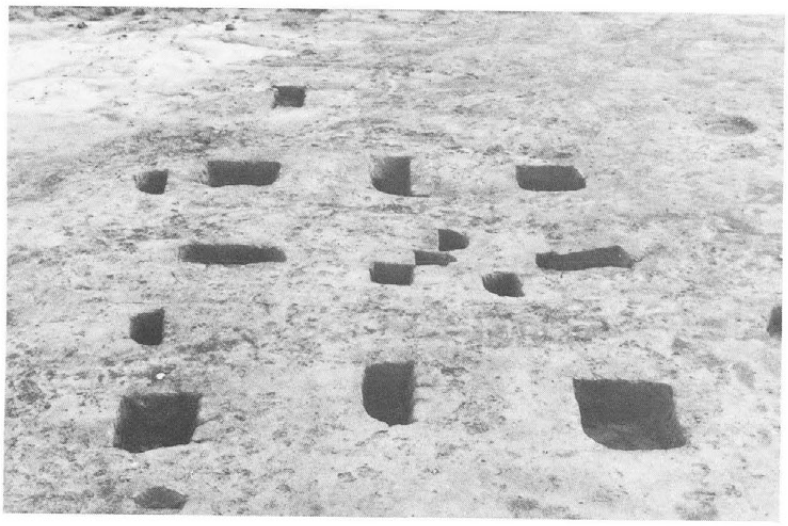
SKKS
第10号住居址
長頸壺出土状態

図版10

SKKS
第12号住居址
遺物出土状態

SKKS
第12号住居址
灰釉耳皿出土状態

SKKS
第23号住居址
紡錘車出土状態



SKKS
建物址1
（北より）

SKKS
建物址4・5
溝5・6
（北より）

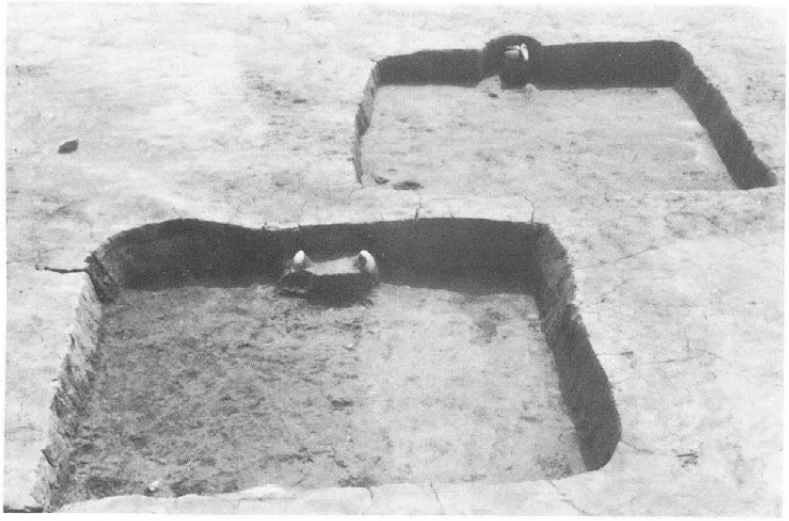
SKKS
建物址6・7
溝7
（北より）

図版12

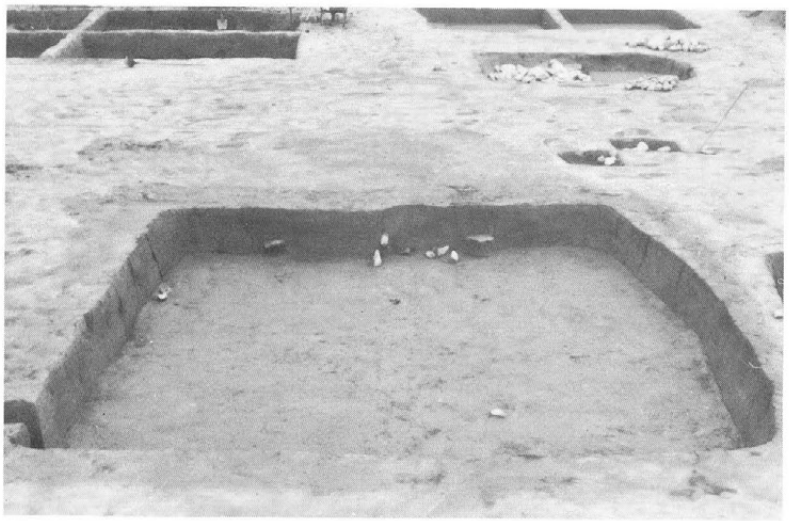
SKKS
建物址 8
（南より）

SKKS
建物址 9
（南より）

SKKS
建物址11
（北より）



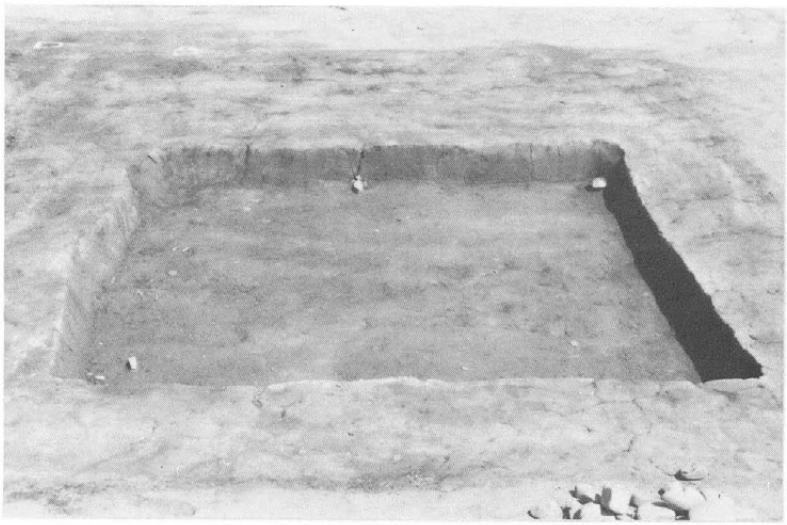
SKS
第5・4号住居址
（手前より）



SKS
第8号住居址

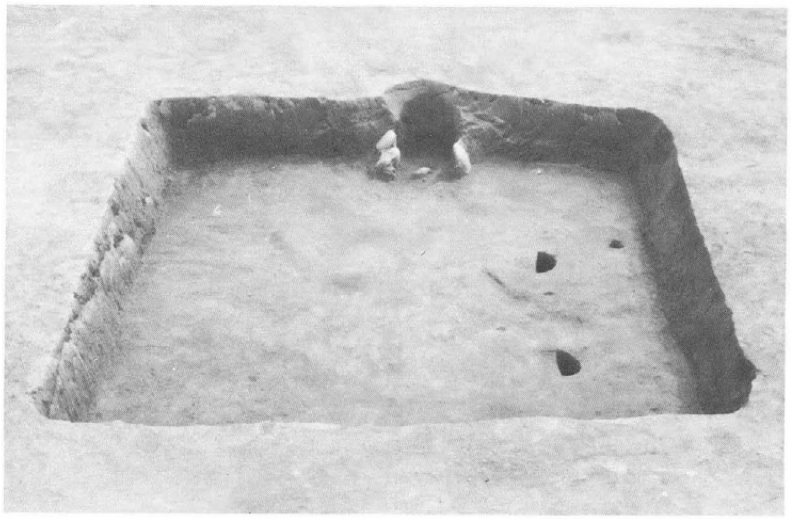
SKS
第9号住居址

図版14



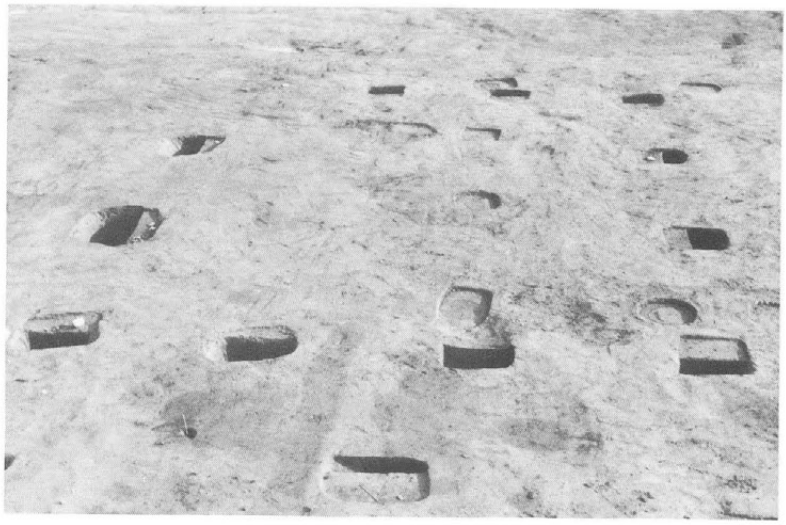
SKS
第16号住居址

SKS
第16号住居址
煙　道

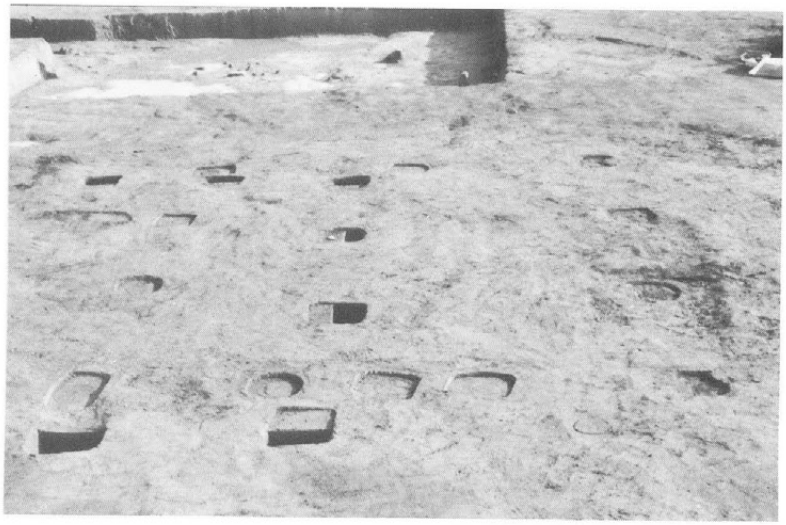


SKS
第19号住居址

SKS
第19号住居址
かまど



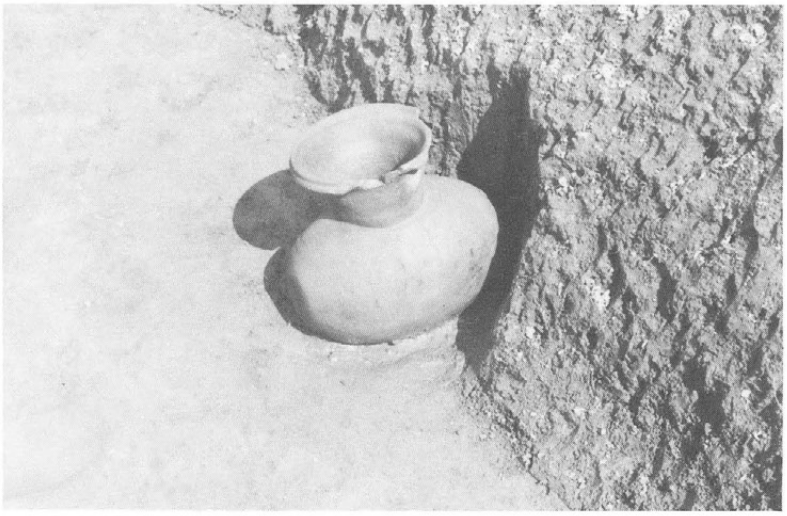
SKS
建物址7



SKS
建物址7
第18号住居址

図版16

SKS
第9号住居址
青銅製品出土状態



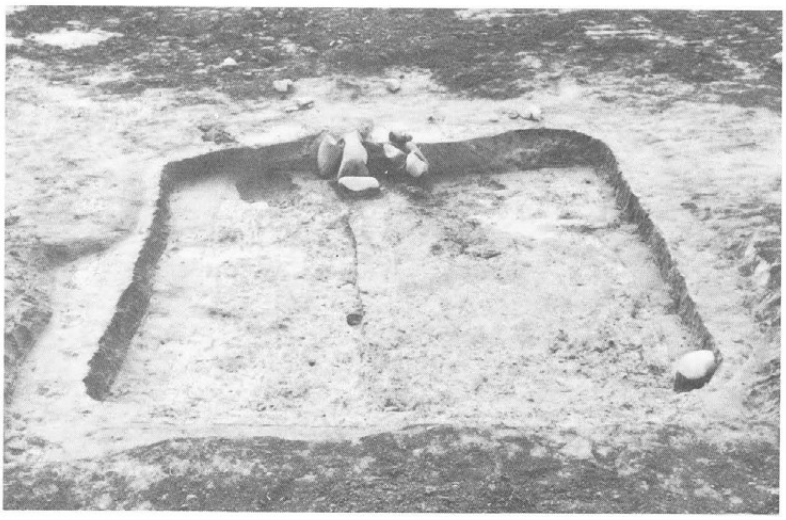
SKS
第16号住居址
横瓶出土状態

SKNM
（東より）

SKNM
（西より）

SKS
遠 景

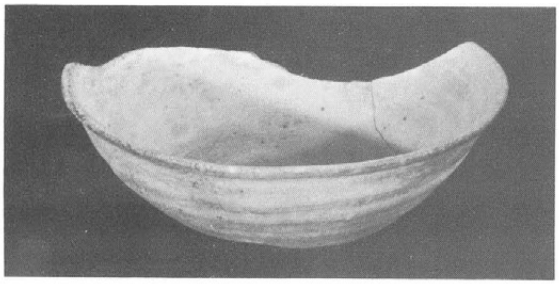
図版18



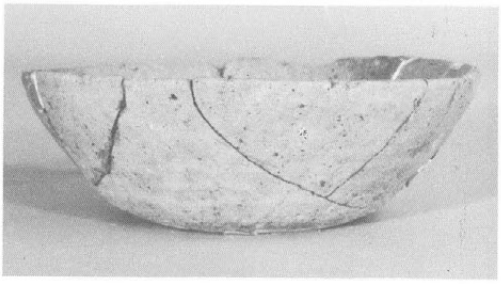
MK
第1号住居址

第1号住居址
かまど

MK近景

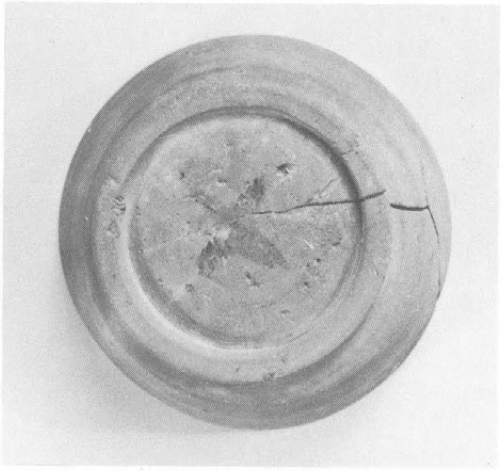


SKMT　4号住　3



SKMT　4号住　4

SKMT　4号住　7

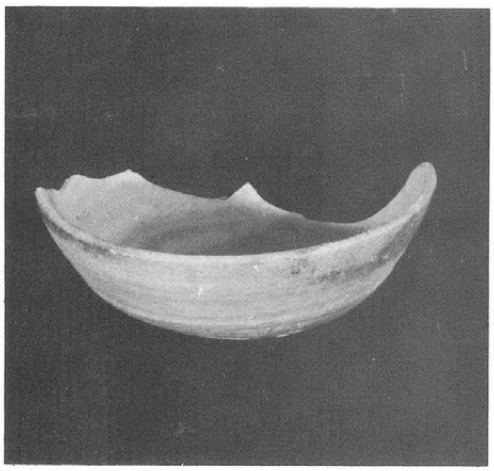


同上　底　部

SKMT　4号住　9

SKMT　4号住　10

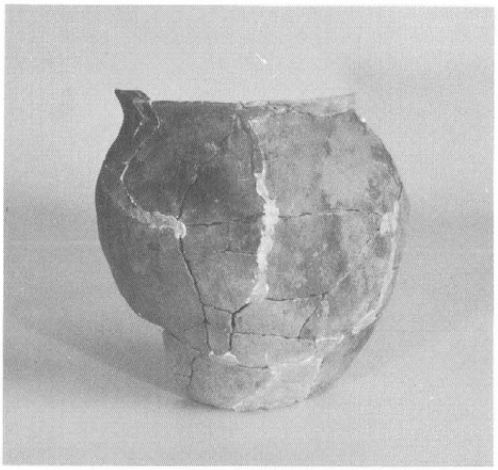
図版20



SKMT　6号住　13

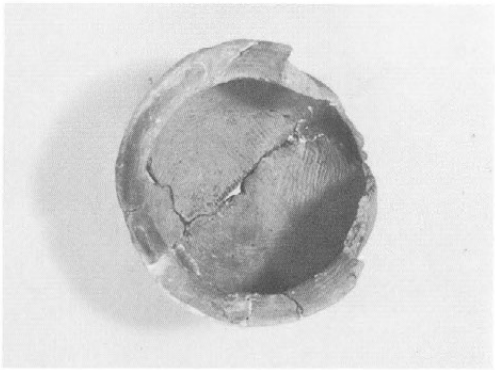
同左　底　部

SKMT　6号住　24

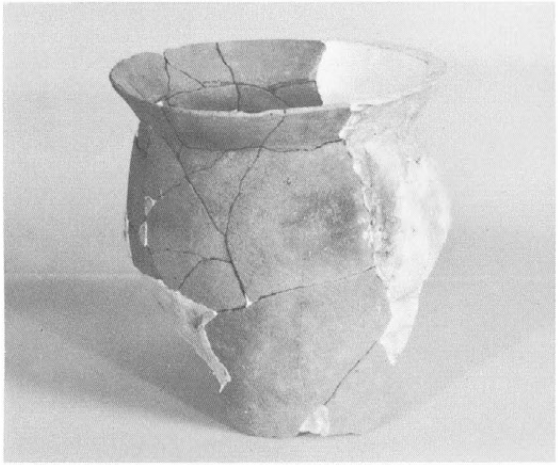


SKMT　7号住　29

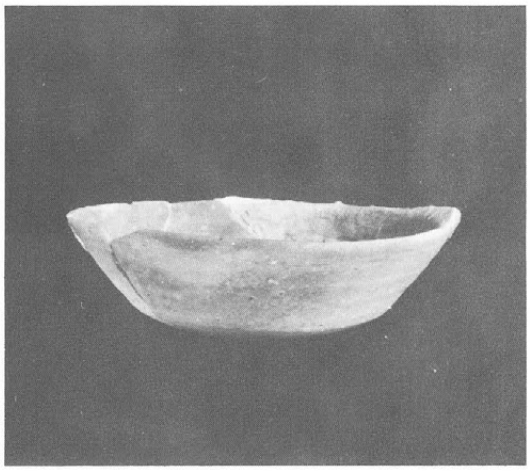
SKMT　7号住　26



同左　内　面

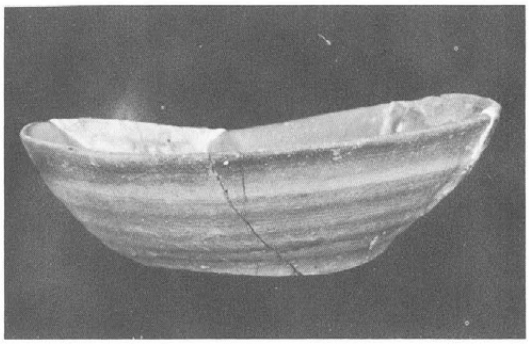


SKMT　7号住　30

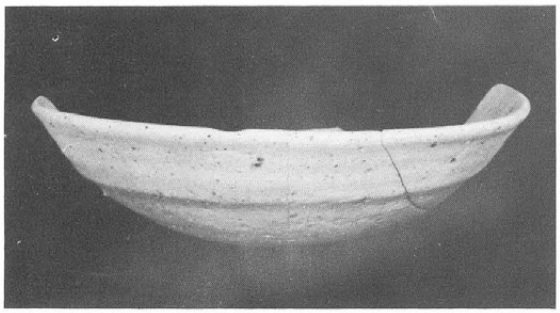


SKMT　8号住　38

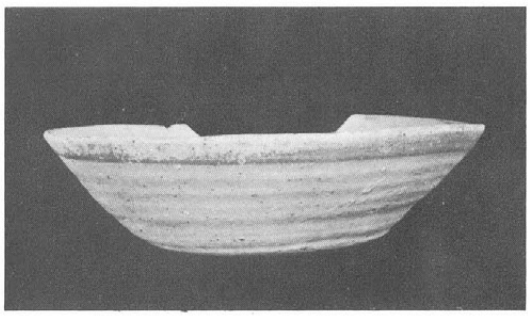
SKMT　8号住　37



SKMT　8号住　34



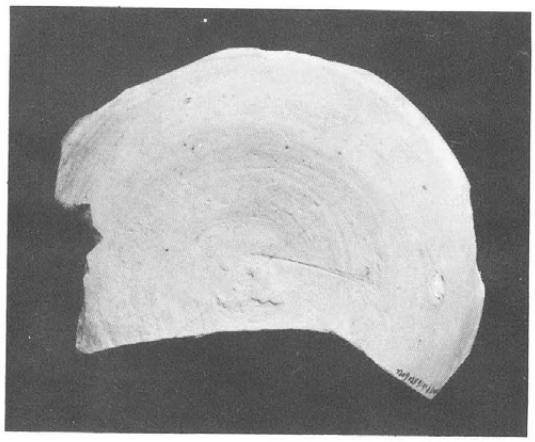
SKMT　8号住　41



SKMT　8号住　43

図版22

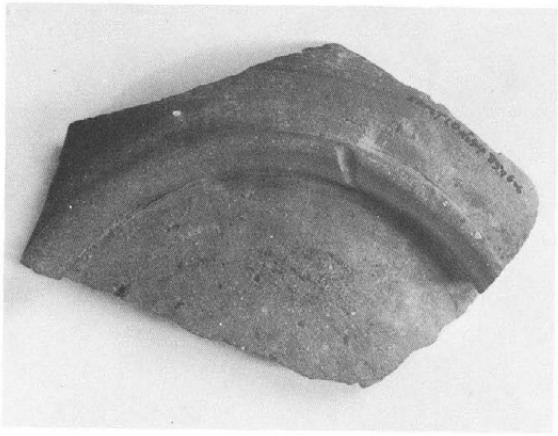
SKMT　9号住　53



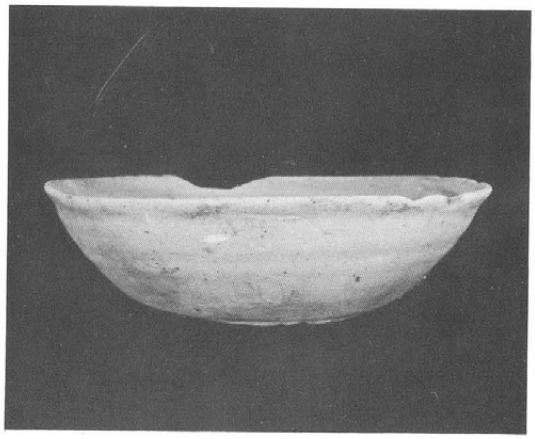
同左　底　部

SKMT　9号住　58

SKMT　10号住　67

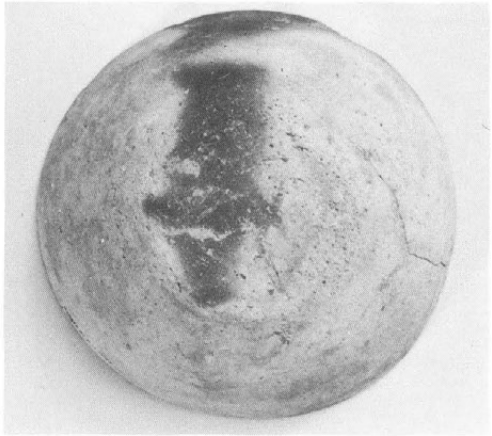


SKMT　10号住　底部　68

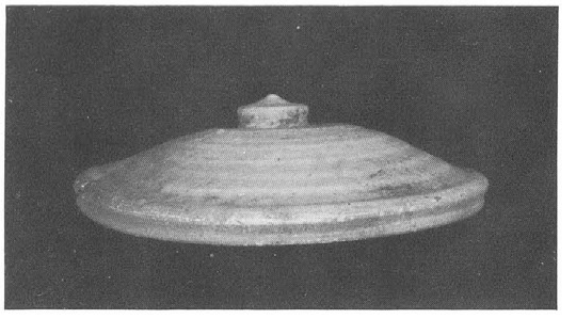


SKMT　11号住　75

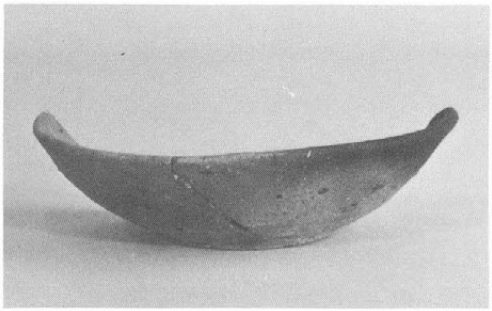
SKMT　11号住　77



同左　底　部

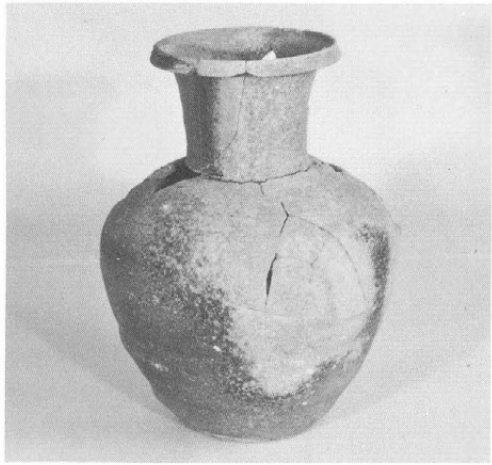


SKMT　11号住　74



SKKS　2号住　78

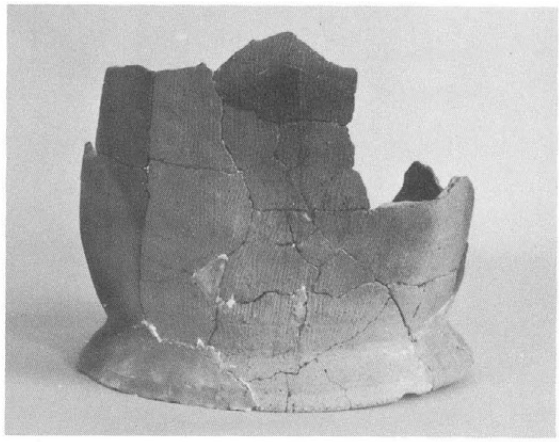
SKKS　2号住　79



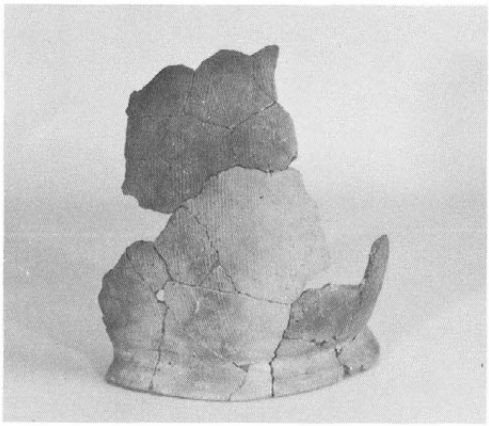
SKKS　2号住　83

図版24

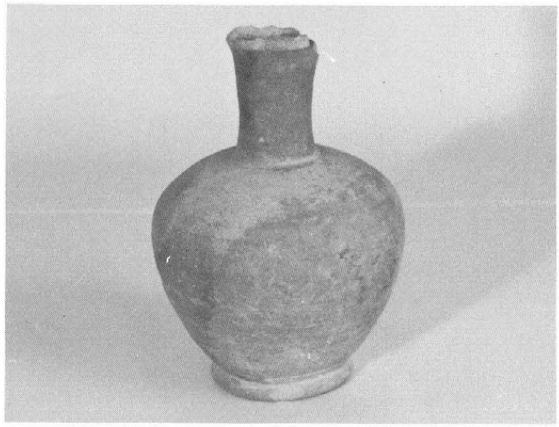
SKKS　2号住　85



SKKS　2号住　87



SKKS　2号住　88



SKKS　10号住　116

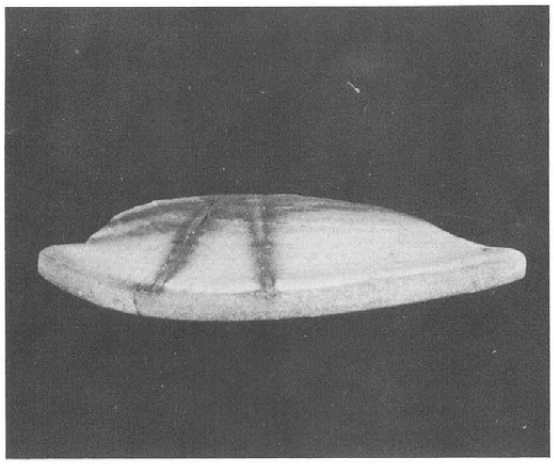
SKKS　12号住　120

SKKS　12号住　121

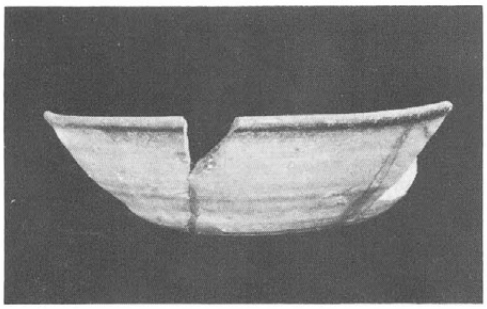
SKKS　12号住　124

SKKS　12号住　130

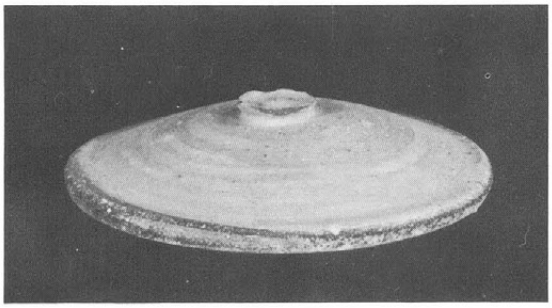
SKKS　12号住　131



SKKS　14号住　133

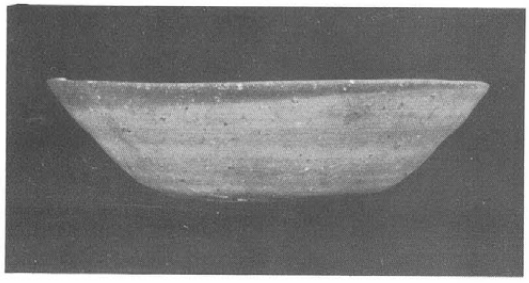


SKKS　14号住　137

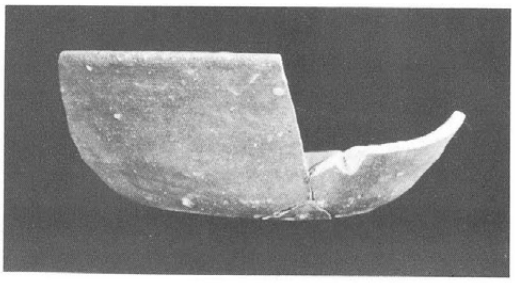


SKKS　14号住　135

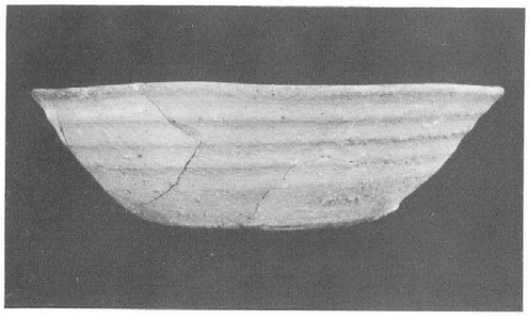
図版26



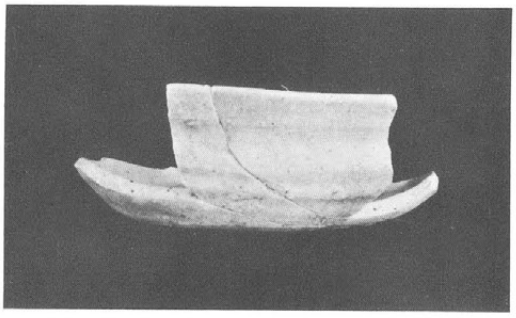
SKKS　14号住　138



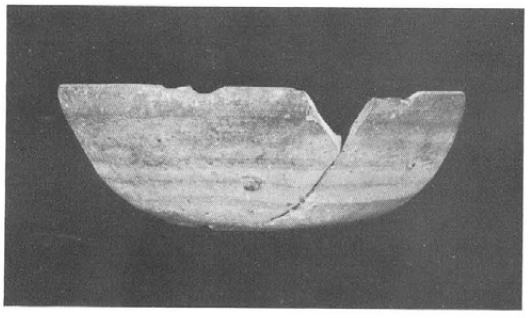
SKKS　14号住　143



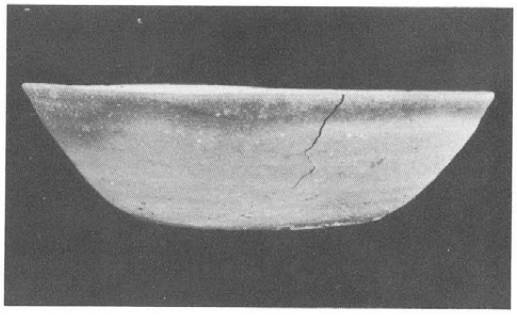
SKKS　14号住　144



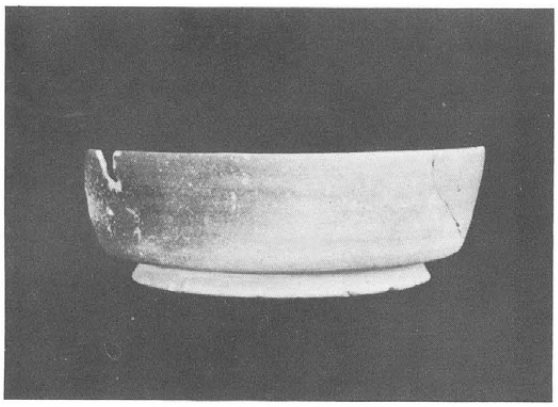
SKKS　14号住　145



SKKS　14号住　146



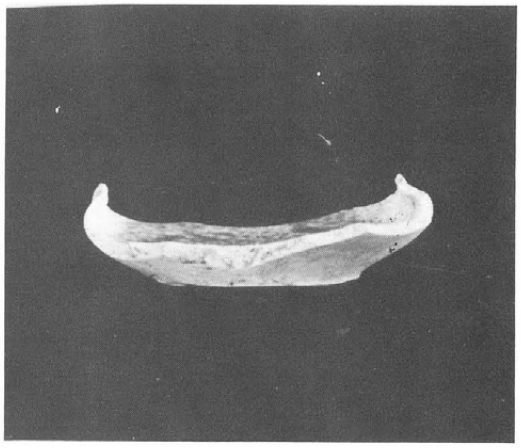
SKKS　14号住　147



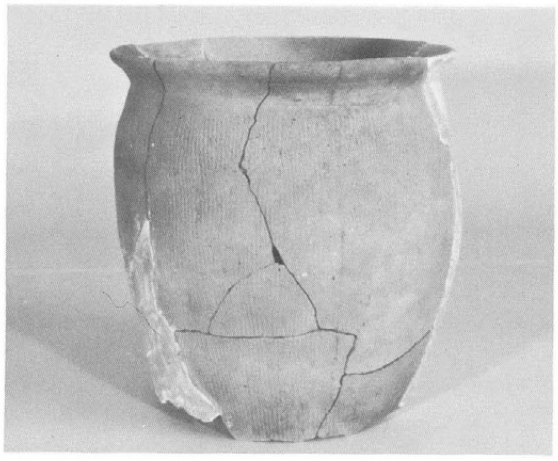
SKKS　14号住　151

SKKS　14号住　148

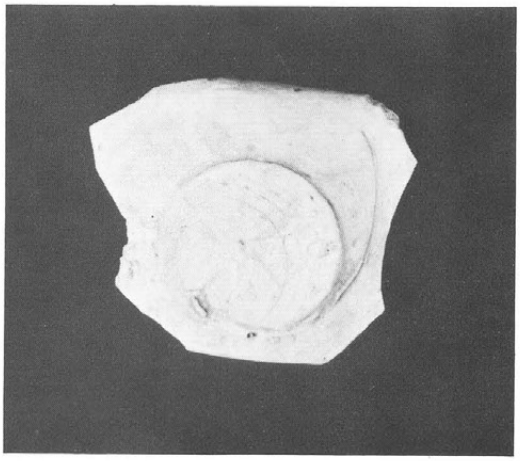
SKKS　14号住　160



SKKS　14号住　耳皿



SKKS　17号住　169



同上　底部

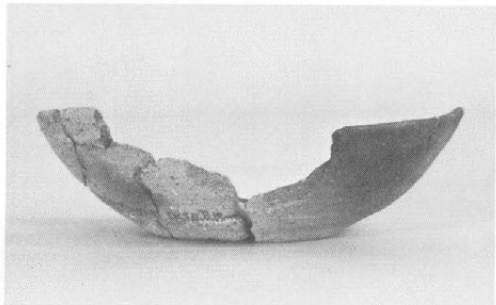
図版28

SKKS　17号住　170

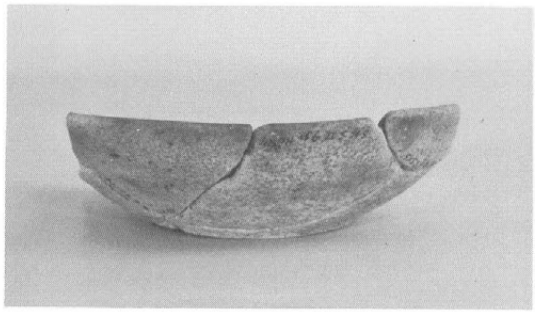
SKKS　25号住　179

SKKS　29号住　185

SKS　8号住　186



SKS　8号住

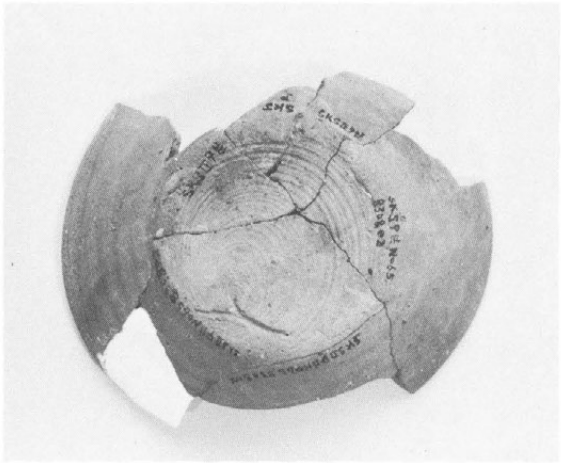


SKS　9号住　200

SKS　9号住　203

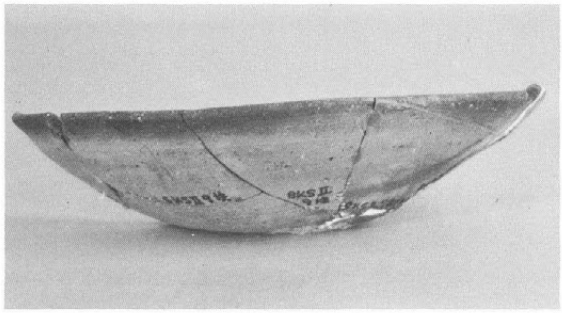
SKS　9号住　215

SKS　9号住　217



SKS　9号住　底部　219

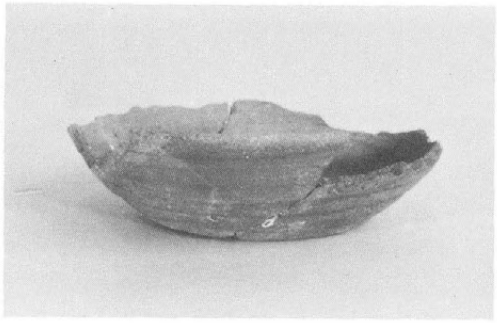
SKS　9号住　219



SKS　9号住　220

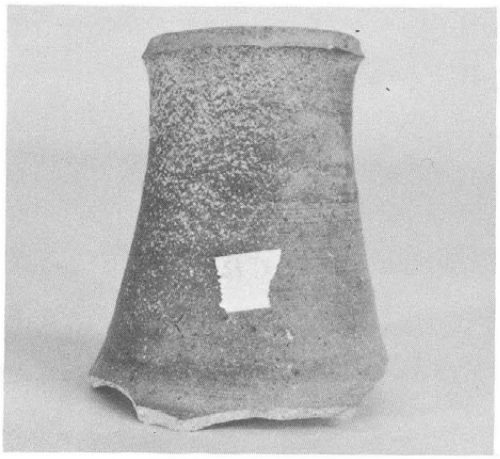
SKS　9号住　221

同左　底部

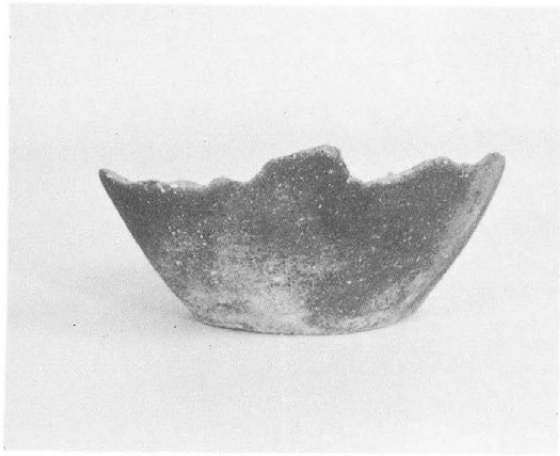


SKS　9号住　223

SKS　9号住　228



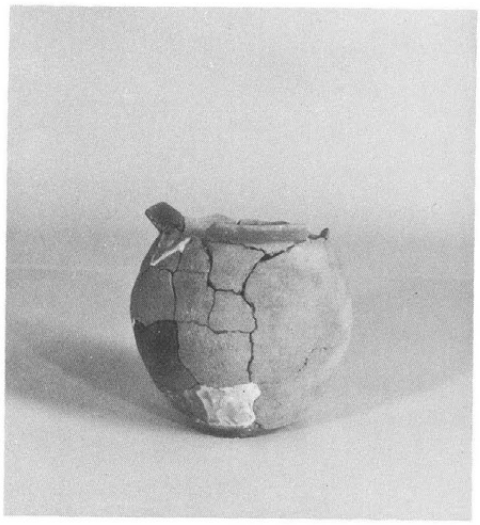
SKS　9号住　229



SKS　9号住　234

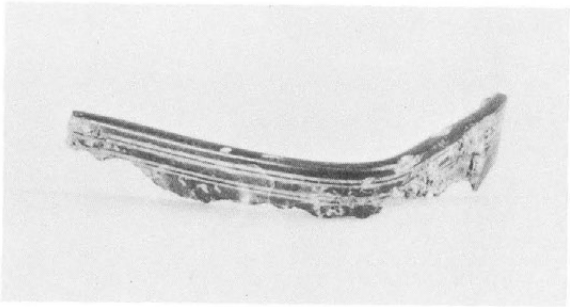
SKS　16号住　252

SKS　16号住　255



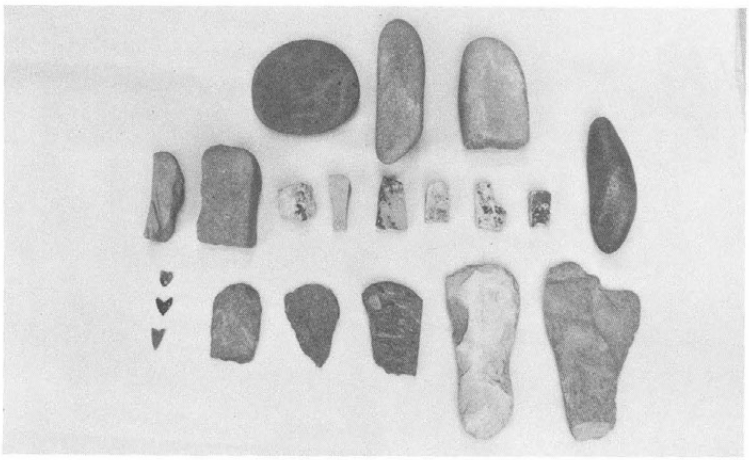
MK　1号住　16

SKS　9号住　197

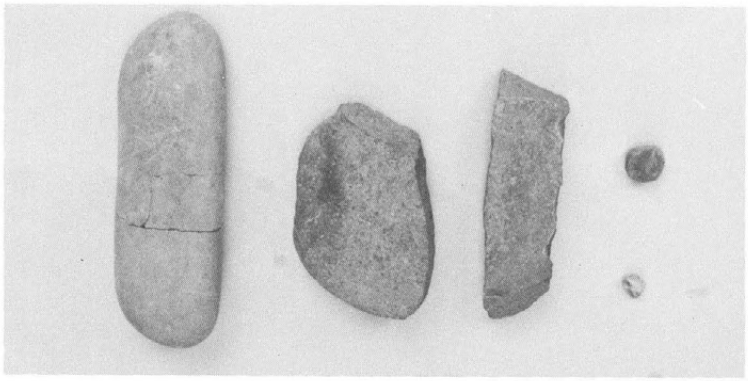


SKS　9号住　青銅製品口縁

図版32

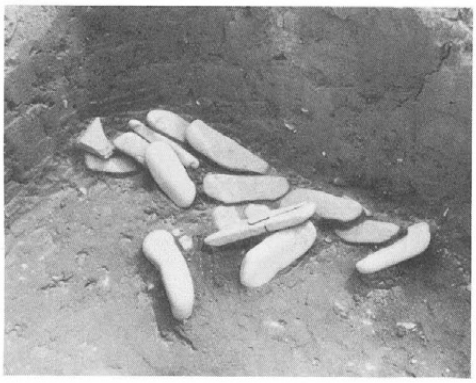


SKKS　　石器



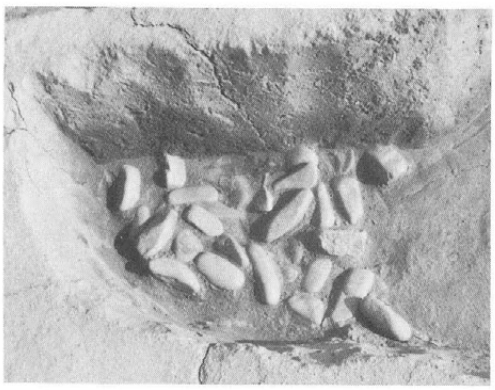
SKMT　　石器

SKMT　　石器



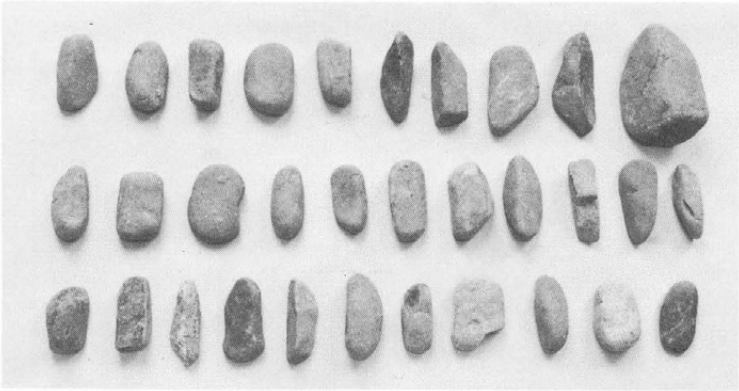
ＳＫＭＴ　11号住　編物用石錘出土状態

同左　編物用石錘



ＳＫＫＳ　23号住　編物用石錘出土状態

同左　編物用石錘

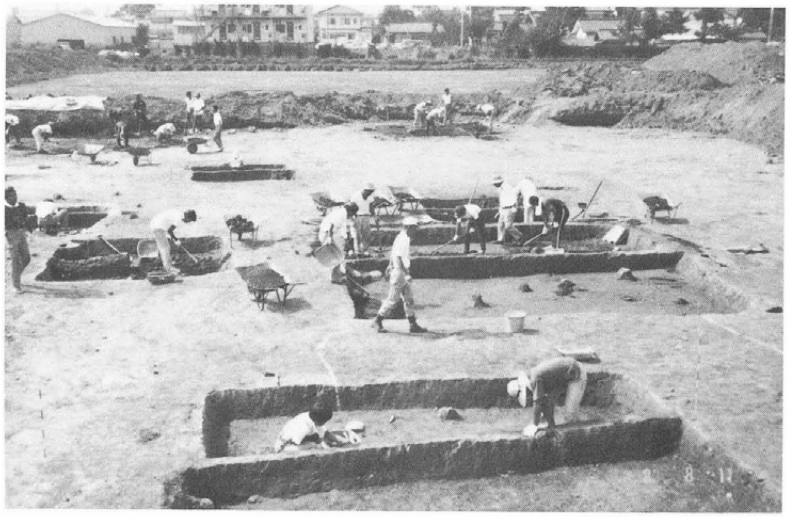


SKMT　7号住　編物用石錘

SKS　1号住　編物用石錘出土状態

SKS　10号住　編物用石錘出土状態

SKMT
発掘風景



SKKS
発掘風景

SKS
発掘風景

図版36

SKMT
幼稚園児の
見学

SKMT
記念撮影

SKKS
SKS
SKNM
MK
記念撮影

57年度
試掘調査
下神第4地点

57年度
試掘調査
南荒井第2地点

57年度
立合調査
D地点

松本市文化財調査報告No.29

—松本市下神・町神遺跡緊急発掘調査報告書—

昭和59年3月20日　印刷

昭和59年3月31日　発行

発行　松本市教育委員会

印刷　ほおずき書籍㈱